

東上之宮遺跡

東上之宮遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 1 分冊

2015

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊 二〇一五

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



東上之宮遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊

2015

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



2区2面全景（東から）



5区2面全景（北西から） 左上の煙突は宮柴前遺跡の所在する伊勢崎市清掃リサイクルセンター 21



1区8面54号溝出土土器



1区9面179号住居出土土器

序

東上之宮遺跡は、群馬県の山々を一望できる美しい景観に恵まれています。本書は、国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備の推進に伴い、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査を実施した本遺跡の調査報告書です。

東上之宮遺跡は、群馬県伊勢崎土木事務所の委託を受け、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成23・24年度に発掘調査を、平成24・26年度に整理事業を実施しました。国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備は、群馬県の東部と西部を滞りなく連結する東毛広域幹線道路整備事業の一端を担っています。本事業は、交通渋滞緩和はもとより観光の充実、農業の発展、企業力向上、医療の迅速化に鑑みて推進され、県民の期待を集めています。

本遺跡の周辺は、現利根川の左岸の河成段丘上にあり、本遺跡はその中洲及び後背湿地に立地しています。この遺跡の所在する伊勢崎市南西部は、従来から発掘調査の機会に恵まれていませんでした。今回の発掘調査は、古墳時代前期の集落及び畑に始まり、古墳時代後期から平安時代の集落、中世以降の建物跡及び畑や水田、天明三年の浅間山噴火により被災した田畑に至るまで、当時の人たちの土地利用と生活の様相を伝えています。当該地域の歴史を示すこれらの発掘成果により、地域理解のための重要な資料を提供できたものと考えています。

発掘調査から報告書刊行に至るまでに、群馬県伊勢崎土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、伊勢崎市教育委員会文化財保護課をはじめとする関係機関および地元関係者の皆さまには、多大なご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり衷心より感謝申し上げます。あわせて本報告書が地域の歴史を学ぶ資料として多くの皆様にご利用されることを願ひまして、序といたします。

平成27年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 吉野 勉

例 言

1. 本書は、国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)に伴う東上之宮遺跡の発掘調査報告書である。
2. 東上之宮遺跡の所在地は群馬県伊勢崎市東上之宮町で、地番は下表のとおりである。

東上之宮遺跡 発掘対象地域地番一覧

発掘調査区	大字	地番
1	東上之宮町	699、702、703、704-1・2、675-2、706-2、707、708-1～3
2	東上之宮町	714、716-1・2、717、718、719、720-2
3	東上之宮町	727-1、728、729-1・2、775、776
4	東上之宮町	778-1・2、780、781、785、786-2・3、787
5	東上之宮町	669-2、670-1・3、671-3・4、711-1・3、712-2・3

3. 事業主体 群馬県伊勢崎土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月1日に公益財団法人に移行)
5. 整理主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
6. 発掘調査の体制と期間は次のとおりである。

平成23年度 平成22年度国道354号(玉村伊勢崎バイパス)社会資本総合整備(活力創出基盤整備)
事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託

調査担当 徳江秀夫(上席専門員)、小林 正(専門員(主任))

遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社

地上測量 アコン測量設計株式会社

航空測量・空中写真撮影 技研測量設計株式会社

履行期間 平成23年3月31日～平成24年3月31日

調査期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日

調査面積 14,202㎡

平成24年度 平成23年度国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)
事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査委託

調査担当 小林 正(専門員(主任))、新井 仁(主任調査研究員)、藤井義徳(主任調査研究員)

遺跡掘削請負工事 山下工業株式会社

地上測量 アコン測量設計株式会社

航空測量・空中写真撮影 シン技術コンサル株式会社

履行期間 平成24年3月30日～平成25年3月31日

調査期間 平成24年4月1日～平成24年12月31日

調査面積 14,338㎡

7. 整理事業の体制と期間は次のとおりである。

平成24年度 平成24年度国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)
事業に伴う埋蔵文化財の整理委託

整理担当：高井佳弘(上席調査研究員)

履行期間：平成24年12月1日～平成25年3月31日

整理期間：平成25年2月1日～平成25年3月31日

平成26年度 平成25年度国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)に伴う
埋蔵文化財の整理委託

整理担当：徳江秀夫(資料2課長)、小林 正(専門員(副主幹))、都木直人(主任調査研究員)

履行期間：平成26年3月31日～平成27年3月31日

整理期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日

8. 本書作成関係者

編集 小林 正、都木直人

本文執筆 第1・2章 小林 正、都木直人

第3～10章 小林 正

第11・12章(住居) 都木直人、(住居以外) 小林 正

第13章1 小林 正

第14章1～4・6 小林 正

5 都木直人

7 長谷川博幸(主任調査研究員)

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺構写真 発掘調査担当者

遺物写真 大西雅広(資料統括)、関 邦一(補佐(総括))、小林 正、都木直人

石田典子(主任調査研究員)

遺物観察・観察表執筆

土師器・須恵器・土製品 徳江秀夫

陶磁器 大西雅広

石器・石製品 石田典子、新倉明彦(上席専門員)

金属製品・木製品 関 邦一

保存処理 関 邦一

9. 発掘調査及び整理事業での分析等委託

火山灰 早田 勉(第13章2)

人骨・歯 横崎修一郎(第13章3)

獣歯骨 宮崎重雄(第13章4)

10. 石器・石製品の石材同定については飯島静雄氏(群馬県地質研究会会員)をお願いした。

11. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12. 発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の方々には有益な助言と指導を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(五十音順、敬称略)

秋池 武(下仁田町歴史民俗資料館ふるさとセンター所長・当事業団監事)、伊勢崎市教育委員会文化財保護課、群馬県教育委員会事務局文化財保護課、右島和夫(群馬県文化財保護審議会専門委員・当事業団理事)

凡 例

1. 本書で使用した遺構平面図の座標は、全て世界測地系(日本測地系2000平面直角座標IX系)を用いている。挿図中に使用した方位は、座標北を表しており、真北方向角は+0°24'03.32"(東偏)である。
2. 遺構平面図や遺構断面図に示した数値は標高であり、単位はメートルである。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。遺物写真の縮率は原則として遺物実測図と同率とした。
4. 遺物番号は出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。番号は遺構図、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真図版とも一致している。

5. 本書の図版に使用したスクリーントーン及びマークは、次のことを示す。

遺構平面図 灰 弱弱 炭 〰〰 焼土 ■■ 粘土 〰〰

遺物実測図 赤彩 ■■ 灰軸 〰〰 すず 〰〰 すり 〰〰 内黒 ■■ 粘土 〰〰 砂目粘土 〰〰

石器実測図 摩耗痕の範囲 〰〰 摩耗痕の範囲(断面図) — 鉄錆化部 〰〰

6. 遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示す。

● 土器・陶磁器 ○ 土製品 ▲ 石器・石製品 △ 種実 ■ 鉄・金属製品

□ 木製品・炭化材・植物依存体・琥珀 ★ 骨・歯・動物依存体

7. 遺構の主軸方位・走向は、長軸方向で北から東西90°以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合N-○°-Eとした。遺構の面積は、下端を計測した。遺構・遺物の計測値で、全体を計測できないものについては、現存の値を記載し()で表し、途中で途切れている溝等の全長を推測した場合は[]で表した。

8. 住居の主軸方位については、カマドのある住居については、カマドの設置された方向を主軸として捉えた。カマドのない住居については、長軸方向を主軸とした。住居面積の計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。
9. 土層断面の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1988年版』に基づいている。

10. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。

- ・計測値の()は現存値を、[]は推定値を示す。
 - ・計測値は、口:口径、底:底径、台:高台径、高:器高、長:長さ、厚:厚さ、摘:摘み径、孔:孔径、脚:脚底部径(以上単位はcm)、重:重量(単位はg)と略記した。
 - ・胎土観察における砂粒の表現は、0.2mm以下を細砂粒、0.2～2mmを粗砂粒、2mm以上を小礫とした。
- 色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1988年版』に基づいている。

11. 降下火山灰の名称と年代は以下の通りである。

As-A: 浅間山Aテフラ(天明三(1783)年)、As-B: 浅間山Bテフラ(天仁元(1108)年)、

As-Kk: 浅間粕川テフラ(12世紀前半)、Hr-FP: 榛名山二ツ岳軽石(6世紀中葉)、

Hr-FA: 榛名山二ツ岳火山灰(5世紀末～6世紀初頭)、As-C: 浅間山Cテフラ(3世紀末～4世紀初頭)

12. 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地勢図1:200,000「宇都宮」(平成23年6月1日発行)

国土地理院 地形図1:25,000「伊勢崎」(平成15年2月1日発行)

伊勢崎市 1:2,500現況図41 (平成22年10月)

目 次

第1分冊 中・近世編

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次

第1章 発掘調査と遺跡の概要	
1 調査に至る経過	1
2 発掘調査の経過	3
3 整理業務の経過と方法	6
4 調査の方法	6
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	
1 遺跡の位置と地形	9
2 周辺遺跡	11
3 基本土層	18
第3章 天明三年以降(1面)の遺構と遺物	
1 概要	23
2 4区の遺構と遺物	23
3 5区の遺構と遺物	38
第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物	
1 概要	45
2 1区の遺構と遺物	45
3 2区の遺構と遺物	81
4 3区の遺構と遺物	107
5 4区の遺構と遺物	128
6 5区の遺構と遺物	137
第5章 近世洪水以降(2.5面)の遺構と遺物	
1 概要	187
2 1区の遺構と遺物	187
3 3区の遺構	196
第6章 近世洪水下(3面)の遺構と遺物	
1 概要	200
2 1区の遺構と遺物	200
3 2区の遺構と遺物	217
4 3区の遺構と遺物	225
5 4区の遺構	226
6 5区の遺構と遺物	229

第7章 As-B軽石混土上層面(4面)の遺構と遺物	
1 概要	233
2 1区の遺構と遺物	233
3 2区の遺構と遺物	243
4 3区の遺構と遺物	253
5 4区の遺構と遺物	257
6 5区の遺構と遺物	259
第8章 As-B軽石混土中層面(5面)の遺構と遺物	
1 概要	269
2 1区の遺構と遺物	269
3 2区の遺構と遺物	294
4 3区の遺構と遺物	302
5 4区の遺構と遺物	307
6 5区の遺構と遺物	311
第9章 As-B軽石混土下層面(6面)の遺構と遺物	
1 概要	314
2 1区の遺構と遺物	314
3 3区の遺構と遺物	330
4 4区の遺構と遺物	340
第10章 As-B軽石混土層下面(7面)の遺構と遺物	
1 概要	365
2 1区の遺構と遺物	365
3 2区の遺構と遺物	386
4 3区の遺構と遺物	396
5 4区の遺構と遺物	406
6 5区の遺構と遺物	418

第2分冊 古墳時代～平安時代編

第3分冊 自然科学分析・総括・遺構一覧表・遺物観察表・写真図版編

挿図目次

第1図	東上之宮遺跡と群馬県的地勢(国土地理院発行、20万分の1地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行)	第60図	2区2面	1・8号畑	89
第2図	東上之宮遺跡の位置(国土地理院発行、2万5千分の1地形図「伊勢崎」平成15年2月1日発行)	第61図	2区2面	4・7号畑	90
第3図	東上之宮遺跡の調査区(伊勢崎市現況図41、1:2,500 平成22年10月測図使用)	第62図	2区2面	1・4・7・8号畑断面、1号畑詳細図、7号畑出土遺物	91
第4図	周辺地形分相図(『群馬県史』通史編1 付図2を改定使用)	第63図	2区2面	2・3号畑	92
第5図	周辺遺跡分布図(国土地理院発行、2万5千分の1地形図「伊勢崎」平成15年2月1日発行)	第64図	2区2面	5・6号畑、5号畑出土遺物	93
第6図	各区の土層堆積状況(伊勢崎市現況図41、1:2,500 平成22年10月測図使用)	第65図	2区2面	9号畑	95
第7図	標準土層	第66図	2区2面	10号畑	96
第8図	4・5区1面 全体図	第67図	2区2面	11・12号畑	97
第9図	4区1面 1・2・7号復旧溝群	第68図	2区2面	11・12号畑断面	98
第10図	4区1面 1・2・7号復旧溝群断面	第69図	2区2面	1～3号水田	99
第11図	4区1面 3・4・9号復旧溝群、9号復旧溝群出土遺物	第70図	2区2面	1～3号水田断面、詳細図	100
第12図	4区1面 5・10・11号復旧溝群	第71図	2区2面	4～6号水田、詳細図	101
第13図	4区1面 6・8号復旧溝群、8号復旧溝群出土遺物	第72図	2区2面	7～10号水田	102
第14図	4区1面 6・8号復旧溝群断面、6号復旧溝群出土遺物	第73図	2区2面	7～10号水田断面、詳細図、出土遺物	103
第15図	4区1面 1・4・5号復旧土坑群	第74図	2区2面	11～13号水田	104
第16図	4区1面 2号復旧土坑群	第75図	2区2面	14～17号水田	105
第17図	4区1面 3号復旧土坑群、出土遺物	第76図	2区2面	18～22号水田	106
第18図	4区1面 1号溝(上層)	第77図	3区2面	1～4・43号溝	108
第19図	4区1面 1号溝(上層)出土遺物	第78図	3区2面	6・7号溝、1号道路	109
第20図	4区1面 遺構外出土遺物	第79図	3区2面	6・7号溝、1号道路断面、6号溝出土遺物	110
第21図	5区1面 1号土坑、出土遺物	第80図	3区2面	5・7号溝	112
第22図	5区1面 2号土坑、出土遺物	第81図	3区2面	9(上層)・10号溝	113
第23図	5区1面 遺構外出土遺物	第82図	3区2面	1号畑	115
第24図	1・3区2面 全体図	第83図	3区2面	2号畑	116
第25図	2区2面 全体図	第84図	3区2面	3～5号畑	117
第26図	4・5区2面 全体図	第85図	3区2面	1～3号水田	118
第27図	1区2面 1・4・63号溝、1・2号道路	第86図	3区2面	1～3号水田断面、詳細図	119
第28図	1区2面 2・3号溝(上層)、3・4号道路	第87図	3区2面	4～10号水田	120
第29図	1区2面 2・3号溝(上層)出土遺物(1)	第88図	3区2面	4～10号水田断面	121
第30図	1区2面 3号溝(上層)出土遺物(2)	第89図	3区2面	11～13号水田	122
第31図	1区2面 3号溝(上層)・3号道路出土遺物(3)	第90図	3区2面	11～13号水田断面、詳細図	123
第32図	1区2面 5・6号溝(上層)、8号道路、6号溝(上層)出土遺物52	第91図	3区2面	14～17号水田	124
第33図	1区2面 10・11(上層)・12(上層)・64(上層)号溝、5・6・9号道路	第92図	3区2面	14～17号水田断面、詳細図	125
第34図	1区2面 7号道路	第93図	3区2面	18～22号水田	126
第35図	1区2面 1・2号畑	第94図	3区2面	23～26号水田	127
第36図	1区2面 1・2号畑断面、2号畑詳細図	第95図	4区2面	1(下層)・2号溝	129
第37図	1区2面 3～5号畑	第96図	4区2面	3号溝	130
第38図	1区2面 6・27号畑	第97図	4区2面	4・79号溝	131
第39図	1区2面 6・27号畑断面、6号畑詳細図、出土遺物	第98図	4区2面	1号畑	132
第40図	1区2面 7・10号畑	第99図	4区2面	8～10号水田	133
第41図	1区2面 8・9・11号畑	第100図	4区2面	11～17号水田	134
第42図	1区2面 8～10号畑出土遺物	第101図	4区2面	1・2・6・7号水田	135
第43図	1区2面 12・15号畑	第102図	4区2面	2・7号水田断面、3～5号水田、水田出土遺物	136
第44図	1区2面 13・14号畑	第103図	5区2面	1・2号溝、1号道路、出土遺物	138
第45図	1区2面 16・17・21号畑	第104図	5区2面	3号溝	139
第46図	1区2面 18～20号畑	第105図	5区2面	4～7号溝、2号道路	140
第47図	1区2面 22・23号畑	第106図	5区2面	40号溝	141
第48図	1区2面 24号畑	第107図	5区2面	1・2号畑、2号畑出土遺物	143
第49図	1区2面 25・26号畑	第108図	5区2面	3・5号畑	144
第50図	1区2面 36・37号畑	第109図	5区2面	3・5号畑断面	145
第51図	1区2面 38・39号畑	第110図	5区2面	4・6号畑	146
第52図	1区2面 遺構外出土遺物	第111図	5区2面	13号畑	147
第53図	1区2面 1～8号水田、詳細図、出土遺物	第112図	5区2面	7～9号畑	149・150
第54図	1区2面 9号水田、詳細図、水田断面	第113図	5区2面	1～4号水田	151
第55図	2区2面 1号溝(上層)	第114図	5区2面	1～4号水田断面、水田足跡	152
第56図	2区2面 1号溝(上層)出土遺物、3・6号溝(上層)	第115図	5区2面	5・6号水田	153
第57図	2区2面 4・5号溝(上層)、5号溝(上層)出土遺物	第116図	5区2面	1号墓地	154
第58図	2区2面 7・9号溝(上層)	第117図	5区2面	1号墓地出土遺物(1)	155
第59図	2区2面 8・10号溝(上層)、8号溝(上層)出土遺物	第118図	5区2面	1号墓地出土遺物(2)	156
		第119図	5区2面	2号墓(1)	158
		第120図	5区2面	1号墓(2)、出土遺物	159
		第121図	5区2面	2号墓、出土遺物	160
		第122図	5区2面	3・4号墓(1)	162
		第123図	5区2面	3・4号墓(2)	163

第1248区	5区2面	3・4号墓断面、3号墓出土遺物	164	第1928区	1区4面	6号溝(下層)出土遺物	237
第1258区	5区2面	3・4号墓出土遺物	165	第1938区	1区4面	水田(1)	239
第1268区	5区2面	5・6号墓(1)	166	第1948区	1区4面	水田(2)	240
第1278区	5区2面	5・6号墓(2)	167	第1958区	1区4面	水田断面	241
第1288区	5区2面	5号墓出土遺物	168	第1968区	1区4面	3号井戸、出土遺物	242
第1298区	5区2面	6号墓出土遺物	169	第1978区	1区4面	6号土坑	242
第1308区	5区2面	7号墓(1)	169	第1988区	1区4面	遺構外出土遺物	242
第1318区	5区2面	7号墓(2)	170	第1998区	2区4面	1号溝(下層)	244
第1328区	5区2面	7・8号墓出土遺物	171	第2008区	2区4面	4・5(下層)・16号溝	245
第1338区	5区2面	8号墓	173	第2018区	2区4面	7(下層)・12～15号溝	247
第1348区	5区2面	9・10号墓(1)	174	第2028区	2区4面	8～10号溝(下層)	248
第1358区	5区2面	9・10号墓(2)	175	第2038区	2区4面	1(下層)・4(下層)・10(下層)・15号溝出土遺物	250
第1368区	5区2面	9・10号墓(3)、9号墓出土遺物	176	第2048区	2区4面	水田、出土遺物	251
第1378区	5区2面	9・10号墓断面	177	第2058区	2区4面	1号土坑	252
第1388区	5区2面	11号墓	179	第2068区	2区4面	遺構外出土遺物	252
第1398区	5区2面	11号墓出土遺物	180	第2078区	3区4面	11号溝	253
第1408区	5区2面	12号墓	181	第2088区	3区4面	水田(1)、出土遺物	254
第1418区	5区2面	12号墓断面、出土遺物(1)	182	第2098区	3区4面	水田(2)	255
第1428区	5区2面	12号墓出土遺物(2)	183	第2108区	3区4面	水田(3)	256
第1438区	5区2面	13・14号墓	184	第2118区	3区4面	遺構外出土遺物	257
第1448区	5区2面	13・14号墓断面、13号墓出土遺物	185	第2128区	4区4面	5号溝、1号井戸、遺構外出土遺物	258
第1458区	5区2面	遺構外出土遺物	185	第2138区	5区4面	8号溝、出土遺物	259
第1468区	1・3区2.5面	全体区	186	第2148区	5区4面	9号溝(上層)、出土遺物	260
第1478区	1区2.5面	1号復旧溝群、出土遺物	188	第2158区	5区4面	10・11号溝、10号溝出土遺物	261
第1488区	1区2.5面	2号復旧溝群	189	第2168区	5区4面	12・13号溝、12号溝出土遺物	262
第1498区	1区2.5面	28・30・32号畑	190	第2178区	5区4面	14・15号溝	264
第1508区	1区2.5面	41～44号畑	191	第2188区	5区4面	3～7号土坑	265
第1518区	1区2.5面	45・47号畑	192	第2198区	1区5面	全体区	266
第1528区	1区2.5面	2号井戸	193	第2208区	2区5面	全体区	267
第1538区	1区2.5面	2号井戸出土遺物	194	第2218区	3・4区5面	全体区	268
第1548区	1区2.5面	1・4号土坑	194	第2228区	5区5面	全体区	269
第1558区	1区2.5面	3号土坑、出土遺物	195	第2238区	1区5面	1号独立柱建物	270
第1568区	1区2.5面	遺構外出土遺物(1)	195	第2248区	1区5面	13・14・20～23号溝	272
第1578区	1区2.5面	遺構外出土遺物(2)	196	第2258区	1区5面	15～19・24・25号溝	274
第1588区	3区2.5面	6号畑	196	第2268区	1区5面	29～37号溝	276
第1598区	1・3区3面	全体区	197	第2278区	1区5面	38号溝	278
第1608区	2区3面	全体区	198	第2288区	1区5面	39～41号溝	279
第1618区	4・5区3面	全体区	199	第2298区	1区5面	15・23・38号溝出土遺物	280
第1628区	1区3面	2(下層)・3(中層)・7・8(上層)号溝、3号溝(中層)出土遺物	201	第2308区	1区5面	40・46号畑	282
第1638区	1区3面	5・6号溝(中層)、6号溝(中層)出土遺物	202	第2318区	1区5面	水田・耕作痕出土遺物	283
第1648区	1区3面	2(下層)・3(中層)・5(中層)・6(中層)・7・8(上層)号溝断面	203	第2328区	1区5面	水田・耕作痕(1)	284
第1658区	1区3面	11・12・64号溝(下層)	205	第2338区	1区5面	水田・耕作痕(2)	285
第1668区	1区3面	29・33号畑	206	第2348区	1区5面	水田・耕作痕断面	286
第1678区	1区3面	48・49・61号畑	208	第2358区	1区5面	7～17号土坑	287
第1688区	1区3面	62号畑	209	第2368区	1区5面	18～34号土坑	288
第1698区	1区3面	10～12号水田	211	第2378区	1区5面	35～44号土坑	289
第1708区	1区3面	10～12号水田断面、詳細図	212	第2388区	1区5面	45・62～64号土坑	290
第1718区	1区3面	13～16号水田	213	第2398区	1区5面	14・31・38号土坑出土遺物	290
第1728区	1区3面	17～19号水田	214	第2408区	1区5面	1～11・13～19・21～31・36号ビット	291
第1738区	1区3面	13～19号水田断面、詳細図	215	第2418区	1区5面	12・20・32～35・37・49・51～53・58・59・61～65・67・68・70・74～76号ビット	292
第1748区	1区3面	水田東側疑似埋跡	216	第2428区	1区5面	41～48・54・55・71～73・77・216～221号ビット	292
第1758区	1区3面	遺構外出土遺物	216	第2438区	1区5面	遺構外出土遺物	294
第1768区	2区3面	1号溝(中層)、出土遺物	218	第2448区	2区5面	2号溝	295
第1778区	2区3面	3(下層)・4(中層)・5(中層)・6(下層)号溝	46～48	第2458区	2区5面	17号溝、出土遺物	296
第1788区	2区3面	7・8・9号溝(中層)	221	第2468区	2区5面	18・19号溝	297
第1798区	2区3面	10(中層)・11号溝、10号溝(中層)出土遺物	223	第2478区	2区5面	31号溝	298
第1808区	2区3面	水田	224	第2488区	2区5面	水田・耕作痕(1)	299
第1818区	2区3面	遺構外出土遺物	224	第2498区	2区5面	水田・耕作痕(2)	300
第1828区	3区3面	9号溝(下層)	225	第2508区	2区5面	2～4号土坑	301
第1838区	4区3面	17～29号水田	227	第2518区	2区5面	遺構外出土遺物	301
第1848区	4区3面	22～34号水田	228	第2528区	2区5面	12・13・32号溝	303
第1858区	5区3面	14号畑、水田、水田出土遺物	229	第2538区	3区5面	7～9号畑	304
第1868区	1・3区4面	全体区	230	第2548区	3区5面	水田・疑似埋跡(1)	305
第1878区	2区4面	全体区	231	第2558区	3区5面	水田・疑似埋跡(2)	306
第1888区	4・5区4面	全体区	232	第2568区	4区5面	8号溝	308
第1898区	1区4面	3(下層)・8(下層)・9号溝	234	第2578区	4区5面	9・11・12号溝	309
第1908区	1区4面	3(下層)・9号溝出土遺物	235	第2588区	4区5面	水田	310
第1918区	1区4面	5・6号溝(下層)	236	第2598区	5区5面	16・17号溝、水田、16号溝出土遺物	311

第260図	1区6面	全体図	312
第261図	3・4区6面	全体図	313
第262図	1区6面	11号掘立柱建物	314
第263図	1区6面	26・27・43・44号溝	316
第264図	1区6面	45号溝	317
第265図	1区6面	46～48号溝、47・48号溝出土遺物	318
第266図	1区6面	49・50号溝	319
第267図	1区6面	51～53号溝	321
第268図	1区6面	水田(1)	322
第269図	1区6面	水田(2)	323
第270図	1区6面	水田断面	324
第271図	1区6面	82・83号土坑	325
第272図	1区6面	82・83号土坑出土遺物	326
第273図	1区6面	46～48・70・81号土坑	326
第274図	1区6面	78～100・102～114・135・136・140号ビット	327
第275図	1区6面	101・115～134・137～148・150・151号ビット	328
第276図	1区6面	152～154・322～324号ビット	329
第277図	1区6面	遺構外出土遺物	329
第278図	3区6面	水田・耕作痕	331
第279図	3区6面	14～18・33号溝、水田・耕作痕	332
第280図	3区6面	19・20号溝、水田・耕作痕	334
第281図	3区6面	21～25号溝、水田・耕作痕	335
第282図	3区6面	26～29号溝断面	336
第283図	3区6面	26～31号溝、水田・耕作痕、30号溝出土遺物	338
第284図	3区6面	1号井戸	340
第285図	3区6面	遺構外出土遺物	340
第286図	4区6面	17・18・34・50・58号溝	342
第287図	4区6面	19～23・27・33・35～37号溝	345
第288図	4区6面	19～23・27・33・35・36号溝断面	346
第289図	4区6面	33・35～37号溝断面、20号溝出土遺物	347
第290図	4区6面	6・26・28～30・39・45・46・80号溝	348
第291図	4区6面	6・26・28～30・39・45・46・80号溝断面、28号溝出土遺物	349
第292図	4区6面	24・25・43・44・47～49・51～55号溝	353
第293図	4区6面	25・43・44・47～49・51～55号溝断面	354
第294図	4区6面	7・13・14・31・32・38・41・42・56・57号溝、57号溝出土遺物	355
第295図	4区6面	7・14・31・32・38・41・42・56・57号溝断面	356
第296図	4区6面	10・15・16号溝	357
第297図	4区6面	40・64号溝、40号溝出土遺物	360
第298図	4区6面	56・57号土坑	361
第299図	4区6面	1号ビット	361
第300図	4区6面	遺構外出土遺物	361
第301図	1区7面	全体図	362
第302図	2区7面	全体図	363
第303図	3・4区7面	全体図	364
第304図	5区7面	全体図	365
第305図	1区7面	2号掘立柱建物	366
第306図	1区7面	2号掘立柱建物断面、出土遺物	367
第307図	1区7面	3号掘立柱建物	368
第308図	1区7面	3号掘立柱建物断面	369
第309図	1区7面	4号掘立柱建物	370
第310図	1区7面	5号掘立柱建物	371
第311図	1区7面	6号掘立柱建物	372
第312図	1区7面	7号掘立柱建物	373
第313図	1区7面	8号掘立柱建物	374

第314図	1区7面	9号掘立柱建物	375
第315図	1区7面	10号掘立柱建物	376
第316図	1区7面	28号溝	377
第317図	1区7面	水田・耕作痕(1)	378
第318図	1区7面	水田・耕作痕(2)	379
第319図	1区7面	水田・耕作痕(3)	380
第320図	1区7面	1号井戸	381
第321図	1区7面	49～55号土坑	381
第322図	1区7面	56～58・65～69・84・85号土坑、66号土坑出土遺物	382
第323図	1区7面	162・167～169・172～183・189・197～199・222～224・295・326号ビット	383
第324図	1区7面	229・233～235・241～243・245・247・249～251・254・255・257～262・266・268・271～274・276・277・279・281～283・285・286・288～291・299号ビット	384
第325図	1区7面	255・286号ビット出土遺物	385
第326図	1区7面	遺構外出土遺物	386
第327図	2区7面	20～22号溝、水田・耕作痕	387
第328図	2区7面	44号溝、水田・耕作痕	388
第329図	2区7面	28～30・32・33号溝、30・33号溝出土遺物、水田・耕作痕	390
第330図	2区7面	28～30・32・33号溝断面	391
第331図	2区7面	23～27・29号溝、水田・耕作痕	392
第332図	2区7面	5～16号土坑	394
第333図	2区7面	1～4号ビット	395
第334図	2区7面	遺構外出土遺物	395
第335図	2区7面	34・37号溝	397
第336図	3区7面	38～42号溝	398
第337図	3区7面	耕作痕(1)	400
第338図	3区7面	耕作痕(2)	401
第339図	3区7面	耕作痕(3)	402
第340図	3区7面	4号土坑	403
第341図	3区7面	5号土坑	404
第342図	3区7面	2・3・6・7号土坑	405
第343図	3区7面	遺構外出土遺物	405
第344図	4区7面	59～63・69・70・72号溝	407
第345図	4区7面	63・69・70・72号溝断面	408
第346図	4区7面	65～68号溝	410
第347図	4区7面	71・74・76号溝	411
第348図	4区7面	水田・耕作痕(1)	413
第349図	4区7面	水田・耕作痕(2)	414
第350図	4区7面	水田・耕作痕(3)	415
第351図	4区7面	水田・耕作痕断面(1)	416
第352図	4区7面	水田・耕作痕断面(2)	417
第353図	4区7面	58～60号土坑	417
第354図	4区7面	遺構外出土遺物	417
第355図	5区7面	9・18～20・23号溝、9・19・23号溝出土遺物	421
第356図	5区7面	21・24～26号溝、24号溝出土遺物	422
第357図	5区7面	27～29・31・32号溝、27・28号溝出土遺物	423
第358図	5区7面	14・22号溝、22号溝出土遺物	424
第359図	5区7面	水田・耕作痕(1)	425
第360図	5区7面	水田・耕作痕(2)	425
第361図	5区7面	8～12号土坑、8・11号土坑出土遺物	427
第362図	5区7面	遺構外出土遺物	428

表目次

第1表	遺構名称付替一覧表	8
第2表	周辺道路一覧表	13
第3表	1区5面1号掘立柱建物 計測表	270
第4表	1区6面11号掘立柱建物 計測表	314
第5表	1区7面2号掘立柱建物 計測表	367
第6表	1区7面3号掘立柱建物 計測表	369
第7表	1区7面4号掘立柱建物 計測表	370

第8表	1区7面5号掘立柱建物 計測表	371
第9表	1区7面6号掘立柱建物 計測表	372
第10表	1区7面7号掘立柱建物 計測表	373
第11表	1区7面8号掘立柱建物 計測表	374
第12表	1区7面9号掘立柱建物 計測表	375
第13表	1区7面10号掘立柱建物 計測表	376

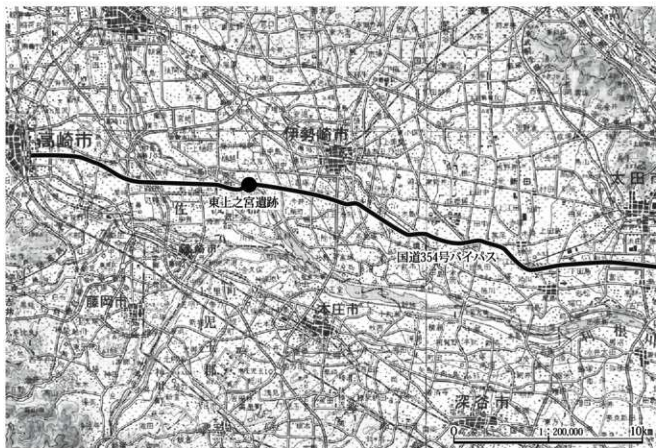
第1章 発掘調査と遺跡の概要

1 調査に至る経過

(1)概要

東上之宮遺跡は伊勢崎市東上之宮町に所在する、古墳時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。本遺跡では平成23年4月から平成24年12月にかけて、国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)(以下「国道354号玉村伊勢崎バイパス関連事業」とする)に伴う埋蔵文化財の発掘調査が実施されている。本書はその埋蔵文化財発掘調査報告書である。

本遺跡の事業名称は、上記のように国道354号玉村伊勢崎バイパス関連事業であるが、調査に至る要因としては、2事業ある。一つは、国道354号玉村伊勢崎バイパス整備であり、もう一つは伊勢崎宮郷工業団地の建設である。以下に、各事業について述べる。



第1図 東上之宮遺跡と群馬県の地勢(国土地理院発行、20万分の1地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行)

(2) 国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)

本県の利根川は上流部を占めるが、川幅が広く水量が豊富で渡河点も限られている。かつては渡し船が所々に配置されていたが、現在は道路敷設及び架橋による陸上交通が渡河の手段である。主要地方道高崎伊勢崎線(群馬県道24号、以下「高崎伊勢崎線」と記す)は、高崎市上滝町と伊勢崎市三和町を結ぶ幹線道路である。この路線の旧道は、途中佐波郡玉村町福島・上福島間に架橋された福島橋によって利根川を渡る。現在、伊勢崎市・玉村町の境界付近ではこの福島橋と、高崎伊勢崎線の南側を並走するように走る国道354号の玉村町五科・伊勢崎市柴町間を結ぶ五科橋の二か所が渡河点であり、両橋は長く交通渋滞の問題を抱えていた。

福島橋の東側に平成13年(2001)12月に玉村大橋が完成した。同橋は県道40号藤岡大胡線のバイパス道路建設に伴うものである。これによって福島橋の交通渋滞は緩和の方向へ向かってきているが、五科橋の交通渋滞はまだ解消に至っていない。五科橋渋滞の解消は、東毛広域幹線道路の一部に組み込まれる高崎伊勢崎線(菲塚工区)とこれに西接する国道354号玉村伊勢崎バイパスの竣工によって図られる計画となっている。国道354号玉村伊勢崎バイパスは、利根川東岸から伊勢崎市菲塚町(高崎伊勢崎線菲塚工区供用部分交差点)に至る延長約0.5kmの計画路線であるが、この道路は片側2車線の高規格道路として設計され、平成29年度から平成26年度に前倒しして事業が進められている。

また、群馬県土木整備部道路整理課(道路企画部)によると、東毛広域幹線道路の整備は、交通渋滞の緩和のみならず、観光地へのアクセシビリティ、農産物の輸送効率の向上、高速道路の利便性、県内企業の競争力の向上、医療機関への所要時間短縮に寄与するものとされている。

(3) 伊勢崎宮郷工業団地

伊勢崎宮郷工業団地は、伊勢崎市東上之宮町・田中町などに所在し、国道354号玉村伊勢崎バイパスの北に接した立地である。この工業団地は、面積約580,000㎡あり、群馬県企業局により計画され平成26年度より造成工事が行われている。この工業団地の排水路は、国道354

号玉村伊勢崎バイパス及び伊勢崎市道の下に設置されることとなったが、2区南辺及び伊勢崎市道から葦川放水路へは新たな用地(5区)を掘削して設置することとなった。その為、2区南辺部分の調査範囲を拡張し、葦川放水路への接続部分を新たに調査対象地とすることとなった。(調査区位置については第3図参照)

(4) 埋蔵文化財の調査に至る経過

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備(活力創出基盤整備)を進めるにあたり、群馬県伊勢崎土木事務所(以下「伊勢崎土木」とする)は平成21年5月8日、県土整備部監理課建設政策室経由で群馬県教育委員会文化財保護課(以下「保護課」)に照会した。これを受け保護課は、当該事業用地は同年6月8日に当該用地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である東上之宮遺跡や阿弥大寺本郷遺跡などに含まれることから、試掘・確認調査が必要である旨を回答した。

伊勢崎土木は、同年10月5日に保護課に対し玉村町福島と伊勢崎市東上之宮町から菲塚町地内の試掘・確認調査を依頼し、保護課は同年12月に当該地域の試掘・確認調査を実施した。

この試掘・確認調査はトレンチ掘削による方法で実施され、国道354号玉村伊勢崎バイパス域では、建設予定地内に、路線方向に沿うものを基本として19本のトレンチが掘削された。本遺跡を発掘調査する要因となったトレンチは7本あり、調査区の1区から4区に相当する地点に掘削された。1区から3区に掘削されたトレンチは、天明泥流層が厚く堆積しており、天明泥流及びAs-A軽石下までの確認となり、As-A軽石下の畑や水田を発見した。そして4区に掘削されたトレンチは、天明泥流層が薄かったため、さらに下層まで確認され、As-B軽石混土層下まで溝を確認している。4区以東では、遺構は確認されず、阿弥大寺本郷遺跡の調査範囲に至るまで発掘調査は不要となっている。

平成22年1月20日、保護課はこの試掘・確認調査の結果を伊勢崎土木、伊勢崎市教育委員会(以下「伊勢崎市教委」とする)、玉村町教育委員会(以下「玉村町教委」とする)に通知し、一部の事業地では埋蔵文化財の調査が必要であることを伝えた。

なお、伊勢崎宮郷工業団地の排水路設置部分の試掘・

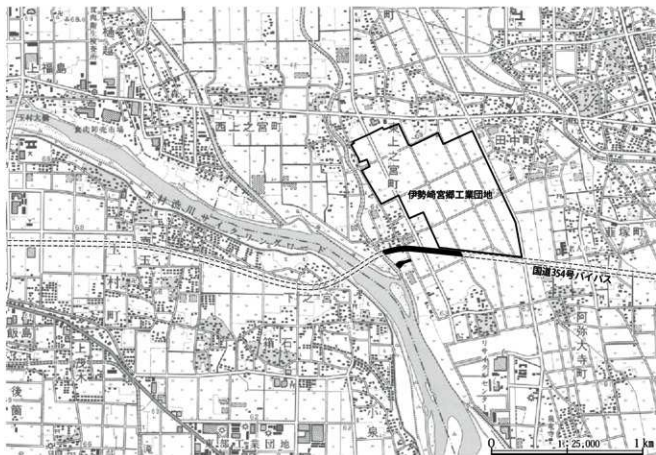
確認調査は、平成24年2月28日に保護課によって実施されており、天明泥流及びAs-A軽石下から畑を確認している。この部分の発掘調査は、伊勢崎土木及び保護課との調整を経て、今回の発掘調査を合わせて平成24年度に5区として実施している。

本遺跡の発掘調査は平成23年4月から行われることとなった。その手続きとしては、同年3月11日、保護課は財団法人(現公益財団法人)群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下「事業団」とする)による調査及び関係書類の提出を依頼し、同月17日事業団はこれを受諾し、回答している。伊勢崎土木は同18日、事業団に対し見積書等の提出を依頼し、同月24日に事業団がこれに対して回答したのを受けて、同月31日に発掘調査の委託契約を締結している。これにより、同年4月1日より事業団による発掘調査が実施されることとなった。

2 発掘調査の経過

発掘調査は平成23年4月1日より開始し、平成24年12

月31日に完了するまで、延べ1年9か月行われた。発掘調査は当初平成24年1月31日に完了する計画であったが、伊勢崎宮郷工業団地の排水路に関わる調査対象面積が増加したため、伊勢崎土木・保護課・事業団による協議が行われ、平成23年11月28日に計画変更を確認し、平成23年11月29日に調査面積を17,793㎡から18,149㎡へ変更する平成23年度の発掘調査委託が伊勢崎土木から事業団になされている。さらに、18,149㎡について調査したところ、遺構の種別が当初想定と異なることから、既調査計画から減面積及び調査期間の延長の必要が生じた。再び、伊勢崎土木・保護課・事業団による協議が行われ、平成24年1月27日に計画変更を確認し平成24年1月30日に、調査期間を平成24年3月31日に、調査面積を14,202㎡に変更する平成23年度の発掘調査委託が伊勢崎土木から事業団になされている。なお、本遺跡に関しては、当初想定した遺構及び調査面積が増加したため、平成23年度の1・2区の調査は途中までで終了とし、この分の調査面積については次年度にも再計上することを伊勢崎土木・保護課・事業団で確認した。さらに、平成24年度の



第2図 東上之宮遺跡の位置(国土地理院発行、2万5千分の1地形図「伊勢崎」平成15年2月1日発行)

第1章 発掘調査と遺跡の概要

調査期間は、当初平成24年4月1日より同年9月30日までであったが、この調査中に宮郷工業団地排水路部分の調査が加わるなど、当初より調査面積が増加したため、伊勢崎土木・保護課・事業団による協議が行われ、平成24年6月26日に計画変更を確認し、平成24年6月29日に調査期間を平成24年12月31日に変更する平成23年度の発掘調査委託が伊勢崎土木から事業団になされている。

主な調査経過等は以下の通りである。

【平成23年度】

4月1日	調査担当2名着任発掘調査準備着手	24日	1区東部の表土掘削開始
4日	伊勢崎土木事務所と調査順等協議	29日	伊勢崎土木と工程協議
8日	2～3区地元挨拶	9月16日	1区西部2面空中全景写真、空中測量、個別遺構写真撮影
12日	基準点測量	21日	伊勢崎土木、柏井建設、事業団で工程協議
13日	安全柵設置、軍管杭打ち	26日	1区西部2面調査終了
15日	2区南東部表土掘削開始	27日	1区西部3面遺構確認開始
18日	4区表土掘削、1面遺構確認	29日	1区西部3面作業中に2.5面発見
21日	2区南東部2面遺構確認	4区7面空中全景写真撮影	
25日	4区南西部2面遺構確認	30日	4区基本土層精査、写真撮影
28日	2区南東部2面全景写真	10月5日	1区西部3面全景写真撮影
5月16日	2区南東部5面掘削、遺構確認	4区西側から埋戻し開始	
26日	2区南東部調査終了	7日	1区西部3面個別遺構全景写真撮影
27日	4区1・2面の遺構確認作業終了	4区東部で9面遺構確認	
6月1日	2区南東部埋戻し作業開始	12日	1区西部4面重機掘削、遺構確認開始
4区1・2面空中全景写真撮影・空中測量、個別遺構写真撮影		18日	1区西部4面全景写真撮影
6日	2区南東部埋戻し完了	1区東部表土掘削終了	
4区3面遺構確認開始		4区9面全景写真撮影	
15日	4区3面精査終了	19日	1区西部5面重機掘削、遺構確認開始
1区調査行程伊勢崎土木事務所と打合せ		4区9面断面測量、9面下確認作業	
16日	4区3面全景写真	21日	理事・評議員来跡
伊勢崎市教委文化財保護課職員来跡		24日	1区西部5面重機掘削終了
20日	1区表土掘削	26日	1区東部2面空中全景写真撮影、空中測量4区調査終了
4区4面調査開始		28日	1区西部5面全景写真撮影
27日	4区4面調査終了	1区東部3面遺構確認開始	
28日	4区5面遺構確認開始	伊勢崎土木・柏井建設・事業団で工程協議	
7月5日	4区5面調査終了、6面遺構確認開始	31日	1区西部6面重機掘削、遺構確認開始
27日	伊勢崎市教委文化財保護課職員来跡	11月4日	1区西部6面全景写真撮影
28日	4区6面空中全景写真撮影	1区東部2.5面全景写真撮影	
8月2日	4区7面遺構確認開始	5日	1区西部7面重機掘削遺構確認開始
19日	1区西部の表土掘削終了	9日	1区東部3面全景写真撮影
		10日	1区西部7面全景写真撮影、8面人力掘削
		1区東部4面遺構確認開始	
		14日	1区西部8面重機掘削、遺構確認開始
		18日	1区東部4面全景写真撮影
		22日	1区東部5面重機掘削開始
		25日	伊勢崎土木・柏井建設・事業団で工程協議
		30日	2区表土掘削開始
		12月1日	1区東部5面遺構確認開始

14日	1区東部作業中断。先行引渡しとなる1区西部の調査を優先させる 2区2面遺構確認開始	7日	1区南東部5・6面調査、5面調査終了
20日	伊勢崎土木・保護課・事業団で調査行程協議	8日	1区南東部6・7面調査
1月6日	1区西部調査終了	11日	1区南東部6～8面調査、6・7面調査終了 1区東部9面重機掘削開始
10日	1区西部を伊勢崎土木へ引渡し 1区東部5面調査再開	15日	2区4面全景写真
19日	1区東部5面全景写真撮影	16日	2区5面重機掘削、遺構確認開始
23日	1区東部6面遺構確認開始	29日	2区5面全景写真撮影、トレンチ掘削
30日	1区東部6面全景写真撮影	30日	2区7面重機掘削、遺構確認開始 調査担当者1名離任
2月1日	2区2面空中全景写真撮影、空中測量 1区東部6面調査終了	6月5日	1区南東部8面調査終了
2日	1区東部7面遺構確認開始	8日	1区南東部9面遺構確認 2区7面全景写真撮影、調査終了
3日	1区東部7面全景写真撮影 2区3面重機掘削、遺構確認開始	11日	2区8面調査開始 伊勢崎市教委文化財保護課職員来跡
8日	1区東部8面重機掘削、遺構確認開始	14日	1区東部9面遺構掘削開始 2区8面全景写真撮影
15日	1区東部7面調査終了	15日	2区8面下トレンチ掘削、調査終了
3月28日	平成23年度調査終了、機材撤収	18日	2区埋戻し開始
30日	伊勢崎警察署に発見届提出、調査担当者2名離任	7月3日	2区埋戻し終了
【平成24年度】		5日	1区東部9面全景写真撮影
4月2日	調査担当3名着任。発掘調査準備着手	6日	1区東部9面下トレンチ掘削(遺構基盤確認)、調査終了
4日	設営準備、機材搬入	9日	1区東部埋戻し
5日	1区東8面調査再開 5区表土掘削準備	11日	3区表土掘削開始
6日	5区表土重機掘削開始	13日	3区遺構確認開始
9日	5区作業中断	23日	5区表土掘削再開
12日	2区3面調査再開	26日	1区東部埋戻し終了
17日	1区東部8面全景写真撮影	27日	5区1・2面遺構確認開始
18日	1区南東部東(調査搬入路部分)表土掘削、遺構確認開始	8月8日	伊勢崎市教委文化財保護課職員来跡
19日	1区南東部西2.5面遺構確認開始、同調査終了	21日	5区2面空中全景写真撮影・空中測量
20日	1区南東部西3面遺構確認開始 2区3面全景写真撮影	23日	5区4面重機掘削開始(2面墓地調査は継続)
24日	1区南東部東2面全景写真撮影、3面遺構確認開始 2区4面調査開始	28日	3区2面空中全景写真空中測量 5区4面遺構確認開始
25日	1区南東部東2面調査終了	30日	3区2面調査終了
27日	1区南東部3～5面調査 2区4面重機掘削開始、遺構確認開始	9月3日	3区3・4面遺構面確認開始
5月1日	1区南東部4・5面調査、4面調査終了	4日	3区3・4面重機掘削、遺構確認開始
		7日	5区4面全景写真撮影
		10日	5区5・7面遺構面確認
		11日	5区5・7面重機掘削、遺構確認開始
		13日	5区東部5面全景写真撮影

第1章 発掘調査と遺跡の概要

18日	3区中斷。5区優先させる。
21日	5区7面全景写真撮影
25日	5区8面重機掘削、遺構確認開始
10月24日	5区2面墓地調査終了
26日	3区調査再開、北東部で2.5面掘削確認、4面調査
29日	3区2.5面調査終了 5区9面重機掘削開始、遺構確認開始
30日	3区3面(9号溝のみ)全景写真撮影、調査終了
11月1日	5区9面全景写真撮影
11月2日	3区4面全景写真撮影
5日	3区4面調査終了、5面重機掘削開始 5区8・9面調査終了、堤防部分表土重機掘削開始
7日	3区5面遺構確認開始
9日	5区堤防部分2面全景写真撮影、調査終了
12日	5区3・4・7面重機掘削、遺構確認開始
13日	5区3・4面調査終了、8面重機掘削、遺構確認開始
14日	3区5面全景写真撮影、6面人力掘削、遺構確認開始
15日	3区6面重機掘削開始
19日	5区9面調査開始、8・9面調査終了(5区調査終了)
22日	3区6面全景写真撮影、7面遺構確認開始
12月5日	3区7面全景写真
6日	現場撤収準備開始
7日	3区7面調査終了(3区終了)
10日	3区埋戻し開始
18日	調査器材搬出
21日	プレハブ撤去
27日	プレハブ用地地権者引き渡し
28日	現地作業終了 伊勢崎警察署に発見届提出 調査担当2名離任

3 整理業務の経過と方法

整理作業は平成25年2月1日から3月31日、同26年4月1日から同27年3月31日に実施した。

遺物整理に関しては土器・陶磁器類の接合を平成26年

4月から7月に行い、遺物の選定を4月から7月に随時実施し、復元作業を5月から7月に実施した。また金属器は報告書掲載遺物の選定を行った上で、平成26年8月にエックス線撮影、錯落としを実施した。また石器、石製品を含む出土遺物の実測を6月から9月、実測図のトレースを7月から10月にかけて実施し、この間平成26年5月と6月に写真撮影を実施した。遺構図に関しては原図整理を平成25年2月から3月、同26年4月から9月、デジタルトレースを4月から9月に実施した。

また発掘調査報告書に拘る作業では、遺物図の版下作製を平成26年9月から11月、遺構図の版下作製を8月から11月、写真の版下作製を9月から12月に実施し、本文執筆を4月から12月、遺物観察表の作成を7月から11月に実施した。なお、整理時に遺構番号及び名称の付け替えを一部で行っており、その結果は第1表に掲げた通りである。

4 調査の方法

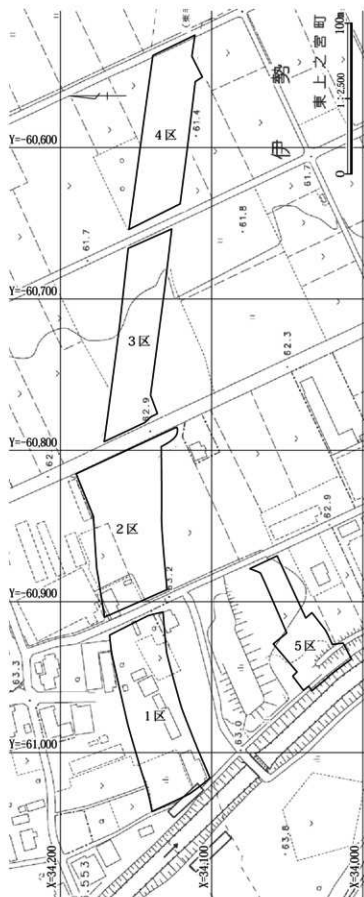
(1) 調査区の設定

本遺跡周辺は圃場整備により、約100m毎に南北方向の公道が走行しており、調査範囲が区画されている。そこで、この公道によって区画された地区を基に調査区を設定した。本遺跡では、西端には葦川放水路及び利根川が流れていることから、西端を起点とし、1～4区を設定している。また、平成24年度調査より、伊勢崎宮郷工業団地排水路設置に伴う発掘調査を合わせて実施することとなり、1区から100m弱南に離れた区画を調査することとなったため、そこを5区とした。

なお、1・2・5区においては、工事との調整上、調査区を分割して調査を実施しているが、調査区に枝番をつけて区画することは行っていない。

グリッドの設定は行わず、世界測地系による平面直角座標系(平成十四年国土交通省告示第九号)IX系に基づき、東経139度50分、北緯36度0分を原点として、1m四方の区画を1単位として区画を設定している。本報告書内での呼称は、座標数値の下3桁で表記している。

なお、本遺跡はX=34,005m～34,190m、Y=60,530m～61,040mの範囲内にある。



第3図 東上之宮遺跡の調査区
(伊勢崎市現況図41、1:2,500 平成22年10月測図使用)

(2) 調査面の設定

当遺跡は天明三(1783)年の浅間山噴火に伴うAs-A軽石及び天明泥流の被害を受けた地域にあり、この層の上下の遺構から調査を行っている。天明泥流の復旧作業は泥流層の上面(1面)から行っているはずであるが、復旧跡を確認できたのは天明三年当時の地表面(2面)もしくはその直上のAs-A軽石層上面であり、2面とほぼ同一面で調査を行うこととなった。また、近世洪水砂層直下面(3面)の調査を行っているときに、この洪水層を攪拌する遺構を発見したため、調査面の呼称が2.5面となっている。

全体としては、天明三年以降として1面(3・4層上面)、天明三年直下として2面(4層上面)、近世洪水以降として2.5面(5・6層上面)、近世洪水以前として3面(6・7層上面)、As-B軽石混土層として4面(7層上面)、5面(8・9層上面)、6面(9・12層上面)、As-B軽石混土層下で中世面として7面(12・13層上面)、古墳時代後期～平安時代集落面として8面(13・14・15層上面)、古墳時代前期面として9面(19層上面)の計10面を調査した。調査区すべてにこの調査面が存在するわけではなく、また、存在したとしても一部の範囲に限られることもある。(第2章3基本土層参照)

(3) 発掘調査の方法

当遺跡では、これまで述べてきたように、各区で複数の確認面を調査している。表土及び各確認面までの間層は掘削機(バックホー)を用いて掘削し、その後、ジョレンを用いて人力による遺構確認を行った。遺構調査は移植ゴテを用いた掘削を中心としているが、As-A軽石下の畑や水田の調査にはハケを用いて、当時の生活面が傷つかないように調査を行っている。

各遺構の埋没状況については、土層観察用のベルトを設定している。

記録は、遺構の平面図及び断面図等の図面作成と、ブローニーモノクロフィルムを使用した6×7銀塩カメラと35mmデジタルカメラによる写真撮影によって行った。

第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1表 遺構名称付け替え一覧表

遺構面	調査区	調査時遺構番号(変更前)	報告書遺構番号(変更後)
1面	4	(4号復旧溝群の一部)	9号復旧溝群
1面	4		10号復旧溝群
1面	4		11号復旧溝群
2面	1		7号道路
2面	1		8号道路
2面	1		9号道路
2面	1		63号溝
2面	1		64号溝
2面	3	8号溝	7号溝と同一(欠番)
2面	4	55号土坑	(欠番)
2面	4	5号復旧溝群中溝状遺構	79号溝
2.5面	1	31号畑	1号復旧溝群
2.5面	1	34号畑	2号復旧溝群
2.5面	1	50号畑	
2.5面	1	2号土坑	2号井戸
3面	2		46号溝
3面	2		47号溝
3面	2		48号溝
3面	1		61号畑
3面	1	36号畑2面	62号溝
4面	1	5号土坑	3号井戸
5面	1	42号溝	39号溝と同一(欠番)
5面	1	38号ビット	1号掘立柱建物P9
5面	1	39号ビット	1号掘立柱建物P1
5面	1	40号ビット	1号掘立柱建物P4
5面	1	50号ビット	1号掘立柱建物P3
5面	1	56号ビット	1号掘立柱建物P2
5面	1	57号ビット	1号掘立柱建物P8
5面	1	60号ビット	1号掘立柱建物P7
5面	1	66号ビット	1号掘立柱建物P6
5面	1	69号ビット	1号掘立柱建物P5
6面	3	1号土坑	1号井戸
6面	4		80号溝
6面	1	320号ビット	11号掘立柱建物P1
6面	1	321号ビット	11号掘立柱建物P3
6面	1	325号ビット	11号掘立柱建物P2
7面	1	155号ビット	2号掘立柱建物P9
7面	1	156号ビット	2号掘立柱建物P10
7面	1	157号ビット	2号掘立柱建物P1
7面	1	158号ビット	2号掘立柱建物P8
7面	1	159号ビット	2号掘立柱建物P11
7面	1	160号ビット	2号掘立柱建物P2
7面	1	161号ビット	2号掘立柱建物P7
7面	1	163号ビット	2号掘立柱建物P3
7面	1	164号ビット	2号掘立柱建物P6
7面	1	165号ビット	2号掘立柱建物P5
7面	1	166号ビット	2号掘立柱建物P4
7面	1	170号ビット	2号掘立柱建物P14
7面	1	171号ビット	2号掘立柱建物P13
7面	1	184号ビット	3号掘立柱建物P8
7面	1	185号ビット	3号掘立柱建物P9
7面	1	186号ビット	3号掘立柱建物P10
7面	1	187号ビット	3号掘立柱建物P1
7面	1	188号ビット	3号掘立柱建物P7
7面	1	190号ビット	3号掘立柱建物P12
7面	1	191号ビット	3号掘立柱建物P11
7面	1	192号ビット	3号掘立柱建物P2
7面	1	193号ビット	3号掘立柱建物P6
7面	1	194号ビット	3号掘立柱建物P5
7面	1	195号ビット	3号掘立柱建物P4
7面	1	196号ビット	3号掘立柱建物P3
7面	1	200号ビット	2号掘立柱建物P12
7面	1	201号ビット	2号掘立柱建物P15
7面	1	225号ビット	6号掘立柱建物P5
7面	1	226号ビット	6号掘立柱建物P4
7面	1	227号ビット	5号掘立柱建物P5
7面	1	228号ビット	6号掘立柱建物P3
7面	1	230号ビット	6号掘立柱建物P2

遺構面	調査区	調査時遺構番号(変更前)	報告書遺構番号(変更後)
7面	1	231号ビット	5号掘立柱建物P4
7面	1	232号ビット	9号掘立柱建物P5
7面	1	236号ビット	6号掘立柱建物P1
7面	1	237号ビット	9号掘立柱建物P1
7面	1	238号ビット	7号掘立柱建物P1
7面	1	239号ビット	8号掘立柱建物P1
7面	1	240号ビット	10号掘立柱建物P5
7面	1	244号ビット	8号掘立柱建物P2
7面	1	246号ビット	9号掘立柱建物P4
7面	1	248号ビット	5号掘立柱建物P2
7面	1	252号ビット	7号掘立柱建物P2
7面	1	253号ビット	5号掘立柱建物P1
7面	1	254号ビット	9号掘立柱建物P2
7面	1	256号ビット	7号掘立柱建物P3
7面	1	263号ビット	5号掘立柱建物P6
7面	1	264号ビット	7号掘立柱建物P6
7面	1	265号ビット	8号掘立柱建物P4
7面	1	267号ビット	7号掘立柱建物P5
7面	1	269号ビット	7号掘立柱建物P4
7面	1	270号ビット	10号掘立柱建物P3
7面	1	275号ビット	9号掘立柱建物P3
7面	1	278号ビット	8号掘立柱建物P3
7面	1	280号ビット	10号掘立柱建物P4
7面	1	284号ビット	10号掘立柱建物P2
7面	1	287号ビット	10号掘立柱建物P1
7面	1	292号ビット	4号掘立柱建物P1
7面	1	293号ビット	4号掘立柱建物P3
7面	1	294号ビット	4号掘立柱建物P4
7面	1	295号ビット	4号掘立柱建物P5
7面	1	297号ビット	4号掘立柱建物P6
7面	1	298号ビット	4号掘立柱建物P7
7面	1	300号ビット	4号掘立柱建物P8
7面	1	301号ビット	4号掘立柱建物P2
7面	1	302号ビット	5号掘立柱建物P3
7面	4	73号溝	(欠番)
7面	4	78号溝	(欠番)
8面	1	74号土坑	(欠番)
8面	5	(15号柱の一部)	50号住居
9面	1		59号溝
9面	1		60号溝
9面	1		61号溝
9面	1		62号溝
9面	1		60号畑
9面	1		63号畑
9面	4	(2号畑の一部)	4号畑
9面	4	(2号畑の一部)	5号畑
9面	4	(2号畑の一部)	6号畑
9面	4	(2号畑の一部)	6号畑
9面	4	(2号畑の一部)	7号畑
9面	4	(2号畑の一部)	8号畑
9面	4	(2号畑の一部)	9号畑
9面	4	(2号畑の一部)	10号畑
9面	4	(2号畑の一部)	11号畑
9面	4	(2号畑の一部)	12号畑
9面	4	(3号畑の一部)	13号畑
9面	4	(3号畑の一部)	14号畑
9面	4	(3号畑の一部)	15号畑
9面	4	(3号畑の一部)	16号畑
9面	4	(3号畑の一部)	17号畑
9面	4	(3号畑の一部)	18号畑
9面	4	(3号畑の一部)	19号畑
9面	4	(3号畑の一部)	20号畑
9面	4	(3号畑の一部)	21号畑
9面	4	(3号畑の一部)	22号畑
9面	4	(3号畑の一部)	23号畑
9面	4	(3号畑の一部)	24号畑
9面	5	49号住居	(欠番)

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

1 遺跡の位置と地形

東上之宮遺跡は、群馬県の中央南部にある伊勢崎市の西部に位置する。東上之宮町に所在する。伊勢崎市は、北は前橋市、東は太田市、西は玉村町に接し、南は、利根川を経て埼玉県本庄市に至る。本遺跡から、北方には赤城山を望み、榛名山と赤城山の間には、子持山や谷川連峰を見ることができる。赤城山の北東方向には日光、足尾山系が続く。北西方向には榛名山が望め、晴天時には榛名山の中腹には扇状地地形に立地する相馬ヶ原を見ることができる。西方は、隣接する荒川放水路及びその西に流れる利根川を経て玉村町内に至り、その先には妙義山・浅間山を、南西部には秩父山地を望む。

本遺跡周辺には、利根川に沿うようにして細長く伸びる集落が存在しており、北側には東上之宮の集落が所在する。発掘調査時では、本遺跡の西側には宅地が点在するものの、その数は少なく、圃場整備された田畑が広がっている。

本遺跡周辺の土地は、北西方向から南東方向に極めて緩やかに傾斜する平坦地で形成されている。東上之宮町の南西部を北西から南東に利根川が流れ、東には広瀬川が流下している。広瀬川は、世良田上武大橋付近で利根川と合流している。

本遺跡を含む東上之宮町の北西部には、前橋台地と呼ばれている地形面が存在している。前橋台地は赤城山と榛名山の山麓の間から南東方向に位置し、前橋市の北東部から伊勢崎市西部にかけての旧利根川流路と高崎市西部の烏川に挟まれた部分に広がっている。

更新世後期に利根川によってもたらされた前橋砂礫層が200m以上堆積し、それが前橋台地の基盤となり、下位から前橋泥流堆積層、前橋泥炭層で構成されている。前橋泥流堆積層は、約2～2.4万年前の浅間山山体崩落が原因である岩屑なだれによるものである。渋川市以南の現利根川兩岸に堆積した前橋泥流堆積層は、西は高崎市日野町から東野部へ、東は前橋市北西部から伊勢崎市西部へと広がった。前橋泥流堆積層は、前橋市内で

約15m前後、高崎南部でも10mを超える厚さで堆積している。

前橋泥流堆積層の上位層である前橋泥炭層は、砂・シルト・泥炭層などによって構成されている。このシルト・泥炭層は水中や湿潤な環境下で形成されることから、この時期の前橋台地は湿地状態であったと考えられる。この泥炭層からは、科学分析によると約1.3万年前という測定値が示されている。

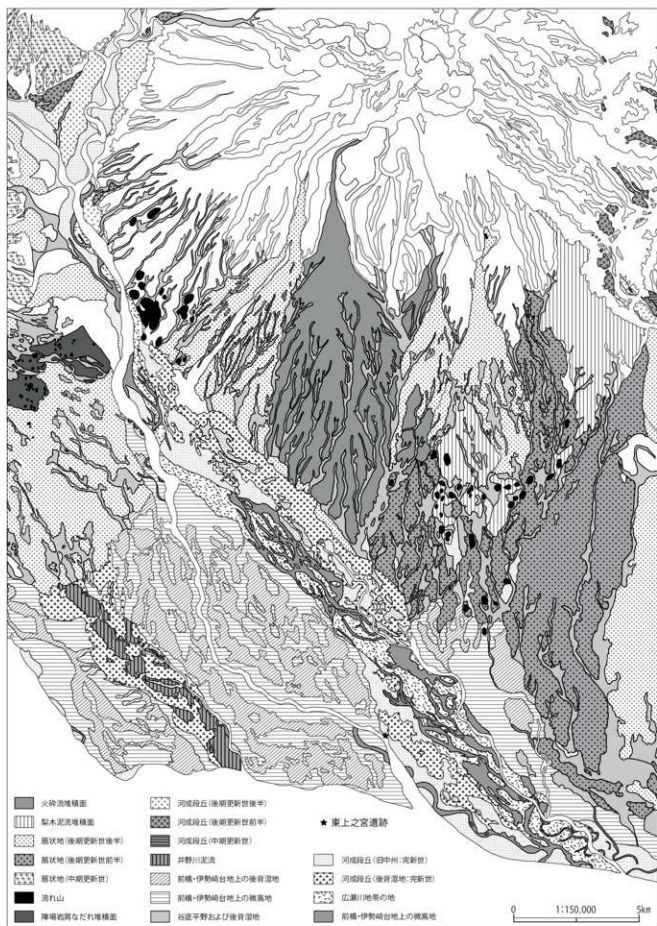
一方、本遺跡の北方約27kmには赤城山がある。赤城山は40～50万年前から活動が始まり、2.5万年前まで噴火活動があったとされる。この赤城山の噴火活動による堆積物を起源とする砂質物資が流出し、1万年前に伊勢崎台地が形成された。伊勢崎台地は前橋台地東部の上位に堆積しており、神沢川及び広瀬川を西限とし東は粕川に至る。

前橋台地上には、洪積世後期以降、利根川をはじめとするいくつもの河川が流れ、小規模ながら氾濫源が各所に形成されている。現在前橋台地を分断する形で流下する利根川であるが、約2.4万年前には榛名白川を合わせながら井野川低地帯を流れていたとされる。その後、約1.7万年前には榛名山で発生した泥流(陣場岩屑なだれ)により埋め立てられ、赤城山南西麓の前橋台地と伊勢崎台地上にその流路を変更した。本遺跡周辺では、現在の広瀬川及びその支流が旧利根川の流路であったと推定されている。

旧利根川は、前橋台地及び伊勢崎台地の一端を侵食し、幅2～3km程度の沖積低地である広瀬川低地帯を形成した。本遺跡地を含む周辺は、この旧利根川により形成された河成段丘にあり、本遺跡は、その旧中洲及び後背湿地に立地している。そして、本遺跡から2km程度東には小規模な旧河道が網の目状に残存している。

利根川が広瀬川低地帯から現在の流路になったのは、中世のある時期とされる。その時期については諸説あるが、14世紀から16世紀の間と考えられている。

現在の位置に利根川が流れるようになってからの地形の変化としては、天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流があげられる。浅間山はこの年の春ごろから小噴火を



第4図 周辺地形分類図(『群馬県史』通史編1 付図2を改変使用)

起こしていたが、新暦8月5日に大爆発を起こし、吾妻川に流れ込んだ岩屑などは泥流(天明泥流)として流下した。泥流は吾妻川から利根川に流下し、一部は広瀬川低地帯にも流れ込んでいる。本遺跡の周辺で天明泥流の被害を受けたのは、利根川左岸では、玉村町上福島・樋越、伊勢崎市西上之宮町・東上之宮町・柴町の一部、右岸でも樋越・板井・福島・南玉・下之宮・箱石・飯倉・川井・小泉・五料の一部である。これらの地域では天明泥流が厚く堆積しており、本遺跡でも3mを超えている地点がある。

[参考文献]

- 群馬県史編纂委員会1990『群馬県史』通史編1 原始古代1 群馬県
高崎市史編さん委員会2003『新編 高崎市史』通史編1 原始古代 高崎市

2 周辺遺跡

本遺跡のある伊勢崎市南西部は伊勢崎市市内において、発掘調査件数が他の地域に比べて少ない地域であった。しかしながら、近年は本遺跡も含む国道354号バイパス関連やその他開発に伴う発掘調査が行われ、資料が増加しつつある。ここでは、隣接地域の状況も踏まえてその概要を述べたいと思う。

【旧石器・縄文時代】

伊勢崎市市内において旧石器時代、縄文時代の遺跡は大間々扇状地の区域に集中して在り、伊勢崎台地や河成段丘、広瀬川低地帯地域では、旧石器時代の遺跡の分布は認められず、縄文時代の遺跡も非常に少ない。こうした傾向は西接する玉村町内においても同様である。これは当該地域では、この時期において土地が安定しておらず、居住に不向きな環境であったためと考えられる。しかし、玉村町上茂木の向田遺跡(177)では、旧石器時代終末期から縄文時代草創期の所産とされる尖頭器が出土しており、限られた微高地上での活動が想定される。

この他に、縄文時代の遺物の出土例としては、先述の向田遺跡や玉村町小泉の小泉長塚遺跡(121)では中期の土器片が、伊勢崎市東上之宮町の宮柴遺跡(12)では中期から後期の土器片が発見されている。そして、玉村町川井の芝根村第17号(玉村町№446 遺跡)(174)周辺や、玉村町五料の五料合流点付近でも後・晩期の土器片が採取されており、遺構の存在は不明であるが、いくつかの

遺跡で土器片が得られている他、縄文時代に属すると考えられる石器類の出土もある。

【弥生時代】

弥生時代に至っても本遺跡周辺の遺跡分布は希薄な状態であり、旧石器・縄文時代と特段の変化はなかった。しかし、広瀬川左岸の伊勢崎台地上に立地する西太田遺跡(4)では中期及び後期の住居が確認されている。玉村町では、この時期の遺構は確認していないが、玉村町福島、南玉の福島・南玉遺跡(60)などでは中期から後期の土器片が出土している。

【古墳時代】

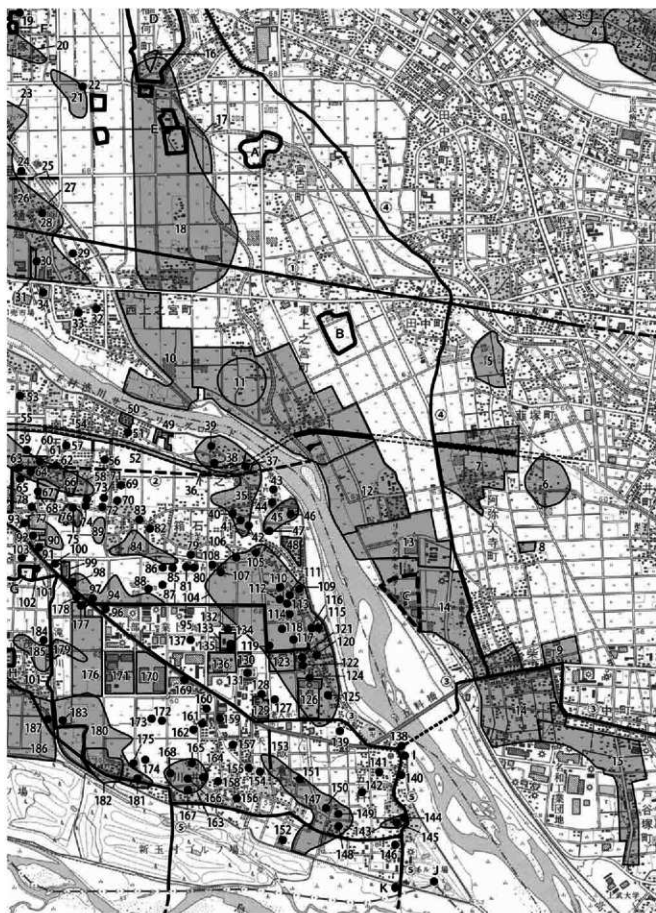
こうした前時代までの遺跡分布状態に対して、古墳時代になると遺跡数は著しく増加する。その増加は前橋台地上や伊勢崎台地上に顕著であるが、利根川低地帯及び河成段丘上の地域であっても旧中洲や利根川の旧流路に挟まれた微高地上に集落が営まれている。

このうち前期の集落は本遺跡や阿弥大寺本郷遺跡(7)、前橋台地上の玉村町下之宮の下之宮高塚遺跡(36)で確認されている。本遺跡や利根川を挟んだ対岸に位置する下之宮高塚遺跡においては、前期の集落が厚い天明泥流に加えて幾層もの洪水堆積層の下から見つかっている。

中期の集落は、阿弥大寺本郷遺跡や西太田遺跡などで確認されている。古墳では、玉村町川井の稲荷山古墳(芝根村七号古墳)(162)の新II 2段階のうち三角縁土板を出土した旧段階の古墳がある。

後期の集落は、河成段丘上にある本遺跡、阿弥大寺本郷遺跡の他、西太田遺跡で確認されている。なお、阿弥大寺本郷遺跡では、6世紀初頭の榛名山噴火に伴う火山灰で被覆した畑や水田が確認されている。また、その後の榛名山系からの泥流に被覆された畑が本遺跡と阿弥大寺本郷遺跡で確認されている。

古墳については、前橋台地上の玉村町小泉の利根川沿いに位置する、小泉古墳群、烏川沿いの同町川井の川井古墳群、河成段丘上の伊勢崎市東上之宮町の若宮古墳群(11)、同市稲荷町の稲荷山古墳群(18)、同市今井町の真光寺古墳群(6)などの古墳群が分布する。稲荷山古墳群の古城古墳(宮郷一号墳)や上之宮古墳などは発掘調査が行われており、古城古墳は横穴式石室を主体部とする前方後円墳であり、銅製品や玉類が出土している。一方、



第5図 周辺遺跡分布図(国土地理院発行、2万5千分の1地形図「伊勢崎」平成15年2月1日発行)

第2表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	遺跡番号	縄文	弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
					不特定	前期	中期	後期					
1	東上之宮遺跡	IS191				○				○	○	○	本遺跡
2	南久保遺跡	IS056	○		○								
3	御富士山南古墳群	IS070						○					伊勢崎市1987「伊勢崎市史」通史編1 原始古代中世
4	西太田遺跡	IS055		○		○	○	○	○	○			伊勢崎市教育委員会社会教育課1983「西太田遺跡」
5	西本郷遺跡	IS177			○			○	○				
6	真光寺古墳群	IS187			○								
7	阿弥大寺本郷遺跡	IS178				○		○	○	○	○		(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「阿弥大寺本郷遺跡」(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第564集
8	一ノ宮遺跡	IS180			○				○	○			
9	今井遺跡	IS183			○				○	○			
10	西上之宮遺跡	IS190										○	
11	若宮古墳群	IS194					○						
12	宮楽遺跡	IS186	○										
13	宮楽前遺跡	IS179									○		伊勢崎市教育委員会文化財保護課2003「宮楽前遺跡1・2」(伊勢崎市文化財調査報告書第49集)
14	柴遺跡	IS182									○		伊勢崎市教育委員会文化財保護課2008「柴遺跡」(伊勢崎市文化財調査報告書第91集)
15	戸谷塚遺跡	IS184										○	
16	今村城跡	IS188									○		
17	松原遺跡	IS189			○								
18	稲荷山古墳群	IS193						○	○				伊勢崎市1987「伊勢崎市史」通史編1
19	玉村町No.11遺跡	0011								○			
20	玉村町No.16遺跡	0016	○		○			○	○	○			
21	玉村町No.19遺跡	0019						○	○	○			
22	玉村町No.544遺跡	0544						○	○	○			
23	玉村町No.18遺跡	0018	○		○			○	○	○			
24	玉村町No.73遺跡	0073						○	○	○			
25	玉村町No.541遺跡	0541			○			○	○	○			
26	原浦Ⅱ遺跡	0647				○				○	○		(株)シン技術コンサル1996「原浦Ⅱ遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第16集
27	玉村町No.17遺跡	0017	○		○			○	○	○			
28	玉村町No.76遺跡	0076						○	○	○			
29	玉村町No.81遺跡	0081						○	○	○			
30	玉村町No.57遺跡	0057			○								
31	玉村町No.80遺跡	0080											
32	稲越諏訪前遺跡	0647				○			○	○			玉村町遺跡調査会2004「稲越諏訪前遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第70集
33	玉村町No.511遺跡	0511											
34	玉村町No.82遺跡	0082							○	○			
35	玉村町No.212遺跡	0212			○				○	○	○		
36	下之宮高野遺跡	0704				○			○	○			(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011「年報」30 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「年報」31 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「年報」32
37	玉村町No.208遺跡	0208										○	
38	玉村町No.202遺跡	0202			○								
39	玉村町No.201遺跡	0201			○								
40	玉村町No.196遺跡	0196			○								
41	玉村町No.197遺跡	0197			○								
42	玉村町No.198遺跡	0198			○								
43	玉村町No.199遺跡	0199			○								
44	玉村町No.598遺跡	0598											昭和36年航空写真
45	玉村町No.213遺跡	0213							○	○	○		
46	玉村町No.210遺跡	0210											
47	玉村町No.200遺跡	0200			○								
48	玉村町No.211遺跡	0211											
49	玉村町No.207遺跡	27											
50	利根浜遺跡	0203											玉村町遺跡調査会1998「利根浜遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第23集
51	玉村町No.204遺跡	0204											
52	下之宮中神遺跡	0705						○		○	○		(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2011「年報」30 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「年報」31 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「年報」32
53	玉村町No.166遺跡	0166							○	○			
54	南玉埋堀遺跡	0706			○				○	○			(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「年報」32
55	南玉二丁町遺跡	0707			○				○	○			(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「年報」31 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「年報」32

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

No.	遺跡名	遺跡番号	縄文	弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
					不特定	前期	中期	後期					
56	玉村町No.205遺跡	0205									○		
57	玉村町No.170遺跡	0170									○	○	
58	玉村町No.185遺跡	0185							○	○	○	○	
59	玉村町No.134遺跡	0134		○									
60	福島・南玉遺跡	0581		○					○	○	○	○	玉村町教育委員会2007『味噌俵・福島二丁町遺跡・福島・南玉遺跡』玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第80集
61	玉村町No.136遺跡	0136		○									
62	玉村町No.171遺跡	0171							○	○			
63	玉村町No.135遺跡	0135		○									
64	玉村町No.137遺跡	0137		○									
65	玉村町No.167遺跡	0167							○	○			
66	玉村町No.172遺跡	0172							○	○			
67	玉村城(南玉原屋敷)	0142									○		山崎 一1971『群馬県古城址の研究』上巻 群馬県文化事業振興会
68	玉村町No.148遺跡	0148									○		原家五輪塔(文安5、6年)
69	玉村町No.206遺跡	0206										○	
70	玉村町No.193遺跡	0193		○									
71	社宮島古墳	0192											
72	玉村町No.174遺跡	0174											
73	玉村町No.138遺跡	0138								○			
74	玉村町No.173遺跡	0173								○			
75	玉村町No.701遺跡	0701											時期不明
76	南玉館(原武原敷)	0143									○		山崎 一1979『群馬県古城址の研究』補遺編 上巻 群馬県文化事業振興会
77	玉村町No.168遺跡	0168								○			
78	玉村町No.186遺跡	0186							○	○	○	○	
79	玉村町No.209遺跡	0209								○			
80	玉村町No.494遺跡	0494								○			
81	玉村町No.510遺跡	0510										○	
82	少林山古墳	0195		○									群馬県教育委員会1971『群馬県遺跡台帳』I 東北編
83	玉村町No.194遺跡	0194		○									
84	玉村町No.214遺跡	0214							○	○			
85	玉村町No.430遺跡	0430											昭和36年航空写真
86	玉村町No.429遺跡	0429											昭和36年航空写真
87	玉村町No.431遺跡	0431		○									昭和36年航空写真
88	玉村町No.537遺跡	0537										○	
89	玉村町No.191遺跡	0191							○	○			
90	玉村町No.190遺跡	0190							○	○	○	○	
91	玉村町No.698遺跡	0698								○			
92	玉村町No.169遺跡	0169								○			
93	十王堂Ⅱ遺跡	0146								○			玉村町遺跡調査会・玉村町教育委員会2006『神明遺跡・行人塚遺跡・十王堂Ⅱ遺跡・中郷遺跡・松原Ⅱ遺跡・杉山遺跡』玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第76集
94	玉村町No.427遺跡	0427							○	○			
95	川井箱石遺跡	0552	○		○			○	○	○	○		山武考古学研究所1999『川井箱石遺跡』川井箱石遺跡調査会
96	平塚原北遺跡	0532								○			玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会1996『平塚原北遺跡』玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第15集
97	三境遺跡	0635								○	○		玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会1997『三境遺跡・三境Ⅱ遺跡』玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
98	三境Ⅱ遺跡	0641								○	○		玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会1997『三境遺跡・三境Ⅱ遺跡』玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第18集
99	十王堂Ⅰ・Ⅱ遺跡	0389								○			玉村町遺跡調査会2000『十王堂・十王堂Ⅱ遺跡』玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第40集
100	玉村町No.419遺跡	0419								○			
101	玉村町No.121遺跡	0121										○	
102	玉村町No.418遺跡	0418								○			田淵川用水
103	玉村町No.417遺跡	0417								○			
104	玉村町No.215遺跡	0215		○						○	○		
105	玉村町No.489遺跡	0489		○									
106	玉村町No.433遺跡	0433		○									
107	玉村町No.432遺跡	0423		○									昭和36年航空写真
108	玉村町No.457遺跡	0457											
109	玉村町No.465遺跡	0465										○	
110	玉村町No.434遺跡	0434		○									
111	玉村町No.435遺跡	0435		○									

No.	遺跡名	遺跡番号	縄文	弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
					不特定	前期	中期	後期					
112	玉村町No.436遺跡	0436											
113	玉村町No.437遺跡	0437											
114	玉村町No.438遺跡	0438											
115	玉村町No.467遺跡	0467											
116	玉村町No.466遺跡	0466											
117	玉村町No.440遺跡	0440											
118	玉村町No.439遺跡	0439											
119	玉村町No.441遺跡	0441											
120	玉村町No.468遺跡	0468											昭和36年航空写真 二本榑古墳?
121	小泉長塚遺跡	0455											玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会 2006「小泉長塚遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第7集
122	玉村町No.442遺跡	0442											昭和36年航空写真 小泉古墳群
123	小泉大塚遺跡	0454											玉村町教育委員会 1993「小泉大塚遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 玉村町教育委員会 2008「小泉大塚遺跡」(第2・3次調査・往來遺跡(第1・2次調査))玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第82集
124	玉村町No.469遺跡	0469											
125	玉村町No.470遺跡	0470											
126	玉村町No.686遺跡	0686											
127	玉村町No.714遺跡	0714											
128	玉村町No.460遺跡	0460											
129	往來遺跡	0535											玉村町教育委員会 2008「小泉大塚遺跡(第2・3次調査・往來遺跡(第1・2次調査))」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第82集
130	玉村町No.459遺跡	0459											
131	玉村町No.543遺跡	0543											
132	玉村町No.685遺跡	0685											
133	玉村町No.458遺跡	0458											
134	稲荷木1号墳	0490											
135	稲荷木2号墳	0491											
136	沖遺跡	0562											玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会 1999「沖遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第32集
137	北田中遺跡	0582											玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会 2001「北田中遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第47集
138	五軒園所跡	0453											
139	玉村町No.471遺跡	0471											
140	玉村町No.615遺跡	0615											
141	玉村町No.472遺跡	0472											
142	玉村町No.482遺跡	0482											
143	玉村町No.485遺跡	0485											
144	玉村町No.483遺跡	0483											
145	玉村町No.690遺跡	0690											
146	玉村町No.486遺跡	0486											
147	玉村町No.474遺跡	0474											
148	玉村町No.479遺跡	0479											
149	玉村町No.478遺跡	0478											
150	玉村町No.477遺跡	0477											
151	玉村町No.480遺跡	0480											
152	玉村町No.481遺跡	0481											
153	玉村町No.568遺跡	0568											
154	玉村町No.452遺跡	0452											
155	玉村町No.464遺跡	0464											
156	玉村町No.484遺跡	0484											
157	玉村町No.463遺跡	0463											
158	玉村町No.476遺跡	0476											
159	玉村町No.462遺跡	0462											昭和36年航空写真
160	玉村町No.499遺跡	0499											
161	玉村町No.497遺跡	0497											
162	稲荷山古墳	0445											芝根村7号古墳 群馬県1981「群馬県史」資料編3 原始古代3
163	玉村町No.473遺跡	0473											
164	玉村町No.451遺跡	0451											「上毛古墳総覧」記載漏れ芝根村第15号墳 群馬県1981「群馬県史」資料編3 原始古代3
165	玉村町No.449遺跡	0449											「上毛古墳総覧」記載漏れ芝根村第14号墳 群馬県1981「群馬県史」資料編3 原始古代3
166	玉村町No.450遺跡	0450											「上毛古墳総覧」記載漏れ芝根村第16号墳 群馬県1981「群馬県史」資料編3 原始古代3
167	玉村町No.475遺跡	0475											「上毛古墳総覧」芝根村第6号墳
168	二ツ子山古墳	0448											「上毛古墳総覧」芝根村第5号墳

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

No.	遺跡名	遺跡番号	縄文	弥生	古墳				奈良	平安	中世	近世	備考
					不特定	前期	中期	後期					
169	茶釜山古墳	0700				○							
170	街道南遺跡	0456					○			○			玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会 2004「横堀遺跡・街道南遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第68集
171	北原遺跡	0534					○			○			玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会 1995「北原遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第11集
172	玉村町No.444遺跡	0444											「上毛古墳総覧」記載編れ芝根村第18号墳 群馬県1981「群馬県史」資料編3 原始古代3
173	玉村町No.443遺跡	0443					○						「上毛古墳総覧」記載編れ芝根村第12号墳
174	玉村町No.446遺跡	0446											「上毛古墳総覧」記載編れ芝根村第17号墳 群馬県1981「群馬県史」資料編3 原始古代3
175	玉村町No.461遺跡	0461								○			
176	玉村町No.668遺跡	0668				○				○			
177	向田遺跡	0682	○	○		○	○						玉村町教育委員会・玉村町遺跡調査会 2010「向田遺跡」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第87集
178	玉村町No.569遺跡	0569								○			
179	玉村町No.426遺跡	0426								○			
180	玉村町No.428遺跡	0428				○				○			
181	玉村町No.447遺跡	0447				○							
182	川井城	0381											山崎 一1971「群馬県古城址の研究」上巻 群馬県文化事業振興会
183	房子塚古墳	0376				○							「上毛古墳総覧」芝根村第9号墳
184	下茂木地区遺跡群(本丸塚No.22)	0394								○			玉村町遺跡調査会 1999「上之平地区遺跡群(1)・(2)、梶原森遺跡、天神塚遺跡、宇賀地区遺跡群、稲荷山遺跡群、下茂木地区遺跡群、下茂木神明宮遺跡、上新田地区遺跡群」玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第33集
185	玉村町No.425遺跡	0425								○			
186	玉村町No.424遺跡	0424				○				○			
187	殿台山古墳	0375				○							「上毛古墳総覧」芝根村第4号墳
A	鎌子屋敷										○		群馬県教育委員会事務局文化財保護課1989「群馬県の中世城館跡」群馬県教育委員会
B	上ノ宮蔵吉										○		群馬県教育委員会事務局文化財保護課1989「群馬県の中世城館跡」群馬県教育委員会
C	小泉城										○		山崎 一1971「群馬県古城址の研究」上巻 群馬県文化事業振興会
D	今村城										○		山崎 一1971「群馬県古城址の研究」上巻 群馬県文化事業振興会
E	今村環濠遺構群												時期不明 群馬県教育委員会事務局文化財保護課1989「群馬県の中世城館跡」群馬県教育委員会
F	飯塚環濠遺構群(環濠集落)										○		群馬県教育委員会事務局文化財保護課1989「群馬県の中世城館跡」群馬県教育委員会
G	茂木館(本木館)										○		山崎 一1979「群馬県古城址の研究」補遺編 上巻 群馬県文化事業振興会
H	下茂木屋敷										○		山崎 一1979「群馬県古城址の研究」補遺編 上巻 群馬県文化事業振興会
I	五料河岸										○		群馬県教育委員会文化財保護課1981「佐渡奉行街道」群馬県歴史の道調査報告書第7集
J	新河岸										○		群馬県教育委員会文化財保護課1981「佐渡奉行街道」群馬県歴史の道調査報告書第7集
K	川井河岸										○		群馬県教育委員会文化財保護課1981「佐渡奉行街道」群馬県歴史の道調査報告書第7集
①	東山駅路								○	○			群馬県立歴史博物館2001「群馬県立歴史博物館第70回企画展 古代の道-たんけん!東山駅路-
②	鎌倉街道										○		群馬県教育委員会文化財保護課1983「鎌倉街道」群馬県歴史の道調査報告書第17集
③	日光例幣使街道										○		群馬県教育委員会文化財保護課1979「日光例幣使街道」群馬県歴史の道調査報告書第2集
④	日光例幣使街道脇往還										○		群馬県教育委員会文化財保護課1983「日光への脇往還」群馬県歴史の道調査報告書第14集
⑤	佐渡奉行街道										○		群馬県教育委員会文化財保護課1981「佐渡奉行街道」群馬県歴史の道調査報告書第7集

上之宮古墳は角四石安山岩を使用した横穴式石室を主体部とする円墳である。玉村町内で発掘調査された古墳には、甲斐頭大刀や冠が出土した小泉塚塚遺跡(123) 3号墳や小泉長塚遺跡1号墳(121)、また群集墳では玉村町川井の芝根村第14号墳(165)、同15号墳(164)、同16号墳(166)、同17号墳(174)、同18号墳(172)がある。

【奈良・平安時代】

律令期に入ると前橋台地、伊勢崎台地に集落が展開するが、本遺跡や阿弥大寺本郷遺跡のように広瀬川低地帯中の微高地上で、集落が確認されている。しかし、この時代においても集落の分布は広瀬川以東の密度が高い。本遺跡付近は変流前の利根川右岸、利根河川支流の烏川左岸に位置して、那波郡に属することになったが、平安時代の「倭名類聚抄」によれば、倭文など7つの郷が存在したとされる。本遺跡の北には、倭文神社が所在することから、倭文郷(里)に含まれていたことが推測される。

倭文神社は、本遺跡の地名にも含まれる「上之宮」の由来になったとされており、現利根川を挟んだ対岸の玉村町「下之宮」は火雷神社に由来するとされる。『日本三代実録』によると、貞観元(859)年「正六位委文神」との記載があることから、この神社は少なくとも平安時代には存在したことが確実である。また、延喜式神明帳に記載された式内社でもある。本遺跡では、平安時代に属する住居は少ないものの存在しており、近隣に平安時代の集落の中心部が存在した可能性がある。

また、本遺跡の北方約1km付近を東山道駅路(牛堀・矢ノ原ルート)①が東南東方向に走っていたと想定されている。

この時期、水田の土地区画には条里制が導入され、この制度によると考えられる地割が玉村町内各地で確認されている。水田遺構は、平安時代末期の天仁元(1108)年の浅間山噴火に伴うAs-B軽石で埋没したものが多く、水田址や畠跡が玉村町地域を中心に確認されており、As-B軽石下水田は、南玉埋堀遺跡(54)などで確認されている。

【中世】

ここで述べる中世は浅間山の噴火で当地域が被害を受けた天仁元(1108)年以降、天正十八(1590)年の徳川家康の関東入封までの間とする。

天仁元年の浅間山噴火の時点で、当地域は藤原姓の那

波氏の勢力下にあったと推定され、北東部を除く玉村町内は玉村氏の勢力下にあったと推定される。そして、玉村氏により12世紀には伊勢神宮の荘園として玉村御厨が形成されるが、当地域は荘園化されなかったものと推定される。しかし、藤原姓那波氏は治承・寿永の乱で木曾義仲に与して没落し、代わって中原姓大江氏が入って付近を治め、新たに那波氏を名乗ったと見られるものの、周辺地域に鎌倉期の遺跡は確認されていない。なお、鎌倉街道②は、武蔵野国から烏川を渡り、玉村町角淵を経て、玉村町箱石・下之宮付近を走行していたと比定され、下之宮渡しによって伊勢崎方面へ向かうとされている。鎌倉街道の一部は、近世の日光御幣使街道③や佐渡奉行街道⑤等に引き継がれるが、利根川の渡しは南の五料(1)へと移動している。

さて、諸説あるが史料等の記録によれば、14～16世紀の間に利根川の変遷が起こったとされる。この時期の本遺跡周辺の遺跡は少ないが、前橋台地や河成段丘の旧中洲の上に那波氏の居城と目される那波城の枝城とみられる今村城(16、D)、鎌倉公方足利成氏と関東管領山上杉房顕が争った享徳の乱中に足利成氏側に攻略された上ノ宮要害(上ノ宮館)(B)がある。また、阿弥大寺本郷遺跡でも、室町時代後半期の屋敷遺構が調査され、現利根川の対岸に在る下之宮高野遺跡では虎口を城塞化した15世紀段階の1町以上の規模を持つ館址が調査されている。本遺跡では、掘立柱建物や規模の大きい区画溝が見つかっているが、大規模な館址などは見つかっていない。本遺跡では、As-B軽石を攪拌した耕作跡が多く見つかっており、一時的に建物が建てられた時期もあるが、水田などの耕作地が広がっていたものと考えられる。

【近世】

天正十八(1590)年に徳川家康が関東に入封すると、松平家康が那波1万石を与えられ、那波氏の居城であった那波城に入った。そして巖橋城には平岩親吉が3万3千石を与えられ入城している。この時期、本遺跡周辺は「上之宮村」であったとされるが(上野國郡村誌)、どちらの所領となっていたかは不明である。しかし、その時期は短く、慶長6(1601)年に両者とも転封となり、那波城は廃城となる。巖橋城には酒井重忠が入封するが、その長子酒井忠世はその際に那波領1万石を与えられており、本遺跡周辺は酒井氏による支配を受けることになった。

慶安年間に上之宮村は分村し、本遺跡付近は「東上之宮村(東上宮)」となったとされるが(上野國郡村誌)、江戸時代においては概ね前橋藩(後に川越藩)領となっている。前橋藩領としては南東端にあり、東に接する田中町(当時「田中村」)など、東上之宮村の東や南は伊勢崎藩領となっている。

本遺跡の1.5km南には日光例幣使街道(③)が通り、現在の五料橋の500m程南寄りに利根川を渡る渡船場があった。その玉村町側には五料宿があり、そこには関所(138)が設けられていた。一方、対岸の伊勢崎市側には柴(芝)宿があり、この柴宿の西側から北に折れて日光例幣使街道の脇往還(④)が伸びている。

周辺の遺跡は天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う被災関連遺跡が殆どである。本遺跡付近にもAs-A軽石の降下や泥流による埋没があった。本遺跡の南に位置する宮柴前遺跡(13)や柴遺跡(14)でも同様にAs-A軽石及び泥流によって埋没した田畑が確認されている。玉村町内でもAs-A軽石や泥流で埋没した田畑やその復旧跡が発掘されている。玉村町下之宮の利根添遺跡(50)や小泉大塚越遺跡、小泉長塚遺跡では畑が見つかっており、下之宮高俣遺跡では屋敷跡も発見され、同遺跡や近接する下之宮中沖遺跡(52)では耕地復旧のための天地返しを行ったときの溝・土坑群も見られた。さらに、下之宮中沖遺跡では、これに先立つ寛保二(1742)年のものの可能性がある耕地復旧溝群も確認されている。

[参考文献]

- 群馬県1990『群馬県史』通史編4 近世1
伊勢崎市1987『伊勢崎市史』通史編1 原始古代中世
玉村町誌編集委員会1992『玉村町誌』通史編 上巻
群馬県教育委員会文化財保護課1979『日光例幣使街道』
群馬県歴史の道調査報告書第2集
群馬県教育委員会文化財保護課1981『佐渡奉行街道』
群馬県歴史の道調査報告書第7集
群馬県教育委員会文化財保護課1983『日光への脇往還』
群馬県歴史の道調査報告書第14集
群馬県教育委員会文化財保護課1983『鎌倉街道』群馬
県歴史の道調査報告書第17集

3 基本土層

本遺跡は河成段丘上に立地している。古墳時代から近世に至るまで洪水起源によるシルト質土や砂土の堆積が認められ、同一区域内にあっても土層の堆積は一律ではないが、火山起源の層を除くと洪水堆積層を基として土壌化した土層で覆われている。したがって、ここでは1区から5区における代表的な土層堆積を平均化し、標準土層として記載する。

本遺跡で最も特徴的な土層としては、天明三年の浅間山噴火に伴うAs-A軽石及び天明泥流があげられる。すべての調査区において堆積しており、この地域の地形を大きく変化した堆積といえる。

次に鍵層となるAs-B軽石の堆積は、遺跡全域で安定的に確認されたものではなく、低地部などごく限られた場所で純堆積層として存在するが、そのほかの場所でも覆拵された状況で存在していることが多く、標準土層として位置付けている。

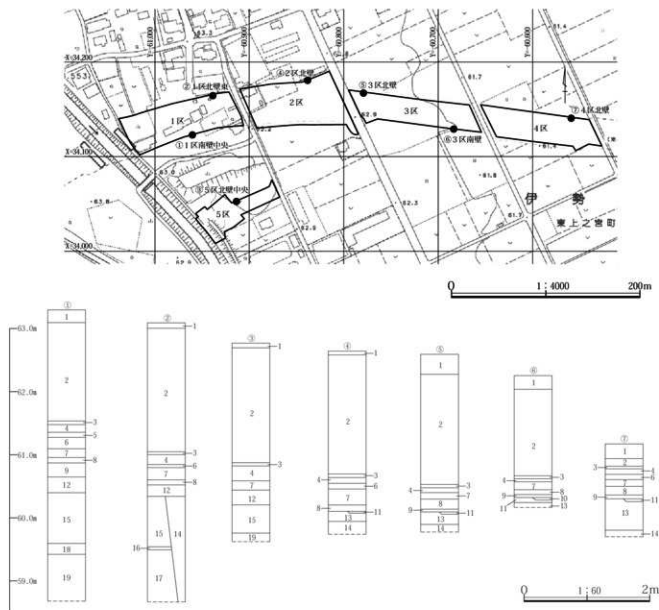
そして、基盤となる土層は1区西側と5区、それ以東で大きく異なる。西側では、古墳時代前期以前の後背湿地によるシルト質土・粘質土の堆積があり、1区東端より東は角閃石安山岩類を多く含む砂礫層を基盤としている。

次に標準層ごとに内容を記していく。

1層は表土であり、黒褐色を中心とする土壌である。昭和40年代の圃場整備以降の耕作土等であるが、各区とも厚みが無い。水田であった場所においても床土の酸化鉄凝集層は見られない。

2層は天明三年(1783)の浅間山噴火に伴う天明泥流層である。調査区全域で確認でき、利根川に近いほど厚い傾向にある。1・5区の西端部では3mを超える地点もある。その一方で4区では浅く、その東端部は0.2m程度である。黒褐色の砂土と大小様々な礫から成る。下層には酸化鉄凝集層が形成され、さらにその下層にはやや細粒の砂礫が堆積していることがある。

4区では、天明泥流の復旧作業によって、2層の上面から掘削を行っている(1面)はずであるが、自然堆積状態の泥流層と人為的に動かされた層との見分けが困難であり、2層上面で遺構を確認することはできなかった。



東上之宮遺跡 第1章 基本土層 土層行記

①(1区)

- 1 表土
- 2 As-A配流(天明配流)
- 3 As-A礫石
- 4 褐色シルト質土(2面)
- 5 灰黄色シルト(近世洪水層)(2,3面)
- 6 褐色シルト質土(3面)
- 7 褐色色As-礫石混シルト質~砂質土(4面)
- 8 灰黄色色~黄褐色As-礫石混砂質土(5面)
- 9 灰黄色色As-礫石混砂質土(6面)
- 10 灰黄色シルト質土(7面)
- 11 ぶい黄褐色土-灰黄色シルト質~砂土(古墳時代洪水層)
- 12 灰黄色シルト質~砂土(古墳時代洪水層)
- 13 灰黄色As-礫石混シルト質土(9面)
- ②(1区)
 - 1 表土
 - 2 As-A配流(天明配流)
 - 3 As-A礫石
 - 4 褐色シルト質土(2面)
 - 5 灰黄色色As-礫石混砂質土(3面)
 - 6 褐色シルト質土(3面)
 - 7 褐色色As-礫石混シルト質~砂質土(4面)
 - 8 灰黄色色~黄褐色As-礫石混砂質土(5面)
 - 9 灰黄色色As-礫石混砂質土(6面)
 - 10 灰黄色シルト質土(7面)
 - 11 ぶい黄褐色土-灰黄色シルト質~砂土(古墳時代洪水層)
 - 12 灰黄色シルト質~砂土(古墳時代洪水層)
 - 13 灰黄色As-礫石混シルト質土(9面)
 - 14 灰黄色色砂礫土(角閃石鉱山消岩含む、H-Fa配流)
 - 15 ぶい黄褐色土-灰黄色シルト質~砂土(古墳時代洪水層)
 - 16 灰黄色As-礫石混砂質土(6面)
 - 17 灰黄色色砂礫土(H-FaZ前の河階)

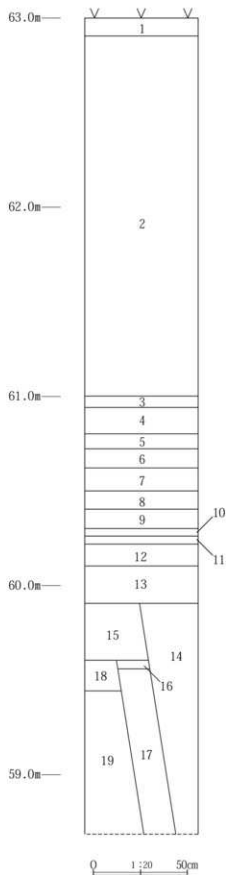
③(5区)

- 1 表土
- 2 As-A配流(天明配流)
- 3 As-A礫石
- 4 褐色シルト質土(2面)
- 5 褐色色As-礫石混シルト質土(4面)
- 6 褐色シルト質土(2面)
- 7 褐色色As-礫石混シルト質土(4面)
- 8 褐色色As-礫石混シルト質土(8面)
- 9 褐色色As-礫石混シルト質土(9面)
- ④(2区)
 - 1 表土
 - 2 As-A配流(天明配流)
 - 3 As-A礫石
 - 4 褐色シルト質土(2面)
 - 5 褐色色As-礫石混シルト質~砂質土(4面)
 - 6 褐色色As-礫石混砂質土(5面)
 - 7 褐色色As-礫石混砂質土(6面)
 - 8 褐色色As-礫石混砂質土(7, 8面)
 - 9 褐色色As-礫石混砂質土(9面)
 - 10 褐色色As-礫石混砂質土(9面)
 - ⑤(3区)
 - 1 表土
 - 2 As-A配流(天明配流)
 - 3 As-A礫石
 - 4 褐色シルト質土(2面)
 - 5 褐色色As-礫石混シルト質土(3, 4面)
 - 6 褐色色As-礫石混シルト質土(5面)
 - 7 褐色色As-礫石混シルト質土(5面)
 - 8 褐色色As-礫石混シルト質土(6面)
 - 9 褐色色As-礫石混砂質土(6面)
 - 10 褐色色As-礫石混砂質土(6面)
 - 11 As-礫石
 - 12 褐色色砂質土(7, 8面)
 - 13 褐色色砂礫土(角閃石鉱山消岩含む、H-Fa配流)
 - 14 灰黄色色砂礫土(角閃石鉱山消岩含む、H-Fa配流)

⑥(3区)

- 1 表土
- 2 As-A配流(天明配流)
- 3 As-A礫石
- 4 褐色シルト質土(2面)
- 5 褐色色As-礫石混シルト質土(3, 4面)
- 6 褐色色As-礫石混砂質土(5面)
- 7 褐色色As-礫石混砂質土(6面)
- 8 As-A礫石
- 9 褐色色As-礫石混砂質土(7, 8面)
- ⑦(4区)
 - 1 表土
 - 2 As-A配流(天明配流)
 - 3 As-A礫石
 - 4 褐色シルト質土(2面)
 - 5 褐色色As-礫石混シルト質土(3, 4面)
 - 6 褐色色As-礫石混シルト質土(4面)
 - 7 褐色色As-礫石混シルト質土(5面)
 - 8 褐色色As-礫石混砂質土(6面)
 - 9 褐色色As-礫石混砂質土(6面)
 - 10 As-礫石
 - 11 As-礫石
 - 12 褐色色砂質土(H-Fa配流)(7, 8面)
 - 13 褐色色砂礫土(角閃石鉱山消岩含む、H-Fa配流)
 - 14 灰黄色色砂礫土(角閃石鉱山消岩含む、H-Fa配流)

第6図 各区の土層堆積状況(伊勢崎市現況図41、1:2,500 平成22年10月測図使用)



第7図 標準土層

3層はAs-A軽石層である。調査区全域で確認でき、一部を除いて天明三年当時の生活面をそのままバックしている。そのため、天明泥流による削平から当時の生活面が守られているため、天明三年時の遺構面(2面)の残存状況は良好であった。しかし、溝から水の取り入れ口や何らかの理由により、As-A軽石層の堆積が見られないところでは、直接天明泥流が遺構面に堆積しているため、足跡などの確認が困難となる場所もあった。

4区の天明泥流復旧作業の痕跡はこの層の上面で行った(1面)。

4層は、天明三年のAs-A軽石直下であり、天明三年当時の耕作土である(2面)。調査区全域で確認でき、やや明るめの褐灰～灰黄褐色のシルト質土である。

洪水堆積起源のシルト質土を基として土壌化した層である。

5層は1区の中央部などで確認できる層である。褐灰～黄褐色の砂土で、近世洪水による堆積層である。調査区全域には残存していないが、その後の耕作などによって土壌化がすすめられた可能性がある。5層下面(3面)を精査中に、洪水層を攪拌した遺構を発見したため、2.5面として調査を行っている。2.5面の遺構には、近世洪水の復旧作業の痕跡も含まれる。

6層は、近世洪水砂層直下であり、その当時の耕作土である(3面)。4層にも似る褐灰色のシルト質土である。ただし、5層の存在が1区中央部など一部に限られるため、3面の生活面がそのまま残されている場所は少ない。1区以外では上部を後の耕作などで削平された状態で、確認している。

7層は2・6層よりはやや暗めの色調で、褐灰～灰黄褐色のAs-B軽石を微量～少量含むシルト質土である。As-B層が耕作に伴って攪拌され形成された層であり、その攪拌の度合い(As-B軽石の含有量)によって、当遺跡では7～9層の3層に大別した。7層はAs-B軽石混土層の最上層であり、この層の上面で近世の遺構を確認している(4面)。

8層は灰黄褐～黄褐色のAs-B軽石を少量～中量含むシルト質～砂質土である。As-B軽石混土層の中層に位置付けられ、この層の上面で中世末～近世の遺構を確認している(5面)。

9層は灰黄褐～黒褐色のAs-B軽石を中量～多量含む

砂質土である。As-B 軽石混土層の最下層に位置付けられ、この層の上面で中世の遺構を確認している(6面)。

10層はAs-Kk 軽石層である。3区の南壁の一部でブロック状に残存している軽石層を確認したに過ぎない。この下層のAs-B 軽石層も同様であるが、当遺跡ではごく一部で堆積が残存しているか所があるだけである。As-B 軽石層との間に中間層を確認していない。また、この層直下では遺構を発見していない。

11層はAs-B 軽石層である。当遺跡では、As-B 層はほとんど攪拌されており、層として確認できたのは3区と4区の東側の一部だけである。さらに調査区域内で面としてAs-B 軽石層を確認できたのは4区の北東部だけである。しかしながら、遺構の発見には至っていない。

12層はAs-B 混土層或いはAs-B 軽石層の下層にある、灰黄褐～にぶい黄褐色のシルト質土である。この層はAs-B 降下以前に形成された層であるが、As-B 軽石混土層からの耕作や掘り込みをこの面で確認しており、中世の遺構に位置付けられる(7面)。

13層は黄褐～黒褐色のシルト質～砂質土である。砂礫層の上層に堆積している土層であり、やや谷状に落ち込む2・3区では、黒褐色のシルト質土であるが、4区では黄褐色の砂質土となっている。4区では火山灰分析によりHr-FP 泥流堆積物との分析結果がでている。古墳時代後期(8面)～中世(7面)の遺構確認面となっている。

14層は灰黄褐色の砂礫層である。1区の東端部より東に広がっており、基盤をなす層である。0.4mを超える角閃石安山岩など大小様々な砂礫によって構成されている。1区東の一部で見られるHr-FA 層などを大きく切り取っており、トレンチでもこの層を掘り抜くことはできなかった。火山灰分析によりHr-FA 泥流堆積物と認められ、河川による堆積と考えられる。1区東端の古墳時代後期の住居はこの砂礫層面を掘り込んでいる(8面)。

15層は1・5区などの西側に見られる堆積層であり、にぶい黄褐～黄褐色のシルト質～砂土である。洪水起源の堆積であり、1区の西側では厚くなっている。東端はHr-FA 以前の河道や14層によって切られるが、古墳時代後期～平安時代の集落の確認面となる(8面)。

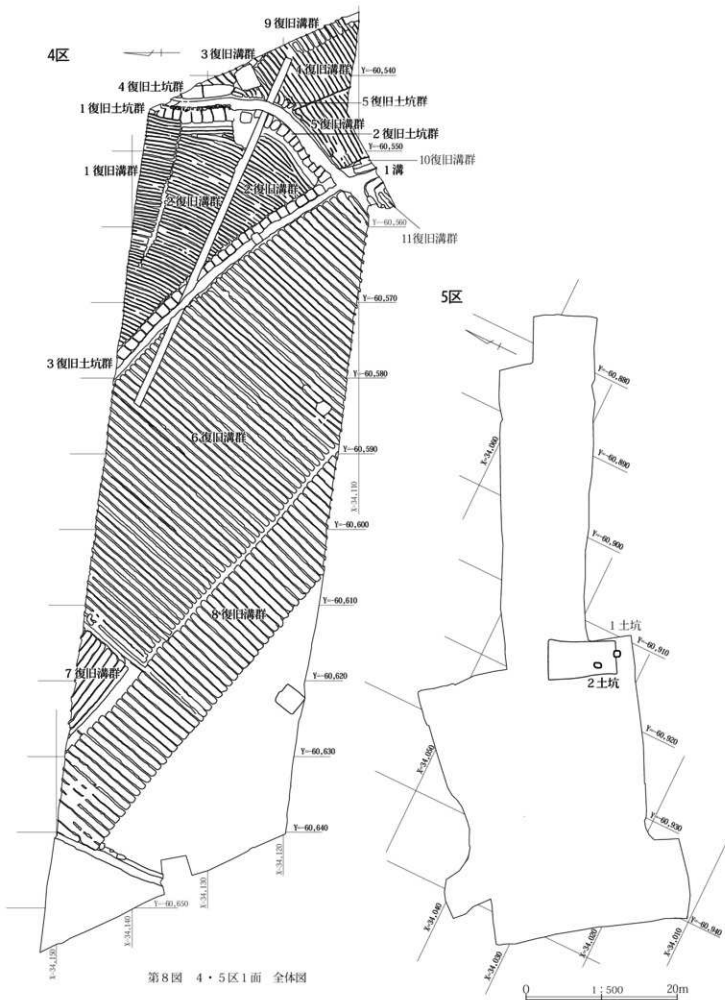
16層はHr-FA 層である。1区東端部の小規模な河道の落ち込みに堆積し、14層によって大きく切られている。

当遺跡では、16層はこのような落ち込みなど一部にのみ見られ、面としては確認していない。

17層は灰黄褐色の砂礫層であり、14層と似るものの角閃石安山岩は含まれず、また、Hr-FA 層の下層にあることから、Hr-FA 以前の河道による堆積と考えられる。この層は1区東端の14層よりわずかに西側から見られるが、やはり14層によって大きくえぐられている。

18層は灰黄褐色のシルト質～砂土である。Hr-FA 以前の洪水堆積物である。この層の下面から古墳時代前期の遺構を確認しており(9面)、古墳時代前期から後期にかけての堆積である。

19層は灰黄褐～黄褐色のシルト質土であり、As-C 軽石が少量含まれる。この層も洪水による堆積と考えられ、1・5区の東端より西側でみられる。



第3章 天明三年以降(1面)の遺構と遺物

1 概要

本章で報告するのは、天明三年の泥流より新しい近世に属する遺構と遺物についてである。4区の遺構の大半は泥流被害の復旧作業として掘削された溝群や土坑である。当遺跡の調査では、天明泥流の復旧作業が行われたことが確認できるのは4区のみである。この復旧作業は8号復旧溝群より東で行われている。2面4号溝と天明三年当時の畦畔とを境にそれより西側では復旧作業は行われていない。また、5区の遺構としては、天明泥流を掘り抜いて構築した墓である土坑があげられる。

2 4区の遺構と遺物

4区の天明三年以降に属する遺構としては、天明泥流の復旧作業として掘削された溝群と土坑群、そして、天明以前から存在したと考えられるが、泥流で埋没した後に復旧され、使用された溝が1条である。これらは泥流層上面から掘削されたものであるが、遺構検出が困難であったため、As-A軽石上面で確認している。

(1) 復旧溝群

4区で溝群として単位をとらえることができたのは11か所であった。遺構番号は発掘調査段階に付したものを踏襲しているが、変更したものがある。4号復旧溝群としてとらえていた溝群は、掘削状況の違いにより、報告時に4号と9号に分離した。また、5号復旧溝群と1号溝の間で重なって掘削された溝状の一群を10号復旧溝群とし、2面1号畑の上を掘削したものを11号復旧溝群と命名した。

1号復旧溝群(第9・10図 PL. 2・185)

位置: 133～141・545～565 形状: 溝状 検出条数: 44条 溝規模: (4.5)m×0.6m 残存深度: 0.06～0.15m 条間隔: 0～0.2m 条方位: N-10°-E
遺物: 2号復旧溝群と併せて、火打石(1)の他、近世の施軸陶器1片・在地系土器(銅類5片)が出土した。所

見: 2号復旧溝群の北側に掘削される。各溝の断面形は平坦である。南側と西側は2号復旧溝群に囲まれており、重複していないことから、一連の復旧作業で掘削された可能性がある。ただし、明確に掘り分けられていることから、別の復旧溝群とした。天明三年当時は水田であった場所に掘削されているが、畦畔とは軸方位がずれている。しかし、東端では1号溝から1.5m程度離れて掘削されているので、溝による区画を意識していたものと考えられる。

2号復旧溝群(第9・10図 PL. 2・185)

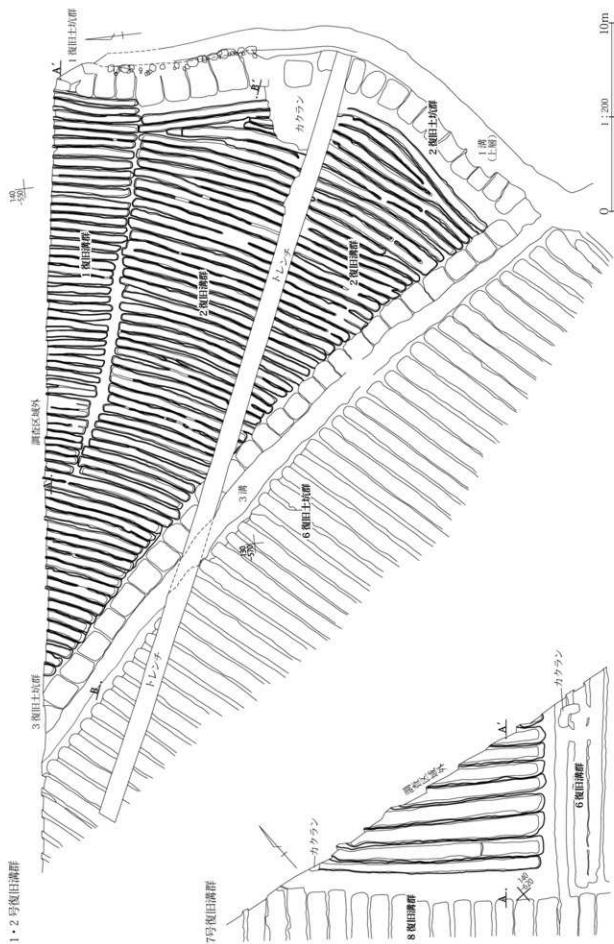
位置: 115～142・546～576 形状: 溝状 検出条数: 63条 溝規模: 5.7～21.0m×0.5～0.7m 残存深度: 0.04～0.2m 条間隔: 0～0.2m 条方位: N-28°-E 遺物: 1号復旧溝群と併せて出土した火打石(1)、陶磁器片の他、近世の施軸陶器17片・在地系土器(皿類9片、銅類14片)、不明鉄製品、板破片、火打石と考えられる石製品が出土した。所見: 1号復旧溝群の南に位置し、1・3号溝による区画内に掘削される。各溝の断面形は平坦である。天明三年当時は水田であった場所に掘削されている。畦畔とは軸方位がずれているが、東端は1号溝に沿って曲線を描くように掘削され、南端は2面3号溝から1.5m程度離れて掘削されていることから、溝による区画を意識していたと考えられる。特に西端の溝は土坑群に沿って大きく湾曲している。

3号復旧溝群(第11図)

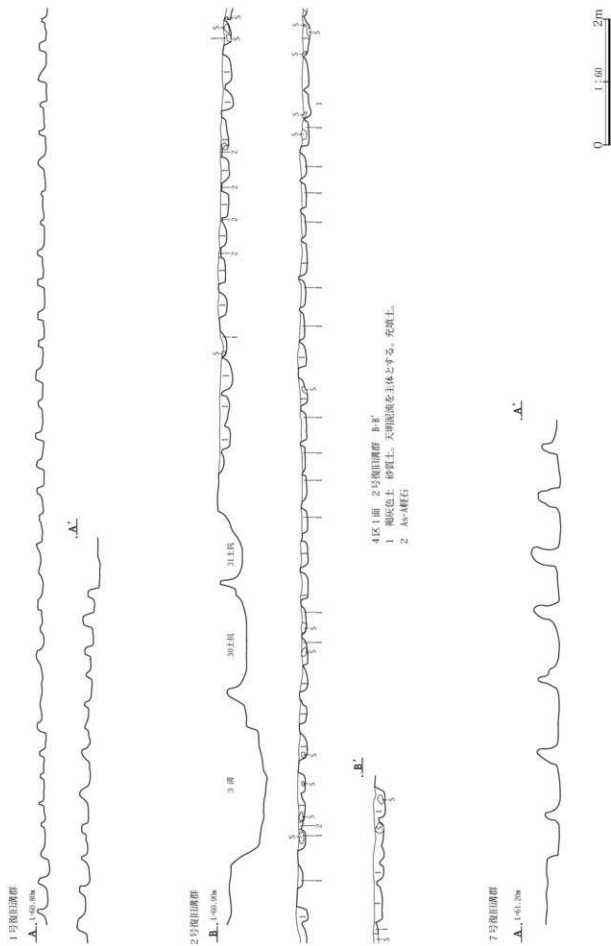
位置: 122～131・537～542 形状: 溝状 検出条数: 10条 溝規模: (2.2)m×0.9m 残存深度: 0.2m 条間隔: 0～0.2m 条方位: N-41°-E 遺物: なし 重複: 4号復旧土坑群に先行する。所見: 大半が調査区域外であり、全容は不明である。4号復旧溝群の北東に掘削される。各溝の断面形は平坦である。近接する4号復旧溝群とは重複しないように掘り分けられており、一連の復旧作業で掘削された可能性がある。

4号復旧溝群(第11図 PL. 2)

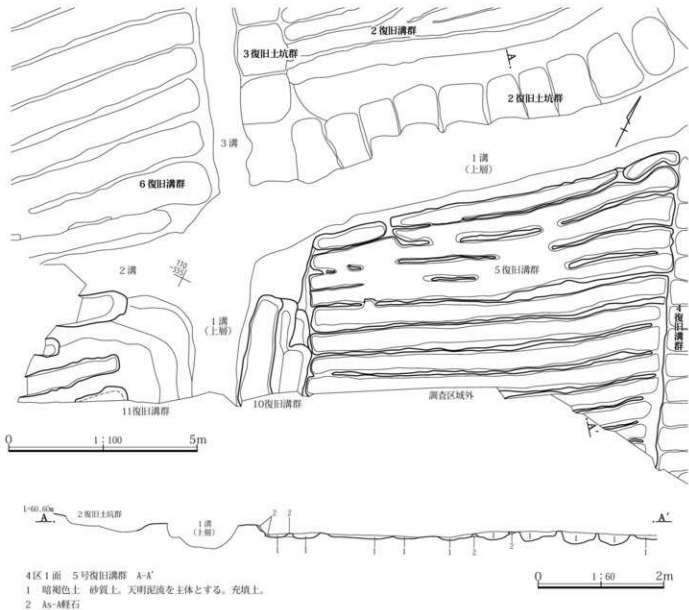
位置: 110～125・532～545 形状: 溝状 検出条数: 28条 溝規模: 8.8m×0.6m 残存深度: 0.04～0.18m 条間隔: 0～0.2m 条方位: N-55°-E



第9図 4区1面 1・2・7号復旧溝群



第10図 4区1面 1・2・7号復旧溝群断面



第12図 4区1面 5・10・11号復旧溝群

遺物: 近世の磁器1片・施軸陶器1片・在地系土器(銅類2片)が出土した。重複: 9号復旧溝群、5号復旧土坑群に先行する。所見: 1号溝の東側で、3号復旧溝群と5号復旧溝群の間に掘削される。各溝の断面形は平坦である。3・5号復旧溝群とは、重複しないように掘り分けられており、一連の復旧作業で掘削された可能性がある。5号復旧溝群とは天明三年当時に存在した2面79号溝を境として掘り分けている。2面79号溝は水田に付随する小規模な溝であるが、そこを区画として意識していたものと考えられる。

5号復旧溝群(第12図)

位置: 108 ~ 119・-541 ~ -553 形状: 溝状 検出条

数: 13条 溝規模: 9.5 ~ 10.0 m × 0.6 m 残存深度: 0.04 ~ 0.18 m 条間隔: 0 ~ 0.2 m 条方位: N-58°-E

遺物: 近世の施軸陶器1片・在地系土器(皿類1片、銅類1片)が出土した。所見: 1・3号溝の東側で、4号復旧溝群の南西部に掘削される。断面形はやや平坦である。天明三年当時は水田であった場所に掘削されている。東側は4号復旧溝群と西側は11号復旧溝群と近接するが、重複しないように掘り分けられており、一連の復旧作業で掘削された可能性がある。掘削の走行や深さにややばらつきがあり、溝同士が接している部分がある。北側は1号溝による区画を意識して、溝の幅がやや狭くなっている。

6号復旧溝群(第13・14図 PL. 2・185)

位置: 108 ~ 147・-555 ~ -626 形状: 溝状 検出条数: 71条 溝規模: 27.1 ~ 27.9m × 0.6m 残存深度: 0.1 ~ 0.2m 条間隔: 0 ~ 0.6m 条方位: N-41°-E

遺物: 肥前磁器染付碗(1)、瀬戸陶器すり鉢(2)、在地系土器皿(3)、砥石(4)、火打石(5)、不明銅製品(6)の他、中世の中国磁器1片、焼締陶器1片、近世の磁器26片・施釉陶器103片・焼締陶器4片・在地系土器(皿類7片、鍋類65片)、古代の瓦1片、不明銅製品、板碑片が出土した。所見: 2面2・3号溝西側の広い範囲に位置する。断面形は平坦である。天明三年当時は水田であった場所に掘削されている。西に位置する7号復旧溝群と南西に位置する8号復旧溝群とは0.5m程度の間隔を開けて掘削されていることから7・8号復旧溝群とは一連の復旧作業で掘り分けられた可能性がある。北西の1条だけは8号復旧溝群の範囲まで伸びている。これにより、重複する8号復旧溝群の1条は幅が半分程度になっていることから、6号復旧溝群のほうが先に掘削されていたと考えられる。溝の条方位は天明三年当時の水田畦畔と同じように掘削されていることから、水田区画を意識していたと考えられる。7号復旧溝群とは、水田畦畔の位置で掘り分けられているが、8号復旧溝群との境には畦畔はない。ただし、8号復旧溝群の南西端には畦畔が存在することから、7・8号復旧溝群で合わせて2面3号溝と畦畔による区画を意識して復旧作業を行ったものと考えられる。

7号復旧溝群(第9・10図 PL. 2)

位置: 141 ~ 149・-612 ~ -628 形状: 溝状 検出条数: 9条 溝規模: (11.7)m × 0.5 ~ 1.2m 残存深度: 0.17 ~ 0.4m 条間隔: 0.05 ~ 0.16m 条方位: W-36°-N 遺物: 近世の磁器1片・施釉陶器3片・在地系土器(鍋類1片)が出土した。所見: 断面形は平坦である。南東は6号復旧溝群と南西は8号復旧溝群と接する。天明三年当時は水田であった場所に掘削されており、接するほかの復旧溝群とは畦畔を境として掘り分けられている。比較的直線的に掘削されているが、南端の溝は境とする畦畔に達していたためか、他の溝より幅が細く掘削されている。

8号復旧溝群(第13・14図 PL. 2・185)

位置: 112 ~ 150・-589 ~ -643 形状: 溝状 検出条

数: 58条 溝規模: 9.2 ~ 11.2m × 0.4 ~ 1.1m 残存深度: 0.1 ~ 0.34m 条間隔: 0 ~ 0.25m 条方位: N-43°-E 遺物: 瀬戸・美濃陶器折縁皿(1)、磨石(2)、凹石(3)、火打石(4)の他、中世の中国磁器1片、近世の磁器16片・施釉陶器35片・焼締陶器2片・在地系土器(皿類11片、鍋類19片)、釘、磨石、火打石と考えられる石製品、下位からの混入である須臾器(甕類1片)が出土した。所見: 断面形は平坦である。北東は6・7号復旧溝群と接し、北西は2面4号溝と接する。8号復旧溝群よりも南西は復旧されていない。天明三年当時は水田であった場所に掘削されており、南西部分は畦畔の上を境としている。規模は比較的そろっているものの、6号復旧溝群の北西の1条が伸びて先に掘削されているところでは、半分程度の幅となっている。比較的直線的に掘削されているが、2面4号溝に接するところでは形状が変形している。

9号復旧溝群(第11図 PL.185)

位置: 110 ~ 118・-532 ~ -537 形状: 溝状 検出条数: 10条 溝規模: 1.8 ~ (2.2)m × 0.6 ~ 0.8m 残存深度: 0.2m以上 条間隔: 0.05 ~ 0.4m 条方位: E-35°-N 遺物: 板碑片(1)が出土した。所見: 深さは平坦ではなく、段が付く溝がある。4号復旧溝群の中に掘削されている。4号復旧溝群よりも後に掘削されており、より耕作土を確保する必要があったため掘削されたと考えられる。

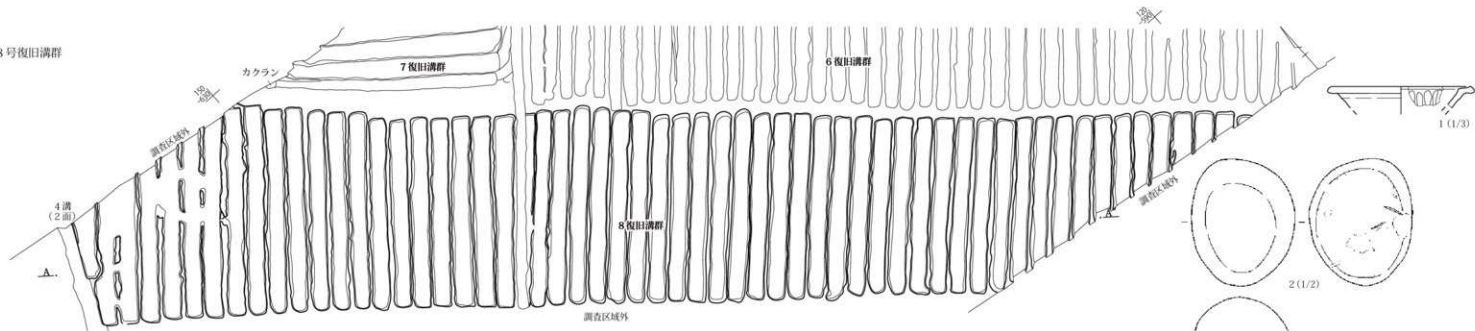
10号復旧溝群(第12図)

位置: 107 ~ 111・-550 ~ -553 形状: 溝状 検出条数: 4条 溝規模: (2.7)m × 0.5 ~ 0.9m 残存深度: 0.3m以上 条間隔: 0m 条方位: N-20°-W 遺物: なし 所見: 断面形はやや平坦である。複数の溝を並行させないで重なるように掘削している。東は5号復旧溝群と西は1号溝と接する。5号復旧溝群が掘り残した1号溝までの隙間を掘削したのと考えられる。

11号復旧溝群(第12図)

位置: 105 ~ 109・-555 ~ -558 形状: 溝状 検出条数: 4条 溝規模: (2.5) × 0.5 ~ 0.9m 残存深度: 0.3 ~ 0.35m 条間隔: 0.32m 条方位: N-45°-E 遺物: なし 所見: 断面形は平坦である。1号溝と2面2号溝に囲まれた範囲に掘削されている。天明三年当時は畑であった場所に掘削されている。

8号復旧溝群



6号復旧溝群



第13図 4区1面 6・8号復旧溝群、8号復旧溝群出土遺物

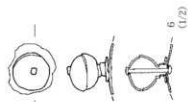
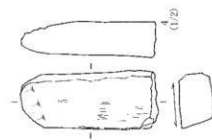
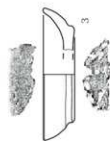
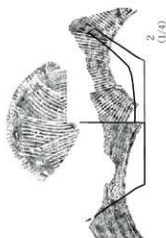
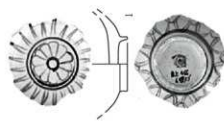
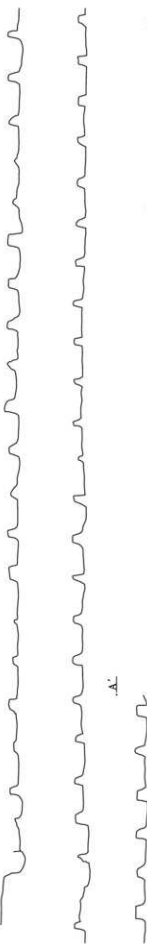
6号復旧溝群

A. 1:50, 50m



8号復旧溝群

A. 1:50, 20m



0 1:100 5m

第14図 4区1面 6・8号復旧溝群断面、6号復旧溝群出土遺物

(2)復旧土坑群

天明泥流の復旧作業において、4区の東寄りに位置する1・3号溝沿いに、連続する土坑状に掘削されたものである。発掘調査段階では、54基確認していたが、その後、37・38号土坑とした2基は欠番となった。また、報告時に復旧溝群の一部としてとらえられていたものを復旧土坑として分離し、新たに61～70号土坑とした。そのため、復旧土坑の数は61基であり、配列状況から5群にまとめた。

1号復旧土坑群(1～8・61号土坑)(第15図 PL. 2)

位置:126～138・543～547 **形状:**土坑状 **検出基数:**9基 **土坑規模:**1.2～2.2m×0.7～1.6m **残存深度:**0.1～0.28m **土坑間隔:**0～0.1m **軸方位:**- **遺物:**7号土坑から、近世の施釉陶器1片が出土した。**所見:**1号溝の西側に沿って、1号溝とは間隔を開けずに接するように掘削される。断面形は平坦で、焼石を含む泥流にAs-A軽石や灰褐色土などが混じった土が充填される。1号復旧溝群と2号復旧溝群が西側に近接するが、これら復旧溝群と1号溝の間にある掘り残した部分に1号復旧土坑群が掘削される。各土坑の形状は1号溝に対して垂直方向がやや長い隅丸長方形を呈する。ただし、2号土坑はL字状を呈する。大きさは北側に位置する土坑はやや小さく、南側の土坑はやや大きく掘削される。

2号復旧土坑群(13～25号土坑)(第16図 PL. 2)

位置:113～126・544～555 **形状:**土坑状 **検出基数:**13基 **土坑規模:**1.0～1.9m×0.8～1.5m **残存深度:**0.04～0.36m **土坑間隔:**0.05～0.25m **軸方位:**- **遺物:**19号土坑から板碑片が、20号土坑から近世の施釉陶器1片が出土した。**所見:**1号溝の北西側に沿って、1号溝とは間隔を開けずに接するように掘削される。西側に近接する。2号復旧溝群と1号溝の間にある掘り残した部分に2号復旧土坑群が掘削されるが、2号復旧溝群とは0.5～1m程度間隔が開いている。断面形はやや平坦で、焼石を含む泥流にAs-A軽石や灰褐色土が充填される。隅丸長方形を呈するものが多いが、16号土坑のように楕円形を呈するものもある。また、13・16・17号土坑は完全には1号溝に接していない。土坑の形状は様々ではあるが、規模は相似している。

3号復旧土坑群(26～36・39～54号土坑)(第17図 PL.24)

位置:114～143・554～579 **形状:**土坑状 **検出基数:**27基 **土坑規模:**1.0～1.5m×1.0～1.6m **残存深度:**0.1～0.4m **土坑間隔:**0.05～0.12m **軸方位:**- **遺物:**46号土坑から陶器皿(1)が出土した他、26・34号土坑からそれぞれ近世の施釉陶器1片が、44号土坑から近世の磁器1片が出土した。**所見:**2面3号溝の北東側に沿って、3号溝とは間隔を開けずに接するように掘削される。2号復旧溝群と北東に近接するが、2号復旧溝群と3号溝の間にある掘り残した部分に3号復旧土坑群が掘削される。1号復旧土坑群と異なりほぼ隙間なく掘削されており、2号復旧溝群とはわずかに重複している。断面形は平坦で、焼石を含む泥流を主体とした土が充填される。正方形に近い隅丸長方形を呈するものが多く、3号溝と並行する辺が長いものもある。各土坑の規模は相似している。

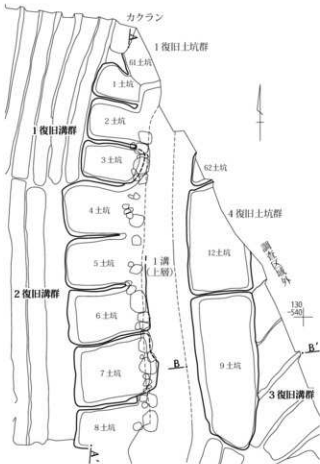
4号復旧土坑群(9・12・62号土坑)(第15図 PL. 2)

位置:126～135・541～544 **形状:**土坑状 **検出基数:**3基 **土坑規模:**(2.9)～4.1m×1.7m **残存深度:**0.5m **土坑間隔:**0.05～0.1m **軸方位:**- **遺物:**なし **所見:**1号溝の東側に沿って掘削される。3号復旧溝群と東側が接するが、一部重複しながらも3号復旧溝群と1号溝の間にある掘り残した部分に、3号復旧土坑群が掘削されたものと考えられる。断面形は平坦で、焼石を含む泥流を主体として充填されるが、As-A軽石もブロック状に入る。1号溝に沿った辺が長い隅丸長方形を呈する。ほかの復旧土坑群と比べて土坑の規模が大きい。

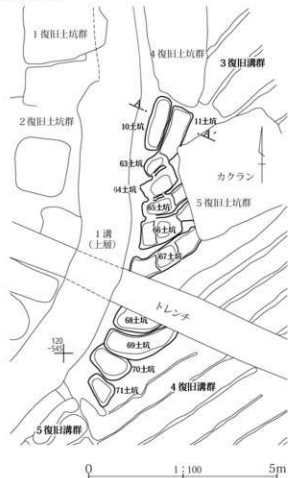
5号復旧土坑群(10・11・63～71号土坑)(第15図 PL. 2)

位置:118～127・541～545 **形状:**土坑状 **検出基数:**11基 **土坑規模:**0.7～(1.9)m×0.46～0.7m **残存深度:**0.08m **土坑間隔:**0～0.25m **軸方位:**- **遺物:**なし **所見:**1号溝の東側に沿って掘削される。4号復旧溝群と東側が接しており、当初は4号復旧溝群の一部と考えていたが、掘削深度や幅が異なることから、別の復旧土坑群とした。4号復旧溝群と重複しながらも4号復旧溝群と1号溝の間にある掘り残した部分に、4号復旧土坑群が掘削されたものと考えられる。断面形はやや平坦で、焼石を含む泥流を主体として充填される。形状は長方形を主体とするが、湾曲を持つなどやや不整形なものもある。規模も小型のものが多いが、不揃いである。

1・4号復旧土坑群



5号復旧土坑群



1号復旧土坑群



4区1面 1号復旧土坑群 A-A'

1 暗褐色土 天明泥流を主体にAs-A軽石を多量、灰色砂、灰褐色砂質土を少量含む。

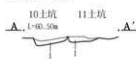
4号復旧土坑群



4区1面 4号復旧土坑群 B-B'

1 暗褐色土 天明泥流を主体とし、As-A軽石をブロック状に少量含む。黒色味強い。

5号復旧土坑群

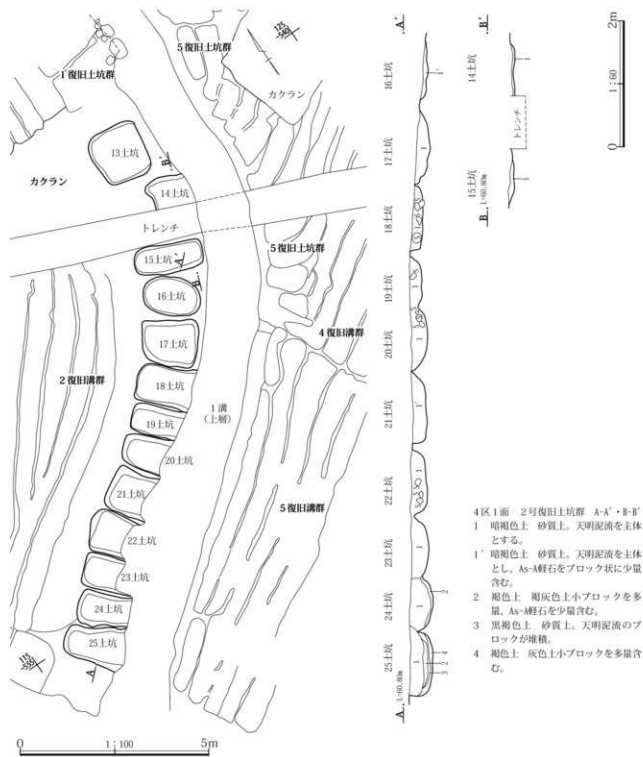


4区1面 5号復旧土坑群 A-A'

1 暗褐色土 砂質土。黒色味強い。天明泥流を主体とする。

0 1:60 2m

第15図 4区1面 1・4・5号復旧土坑群

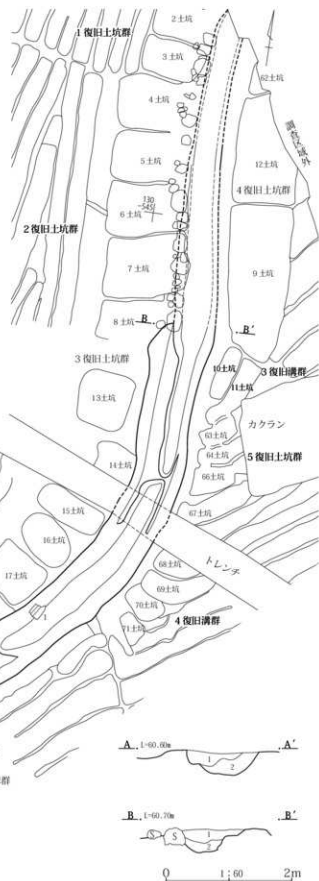


第16図 4区1面 2号復旧土坑群

(3)溝

1号溝(上層)(第18・19図 PL. 2・185)

位置：107～137・-542～-555 規模：32.2m×1.3～2.1m 残存深度：0.86m 走行方位：N-0°→N-42°-E→N-20°-W 遺物：宝篋印塔(1)、板碑台座(2)の他、近現代の陶磁器類5片、近世の施釉陶器2片・焼締陶器1片が出土した。所見：埋没土上層は、混入物から現代に堆積していることが判明している。底面にはAs-A軽石が残存していることから、天明三年以前から存在していた溝である。泥流復旧作業に伴いこの溝も復旧され、圃場整備が行われるまで使用されていたと考えられる。溝の復旧は、完全に底面まで行われておらず、As-A軽石層より上面までとなっているところが多い。溝の走行は、湾曲があるものの北側から南方へと向かっている。比高差は0.14mである。水田等の用水路と考えられる。2面2・3号溝と接続しているが、泥流埋没後は1号溝のみ復旧された。

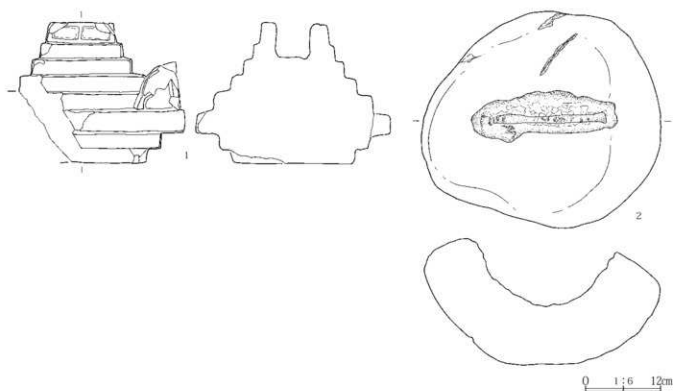


4区1面 1号溝(上層) A-A'・B-B'

1 近現代の埋没土

2 褐色土 酸化鉄凝集を少量含む。天明泥流復旧後の埋没土。

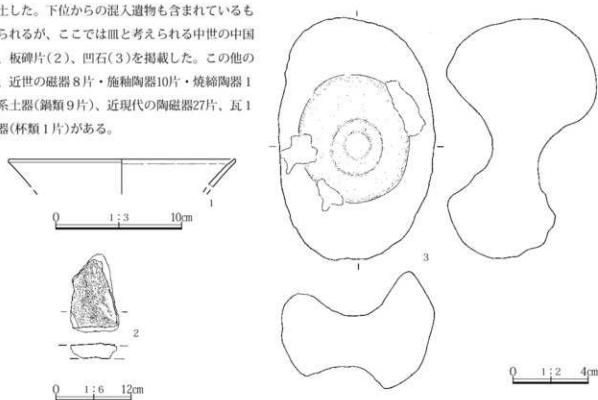
第18図 4区1面 1号溝(上層)



第19図 4区1面 1号溝(上層)出土遺物

(4) 遺構外出土の遺物(第20図 PL.185)

4区の表土掘削・遺構確認中に、遺構に伴わない形で遺物を出土した。下位からの混入遺物も含まれているものと考えられるが、ここでは皿と考えられる中世の中国磁器(1)、板碑片(2)、凹石(3)を掲載した。その他の遺物には、近世の磁器8片・施軸陶器10片・焼締陶器1片・在地系土器(銅類9片)、近現代の陶磁器27片、瓦1片、土師器(杯類1片)がある。



第20図 4区1面 遺構外出土遺物

3 5区の遺構と遺物

5区では、天明泥流の復旧に関する溝群などの遺構はないため、調査は重機で天明泥流を除去して行った。その際、天明泥流の下層部分から石製の蓋を伴う壘(壘棺)や人骨が出土し、さらに近接する場所から土坑を2基検出した。2基の土坑は、天明泥流やAs-A軽石層を掘り抜いて構築されていた。しかし、表土掘削中はその存在に気が付かず、重機で天明泥流をほぼ除去した後、精査中に2基の土坑を検出したため、調査面は天明泥流下となっている。検出した遺構は土坑として調査した墓が2基であるが、遺構に伴うものとして調査できなかった人骨を伴う壘棺やそれ以外に出土した人骨の存在から、泥流層下にまで達していない墓が複数存在したと考えられる。なお、土坑や壘棺が出土した場所は、天明三年の被災前から墓地が構築されており、被災後も重複する位置に埋葬が行われていた。

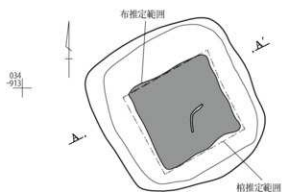
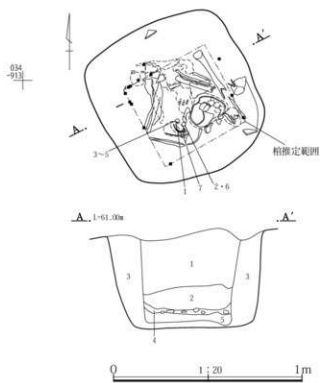
(1)土坑

1号土坑(第21図 PL. 2・185)

位置：033・-912 形状：隅丸正方形 規模：0.85 m×0.82 m 残存深度：0.5 m 軸方位：N-27°-W 遺物：がま口金(1)、寛永通寶(2~4)、文久永寶(5)、半銭銅貨(6)、稲5銭白銅貨(7)が出土した。3~5の銭貨は重なって出土している。重複：なし 所見：調査時点での埋没深度は浅いものの、実際には泥流層上から掘削されているため2 mを超える深さであると考えられる。わずかに東西方向が長いもののほぼ正方形に近い形状で掘削し、0.5 m×0.46 mの棺の中に人骨等が収められていた。棺自体は残存状態が悪く、取り上げることができなかったが、鉄釘を多数用いて作られている。棺の底面には繊維状のものが残存しており、人骨や副葬品は布で包まれていたと考えられる。また、人骨の上面には白色の灰及びもみ殻が入れられていた。棺の大きさ及び頭骨が下肢骨付近に出土していることから、座棺の可能性が高い。人骨鑑定分析(第13章3参照)によると、被葬者は20歳代の女性と推定される。出土した銭貨には寛永通寶の他、明治期の銅貨があることから、明治三十(1897)年以降に位置付けられる。

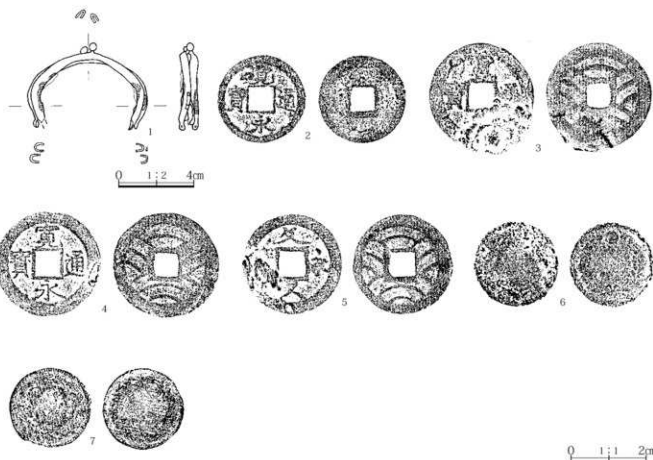
2号土坑(第22図 PL. 2・186)

位置：035・-914 形状：隅丸長方形 規模：0.95 m×0.67 m 残存深度：0.38 m 軸方位：N-21°-W 遺物：櫛(1)、寛永通寶(2~4)、半銭銅貨(5)の他、近世の在地系土器(皿類4片)、近現代の陶磁器1片、残存状態が悪く実測できなかったが、銅製の小鉤が出土した。また、下位からの混入品である土師器(杯類1片、壘類2片)が出土した。所見：調査時点での埋没深度は浅いものの、実際には泥流層上から掘削されているため2 mを超える深さである。平面形状は、南北方向を長くするように掘削している。土層堆積状況や土坑中からは、棺の痕跡は確認できなかったが、釘が出土していることから、棺の中に人骨等が収められていたと考えられる。人骨を覆うように布と考えられる繊維質が確認できることから、人骨や副葬品は布で包まれていたと考えられる。頭骨が下肢骨付近に出土していることから、座棺の可能性が高い。人骨鑑定分析(第13章3参照)によると被葬者は19歳前後の女性であり、古病理として、歯の生前脱落が指摘される。出土した銭貨は寛永通寶の他明治期の銅貨があることから、明治六(1873)年以降に位置付けられる。

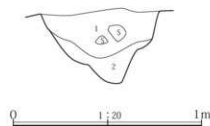
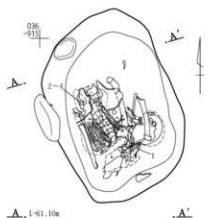


5区1面1号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 砂質土。粗砂、礫、褐色土小～中ブロックを中量含む。しまり強い。
- 2 褐色土 シルト質土。暗褐色砂質土を少量含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 砂質土。粗砂、礫、褐色土小～中ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 4 灰層 白色の灰から成る。
- 5 黒褐色土 砂質土。細砂を少量含む。しまりやや弱い。



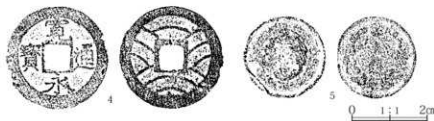
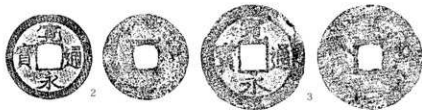
第21図 5区1面 1号土坑、出土遺物



0 1:2 4cm

5区1面2号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土 砂質土。粗砂、礫、褐色地山
小~中ブロックを多量含む。しまり強い。
2 褐色土 シルト質土。暗褐色砂質土を
少量含む。しまり弱い。



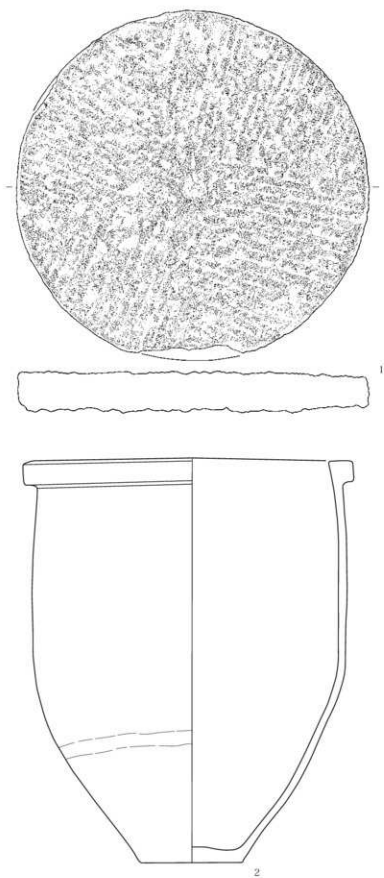
第22図 5区1面 2号土坑、出土遺物

(2) 遺構外の遺物(第23図 PL.186)

重機掘削中に検出したため、正確な位置を記録することができなかったが、土坑とは別に常滑陶器甕(2)とそれに伴う石製蓋(1)が出土し、中から人骨が出土した。人骨以外の副葬品は出土していない。時期は、甕から近代以降と推測される。この人骨について鑑定分析(第13章3参照)を行ったところ、人骨の保存状態は良好であるものの、部位が一部しか出土していないことから、改葬された際の取り残しと想定される。被葬者は成人で、古病理としてクリッペル・ファイル症候群の疑いが指摘

される。甕を棺として利用することについては、渡辺千佳子氏の論考があり、幕末から昭和40年代までの事例が報告されている^(註1)。なお、別にもう1体、人骨が出土しているが、成人と推定される四肢骨片のみであり、甕などの存在は確認していない。これら人骨の埋葬は泥流埋没後に行われたものと考えられるが、1号土坑・2号土坑の周辺に埋葬されたと考えられる。この他には、表土掘削・遺構確認中に近世の在地系土器(皿類1片)、近現代陶磁器2片が出土した。

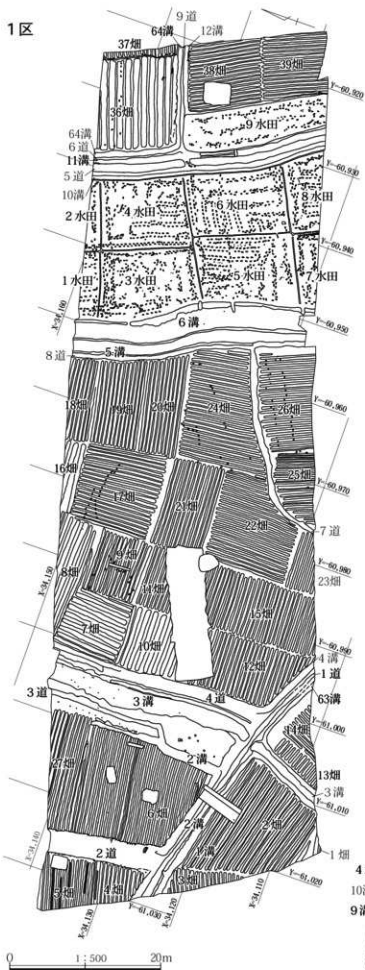
(註1) 渡辺千佳子1981「甕棺について」『群馬歴史民俗』第2号pp.1-7



0 1:8 16cm

第23図 5区1面 遺構外出土遺物

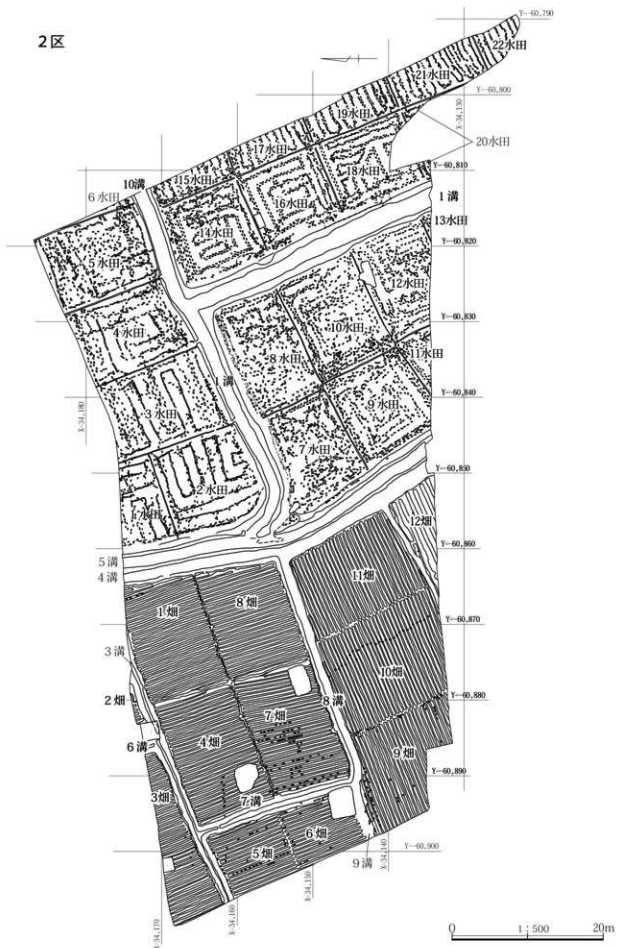
1区



3区

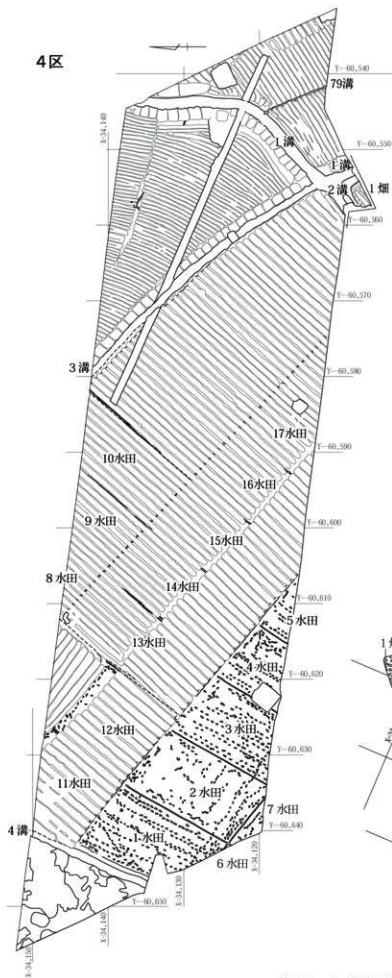


2区

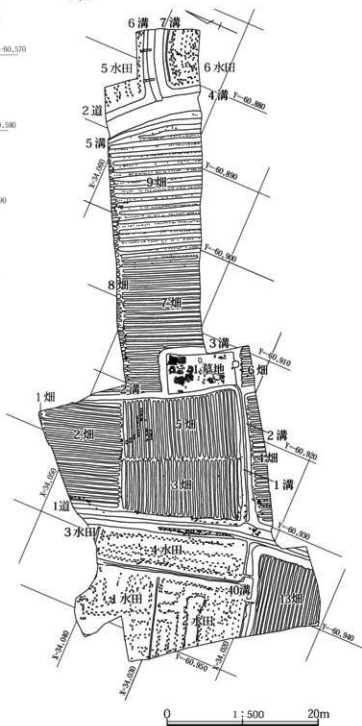


第25图 2区2面 全体图

4区



5区



第26图 4・5区2面 全体图

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物

1 概要

本章で報告するのは、天明三年浅間山噴出のAs-A軽石及びその後の泥流で埋没した遺構と遺物についてである。1区から5区の調査区すべてにおいてこの面の遺構を確認している。攪乱や4区で天明泥流復旧作業を受けている以外の場所において天明三年当時の被災直前の状況が良好に残っていた。

発見した遺構は溝、道路、畑、水田であり、溝に付随する土手や畑に付随する区画境の盛土、水田に付随する水口等も確認している。溝際にある水田面の一部では、As-A軽石が残存しておらず、直接天明泥流で覆われた部分もあるが、遺構面の大半はAs-A軽石で覆われており、畑の耕作土のブロックや水田面に残された人や小動物、鳥などの足跡までもが確認できた。As-A軽石層の直下にあるすべてに遺構が存在し、3区北東から4区北西部のごく一部の土地利用が不明であったが、それ以外はすべて天明三年当時の土地利用の在り方が残存していたといえよう。

2 1区の遺構と遺物

1区は中央東寄りの一部が水田となっていたが、大半が畑となっていた。一部攪乱により削平されているものの、近世に泥流復旧作業が行われていなかったため、良好な状態で遺構は残されていた。遺構はすべてAs-A軽石により埋没しており、足跡や耕作による鎌の痕跡も一部では確認できている。遺構数は溝9条、道9条、畑31区画、水田9区画である。この中で7号～9号道路の3条は報告時に命名したものである。なお、道路には土橋が架けられているものもある。

(1) 溝

1号溝(第27図 PL. 4・6)

位置：116～126・-005～-029 規模：(23.4)m×0.48～1.28m 残存深度：0.12m 走行方位：N-74°-W

遺物：2号復旧溝群と併せて、近世の施釉陶器1片・在地系土器(鍋類5片)が出土した。 **所見**：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1号道路の南側に掘削された溝であり、その南側の一段上には2・3号畑がある。東端は3号溝(上層)に接続している。溝の東西両端部の高低差を見ると、3号溝(上層)との接続部分が0.15m高くなっている。しかし、1号溝は3号溝(上層)よりは0.46m高い位置にあり、3号溝から給水を受けて西北西に向かって流れるとは想定しがたい。溝の断面形は皿状で、底面はわずかに凹凸がある。幅は3号溝(上層)との接続部分は狭く、深度は浅い。常時用水として使用されていたというよりも道路や畑の排水性を高めるものと考えられる。

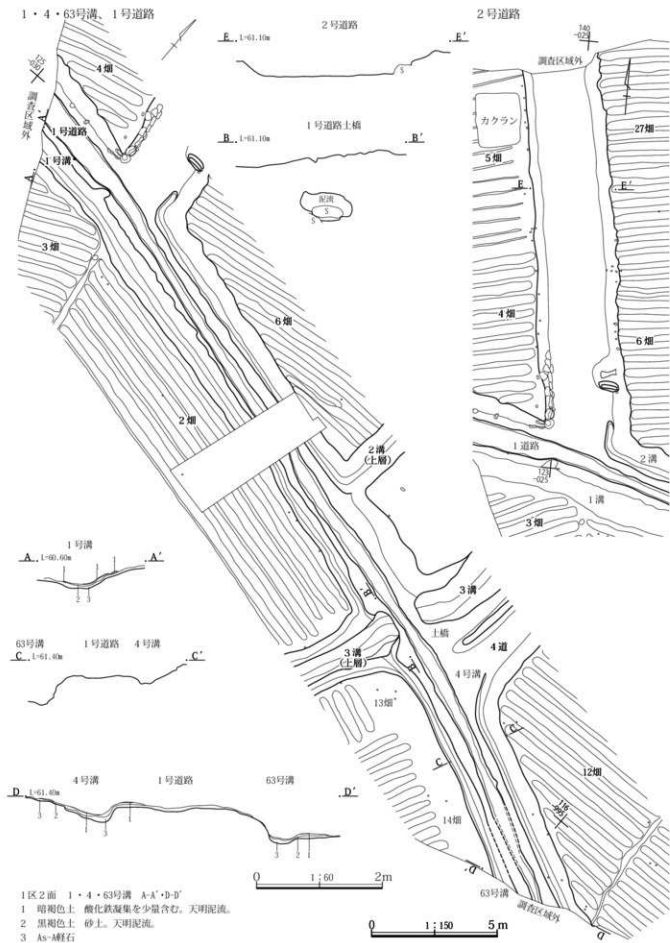
2号溝(上層)(第28・29図 PL. 4・186)

位置：120～146・-006～-023 規模：(49.84)m×0.36～1.4m 残存深度：0.46m 走行方位：- **遺物**：瀬戸・美濃陶器反皿(1)、瀬戸・美濃陶器尾呂徳利(2)、灯火皿と考えられる瀬戸・美濃陶器(3)、砥石(4)が出土した。 **所見**：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。北寄りには3号道路を挟むようにして二股に分かれている。南側は1号道路とぶつかるとその北側に平行し、2号道路と交差するところまで掘削されている。また、一段上にある6号畑の東側・南側を囲むようになっている。溝の端部の高低差を見ると、北端が0.48m高い。溝の走行は北側から南側向かって流れ、1号道路に沿って西北西側へ向かい、2号道路と交差するところで止まる。溝の断面形は逆台形で、底面には凹凸が多く、酸化鉄凝集による植物痕が多くみられる。幅や深度は、二股の合流点より南の南北走行部分は広く深い、他の部分は狭く浅い。部分的に深度が深いところはあっても、他の溝との接続はなく、途中で止まっていることから常時用水として使用されていたというよりも道路や畑の排水性を高めるものと考えられる。

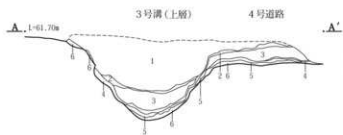
3号溝(上層)(第28～31図 PL. 4・186・187)

位置：107～146・-001～-010 規模：(40.12)m×0.82～2.96m 残存深度：0.9m 走行方位：N-8°-E **遺物**：肥前磁器染付小碗(5)、肥前陶器陶胎染付碗(6)

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物

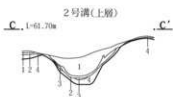


第27図 1区2面 1・4・63号溝、1・2号道路



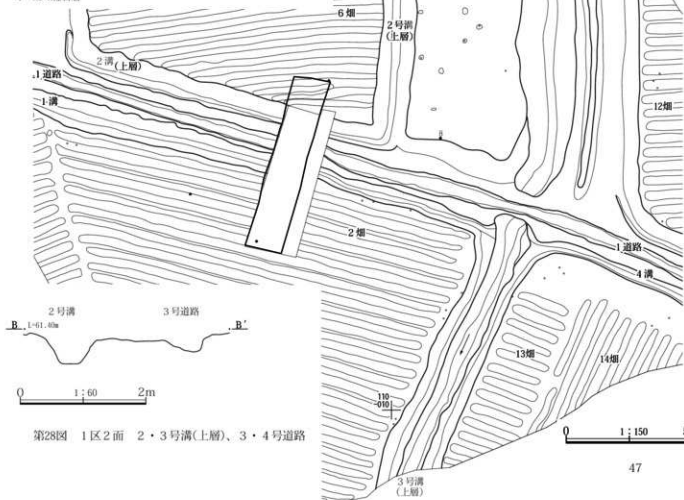
1区2面 3号溝(上層)・4号道路 A-A'

- 1 黒褐色土 礫を多量含む。天明泥流。
- 2 暗褐色土 酸化鉄凝集を少量含む。天明泥流。
- 3 黒褐色土 砂粒を多量含む。天明泥流。層中に植物遺存体が少量入る。
- 4 褐色土 酸化鉄凝集を多量含む。天明泥流。植物の面跡が見られる。
- 5 暗褐色土 砂土。天明泥流。
- 6 As-A層石層



1区2面 2号溝(上層) C-C'

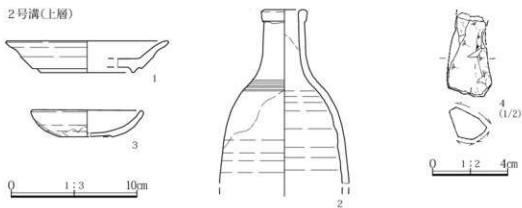
- 1 黒褐色土 天明泥流。
- 2 褐色土 酸化鉄凝集を含む。天明泥流。植物根見られる。
- 3 黒褐色土 砂土。細砂粒を含む。天明泥流。
- 4 As-A層石層



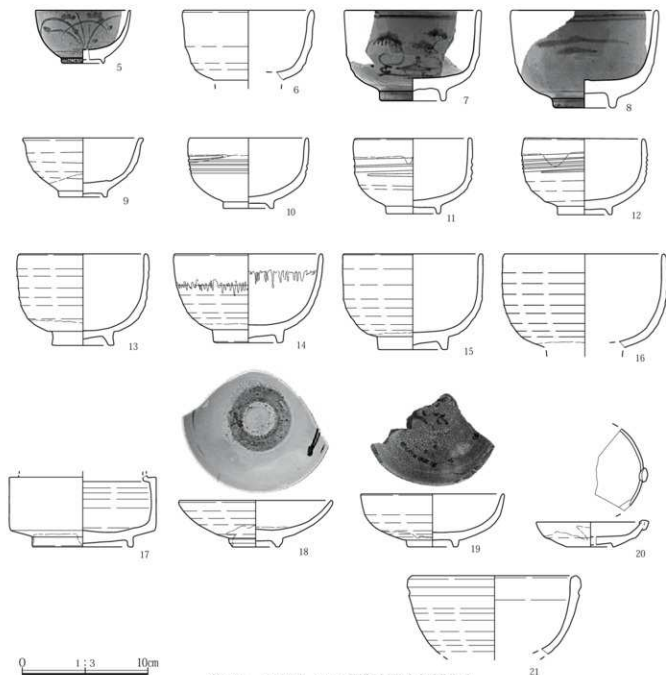
第28図 1区2面 2・3号溝(上層)、3・4号道路

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物

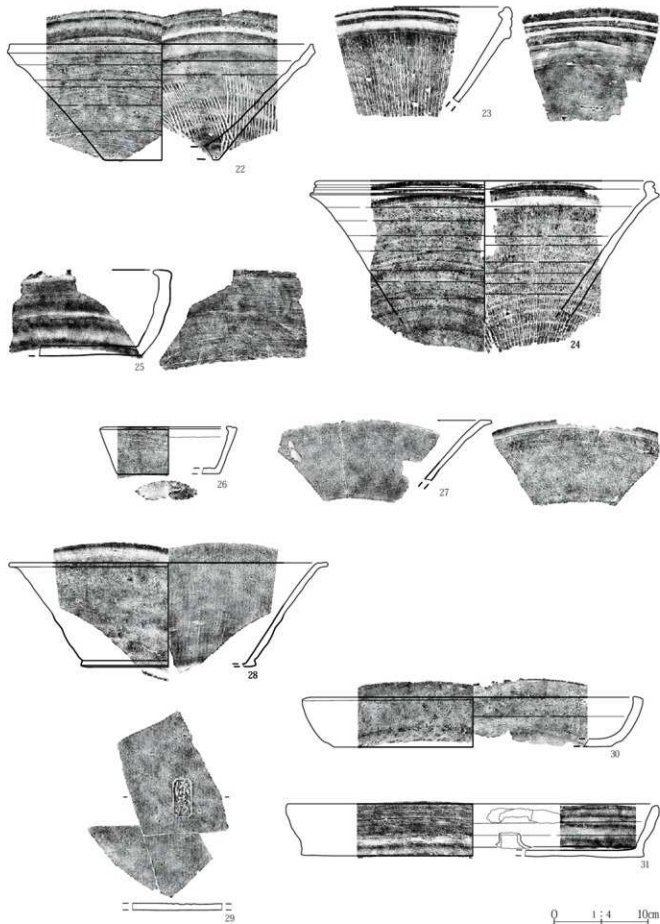
2号溝(上層)



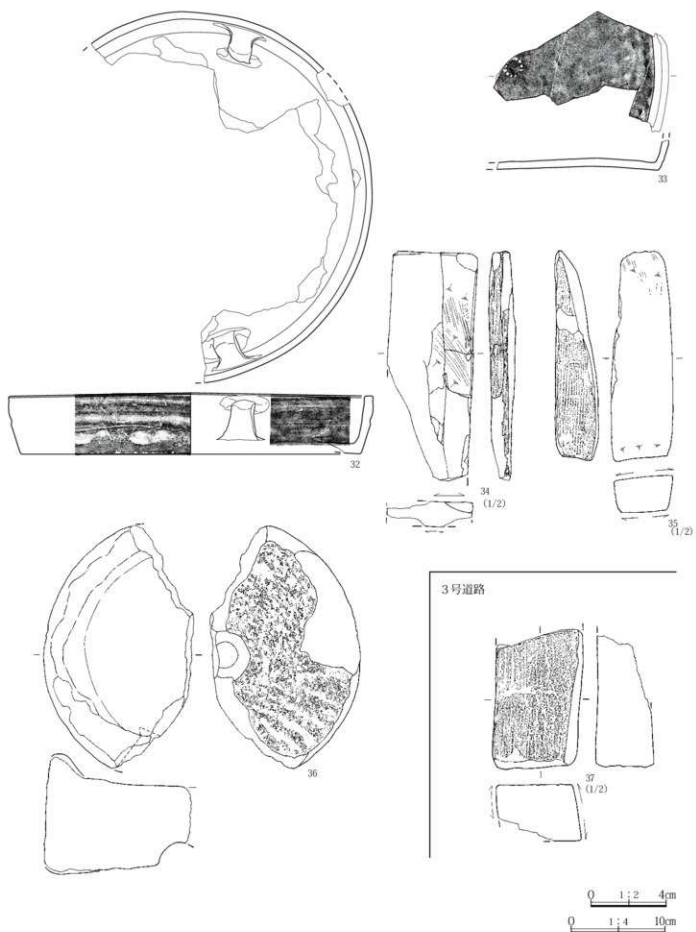
3号溝(上層)



第29図 1区2面 2・3号溝(上層)出土遺物(1)



第30図 1区2面 3号溝(上層)出土遺物(2)



第31図 1区2面 3号溝(上層)・3号道路出土遺物(3)

～8)、瀬戸・美濃陶器腰鍔碗(10～12)、瀬戸・美濃陶器尾呂碗(14・15)、瀬戸・美濃陶器碗(9・13・16)、瀬戸・美濃陶器蓋物(17)、肥前磁器染付皿(18)、瀬戸・美濃陶器梅文皿(19)、瀬戸・美濃陶器灯火皿(20)、瀬戸・美濃陶器片口鉢(21)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(22)、堺陶器すり鉢(23)、丹波・信楽陶器すり鉢(24)、在地系土器鉢か火鉢(25)、香炉と考えられる在地系土器(26)、在地系土器鍋(27・28)、鍋と考えられる在地系土器鍋(29)、在地系土器焙烙(30～33)、磁石(34・35)、石白(上)(36)の他、近世の磁器10片・施軸陶器20片・焼締陶器1片・在地系土器(鍋類28片)、茶臼が出土した。遺物は、溝の西側立ち上がり部分から土手に多く見られる。所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。北寄りには4号道路の西側を流れ、1号道路との交差部分には土橋がかかっている。北寄りではほぼ南北方向に掘削されているが、土橋のすぐ北付近から南南西方向に変えている。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.41m高い。また、1号道路以北の溝西側は土手が築かれており、高いところは溝底と1.5m程度の落差がある。溝の断面形は逆台形で、底面はわずかに凹凸がある。幅は広く、深度も深い。土手には陶磁器や0.1～0.5m程度の礫がみられるほか、直径0.1～0.3m程度の穴が開いており、樹木等が植わっていた可能性がある。本遺跡の溝としては規模が大きく、北側から南側へ送水する基幹的な用排水路であったと考えられる。

4号溝(第27図 PL. 4)

位置：113～120・991～-002 規模：(10.12)m×0.66～0.96m 残存深度：0.22m 走行方位：N-66°-W

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1号道路の北側に掘削された溝であり、その北の一段上には12号畑がある。溝は4号道路と交差するところで立ち上がり、掘り込みがなくなる。溝の東西両端部の高低差を見ると、傾斜は確認できない。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや狭く、深度もやや浅い。他の溝との接続もなく、道路脇の途中から掘削されていることから、常時用水として使用されていたというよりも道路や畑の排水性を高めるものと考えられる。

5号溝(上層)(第32図 PL. 4)

位置：128～158・951～-964 規模：(30.88)m×1.1～2.06m 残存深度：0.85m 走行方位：N-21°-W

遺物：近世在地系土器(鍋類1片)、黒色漆器碗が出土した。所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。6号溝(上層)と並行するように掘削される。土手を挟んで西側には8号道路がある。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.06m高い。溝の断面形を見ると上半部は広がり、下半部は垂直に近い急な立ち上がりとなるところがあるが、概ね逆台形である。底面はやや凹凸がある。6号溝(上層)よりは幅が細いものの幅は広く、深度は深い。規模が大きく、北から南へ流れる用排水路の一つであったと考えられる。6号溝(上層)と並行している理由は不明であるが、取水先か送水先が異なるためと考えられる。

6号溝(上層)(第32図 PL. 4)

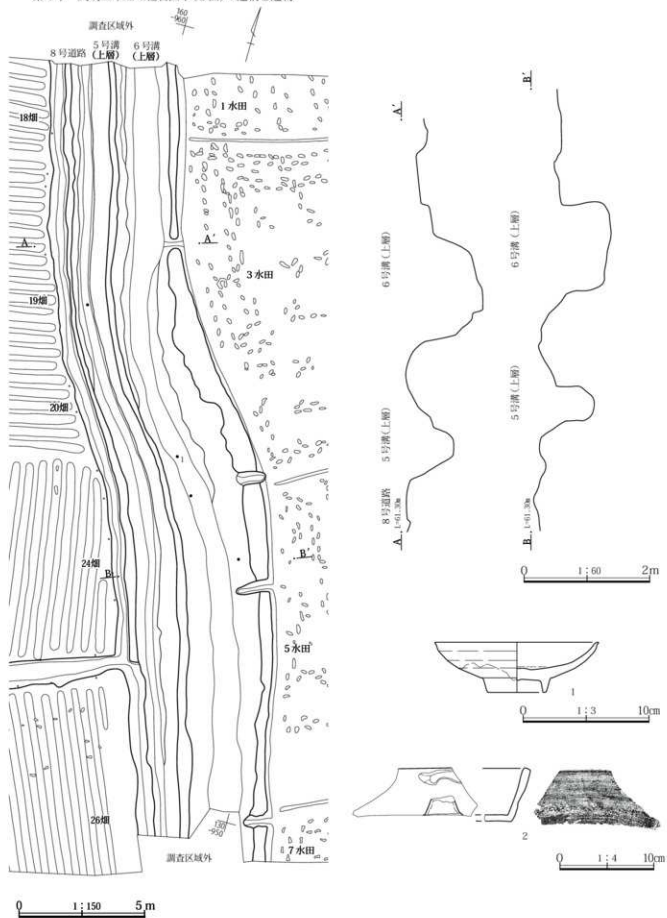
位置：128～158・948～-963 規模：(32)m×2.1～2.96m 残存深度：0.82m 走行方位：N-21°-W 遺物：肥前磁器青磁皿(1)、在地系土器焙烙(2)の他、近世の磁器25片・施軸陶器151片・焼締陶器7片・在地系土器(鍋類201片、皿類43片)、板破片、赤色漆器塗膜片、下位からの混入である中世の焼締陶器7片・在地系土器(鍋類2片)が出土した。所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。5号溝(上層)と並行するように掘削される。土手を挟んで東側には水田があり、排水のための水口が4か所付けられている。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.06m高い。溝の断面形は垂直に近い立ち上がりを持つ部分もあるが、概ね逆台形である。底面は大きくは平坦であるが、礫の抜けた跡のような凹み各所に見られる。幅は隣接する5号溝(上層)よりも広く、深度は5号溝(上層)と同様に深い。3号溝(上層)と同様に規模が大きく、北から南へ流れる基幹的な用排水路であったと考えられる。

10号溝(第33図 PL. 4)

位置：134～163・927～-942 規模：(31.16)m×0.38～0.5m 残存深度：0.29m 走行方位：N-27°-W

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。11号溝(上層)、5・6号道路と並行するように掘削される。畦畔を挟んで西側には水田があるが、調査区域内には水口は設けられていない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.06m高い。断面形はやや急な立ち上がりを持つ逆台形であり、底面は平坦である。幅は狭い割に深度はやや深い。規模は大きくないものの、

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物



第32图 1区2面 5・6号溝(上層)、8号道路、6号溝(上層)出土遺物

1号溝などの道路側溝と考えられる溝よりも深く、掘り込みもしっかりしていることから、未流に近い用排水路であり、北側から南側へと送水していたと考えられる。

11号溝(上層)(第33図 PL. 4)

位置：135～163・-925～-941 規模：(31.24)m×0.5～1.16m 残存深度：0.49m 走行方位：N-27°-W

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。10号溝、5・6号道路と並行するように掘削される。6号道路を挟んで東側には64号溝がある。また、6号道路と9号道路が交差する箇所の西側には土橋がかけられており、西側にある5号道路とつながっている。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.13m高い。断面形は立ち上がり急で隅丸方形に近い部分もあるが、概ね逆台形である。底面はわずかに凹凸がある。幅はやや広く、深度もやや深い。5号溝よりは小規模ではあるが、それに次ぐ規模の用排水路であり、北側から南側へと送水していたと考えられる。

12号溝(上層)(第33図 PL. 5)

位置：153～157・-920～-930 規模：(9.12)m×0.5～0.72m 残存深度：0.13m 走行方位：N-70°-E

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。9号道路の南側に掘削される。溝の南側には一段高上に38号畑がある。西側には9号水田があり、そこへ接続している。溝の東西両端部の高低差を見ると、東端が0.15m高い。断面形は皿状で、底面はやや凹凸がある。幅はやや狭く、深度は浅い。溝としては小規模であるが、水田と接続しており、道路側溝ではなく水田の用水路であると考えられる。溝の位置から、東に位置する2区9号溝(上層)と同一か、接続する溝の可能性が考えられるが、溝の高低差から2区9号溝(上層)は東側へと流れていたことから、関連はない可能性が高い。東側から西側へと流れる未流の用水路と考えられる。

63号溝(第27図 PL. 5)

位置：112～118・-994～-005 規模：(10.08)m×0.28～0.6m 残存深度：0.09m 走行方位：N-65°-W

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1号道路の南側に掘削された溝であり、その南側の一段上には13・14号畑がある。溝の西端は3号溝(上層)に合流している。溝の両端部の高低差を見ると、東端が0.08m高く、3号溝(上層)へ向かって流れていた

ものと考えられる。しかし、3号溝(上層)との合流点には、流水により3号溝の壁をえぐったような痕跡がない。そして溝の深度も全体的に浅い。そのため、この溝の機能は、常時用水として使用されていたというよりも道路や畑の排水性を高めるものと考えられる。

64号溝(上層)(第33図 PL. 5)

位置：152～164・-921～-940 規模：(24.44)m×0.44～0.88m 残存深度：0.08m 走行方位：- 遺物：なし

所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。6・9号道路と並行するように掘削された溝であり、その北東の一段上には36・37号畑がある。溝の走行は、36号畑を囲むように鉤の手状に折れ曲がっている。溝の高低差を見ると、折れ曲がる南西角が一番低くなっており、北側や東側へと水が流れるようにはなっていない。標高は北端が60.95m、南西角が60.91m、東端が60.97mである。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸がある。幅はやや狭く、深度は浅い。溝の高低差から常時通水があったとは考えられず、用水路として使用されていたというよりも道路や畑の排水性を高めるものと考えられる。

(2)道路

1号道路(第27図 PL.5・6)

位置: 113 ~ 125・-993 ~ -030 規模: (37.2)m × 0.4 ~ 0.96m 走行方位: N-72°-W 遺物: 近世の施釉陶器2片・在地系土器(鍋類1片)、赤色漆器塗膜片が出土した。 所見: ほぼ東西に走る道路である。西側では、南北方向の走行を持つ2号道路と交差し、3号溝(上層)を渡る土橋の東側ではやはり南北方向の走行を持つ4号道路と交差する。3号溝(上層)の西側では北側に2号溝、南側に1号溝が並行し、3号溝(上層)の東側では北側に4号溝、南に63号溝が並行している。路面は硬化しており、幅0.24 ~ 0.88mの凹みを持つ路面が確認できる。道路の東側では、路肩付近の柔らかいところで馬蹄痕が複数確認できる。道幅は広くないものの、側溝を持ち、各道路と交差しながら道は続いていることや土橋がかけられていることから、主要通路であったと考えられる。

2号道路(第27図 PL.5)

位置: 123 ~ 140・-022 ~ -038 規模: (16.32)m × 3.2m 走行方位: N-9°-W 遺物: 下位からの混入である中世の中国磁器1片が出土した。 所見: ほぼ南北に走る道路である。南側は1号道路と交差するところで終わる。道の両側は高く盛り上がり、西側には4・5号畑があり、東側には6・27号畑が広がる。畑との段差には直径0.1 ~ 0.3m程度の植栽と考えられる穴が開いている。6号畑との段差には1.5m程度、土が盛り上がり、脇には穴が開いている。これはやや大きな木が倒れた跡と考えられる。1号道路と交差する部分の西側には川原石が積まれており、4号畑からの土留めと考えられる。道幅は広く、硬化している平坦部だけでも2.1 ~ 2.3mもの幅である。側溝はないものの、主要通路であったと考えられる。

3号道路(第28・31図 PL.5・187)

位置: 129 ~ 145・-007 ~ -008 規模: (15.28)m × 1.16m 走行方位: N-1°-E 遺物: 砥石(37)の他、近世の磁器1片・施釉陶器2片が出土した。 所見: ほぼ南北に走る道路である。二股に分かれた2号溝の間を通り、2号溝の合流点で止まっている。西側には植栽と考えられる穴が一定の間隔であいているが、段差はない。幅も

狭く、硬化面もしっかりしていないことから畑への脇道であったと考えられる。

4号道路(第28図 PL.5)

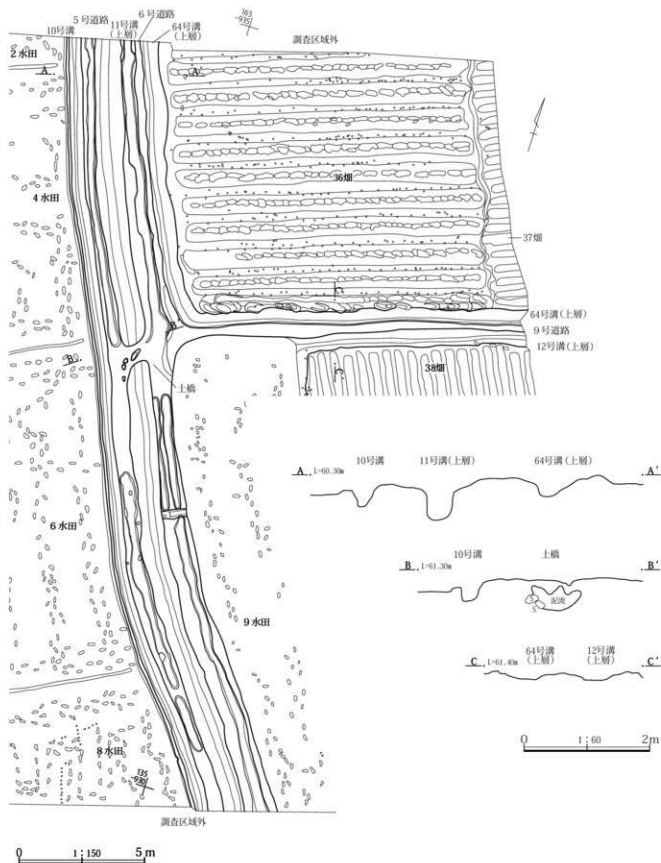
位置: 116 ~ 146・-000 ~ -005 規模: (28.8)m × 0.56 ~ 2.08m 走行方位: N-3°-W 遺物: 近世の磁器2片・施釉陶器3片・焼締陶器1片・在地系土器(鍋類2片)、板碑片が出土した。 所見: ほぼ南北に走る道路である。南側は1号道路と交差するところで終わる。西側は3号溝(上層)の土手と並行し、東側は一段上に7・10号畑が広がる。7号畑と接するところは畑のサクにより、道幅が半分以下になっている。しっかりとした硬化を持ち、幅0.24 ~ 1.2mの凹みを持つ路面が確認できる。側溝はないものの、主要通路であったと考えられる。

5号道路(第33図 PL.4)

位置: 134 ~ 163・-926 ~ -942 規模: (31.28)m × 0.6 ~ 0.85m 走行方位: N-29°-W 遺物: なし 所見: ほぼ南北に走る道路である。10号溝と11号溝(上層)の間を走行し、11号溝(上層)を挟んで東側に位置する6号道路と並行している。途中、6号道路と9号道路が交差するところに土橋が築かれており、11号溝(上層)を渡って6・9号道路と接続している。用排水路に挟まれた道路であるが、硬化面もしっかり形成されており、幅0.24 ~ 0.44m程度の凹みを持つ路面が確認できる。土橋で他の道路ともつながっており、主要通路であったと考えられる。

6号道路(第33図 PL.4)

位置: 135 ~ 164・-924 ~ -940 規模: (31.16)m × 0.56 ~ 1.12m 走行方位: N-29°-W 遺物: 近世の磁器1片・施釉陶器1片が出土した。 所見: ほぼ南北に走る道路である。11号溝(上層)の東側を走行し、北寄りでは64号溝が道路の東側を流れる。9号道路とは、途中で交差し、そのすぐ西側には11号溝(上層)を渡る土橋が築かれている。5号道路と並行し、路面幅などの規模が同じ程度である。硬化面もしっかり形成されており、幅0.28 ~ 0.36m程度の凹みを持つ路面が確認できる。しかし、途中の東側に位置する水田の水口が道路を切断して作られている。痕跡等は確認できなかったものの、板などが置かれ、切断部分を渡していた可能性がある。土橋で他の道路ともつながっており、主要通路であったと考えられる。



第33図 1区2面 10・11(上層)・12(上層)・64(上層)号溝、5・6・9号道路

7号道路(第34図 PL.11)

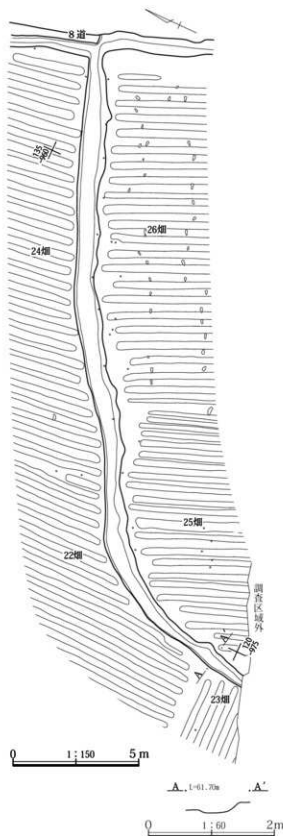
位置：119～136・-955～-977 規模：(27.68)m×0.4～1.04m 走行方位：N-63°-E、N-24°-E 遺物：なし 所見：東は8号道路から始まり、25・26号畑のある高台の北側の緑を走る道路である。地形の変換点に沿っており、西側へ行くと向きを南方へと変えている。畑の中を通る道路であるが、路面の硬化はあまりない。また、道幅や走行はあまり安定していない。路面幅自体は狭くないが、主要道路というよりは脇道に近いものであったと考えられる。

8号道路(第32図 PL. 4)

位置：128～158・-952～-995 規模：(31.2)m×0.48～0.8m 走行方位：N-22°-W 遺物：なし 所見：ほぼ南北に走る道路である。5号溝(上層)の西側を沿うようにしている。道路の西側は18・20・24・26号畑があり、いずれも畑が一段高い。途中、7号道路と交差するところは、26号畑の縁辺に合わせてクランク状になっている。路面の硬化はあまりなく、畑からの土で半ば埋もれるかのように狭まっている。5・6号溝(上層)といった主要な排水路沿いの道ではあるが、主要道路というよりは脇道に近いものであったと考えられる。

9号道路(第33図 PL. 5)

位置：152～157・-921～-935 規模：(14.16)m×0.4～0.6m 走行方位：N-72°-E 遺物：なし 所見：ほぼ東西方向に走る道路である。西端は6号道路から始まり、北側には36・37号畑、南側には38号畑と水田がある。道路の両脇には溝があり、北側は64号溝、南側は12号溝である。6号道路に近い西側は路面が硬化しており、平坦な路面が形成されているが、東寄りには畦畔のように膨らみを持ち、あまり硬化していない。東隣の2区ではこの道路につながるような道路は確認できておらず、主要道路というよりは脇道に近いものであったと考えられる。



第34図 1区2面 7号道路

(3)畑

畑は道や溝によっても区画が分かれているほか、大畔のような膨らみを持つ土手状のものによっても区切られる。畝の幅や高さは様々であり、畝の状態によって分離した単位ごとに記載する。

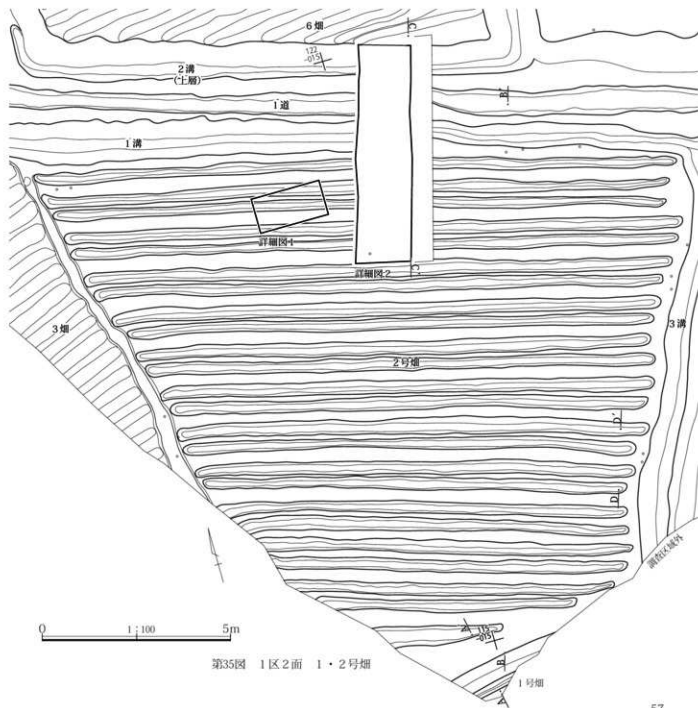
1号畑(第35・36図 PL.3)

位置:104~106・-013~-017 サク数:1条 規模:(3.0)m×(1.0)m 畝高さ:0.06~0.09m 畝幅:(0.22)m
サク間幅:0.1m 畝方位:N-77°-E 遺物:なし 所

見:遺構の大半が調査区域外にある。北側に位置する2号畑との境には畔上に盛り上げられている。1号畑が一段低く、北側が高く南側が低い段々畑のようにになっている。2号畑との境のすぐ南に小さな畦畔状の盛土があるが、これは筆境であり、通常の畝とは幅等が異なることが多いため、1号畑の畝幅については不明である。

2号畑(第35・36図 PL.6)

位置:105~122・-006~-024 サク数:24条 規模:17.3m×14.3m 畝高さ:A0.13m B0.1m 畝幅:A0.52m B0.28m サク間幅:0.15m 畝方位:N-



第35図 1区2面 1・2号畑

76°-W 遺物：近世の施釉陶器3片、下位からの混入である土師器(甕類4片)が出土した。 所見：1号溝の南、3号溝(上層)の西に位置する。3号溝(上層)との境には小穴が複数開いており、境には小木などの植物が植えられていた可能性がある。南側に位置する1号畑や西側の3号畑は畦畔状の盛土で区画が分かれ、それらより一段上にある。畝は2種類あり、幅の広い畝と狭い畝が交互に作られている。異なる作物を同時に育てる間作が行われていたと考えられる。作物自体は残存していないが、天明泥流層とAs-A軽石層の間に酸化鉄凝集層があり、作物と考えられる植物の葉などの痕跡が残されていた。幅広い畝(A)には太い茎と幅の広い葉が確認でき、狭い畝(B)にはイネ科のような細長い葉のようなものが確認できた。また、幅広い畝(A)では、土寄せによるものと考えられる高まりが南側半分にあり、低めの北側には作物の株の跡が穴として畝に残存していた。その間隔は0.32～0.33mごとにあり、直径は0.02～0.04mであった。サクの底面は平坦であった。

3号畑(第37図 PL. 6)

位置：112～122・-021～-028 サク数：19条 規模：(10.7)m×(3.44)m 畝高さ：0.11m 畝幅：0.44m サク間幅：0.14m 畝方位：N-67°-E 遺物：なし 所見：3号溝(上層)の南側に位置する。東側に位置する2号畑との境には畦畔状の盛土で区画が分かっているが、わずかに2号畑が一段上にある。この境には大きいもので直径0.24mの穴が開いており、これは境に植えられた小木などの痕跡と考えられる。畝は北側がやや高く、これは土寄せによるものと考えられる。サクの底面は浅いU字を呈している。

4号畑(第37図 PL. 7)

位置：124～132・-025～-032 サク数：11条 規模：6.86m×(5.72)m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.4m サク間幅：0.12m 畝方位：N-76°-E 遺物：近世の施釉陶器1片・在地系土器(鍋類1片)が出土した。 所見：1号道路の北側、2号道路の西側に位置する。道路より一段高いところにあり、1号道路と2号道路とが交差する場所には、土留めと考えられる0.2～0.5mの礫が置かれている。そして、道路との境には直径0.1m前後の穴が開いており、小木などの植栽があった可能性がある。また、北に位置する5号畑との境には幅の狭い畦畔状の盛土で区画が分

かれている。この境には植栽と考えられる穴はなく、土地所有者の違いではなく、作物の違いによって畝の形状が異なると考えられる。畝は南側がやや高く、これは土寄せによるものと考えられる。サクの底面は平坦である。

5号畑(第37図 PL. 7)

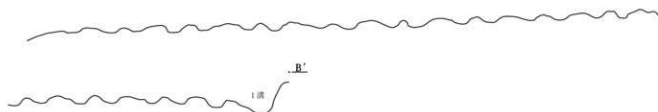
位置：131～139・-026～-036 サク数：7条 規模：(7.88)m×(7.6)m 畝高さ：0.11m 畝幅：0.8m サク間幅：0.3～0.36m(0.12～0.14m) 畝方位：N-75°-E 遺物：近世の施釉陶器2片、下位からの混入である土師器(杯類2片、甕類3片)が出土した。 所見：2号道路の西側に位置する。2号道路より一段上にあり、境には直径0.1m前後の穴が開いており、小木などの植栽があった可能性がある。畝は幅が広く平坦で、両端が盛り上がっている。そして、サクも広く、両脇が下がるが、中央は掘り残っており、小さな畝のようにわずかに盛り上がって見える。これは、畝の左右両方にそれぞれ土寄せをしたためと考えられる。この畑は畝の両端に作物を植えて、それぞれ土寄せしており、間作の可能性もある。サクの底面は平坦である。

6号畑(第38・39図 PL. 7・187)

位置：121～139・-009～-024 サク数：31条 規模：17.12m×14.8m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.46m サク間幅：0.1m 畝方位：N-81°-E 遺物：キセル(1)の他、近世の磁器2片・施釉陶器11片・焼締陶器2片・在地系土器(鍋類6片)、不銹鉄製品、赤色漆器の塗膜片の他、下位からの混入である土師器(杯類3片、甕類8片)が出土した。 所見：1号道路の北側、2号道路の東側に位置する。東側と南側には囲う様に2号溝が廻っている。これらの道路より一段上にあり、境には直径0.1m前後の穴が開いており、小木などの植栽があった可能性がある。北側には27号畑があるが、境は特になく、畝が途中で合流していることから、土地所有者の違いはなく、作物の違いにより畝の様相が異なると考えられる。畝は北側が盛り上がっているが、両端とも盛り上げられているものがある。断面で見ると盛り上げられた土の下に薄くAs-A軽石が堆積しており、天明の噴火の時期に土寄せした様子がうかがえる。サクはやや狭く、底面はU字形をしている。南東角付近には酸化鉄凝集によって残った細い茎あるいは葉の痕跡と足跡が残っていた。歩行列が確認できるものは畑の東端を北方へ歩いてきたことが判明した。

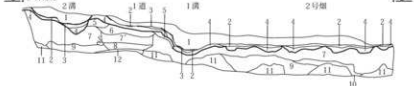
2号畑

B, 1:60, 90a



2号畑

C, 1:61, 20a



1号畑

A, 1:60, 20a

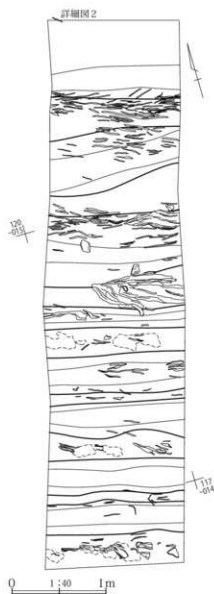


2号畑

D, 1:60, 40a



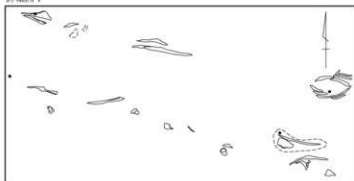
0 1:60 2m



1区2面1・2号畑C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土 礫を多量含む。天明泥流。
- 2 暗褐色土 酸化鉄凝集を少量含む。天明泥流。
- 3 黒褐色土 砂土。小礫を中量含む。天明泥流。
- 4 As-A軽石層
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。1号道路の路肩の上。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。しまり固い1号道路路盤。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。2号畑耕作土。
- 7' 灰黄褐色土 シルト質土。しまり固い。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色砂粒を中量含む。しまり固い。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルトブロックを少量含む。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。灰黄褐砂粒を中量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。
- 12 褐灰色土 シルト質土。しまり固い。

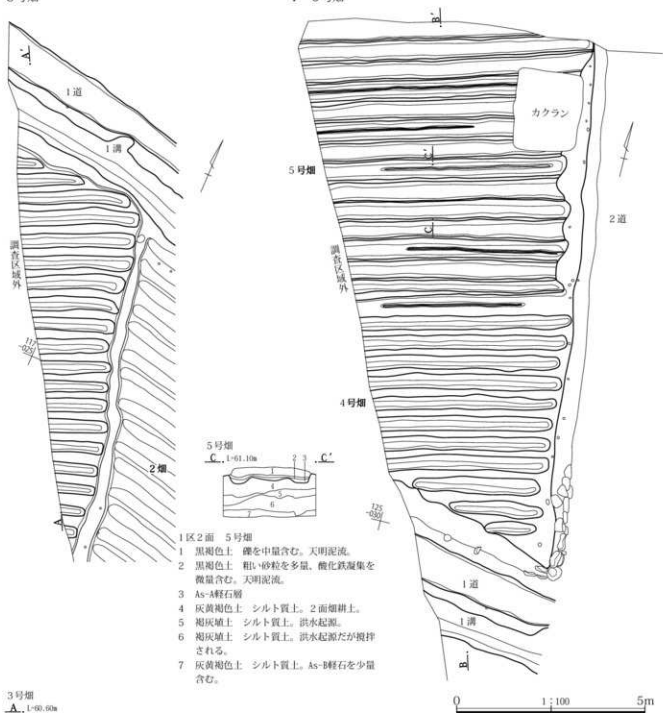
詳細図1



第36図 1区2面 1・2号畑断面、2号畑詳細図

3号畑

4・5号畑



- 1区2面 5号畑
- 1 黒褐色土 礫を中量含む。天明泥流。
 - 2 黒褐色土 粗い砂粒を多量、酸化鉄凝集を微量含む。天明泥流。
 - 3 As-A軽石層
 - 4 灰黄褐色土 シルト質土。2面畑耕土。
 - 5 褐灰植土 シルト質土。洪水起源。
 - 6 褐灰植土 シルト質土。洪水起源だが攪拌される。
 - 7 灰黄褐色土 シルト質土。As-B軽石を少量含む。

3号畑

A, L=60.60m



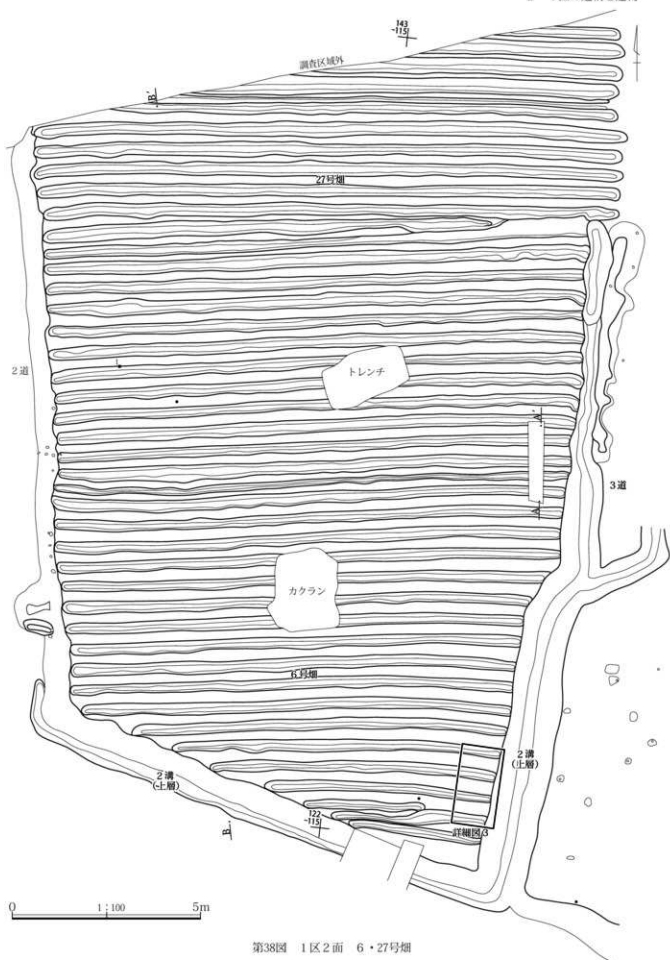
4・5号畑

B, L=61.10m

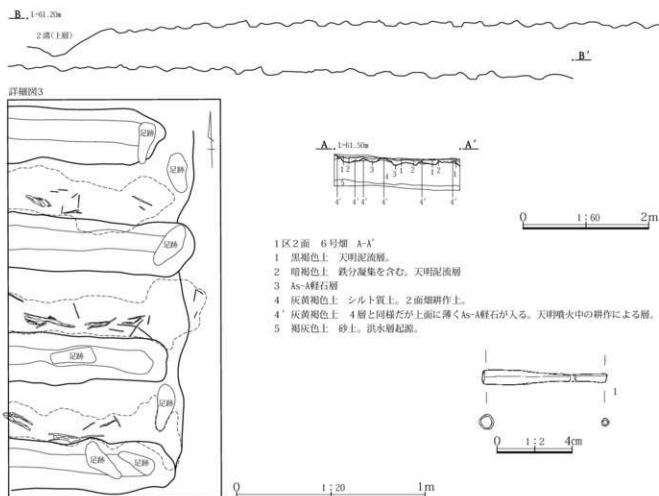


0 1:60 2m

第37図 1区2面 3～5号畑



第38図 1区2面 6・27号畑



第39図 1区2面 6・27号畑断面、6号畑詳細図、出土遺物

7号畑(第40図 PL. 7)

位置: 137 ~ 148・992 ~ -002 サク数: 11条 規模: 9.88m×9.06m 畝高さ: 0.16m 畝幅: 0.68m サク間幅: 0.2m 畝方位: N-10°-E 遺物: 近世の磁器2片が出土した。 所見: 4号道路の東側に位置する。道路と接するところまでサクが切られている。北側の8号畑との境には直径0.2m前後の穴が開いており、小木などの植栽があった可能性があるが、ほとんど接するくらい近い。東側の9号畑との境にも少数の同じような穴が開いているが、穴の数は少なく、少数の植栽があったと考えられるが、10号畑との境には畝の端部が横一列につながっており、小さな畦畔のような盛土になっている。そして、そこには直径0.03mの穴が0.25m間隔であいており、境に作物のようなものが植えられていた可能性がある。このことから、7号畑と9号畑の所有者は同一の可能性もある。畝は幅広で、西寄りに直径0.03 ~ 0.05mの作物の株による穴が残存している。穴の間隔は0.3

m前後である。サクは土寄せした鎌の跡が残っており、幅0.2mの鎌を0.68 ~ 0.89mくらい引いて土を寄せている。また、酸化鉄凝集による植物痕があり、幅の広い葉や太い茎が残存している。

8号畑(第41・42図 PL. 8・187)

位置: 146 ~ 152・984 ~ -001 サク数: 7条 規模: (16.26)m×(5.64)m 畝高さ: 0.16m 畝幅: 0.68m サク間幅: 0.14m 畝方位: N-88°-E 遺物: 釘(1)の他、近世の施軸陶器2片・在地系土器(銅類2片)が出土した。なお、遺物ではないが、株跡の穴に石膏を流し込み、株の地下部分の形取りを行ったところ、サトイモと考えられる芋茎のみであり、子イモの存在を確認することはできなかった(2・3)。 所見: 7・9号畑の北側、16・17号畑の西側に位置する。周囲の畑との段差はない。南側の9号畑との境には畦畔状の盛土があり、直径0.1m前後の穴が数多く開いていた。小木などの植栽があった可能性があり、境界を意識させていたと考えられる。東

の16号畑とは境になるようなものがなく、畝が接しているようになっているが、17号畑とは畝の端が横一列に並ぶように盛り上がり、畦畔状になり、直径0.1～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いていた。このことから16号畑とは所有者が同一である可能性がある。畝は幅広で、最も南の畝は株跡の穴が南寄りであるが、それ以外の畝は北寄りに穴が残存している。直径は0.04～0.05mで、穴の間隔はばらつきがあり、0.22～0.33mである。株跡に入れた地下茎部分の石膏の形状から、サトイモの可能性があり、畝の大きさや株の穴の存在から、7号畑も同じ作物の可能性もある。また、北寄りのサク2条は間隔が狭く、本来なら、区画を分けて考えるべきかもしれないが、大半が調査区域外のため状況を明らかにできなかった。

9号畑(第41・42図 PL. 7・187)

位置：138～146・-984～-994 サク数：12条 規模：8.36m×6.56m 畝高さ：(0.08)m 畝幅：(0.4)m サク間幅：(0.12)m 畝方位：N-89°-E 遺物：砥石(4)の他、近世の磁器1片が出土した。所見：8号畑の南側、17・21号畑の西側、10号畑の北側、7号畑の東側に位置する。17・21号畑とは幅狭く、高さも低い畦畔状の盛土が境となっている。11号畑との境にも畦畔状の盛土があり、植栽と考えられる穴が開いている。このことから、7号畑とは所有者が同一で、他の畑は異なる可能性がある。この畑の特徴は、畝立てされていないことにある。大小さまざまな耕作土がブロック状になったままであり、荒起こしの状態でAs-A軽石に埋もれていた。耕作途中で、土が柔らかかったためか、人の足跡が各所に残されていた。古い畝か、これから立てようとした畝かは不明であるが、東西方向に畝状の列が確認できている。これから作物を植えようとしていた様子がうかがえる畑である。

10号畑(第40・42図 PL. 8)

位置：130～139・-992～-002 サク数：8条 規模：(8.56)m×(8.24)m 畝高さ：0.18m 畝幅：0.84m サク間幅：0.2m 畝方位：N-89°-E 遺物：近世の施釉陶器3片・在地系土器(銅類1片)が出土した。なお、遺物ではないが、株跡の穴に石膏を流し込み、株の地下部分の形取りを行ったところ、サトイモと考えられる種芋の下から出た小さめの子イモの存在を確認することが

できた(5)。所見：4号道路の東側、7号畑の南側、11号畑の西側に位置する。道路よりは一段上にあるが、周囲の畑との段差はない。東側の11号畑とは畝の端が横一列に並ぶように盛り上がり、畦畔状になっている境があり、直径0.1～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いていた。南の12号畑との関係は攪乱により不明である。畝は南側がやや高くなっており、土寄せによるものと考えられる。そして、直径0.03～0.05mの株跡の穴が畝の南寄りである。穴の間隔は0.24mである。酸化鉄凝集による植物の痕跡があり、幅広の葉が確認されている。株跡に入れた地下茎部分の石膏の形状から、サトイモと考えられる。また、サクには蹴跡があり、幅0.2m、長さ0.45m程度で、底面は平坦となっている。

11号畑(第41図 PL. 8)

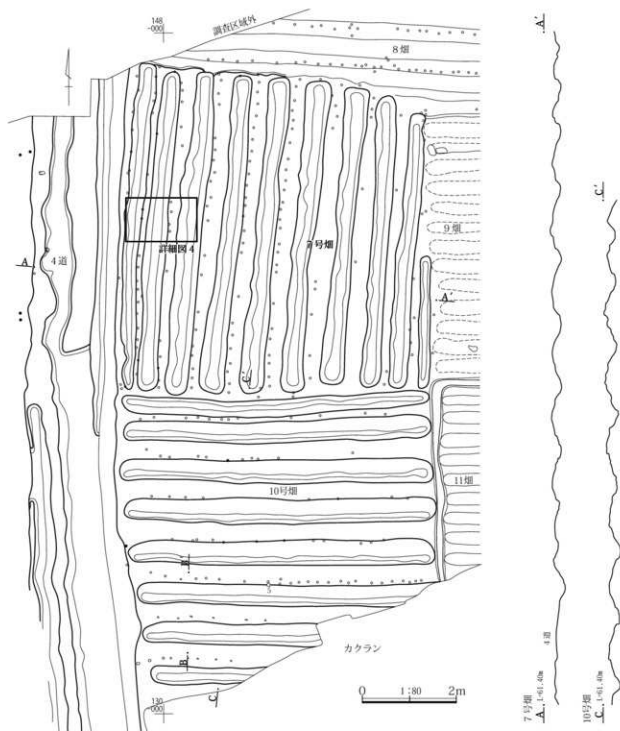
位置：133～139・-984～-993 サク数：9条 規模：8.48m×(5.36)m 畝高さ：0.14m 畝幅：0.4m サク間幅：0.14m 畝方位：N-89°-E 遺物：なし 所見：9号畑の南側、21号畑の西側、15号畑の北側、10号畑の東側に位置する。攪乱により15号畑との関係は不明であるが、それ以外の畑との境には畦畔状の盛土で囲われており、区画されている。そこには直径0.1～0.3mの植栽と考えられる穴が開いていた。畝は両端がやや高くなっており、土寄せによるものと考えられる。畝にはやや粗い耕作土ブロックが目立つ。サクの底面はU字形である。

12号畑(第43図 PL. 8)

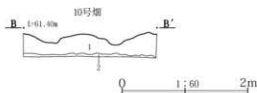
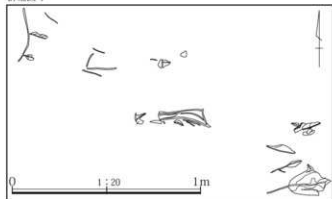
位置：113～129・-991～-001 サク数：26条 規模：(14.9)m×8.96m 畝高さ：0.11m 畝幅：0.42m サク間幅：0.14m 畝方位：N-88°-E 遺物：近世の磁器1片・施釉陶器5片・在地系土器(皿類1片)が出土した。所見：4号道路の東側、1号道路・4号溝の北側、15号畑の西側に位置する。道路よりは一段高いところにある。攪乱により10号畑との関係は不明であるが、15号畑との境には畦畔状の盛土で区画されている。そこには直径0.1～0.3mの植栽と考えられる穴が開いていた。畝は両端が高くなっており、土寄せによるものと考えられる。畝にはやや粗い耕作土ブロックが目立つ。サクの底面は平坦である。

13号畑(第44図 PL. 9)

位置：107～115・-003～-008 サク数：13条 規模：

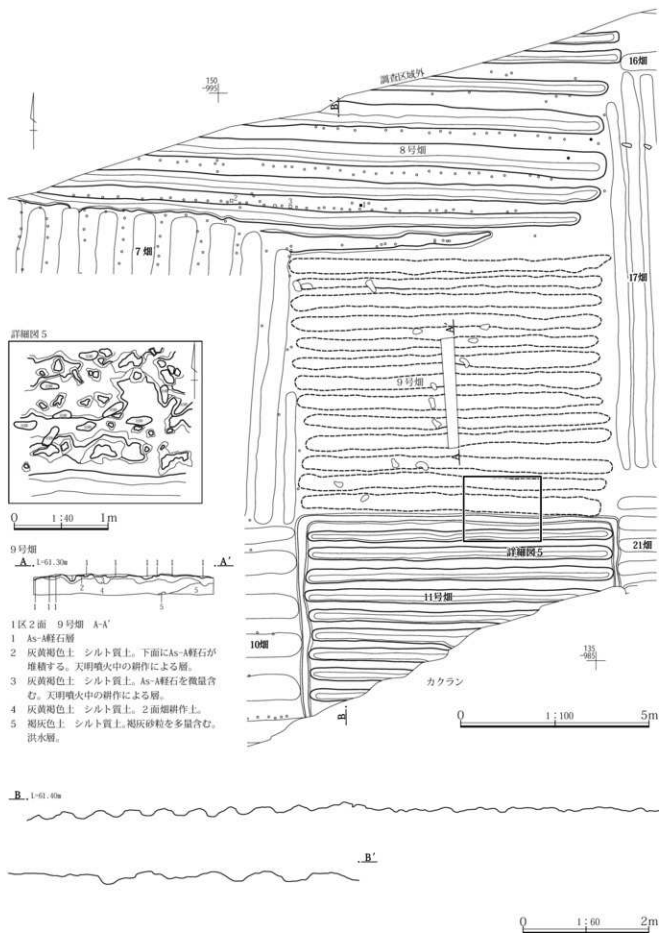


詳細図4

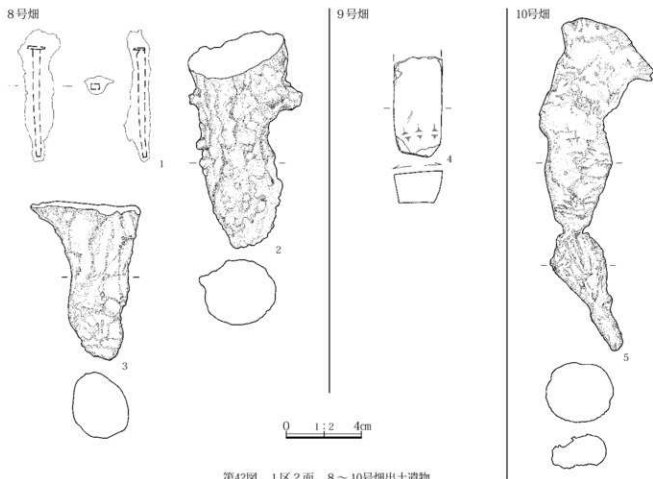


- 1区2面 10号燵 B-B'
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。2面細網作上。
 - 2 褐色土上 シルト質土。洪水層起源。攪拌されている。

第40図 1区2面 7・10号燵



第41図 1区2面 8・9・11号畑



第42図 1区2面 8～10号畑出土遺物

(7.86)m×2.56m 畝高さ:0.12m 畝幅:0.44m サク間幅:0.12m 畝方位:N-70°-W 遺物:なし 所見:3号溝(上層)の東側、1号道路・63号溝の南側、14号畑の西側に位置する。溝や道路よりは一段高いところにある。14号畑と3号溝とに挟まれた狭い範囲の区画であるが、14号畑との境には畦畔状の盛土で区画されている。そこには直径0.1～0.2mの植栽と考えられる穴が開いていた。また、14号畑と同様であるが、63号溝までの間が2mほど空けられている。そこにも直径0.1m程度の植栽と考えられる穴が開いている。畝は北側が高くなっており、土寄せによるものと考えられる。畝幅は広いほうではないが、サクからの立ち上がり急で崩れていないことから、土寄せからあまり時間がたっていない可能性がある。サクの底面は平坦である。

14号畑(第44図 PL. 9)

位置:109～115・-997～-005 サク数:9条 規模:(6.24)m×(5.6)m 畝高さ:0.1m 畝幅:0.44m サク間幅:0.16m 畝方位:N-25°-E 遺物:なし 所見:1号道路・63号溝の南側、13号畑の東側に位置する。溝

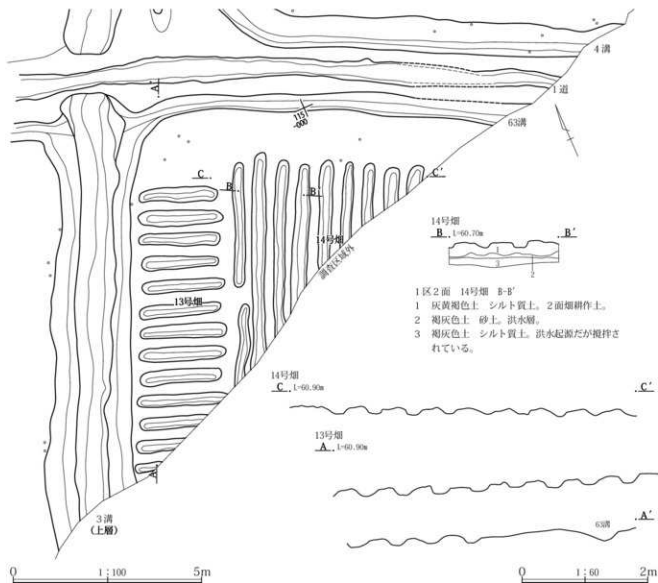
や道路よりは一段高いところにある。13号畑と同様に63号溝までの間が1.5mほど空けられている。そこにも直径0.1m程度の植栽と考えられる穴が開いている。西端の13号畑との境にあるサクは途中で途切れているかのように見えるが、天明泥流中の礫により耕作土が押し潰されたためであり、本来は途切れていなかったものと考えられる。畝は西側が高くなっており、土寄せによるものと考えられる。畝の底面は平坦である。

15号畑(第43図 PL. 9)

位置:113～131・-984～-993 サク数:32条 規模:(17.4)m×8.4m 畝高さ:0.08m 畝幅:0.36m サク間幅:0.14m 畝方位:N-88°-E 遺物:近世の磁器2片・施釉陶器3片・在地系土器(銅鍔1片)、下位からの混入である土師器(裏腹2片)が出土した。 所見:18・23号畑の西側、12号畑の東側に位置する。11号畑の南側であるが、攪乱により関係は不明である。12号畑との境ほどしっかりした盛土はないが、22・23号畑との境は畦畔状の盛土によって区画されている。畝には直径0.02m程度の穴が開いているが、位置や数がまばらであ



第43図 1区2面 12・15号畑



第44図 1区2面 13・14号畑

り、作物の株跡かどうかは不明である。畝は両側が高くなっており、土寄せによるものと考えられる。サクの底面はU字形である。

16号畑(第45図 PL. 9)

位置：145～150・-975～-985 サク数：3条 規模：9.46m×(2.88)m 畝高さ：0.16m 畝幅：0.8m サク間幅：0.2m 畝方位：N-87°-E 遺物：近世の施釉陶器1片・在地系土器(銅類1片)が出土した。 所見：18号畑の西側、17号畑の北側、8号畑の東側に位置する。17・18号畑との境は畦畔状の盛土によって区画されている。7号畑と同様に幅の広い畝ではあるが、作物の株跡の穴などは確認できなかった。畝の北側立ち上がり急であり、土寄せによるものと考えられる。サクは幅がやや広く、底面は平坦である。

17号畑(第45図 PL. 9)

位置：139～152・-973～-985 サク数：20条 規模：11.48m×10.9m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.46m サク間幅：0.12m 畝方位：N-2°-7°-E 遺物：近世の施釉陶器2片・焼締陶器1片・在地系土器(銅類2片)が出土した。 所見：16号畑の南側、19・20号畑の西側、21号畑の北側、8・9号畑の東側に位置する。19・20号畑との境はわずかではあるが畦畔状の盛土によって区画され、21号畑とは浅い溝状の落ち込みで区画されている。畑の畝の上を中心に歩行列が確認でき、西側から東側への歩行が少なくとも2列確認できる。また、畝の東側の立ち上がりには棒状のもので横方向に撫でつけた跡が確認できる。歩行列よりは古いものであるが、畝の形を整えたものと考えられる。畝は東側が土寄せによりやや上

がっており、東側を土寄せして、撫でつけたと考えられる。サクの底面は浅いU字形である。

18号畑(第46図 PL.10)

位置：151～158・-964～-976 サク数：8条 規模：10.98m×(3.92)m 畝高さ：0.16m 畝幅：0.4m サク間幅：0.16m 畝方位：N-81°-E 遺物：なし 所見：5号溝(上層)・8号道路の西側、19号畑の北側、16号畑の東側に位置する。8号道路よりも一段上にあり、この境には畝の端が横一列に並ぶように盛り上がり、畦畔状になっている。19号畑との境にある畝やサクは、区画境に近寄りすぎたためか、途中で止まっている。この境にも畦畔状の盛土で区画されている。畝の北側は粗い耕作土ブロックで土寄せされている。サクの底面は平坦である。

19号畑(第46図 PL.10)

位置：145～154・-961～-975 サク数：12条 規模：12.16m×6.08m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.38m サク間幅：0.15m 畝方位：N-80°-E 遺物：なし 所見：18号畑の南側、5号溝(上層)・8号道路の西側、20号畑の北側、17号畑の東側に位置する。8号道路よりも一段上にあり、この境には畝の端が横一列に並ぶように盛り上がり、畦畔状になっている。20号畑との境にも畦畔状の盛土で区画されているが、畝よりも低い。畝の北側は土寄せにより盛り上がり、畝にはやや粗い耕作土ブロックが目立つ。サクの底面は平坦である。

20号畑(第46図 PL.10)

位置：139～148・-959～-974 サク数：10条 規模：14.26m×5.02m 畝高さ：0.11m 畝幅：0.4m サク間幅：0.13m 畝方位：N-79°-E 遺物：近世の磁器2片・施釉陶器2片、下位からの混入である須恵器(甕類1片)が出土した。 所見：19号畑の南側、5号溝(上層)・8号道路の西側、24号畑の北側、17号畑の東側に位置する。8号道路よりも一段上にあり、この境には畝の端が横一列に並ぶように盛り上がり、畦畔状になっている。24号畑との境にも畦畔状の盛土で区画されている。畝の北側は土寄せにより盛り上がり、その部分は断面で見ると盛り上げられた土の下に薄くAs-A軽石が堆積しており、天明の噴火の時期に土寄せした様子が見える。畝にはやや粗い耕作土ブロックが目立つ。サクの底面は平滑であるが、北側が高く南側が低くなる傾

斜がある。

21号畑(第45図 PL.10)

位置：132～140・-972～-985 サク数：13条 規模：12.44m×6.94m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.44m サク間幅：0.10m 畝方位：N-86°-E 遺物：近世の施釉陶器1片が出土した。 所見：17号畑の南側、24号畑の西側、22号畑の北側、11号畑の東側に位置する。24号畑との境は、畝の端が横一列に並ぶように盛り上がり、畦畔状になり、直径0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。また、22号畑との境にも畦畔状の盛土で区画されている。畝には、直径0.02m程度の小穴がわずかに確認できるが、数が少なく作物かどうかは不明である。サクはやや狭く、底面はU字形である。

22号畑(第47図 PL.10)

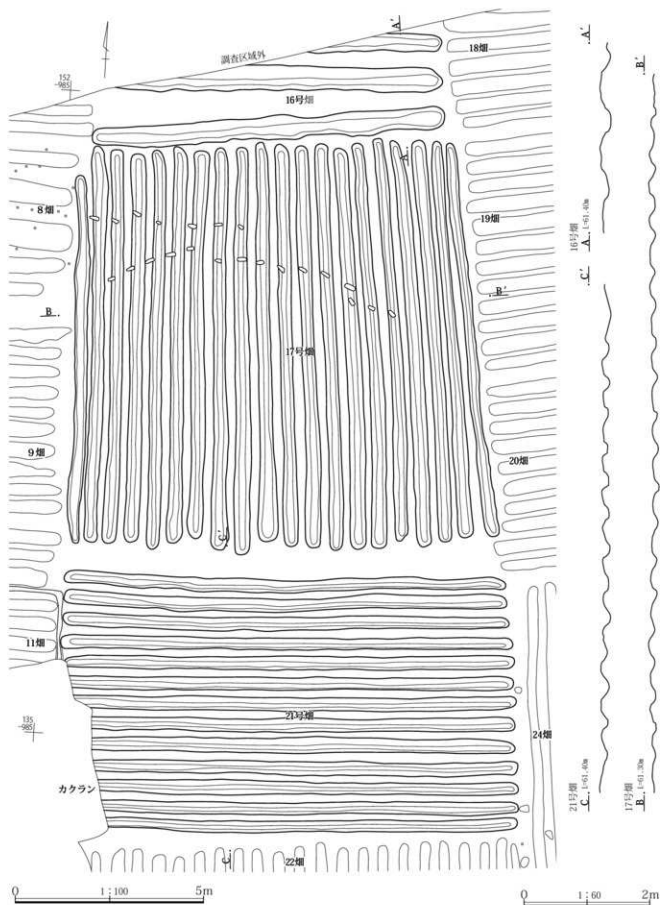
位置：120～133・-971～-984 サク数：24条 規模：12.52m×11.28m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.44m サク間幅：0.13m 畝方位：N-0° 遺物：近世の磁器1片・施釉陶器2片・在地系土器(皿類2片)、下位からの混入である土師器(杯類1片、甕類1片)が出土した。 所見：21号畑の南側、24号畑の西側、7号道路の北西側、23号畑の北側、15号畑の東側に位置する。7号道路よりはわずかに一段高い。23号畑との境は、畝の端が横一列に並ぶように盛り上がり、畦畔状になったもので区画されている。そして、23号畑がわずかに高い。また、24号畑との境にも畦畔状の盛土で区画され、直径0.1～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。東端の畝やサクは24号畑との境にぶつかるため、短く終わっている。畝の西側の立ち上がりは急な角度になるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

23号畑(第47図 PL.10)

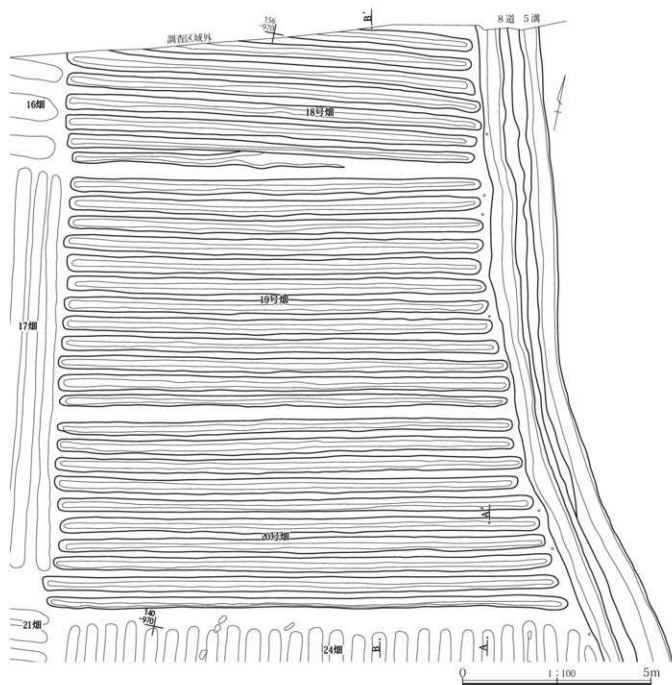
位置：116～121・-976～-985 サク数：7条 規模：8.04m×(4.14)m 畝高さ：0.12m 畝幅：0.44m サク間幅：0.12m 畝方位：N-89°-E 遺物：近世の磁器1片が出土した。 所見：22号畑の南側、7号道路の西側、15号畑の東側に位置する。7号道路よりはわずかに一段高い。畝の南側の立ち上がりは急な角度になるように土寄せされ、南側がやや高くなっている。サクの底面は平坦である。

24号畑(第48図 PL.11)

位置：127～143・-956～-973 サク数：27条 規模：



第45図 1区2面 16・17・21号畑



20号堀

A, L=0.40m

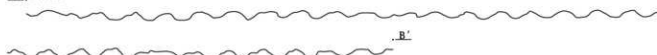


A'

1区2面 20号堀 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。下面にAs-A軽石が堆積する。天明噴火中の耕作による層。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。2面堀耕作上。
- 3 褐灰色土 シルト質土。砂粒を多量含む。洪水層。
- 4 褐灰色土 シルト質土。洪水起源だが攪拌されている。

B, L=0.40m



B'

0 1:50 2m

第46図 1区2面 18～20号堀

15.66m×12.12m 畝高さ:0.12m 畝幅:0.44m サク間幅:0.12m 畝方位:N-6°-W 遺物:近世の施軸陶器4片、砥石の他、下位からの混入である土師器(杯類4片、甕類1片)が出土した。 所見:20号畑の南側、8号道路の西側、7号道路の北側、21・22号畑の東側に位置する。7・8号道路よりは一段高い。8号道路との境には0.1m程度の植栽と考えられる穴が開いている。東端の畝やサクは8号道路との境にぶつかるところで止まっており、半分程度の長さしかない。畝の西側の立ち上がりが急な角度になるように土寄せされるが、畝自体は東側がやや高くなっている。また、人の足跡がいくつか見られ、歩行列として認識できるものとしては2列ある。北西部の歩行列は西から北へ向かっている。そして、中央付近の歩行列は北東から南西へ向かっている。サクの底面はU字形である。

25号畑(第49図 PL.11)

位置:119~129・-966~-976 サク数:22条 規模:(10.2)m×(5.84)m 畝高さ:A:0.1m B:0.08m 畝幅:A:0.45m B:0.24m サク間幅:0.1~0.2m 畝方位:N-22°-W 遺物:時期不詳の土器類1片が出土した。 所見:7号道路の南側、26号畑の西側に位置する。7号道路よりは一段高い。7号道路との境には0.1m程度の植栽と考えられる穴が開いている。26号畑との境は少し間隔が開けられているが、畦畔状の盛土はほとんどない。畝は二種類あり、中央部は幅広の畝と狭い畝が交互にあり、間作が行われていたと考えられる。しかし、東寄りには幅の狭い畝のみであり、西寄りは幅の広い畝のみとなっている。また、26号畑にみられる人の足跡は25号畑の境までしか見られない。耕作土中には0.01~0.02m程度の炭化材が混じっている。サクの底面は平坦である。

26号畑(第49図 PL.11)

位置:113~125・-952~-969 サク数:23条 規模:14.1m×(8.1)m 畝高さ:0.1m 畝幅:0.42m サク間幅:0.2m 畝方位:N-24°-W 遺物:近世の磁器2片・施軸陶器2片、下位からの混入である土師器(甕類3片)が出土した。 所見:7号道路の南側、8号道路の西側、25号畑の東側に位置する。7・8号道路よりは一段高い。これら道路との境には0.1m程度の植栽と考えられる穴が開いている。東端のサクは北寄りで短く止まっているが、8号道路との間隔が開いているのは、植栽等の影響

による可能性がある。畝は西側の立ち上がりが急になるように土寄せされており、西側が高く盛られている。また、東西方向に歩行した足跡が少なくとも2列あり、確認できるものは西から東へ歩いている。サクの底面は平坦である。

27号畑(第38・39図 PL.11)

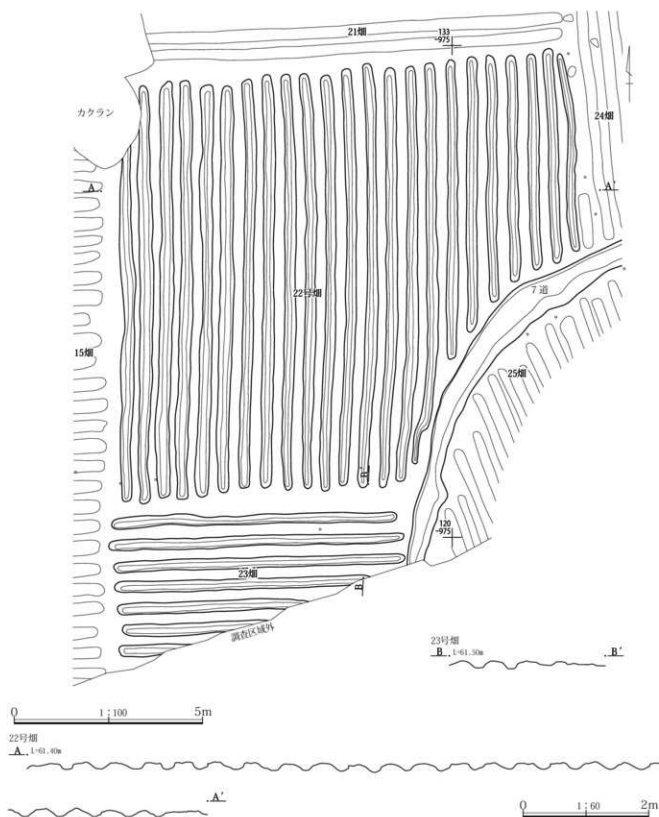
位置:138~144・-008~-025 サク数:11条 規模:15.8m×(5.12)m 畝高さ:0.12m 畝幅:0.4m サク間幅:0.12m 畝方位:N-84°-E 遺物:なし 所見:2号道路の東側、2号溝の西側に位置する。2号溝とは1.2~1.5m程度間隔が開いているが、直径0.1m前後の穴が0.45m間隔で開いており、小木などの植栽があった可能性がある。南の6号畑とは畝の様相から区画を分けたが、土地所有者の違いはなく、作物の違いにより畝の様相が異なると考えられる。畝は北側が盛り上がっている。サクの底面は平坦である。北東端には酸化鉄凝集によって残った葉の痕跡あり、幅広の葉の形が確認できた。

36号畑(第50図 PL.11)

位置:153~167・-922~-939 サク数:11条 規模:12.68m×(11)m 畝高さ:0.15m 畝幅:0.76m サク間幅:0.28m 畝方位:N-71°-E 遺物:なし 所見:37号畑の西側、9号道路の北側、6号道路の東側に位置する。6・9号道路とは、溝状の落ち込みを挟んで道路よりも一段高くなっている。これら道路との境には0.1m程度の植栽と考えられる穴が開いている。37号畑とは畦畔状の盛土で区画されている。畝は幅広で、7号畑などと同様の作物が想定される。残存状況が良好で、畝の南側には作物の株の跡と考えられる直径0.02~0.05mの穴が多数確認できる。しかし、数が非常に多く、間隔が密になっているものもあり、作物以外の植物跡も含まれている可能性がある。一定の間隔で確認できる穴は0.3m程度の間隔である。西側の立ち上がりが急になるように土寄せされており、西側が高く盛られている。また、サクには鎌で土寄せした跡が残されており、0.2m幅の鎌を0.3m~0.6m程度引いている様子が確認できる。そして、その作業後にサクを歩行した足跡も一部見られる。サクの底面は平坦である。

37号畑(第50図 PL.11)

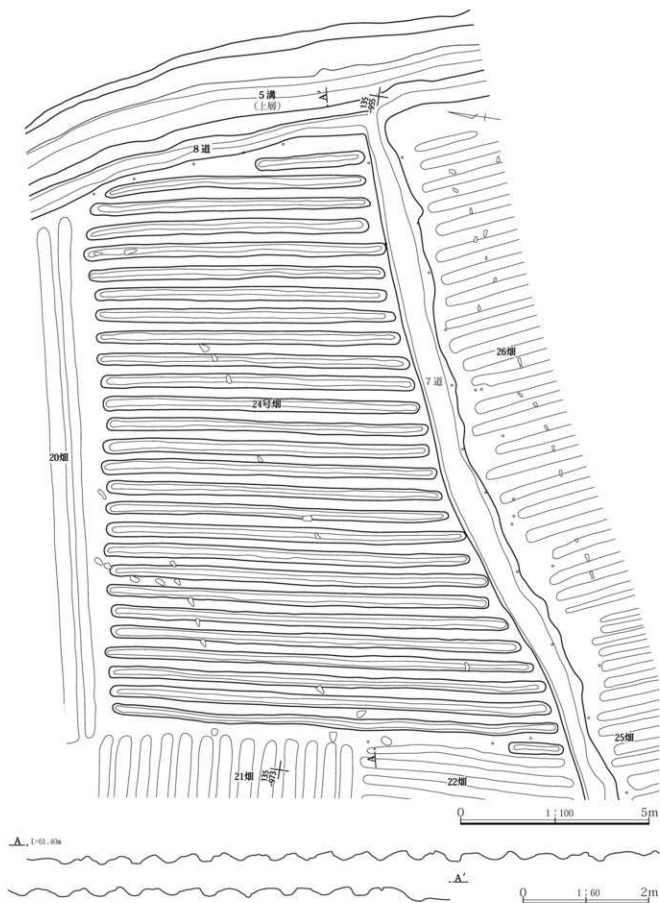
位置:157~167・-921~-927 サク数:19条 規模:(9.92)m×(1.66)m 畝高さ:0.09m 畝幅:0.44m



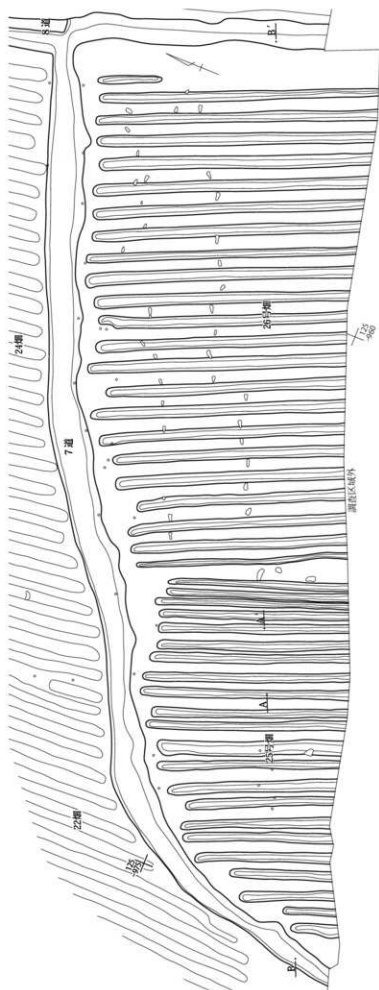
第47図 1区2面 22・23号畑

サク間幅：0.12m 畝方位：N-68°-E 遺物：なし
 所見：9号道路の北側、36号畑の東側に位置する。9号道路とは、溝状の落ち込みを挟んで道路よりも一段高くなっている。畝の北側の立ち上がりは急になるように土

寄せされており、北側が盛り上がっている。サクの底面は平坦である。



第48図 1区2面 24号畑



25号堀

A. 1:61.70m



1区2面 25号堀 A-A'

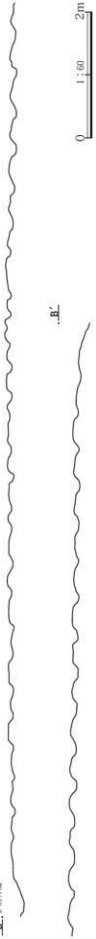
- 1 灰黄褐色土 シルト質土、2面器附土。
- 2 相灰色土 砂土、出水層。
- 3 相灰色土 シルト質土、洪水起源だん塊が含まれている。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土、As-輝石を少量含む。

0 1:100 5m

2 1区の遺構と遺物

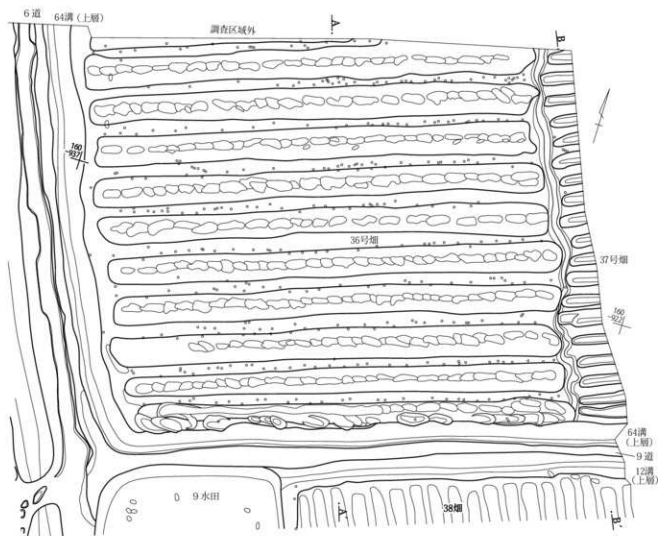
25・26号堀

B. 1:61.70m



0 1:60 2m

第49図 1区2面 25・26号堀



0 1:100 5m

36号畑

A, L=61.40m



37号畑

B, L=61.30m

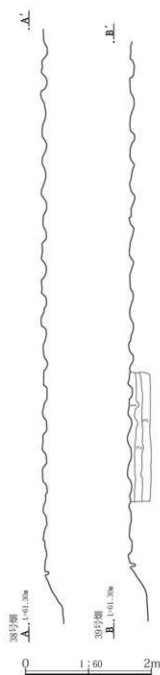
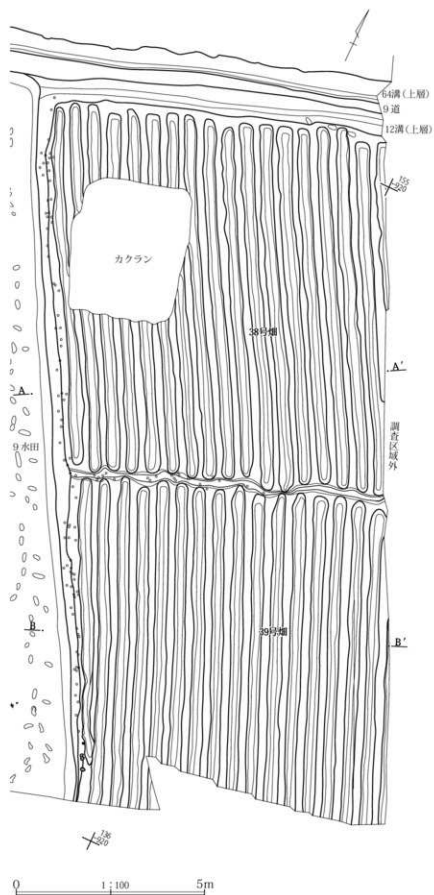


0 1:60 2m

1区2面 36号畑 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰白色土ブロック、褐灰色土ブロックを少量含む。2面畑耕作土。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄白色土小ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロック、灰白色土小ブロックを少量含む。灰色味を帯びる。
- 4 暗褐色土 シルト質土。小礫、砂粒を少量含む。灰色味強い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。小礫、砂粒を少量含む。褐色味強い。
- 6 暗褐色土 シルト質土。礫を少量含む。灰白色味強い。
- 7 暗褐色土 砂質土。礫、砂粒を含む。褐色味強い。
- 8 灰白色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。
- 9 灰白色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 11 灰白色土 シルト質土。褐色土小ブロック、灰白色土の小ブロックを少量含む。
- 12 灰白色土 シルト質土。褐色土小ブロック、洪水起源の灰白色土小ブロックを少量含む。

第50図 1区2面 36・37号畑



1区2面 39号堀 B-B'

- 1 暗灰色土 シルト質土。灰白色土小ブロックを少量含む。しまり強い。黒色味強い。
- 2 暗灰色土 シルト質土。灰色ブロックを少量含む。灰色味強い。
- 3 褐灰色土 シルト質土。砂粒を多量、褐色土小ブロックを少量含む。

第51図 1区2面 38・39号堀

38号畑(第51図 PL.11)

位置：144～157・-916～-929 サク数：18条 規模：9.94m×(9.2)m 畝高さ：0.08m 畝幅：0.36m サク間幅：0.12m 畝方位：N-29°-W 遺物：なし 所見：12号溝の南側、39号畑の北側に位置し、西側には水田がある。9号道路や水田よりも一段高い。39号畑との境は畦畔状の盛土で区画されている。水田と39号畑との境には植栽と考えられる直径0.1m程度の穴が多数見られる。また、北端には足跡が確認でき、東へと向かう歩行列がみられる。畝はやや幅が狭く、畝の西側の立ち上がりは急になるように土寄せされており、西側が盛り上がっている。サクの底面は平坦である。

39号畑(第51図 PL.12)

位置：136～147・-913～-925 サク数：17条 規模：(8.94)m×(8.76)m 畝高さ：0.06m 畝幅：0.39m サク間幅：0.12m 畝方位：N-24°-W 遺物：近世の施軸陶器2片が出土した。 所見：38号畑の南側に位置し、西側には水田がある。水田よりも一段高い。水田との境には植栽と考えられる直径0.1m程度の穴が多数見られる。畝はやや低く、東側の立ち上がりが緩やかである。サクの底面は平坦である。

(4)水田(第53・54図 PL.12・187)

1区の東寄りではAs-A軽石に覆われた水田を調査した。As-A軽石に覆われていたため、残存状況は良好であり、畦畔や水口といった水田施設のほか、農作業に伴う人の足跡や水田に飛来した鳥の足跡も確認している。6号溝(上層)と10号溝と間にある水田は規模が類似しているものの、11号溝(上層)と38号畑・39号畑に挟まれた9号水田は、地形の制約によるためか南北に細長い形状となっている。

1号水田から8号水田では、水田面の標高は北東が一番高く、61.01mであり、6号溝(上層)沿いの60.86mが最も低い。給水は北東方向にあり、北から南、東から西へと水が流れて行ったものと考えられる。3・5・7号水田には6号溝(上層)へつながる水口があり、これらは6号溝(上層)側が低くなっている。南北畦畔の方向はN-22～23°-Wであり、区画は南北方向がやや長い。南北11.3～12.9m、東西8.1～9.8mである。畦畔の規模は幅0.2～0.35m、高さ0.05～0.1mであり、この区画内

では太いものはない。

9号水田は畑と11号溝(上層)とに挟まれた区画となっており、南北に細長い形状となっている。給水は北東角の12号溝からきており、6号道路を断ち切って、西に位置する11号溝(上層)へ流している。

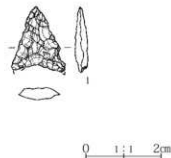
いずれの水田区画にも人の足跡が残されており、これらは南北あるいは東西方向の畦畔に沿った走行で、水田面をくまなく歩行している。中には、これらの歩行列とは関係なく斜めに歩行するものや畦畔沿いを行ったり来たりしているものもある。水田の農作業には各種あったが、複数の時期の作業に伴う歩行列が残されているものと考えられる。

天明泥流層とAs-A軽石層の間に酸化鉄凝集による稲の痕跡が残されており、その一部を精査したところ、As-A軽石降下時には稲は立っていたものの泥流により倒された様子が確認できた。稲の方向はN-84°-Wであり、6号溝(上層)からあふれた泥流によって倒れた可能性がある。また、耕作土面を精査したところ、稲株の痕跡が並んでいる様子を確認することができた。7号水田では、南北方向に列をなしており、稲株の間隔の平均は0.19m、列の間隔の平均は0.25mであった。

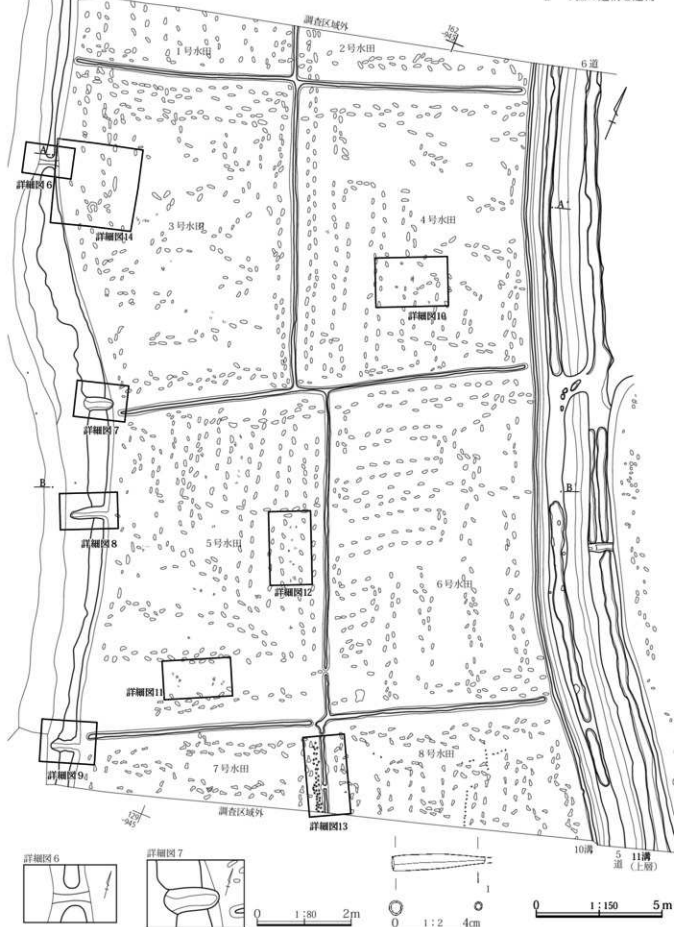
遺物は、キセル(1)の他、近世の施軸陶器1片・在地系土器(銅類1片)、赤色漆器塗膜片が出土した。

(5)遺構外出土の遺物(第52図 PL.187)

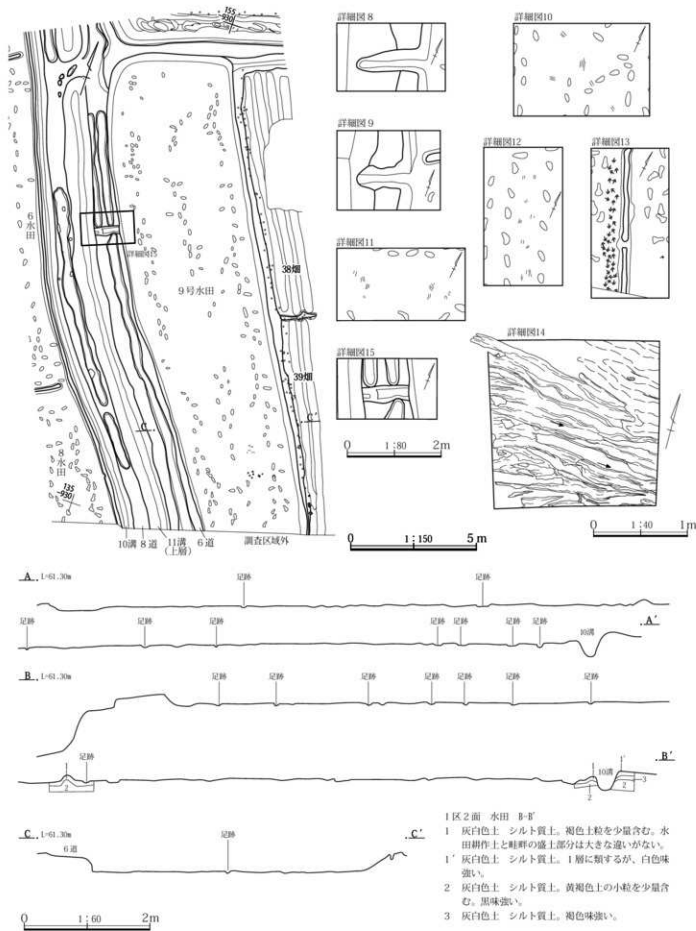
表土掘削や遺構確認中に、遺構に伴わない遺物として、石鏃(1)の他、近世の磁器1片、施軸陶器7片、在地系土器(銅類1片)、近現代の陶磁器4片が出土した。



第52図 1区2面 遺構外出土遺物



第53図 1区2面 1~8号水田、詳細図、出土遺物



第54図 1区2面 9号水田、詳細図、水田断面

3 2区の遺構と遺物

2区は中央に位置する4・5号溝(上層)を境として、西側が畑、東側が水田となっていた。わずかに部分的な攪乱により削平されているものの、近世に泥流復旧作業が行われていなかったため、良好な状態で遺構は残されていた。遺構は一部を除きすべてがAs-A軽石により埋没しており、足跡や耕作による鎌の痕跡も確認できている。1・5号溝(上層)脇の水田面など一部で、As-A軽石が残存しておらず、直接天明泥流が遺構面に堆積している部分があった。これは、As-A軽石堆積後に天明泥流によって部分的に流されたか、遺構面に物が置かれていたためAs-A軽石が遺構面に直接堆積せず、天明泥流によって置かれていたものが流失した可能性がある。

遺構数は溝9条、畑12区画、水田22区画である。1区と異なり、硬化面を持つ道路は確認していない。

(1) 溝

1号溝(上層)(第55・56図 PL.14・187)

位置：134～169・-812～-859 規模：(69.28)m×1.12～2.52m 残存深度：0.62m 走行方位：N-64°-W→N-64°-E→N-24°-W 遺物：瀬戸・美濃陶器鉄絵皿(1)、在地系土器鍋(2)、在地系土器焙烙(3)、砥石(4)の他、近世の磁器2片・施釉陶器10片・焼締陶器1片・在地系土器(鍋類4片)、下位からの混入である土師器(甕類7片)、須恵器(甕類1片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。5号溝(上層)から分岐して東北東へ流れ、10号溝(上層)との合流点で南南東へ折れ曲がる。溝の周辺は水田が広がっており、両脇は水田面より0.1～0.2m程度高い土手が築かれている。溝の北側の土手は、水田の排水のための水口が2か所付けられている。溝端部の高低差を見ると、5号溝(上層)との接続部が0.34m高い。溝の断面形は逆台形で、底面は概ね平坦だが、礫が抜けたような小さな凹みがある。幅は広く、深度は深い。規模が大きく、5・10号溝(上層)の水を南方へ流す基幹的な用排水路であったと考えられる。

3号溝(上層)(第56図 PL.14)

位置：170～175・-875～-885 規模：(9.96)m×0.3

～0.46m 残存深度：0.26m 走行方位：N-17°-W

遺物：近世の磁器2片・施釉陶器4片、下位からの混入である中世の焼締陶器1片、土師器(杯類5片)、須恵器(杯類1片、甕類1片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。北側に位置する2号畑と南側に位置する1・4号畑の間を流れる。しかし、6号溝(上層)の南側で合流せずに浅くなり、立ち上がる。溝の東西両端部の高低差を見ると、西端が0.03m高い。溝の断面形は急な立ち上がりで隅丸正方形に近い逆台形であり、底面は丸みを帯び、やや凹凸がある。幅が狭い割には深度がある。他の溝との接続がなく、途中で止まっていることから、畑の排水性を高めるための溝と考えられる。

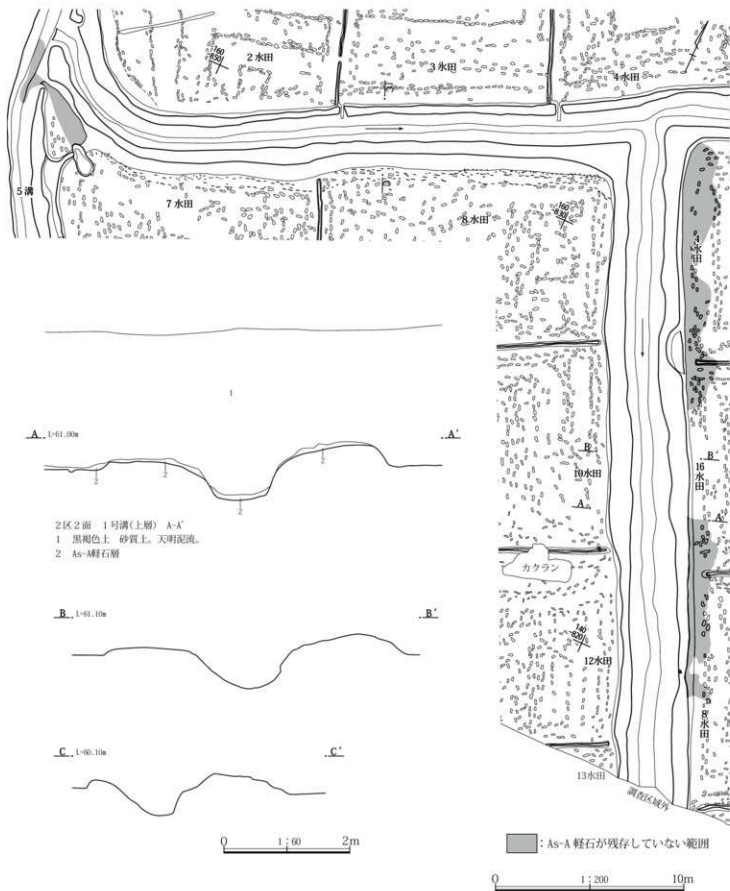
4号溝(上層)(第57図 PL.14)

位置：140～176・-852～-865 規模：(36.72)m×0.8～1.48m 残存深度：0.32～0.84m 走行方位：N-18°-W 遺物：近世の施釉陶器7片・在地系土器(鍋類2片)、下位からの混入である土師器(杯類6片、甕類1片)、須恵器(甕類4片)が出土した。なお、4・5号溝(上層)間の土手から近世の施釉陶器1片が出土した。

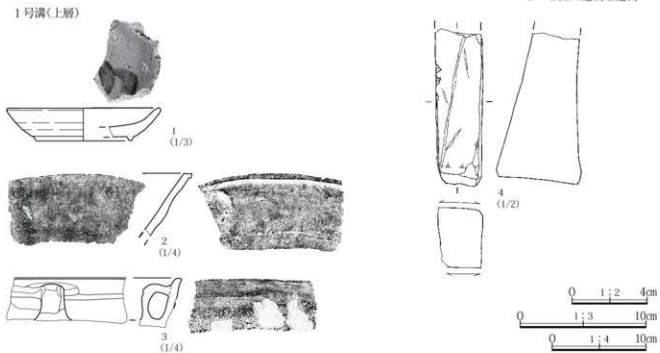
所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。幅の広い5号溝(上層)と並行し、途中で西側から流れている8号溝(上層)と合流する。西側に広がる畑はすべて溝より一段上にある。溝は調査区南側で浅くなり、ほぼ埋没している。高低差を見ると、北端が0.04m低い。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。幅は広く、深度は深い。溝の規模から考えれば基幹的な用排水路に近いものの途中で止まっていることや、地形とは逆の傾斜を持つことから、常時流水があったわけではなく、排水路の性格を持っていた溝と考えられる。

5号溝(上層)(第57図 PL.14・187)

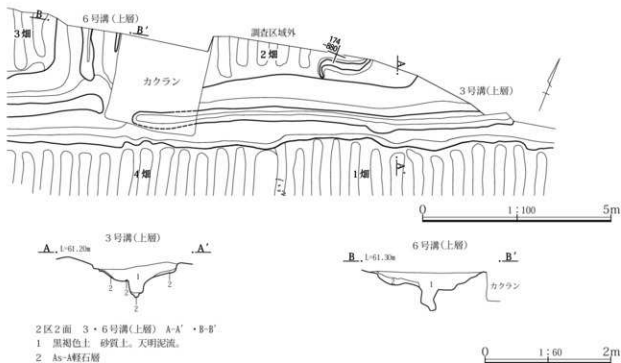
位置：134～176・-845～-863 規模：(43.8)m×1.08～1.6m 残存深度：0.6m 走行方位：N-21°-W 遺物：土手から銅線(1)が出土した他、近世の磁器3片・施釉陶器7片・焼締陶器1片・在地系土器(鍋類8片)、下位からの混入である中世の焼締陶器1片、土師器(杯類7片、甕類8片)、須恵器(杯類2片、甕類7片)、埴輪2片が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。4号溝(上層)と並行し、途中で東へ流れる1号溝(上層)と分岐している。東側に広がる水田と



第55図 2区2面 1号溝(上層)



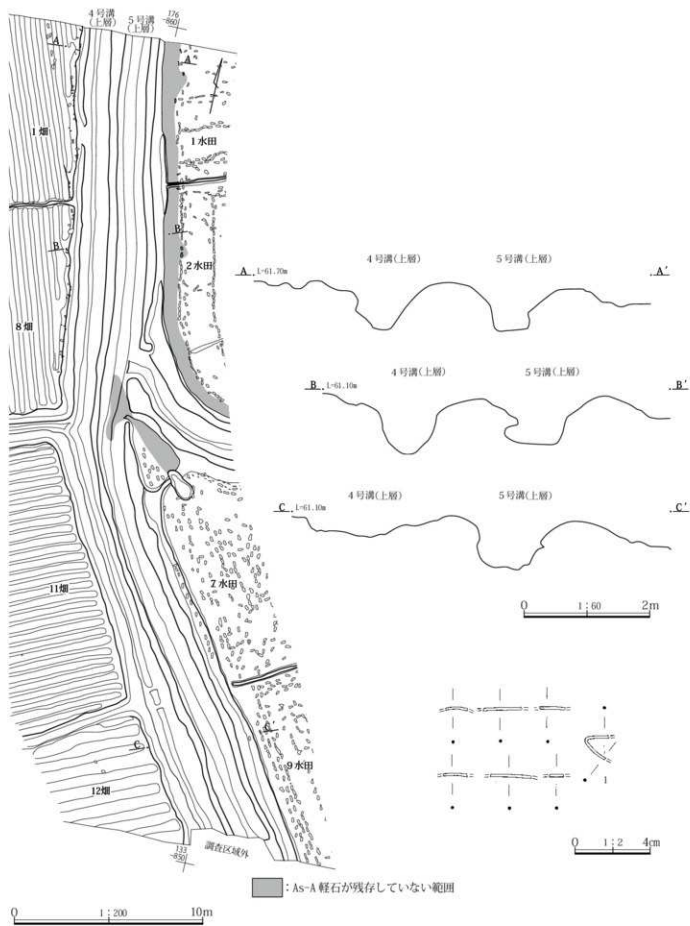
3・6号溝(上層)



第56図 2区2面 1号溝(上層)出土遺物、3・6号溝(上層)

は、1号溝(上層)との分岐点のすぐ南側に水田へ給水できるように水口が作られており、その先に水溜り(ヌルメ)がある。また、水田との境には高い土手が築かれているが、1号溝(上層)より南では土手の下にさらに畦畔程度の高さと幅を持つ段がついている。溝の南北両端部の高低差を見ると、北側が0.06m高い。溝の断面形は概

ね逆台形であるが、立ち上がりが急で垂直に近い場所や立ち上がり下部が狭れて袋状になっている場所もある。底面はほぼ平坦である。幅は広く、深度は深い。水田へ給水していることや溝の規模から基幹的な排水路であったと考えられる。



第57図 2区2面 4・5号溝(上層)、5号溝(上層)出土遺物

6号溝(上層)(第56図 PL.14)

位置：170～173・-885～-887 規模：(1.36)m×0.2～0.36m 残存深度：0.34m 走行方位：N-17°-W

遺物：下位からの混入である土師器(裏類2片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。大半が調査区域外で、詳細は分からないものの、東西に位置する2・3号畑と南側に位置する4号畑との境で浅くなり、他の溝と接続することなく、立ち上がる。調査できた距離が短いため、送水の方向は不明である。断面形は3号溝と同様に急な立ち上がりで隅丸正方形に近い逆台形であり、底面は丸みを帯び、やや凹凸がある。幅は狭い割には深度がある。他の溝との接続がなく、途中で止まっていることから、3号溝と同様に畑の排水性を高めるための溝と考えられる。

7号溝(上層)(第58図 PL.14)

位置：144～163・-890～-897 規模：18.56m×0.4～0.76m 残存深度：0.4m 走行方位：N-18°-W

遺物：近世の磁器1片・施釉陶器1片・在地系土器(銅類1片)、下位からの混入である土師器(裏類2片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。4号畑と5号畑の境にある高い畦状の盛土が途切れたところから溝が始まっている。周囲の一段上にある畑の間を通り、東西に流れる8・9号溝(上層)と合流する。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.05m高い。断面形は3号溝と同様に概ね急な立ち上がりで隅丸正方形に近い逆台形であるが、立ち上がり下部が缺れている部分もある。底面は丸みを帯び、やや凹凸がある。幅は狭い割には深度がある。掘り込みはしっかりしているものの途中から始まっていることから、畑の排水性を高めるための溝と考えられる。

8号溝(上層)(第59図 PL.14)

位置：144～155・-860～-892 規模：31.92m×0.32～0.6m 残存深度：0.33m 走行方位：N-70°-E

遺物：碗と考えられる陶器(1)の他、近世の磁器1片・施釉陶器9片・在地系土器(銅類4片、皿類1片)、下位からの混入である土師器(杯類5片、裏類3片)、須恵器(杯類2片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。7号溝(上層)と9号溝(上層)とが合流するところから始まり、4号溝(上層)に合流する。別の遺構として調査したものの事実上9号溝(上層)の延長上にあ

る。溝の東西両端部の高低差を見ると、西端が0.07m高い。このことから4号溝(上層)へ流れるようになっていたと考えられる。断面形は急な立ち上がりを持つ逆台形で、底面はほぼ平坦である。幅は狭い割に深度は深い。接続している他の溝が用水路ではなく排水路の可能性が高いことから、畑の排水性を高めるための溝と考えられる。

9号溝(上層)(第58図 PL.14)

位置：141～145・-891～-899 規模：(7.4)m×0.4～0.56m 残存深度：0.24m 走行方位：N-69°-E

遺物：近世の施釉陶器2片、下位からの混入である土師器(裏類1片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。7号溝(上層)と8号溝(上層)とが合流するところまでを9号溝(上層)としたが、8号溝(上層)と同一ともいえる。走行から1区12号溝と接続する可能性があるが、溝の東西両端部の高低差は確認できない。9号溝(上層)の水は4号溝へ流れるようになっていた。溝の断面形は底面がやや尖っており葉研状である。幅がやや狭い割には、やや深度がある。規模は小さいものの急な立ち上がりを持っているが、7号溝(上層)などと比べるとやや浅い。他の溝との接続先は排水路であることから、用水路としての機能は想定しがたく、畑の排水性を高めるための溝と考えられる。

10号溝(上層)(第59図 PL.15)

位置：166～174・-812～-829 規模：(16.4)m×1.72～1.84m 残存深度：0.6m 走行方位：N-70°-E

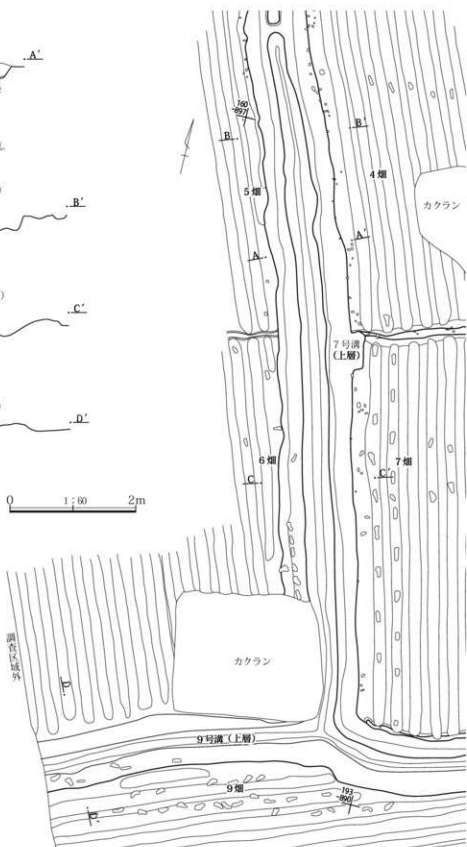
遺物：近世の磁器1片・施釉陶器4片、下位からの混入である中世の在地系土器(銅類2片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1号溝(上層)から分岐して東方へと延びている。周辺は水田が広がっているが、両脇は高い土手が築かれている。北側の水田は土手を切って水口が1か所付けられている。調査できた距離が短く、また東西両端部の高低差は西端が0.02m高いだけのため、どちらへ向かって流れていたかは判断としないが、1号溝との接続部分のみと南東側の立ち上がりが削られていないため、東側から西側へと流れて1号溝へ合流していたものと考えられる。溝の断面形は逆台形であり、底面は概ね平坦であるが、礫の抜け跡のような凹みが各所に見られる。幅は広く、深度は深い。溝の規模から、基幹的な用排水路であったと考えられる。



- 2区2面 7号溝(上層) A-A'
 1 黒褐色土 砂質土、天明泥流。
 2 As-A軽石層

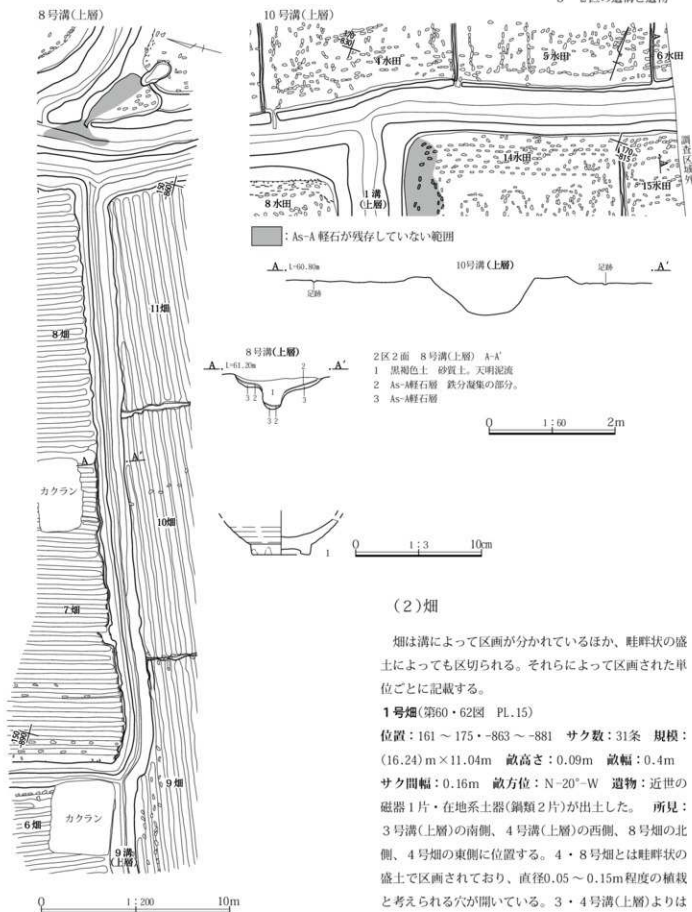


0 1:60 2m



0 1:100 5m

第58図 2区2面 7・9号溝(上層)



第59図 2区2面 8・10号溝(上層)、8号溝(上層)出土遺物

(2) 畑

畑は溝によって区画が分かれているほか、畦畔状の盛土によっても区切られる。それらによって区画された単位ごとに記載する。

1号畑(第60・62図 PL.15)

位置：161～175・-863～-881 サク数：31条 規模：(16.24)m×11.04m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.4m サク間幅：0.16m 畝方位：N-20°-W 遺物：近世の磁器1片・在地系土器(銅類2片)が出土した。所見：3号溝(上層)の南側、4号溝(上層)の西側、8号畑の北側、4号畑の東側に位置する。4・8号畑とは畦畔状の盛土で区画されており、直径0.05～0.15m程度の植栽と考えられる穴が開いている。3・4号溝(上層)よりは一段上に位置し、4号溝(上層)との境は0.1～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。北東部分には足

跡が残っており、南から北への歩行列が確認できる。また、耕作痕が残されており、幅0.14m、長さ0.31～0.33m程度の線によって土寄せした跡が残存していた。畝はこの土寄せによって、東側が少し盛り上がっている。サクの底面は平坦である。

2号畑(第63図 PL.15)

位置：171～175・-879～-886 サク数：5条 規模：(6.78)m×(1.4)m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.4m サク間幅：0.16m 畝方位：N-20°-W 遺物：近世の磁器1片が出土した。 所見：3号溝(上層)の北側、6号溝(上層)の東側に位置する。畑の大半が調査区域外であり、全容は不明であるが、東のサクの隣に蛇行するような形状で畦畔状の盛土があることから、東西方向は短く区画されていたと考えられる。3・6号溝(上層)よりは一段上にあるが、小木などの植栽と考えられる穴は見られない。畝は両端がわずかに盛り上がるように土寄せされているが、特に西側が少し高くなっている。サクの底面は平坦である。

3号畑(第63図 PL.15)

位置：161～173・-886～-910 サク数：43条 規模：(22.4)m×(7.1)m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.43m サク間幅：0.13m 畝方位：N-23°-W 遺物：近世の施軸陶器1片・在地系土器(皿類1片、鍋類1片)、下位からの混入である土師器(杯類3片)が出土した。 所見：6号溝(上層)の西側、4・5号畑の北側に位置する。6号溝(上層)よりは一段上に位置する。4・5号畑とは、溝状に区切られ、その底面は畦畔状に盛り上げられている。硬化面は確認していないが、作業道路となっていた可能性がある。南端部分を中心に足跡が散発的にみられ、南端から北西へ向かう歩行列が確認できる。畝は東側が少し盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

4号畑(第61・62図 PL.16)

位置：155～172・-878～-897 サク数：33条 規模：17.6m×11.3m 畝高さ：0.11m 畝幅：0.36m サク間幅：0.14m 畝方位：N-21°-W 遺物：近世の磁器3片・施軸陶器8片・在地系土器(皿類2片)、下位からの混入である土師器(甕類7片)、須恵器(杯類1片)が出土した。 所見：2号畑、3号溝(上層)の南側、1号畑の西側、7号畑の北側、7号溝(上層)の東側に位置する。

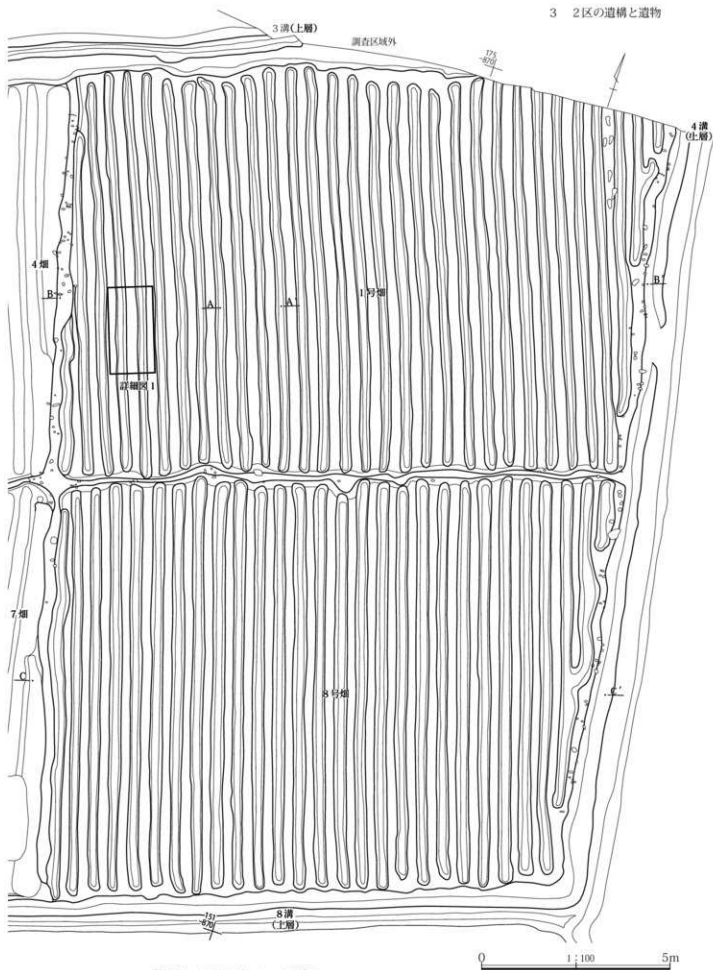
7号畑とは高い畦畔状の盛土で区画されており、直径0.05～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。7号溝(上層)よりは一段上に位置し、7号溝(上層)との境には直径0.05～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。西側中央には足跡が残っており、東西方向の歩行に見えるが、足の向きから側方歩行と考えられ、作業に伴う移動の可能性がある。畝の上面ほぼ平坦であり、東側が少し盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

5号畑(第64図 PL.16)

位置：151～165・-894～-907 サク数：17条 規模：10.16m×(9.08)m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.38m サク間幅：0.14m 畝方位：N-22°-W 遺物：寛永通寶(1)の他、近世の磁器1片・施軸陶器12片・在地系土器(皿類3片、鍋類10片)、下位からの混入である土師器(杯類3片、甕類2片)、須恵器(杯類3片、甕類2片)、時期不詳の土器類2片が出土した。 所見：3号畑の南側、7号溝(上層)の西側、6号畑の北側に位置する。6号畑とは畦畔状の盛土で区画されている。7号溝よりは一段上に位置し、境には直径0.05～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。サクには足跡が残っており、サクを南北に往来している。これらは作業に伴う移動の可能性がある。畝は西側が盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

6号畑(第64図 PL.16・187)

位置：142～155・-892～-903 サク数：16条 規模：10.36m×(8.24)m 畝高さ：0.08m 畝幅：0.38m サク間幅：0.14m 畝方位：N-21°-W 遺物：近世の磁器2片・施軸陶器6片・焼締陶器1片・在地系土器(皿類3片、鍋類4片)、不明銅製品、漆器塗膜片の他、下位からの混入である土師器(甕類1片)、須恵器(甕類4片)が出土した。 所見：5号畑の南側、7号溝(上層)の西側、9号溝(上層)の北側に位置する。7号溝(上層)・9号溝(上層)よりは一段上に位置し、7号溝(上層)との境には北から南へと向かう歩行列がみられる。サクにも足跡が残っているが、歩行列としては確認できない。作業に伴ってサクを歩行していたものと考えられるが、土が柔らかい北端付近を中心に足跡が残存していた。畝の上は平坦に近く、東側が盛り上がるように土寄せされている。耕作土の小ブロックが目立つ状態であった。サク



第60図 2区2面 1・8号畑

1号畑
2区2面 1号畑 A-A'

- 1 相成色土 シルト質土、白色軽石を少量含む。2 面畑耕作土。
2 相成色土 シルト質土、1層に深い沟が穿ちAs-III軽石を少量含む。
3 相成褐色土 砂質土、As-B軽石を少量含む。



1号畑

B., 1:61.20m



8号畑

C., 1:61.20m



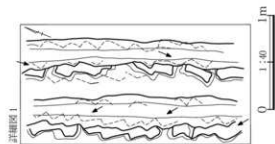
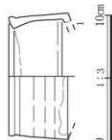
4号畑

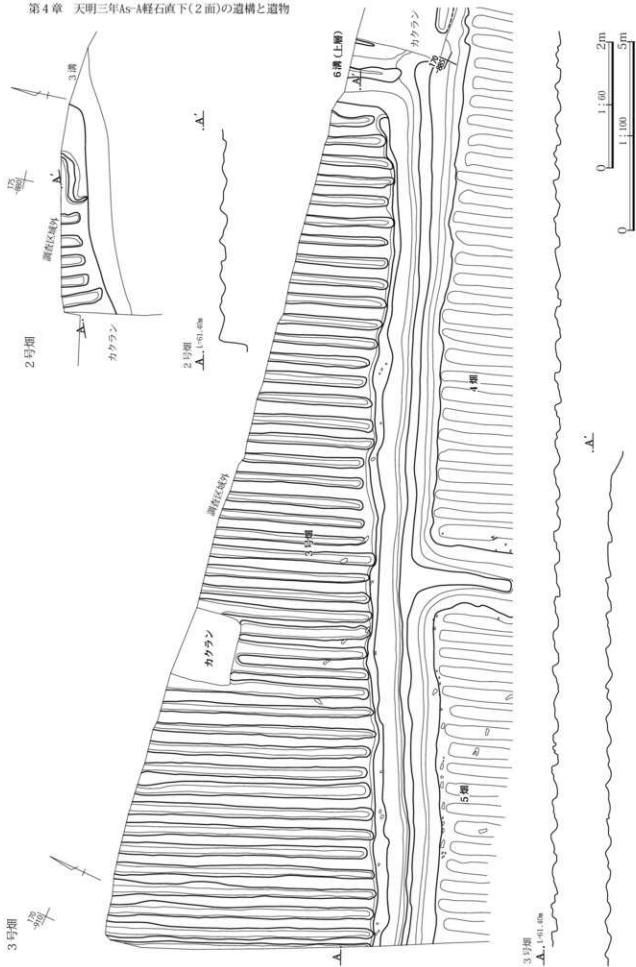
A., 1:61.20m



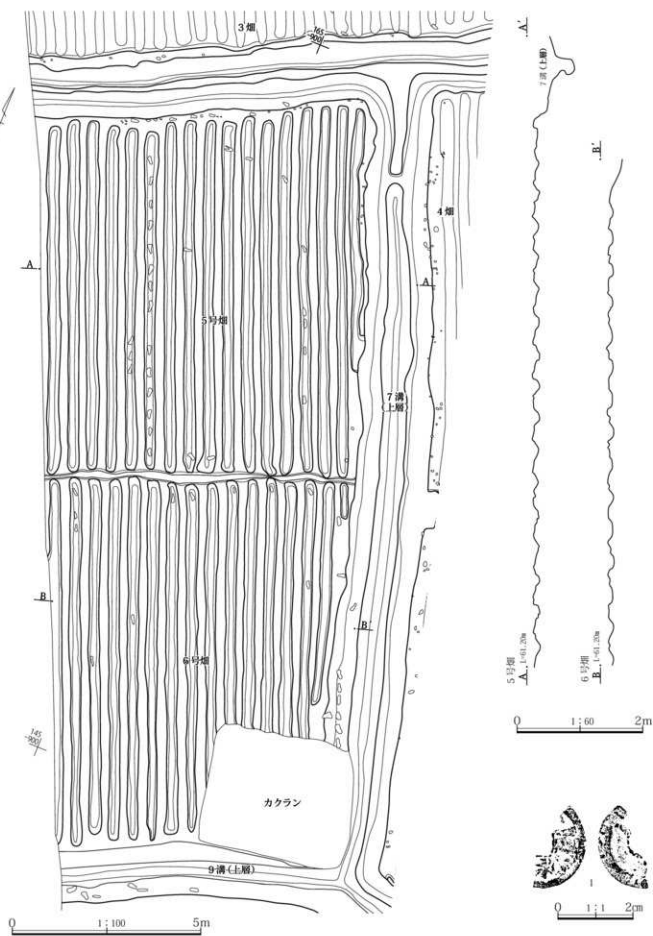
7号畑

B., 1:61.20m





第63図 2区2面 2・3号堀



第64図 2区2面 5・6号畑、5号畑出土遺物

の底面は平坦である。

7号畑(第61・62図 PL.16)

位置：145～161・-874～-893 サク数：32条 規模：16.64m×11.04m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.38m サク間幅：0.16m 畝方位：N-14°-W 遺物：瀬戸・美濃陶器筒形香炉(1)が出土した。 所見：4号畑の南側、8号畑の西側、8号溝(上層)の北側、7号溝(上層)の東側に位置する。8号畑とは畦畔状の盛土で区画されており、直径0.05～0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。8号畑と接する東端のサクは境と接してしまうため、南半分で止まっている。7・8号溝(上層)よりは一段上に位置し、この境にも0.05～0.15m程度の植栽と考えられる穴が開いている。サクには足跡が残っており、サクを南北に往来している。歩幅が狭い部分も多いため、これらは作業に伴う移動の可能性がある。畝の上やサクの底面は平坦である。

8号畑(第60・62図 PL.16)

位置：150～166・-861～-878 サク数：28条 規模：15.24m×11.44m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.4m サク間幅：0.14m 畝方位：N-18°-W 遺物：近世の施釉陶器2片が出土した。 所見：1号畑の南側、4号溝(上層)の西側、8号溝(上層)の北側、7号畑の東側に位置する。4・8号溝(上層)よりは一段上に位置し、4号溝(上層)との境には0.05～0.35m程度の植栽と考えられる穴が開いている。畝の上は平坦で、東側が少し盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

9号畑(第65図 PL.16・17)

位置：131～146・-878～-898 サク数：30条 規模：(15.9m)×(13.7)m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.46m サク間幅：0.10m 畝方位：N-68°-E 遺物：近世の磁器2片・施釉陶器1片・在地系土器(皿類1片)が出土した。 所見：8・9号溝(上層)の南側、10号畑の西側に位置する。8・9号溝(上層)よりは一段上に位置する。7号溝(上層)が8・9号溝(上層)に分岐する箇所では、畑が北へせり出すように広がっており、短いサクが作られている。足跡がいくつか見られ、サクに限らず、畝の上にも残されている。主に畝に沿って東西方向に往来していた。畝の上やサクの底面は平坦である。

10号畑(第66図 PL.17)

位置：132～150・-864～-885 サク数：34条 規模：

16.92m×13.72m 畝高さ：0.09m 畝幅：0.42m サク間幅：0.12m 畝方位：N-66°-E 遺物：近世の施釉陶器2片・在地系土器(鍋類3片)が出土した。 所見：8号溝(上層)の南側、11号畑の西側、12号畑の北側、9号畑の東側に位置する。8号溝(上層)よりは一段上に位置する。11号畑とは畦畔状の盛土で区画されているが、12号畑との間にはサク状の凹みによって区画されている。硬化面等は確認していないが、作業道として使われていた可能性がある。足跡がいくつか見られ、畑を横断するように、畝の上を北から南へと歩行している。畝の上は平坦に近く、わずかに北側が盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

11号畑(第67・68図 PL.17)

位置：134～154・-854～-873 サク数：33条 規模：16.98m×12.2m 畝高さ：0.08m 畝幅：0.4m サク間幅：0.14m 畝方位：N-65°-E 遺物：近世の施釉陶器6片・在地系土器(鍋類2片)、下位からの混入である土師器(杯類1片、甕類4片)、須恵器(杯類2片)が出土した。 所見：8号溝(上層)の南側、4号溝(上層)の西側、12号畑の北側、10号畑の東側に位置する。4・8号溝(上層)よりは一段上に位置する。12号畑との間にはサク状の凹みによって区画されている。硬化面等は確認していないが、4号溝(上層)の縁も含めて作業道路として使われていた可能性がある。畝は北側が盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦であるが、耕作土ブロックが散見される。耕作土上面には、炭化物が散見される。

12号畑(第67・68図 PL.12)

位置：133～141・-850～-867 サク数：6条 規模：(13.84)m×(7.88)m 畝高さ：0.2m 畝幅：0.9m サク間幅：0.2m 畝方位：N-66°-E 遺物：下位からの混入である須恵器(甕類3片)が出土した。 所見：10・11号畑の南側、4号溝(上層)の西側に位置する。4号溝(上層)よりは一段上に位置する。北端のサクは、11号畑との境に接するため、東側だけで短く止まる。幅広の畝であり、1区の7号畑などと同様の作物を想定させる。しかし、作物の株跡の穴は、確認することができなかった。畝の立ち上がりは南側が急になるように土寄せされている。サクの底面は平坦であるが、耕作土ブロックが多くみられる。

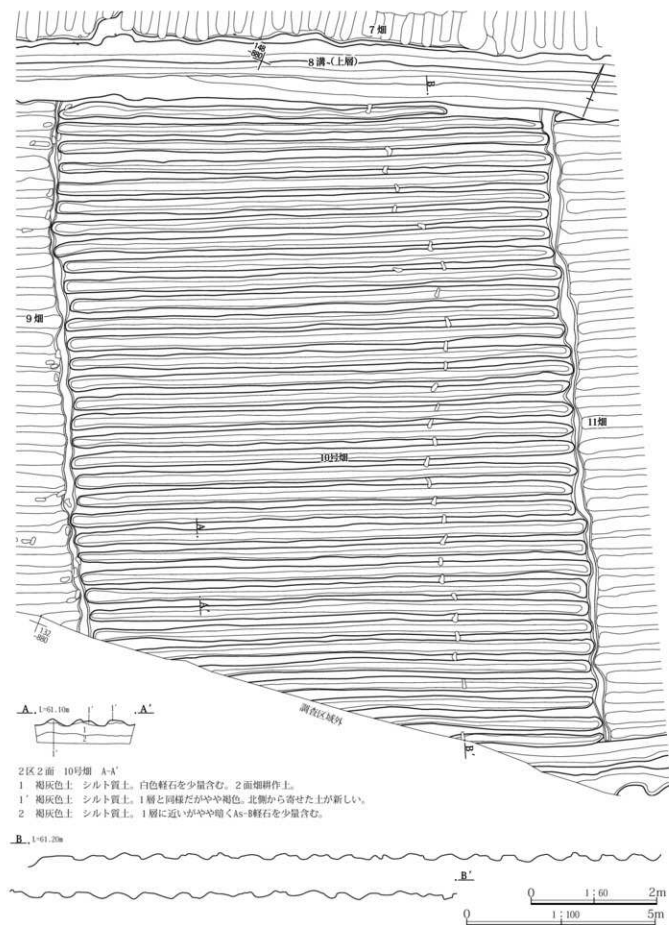


A, 1-61.20m

A'

0 1:60 2m

第65図 2区2面 9号堀

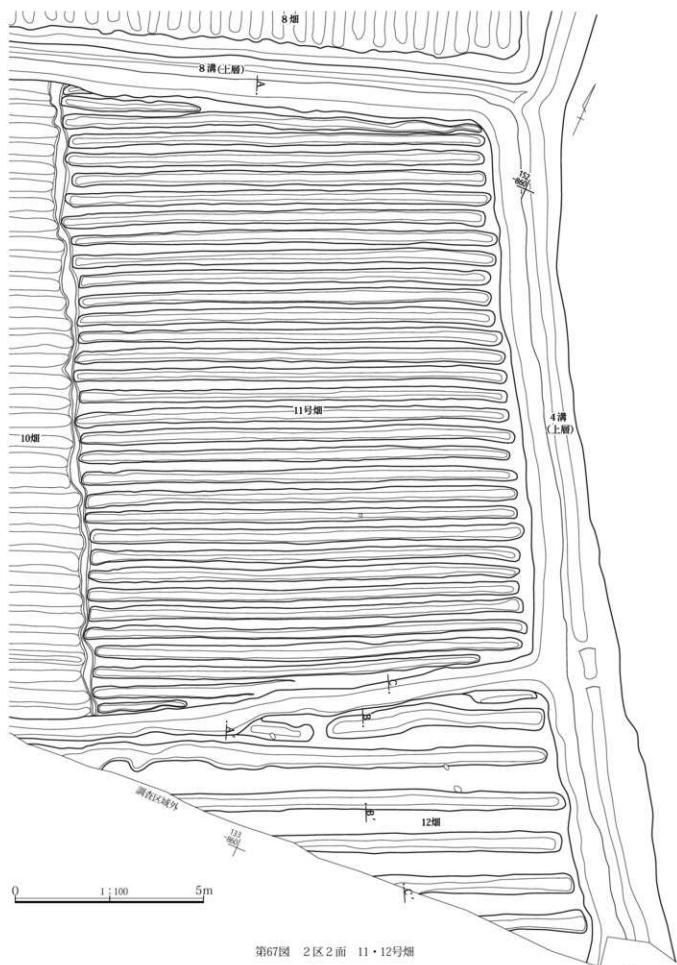


2区2面 10号層 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。白色軽石を少量含む。2面畑耕作上。
- 1' 褐灰色土 シルト質土。1層と同様だがやや褐色。北側から寄せた土が新しい。
- 2 褐灰色土 シルト質土。1層に近いがやや暗くAs-B軽石を少量含む。

B-B' 1:60

第66図 2区2面 10号層



第67図 2区2面 11・12号畑

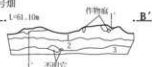
11号堀

A, L=61.20m



12号堀

B, L=61.10m



2区2面 12号堀 B-B'

1 褐色土 シルト質土。白色軽石を少量含む。2面畑耕作土。

1' 褐色土 シルト質土。1層と同層だがやや褐色。土寄せの跡。

2 褐色土 シルト質土。1層に近いがやや暗くAs-B軽石を少量含む。

3 暗灰褐色土 砂質土。As-B軽石を少量含む。

12号堀

C, L=60.10m



0 1:60 2m

第68図 2区2面 11・12号堀断面

(3)水田(第69～76図 PL.17～19・187)

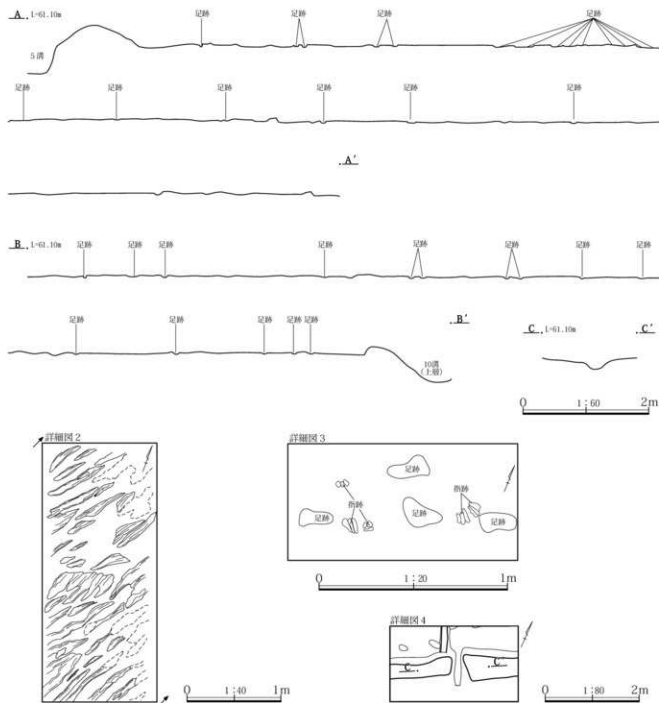
2区の東半分でAs-A軽石に覆われた水田を調査した。As-A軽石に覆われていたため、残存状況は良好であり、畦畔や水口といった水田施設のほか、農作業に伴う人の足跡や水田に飛来した鳥や溝際を歩行した小動物の足跡も確認している。1号溝(上層)と10号溝(上層)とによって水田が大きく分かれ、それぞれの場所で若干様相が異なる。

1・10号溝(上層)の北にある1号水田から6号水田では、水田面の標高は北東の5号溝(上層)東が一番高く、60.67mであり、10号溝(上層)南東の60.61mが最も低い。水口が少なく、給水については不明瞭であるが、調査区域外の北方向にあり、北側から南側へと水が流れて行ったものと考えられる。ただし、2号水田については、北にある1号水田との間に水口がなく、3号水田との間に水口があるため、東側から西側へと給水されていたものと考えられる。排水は、3～5号水田の南に1・10号溝(上層)へ繋がる水口があることから、これらの溝へと流されたと考えられる。南北畦畔の方向はN-22°Wであり、区画は南北方向が長い。南北12.8～14.6m以上、東西10～12.5mである。畦畔の規模は幅0.24～0.32m、高さ0.04～0.08mであり、この区画内では太いものはない。なお、1・2号水田の5号溝(上層)土手のすぐ東側ではAs-A軽石が残存しておらず、直接天明泥流が直接遺構面に堆積していたため、足跡等の残存状態がやや不良であった。また、2号水田耕作面にはN-54°Eの方向に天明泥流中の礫によって抉られた痕跡が残されている。

途中で折れ曲がる1号溝(上層)の南西側に位置する7号水田から13号水田では、水田面の標高は北東の60.54mが一番高く、南東の60.48mが最も低い。北東角の5号溝(上層)から給水するようになっており、隅丸三角形の水溜り(ヌルメ)が設けられている。この水溜りから7号水田に給水が行われており、この境目は水流により水田面が削られている。この後、南側或いは東側へと給水されている。排水については、調査区域内には溝へ繋がるような水口は確認していない。南北畦畔の方向はN-27°Wであり、区画は東西方向が長い。南北9.3～11.6m、東西12～15.2mである。畦畔の規模は幅0.2～0.32m、高さ0.04～0.1mであり、この区画内では太いものはない。また、水溜り(ヌルメ)の北側約半分はAs-A軽石が残存しておらず、天明泥流が直接遺構面を傷つけながら堆積していたため、足跡等の確認ができなかった。

1号溝(上層)の東、10号溝(上層)の南にある14号水田から22号水田では、水田面の標高は北西角が一番高く、60.62mであり、調査区南東の60.53mが最も低い。水口は畦畔が交差するところや1号溝(上層)の土手と接する西端に多く見られる。調査区域外の北東方向より水を入れて、北側から南側へと水が流れて行ったものと考えられる。排水については、調査区域内には溝へ繋がるような水口は確認していない。南北畦畔の方向はN-22°Wであり、区画はわずかに南北方向が長い。南北10.8～12.4m、東西9.8～11.2mである。畦畔の規模は幅0.24～0.4m、高さ0.04～0.08mであり、この区画内では太いものはないが、南北方向の畦畔は直線的に長く伸びている。また、14・16・18号水田の1号溝(上層)土手際

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物



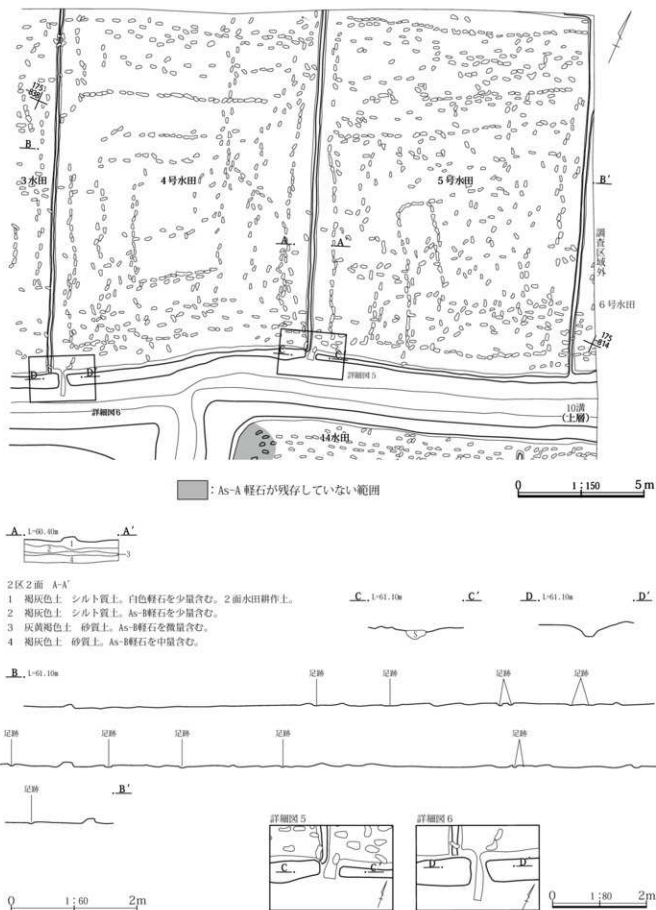
第70図 2区2面 1～3号水田断面、詳細図

では、As-A軽石が残存しておらず、天明泥流が直接遺構面に堆積していたため、足跡等の残存状況がやや不良であった。

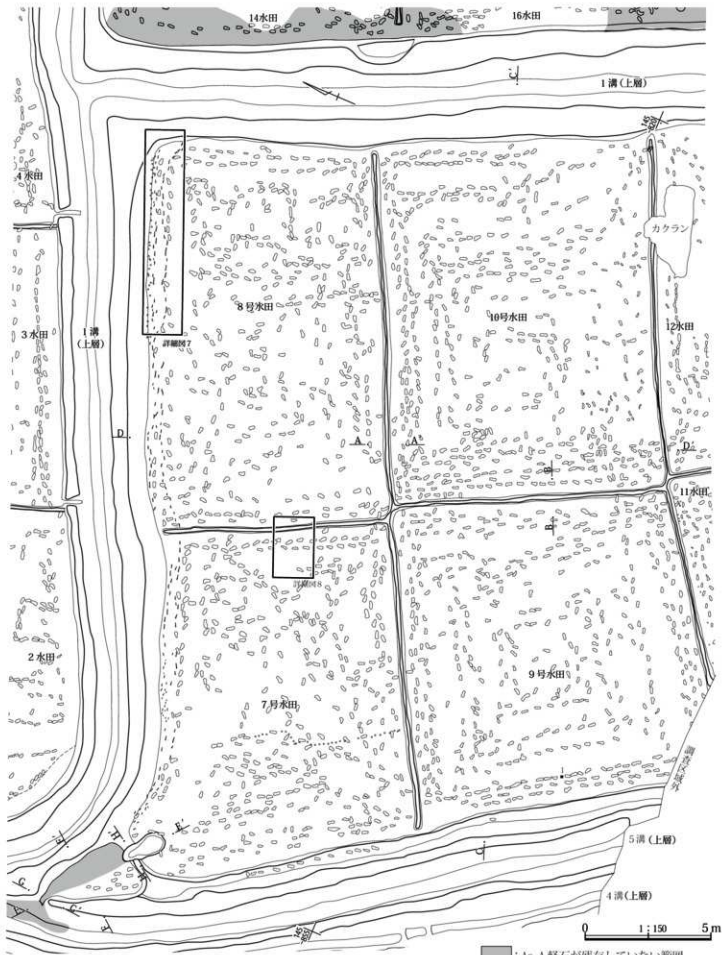
いずれの水田区画にも人の足跡が残されており、これらは南北あるいは東西方向の畦畔に沿った走行で、水田面をくまなく歩行している。2号水田と3号水田の歩行列は、左右の足跡が一列に隣りなく並び、曲がるときも

直角に折れ曲がるのが特徴である。また、9号水田は四角に渦巻き状に歩行しているのが特徴である。足跡の中には、これらの歩行列とは関係なく斜めに歩行するものや畦畔沿いを往来しているものもある。

天明泥流層とAs-A軽石層の間に酸化鉄凝集による稲の痕跡が残されており、その一部を精査したところ、As-A軽石降下時には稲は立っていたものの泥流により倒され



第71図 2区2面 4～6号水田、詳細図

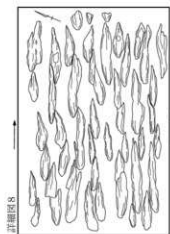
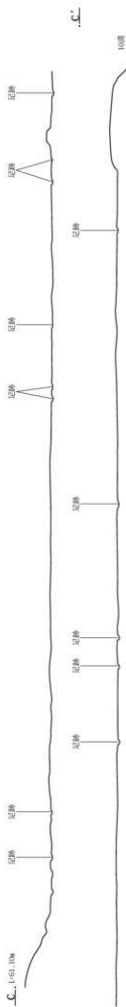


第72図 2区2面 7～10号水田



2区2面 A-A'・B-B'

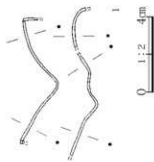
- 1 褐色土 シルト質土、白色軽石を少量含む、2部水田耕作土。
- 2 褐色土 シルト質土、As-B軽石を少量含む。
- 3 褐色土 砂質土、As-B軽石を中量含む。



詳細図8



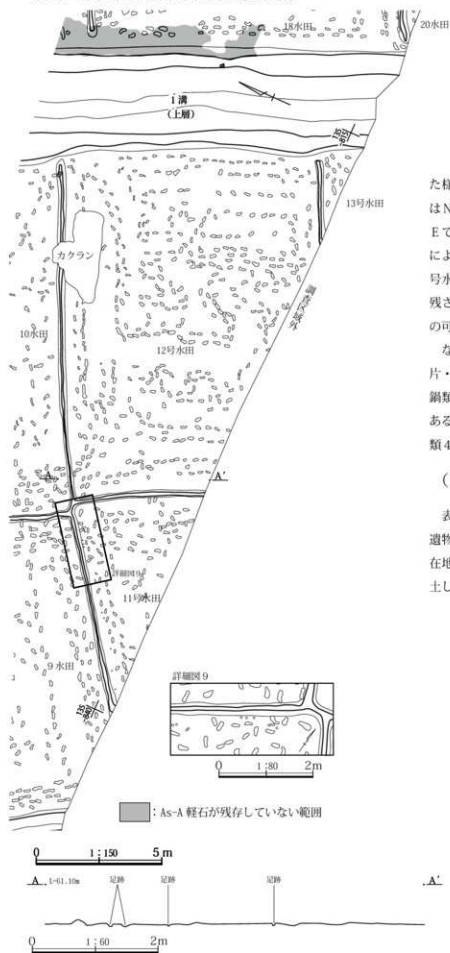
E-E'



詳細図7



第73図 2区2面 7～10号水田断面、詳細図、出土遺物



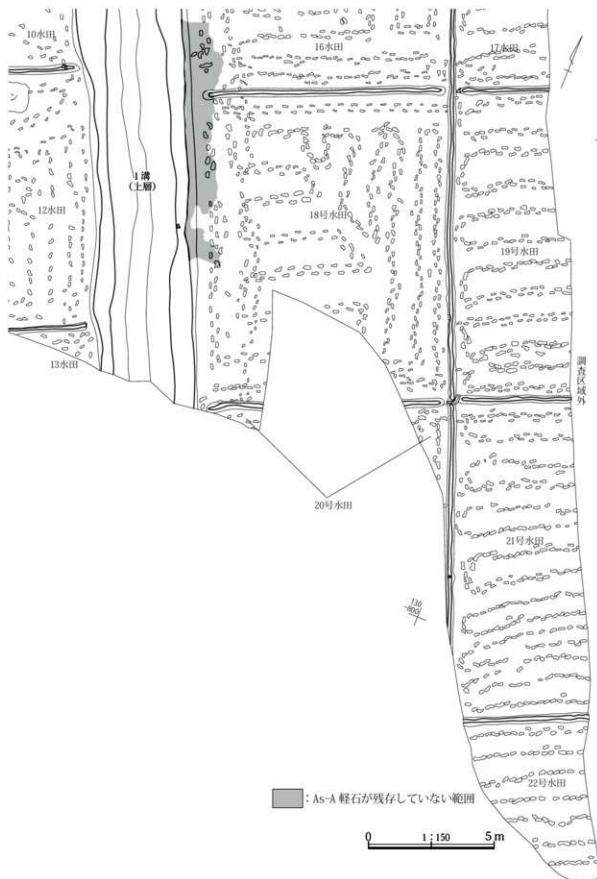
た様子が確認できた。詳細図2では稲の方向はN-33°-Eであり、詳細図8では、N-66°-Eであった。1号溝(上層)からあふれた泥流によって倒れた可能性がある。また、3・11号水田では、耕作土を掻き巻くような指跡が残されていた。これらは、草取りに伴う指跡の可能性はある。

なお、遺物は銅線(1)の他、近世の磁器8片・施釉陶器9片・在地系土器(皿類2片、鍋類2片)、黒色漆器椀、下位からの混入である土師器(杯類33片、甕類5片)、須恵器(杯類4片、甕類2片)、埴輪1片が出土した。

(4)遺構外出土の遺物

表土掘削や遺構確認中に、遺構に伴わない遺物として近世の磁器4片、施釉陶器8片、在地系土器(銅類3片)、近現代の瓦1片が出土した。

第74図 2区2面 11～13号水田



第76図 2区2面 18～22号水田

4 3区の遺構と遺物

3区は大半が水田となっており、所々に一段高く畑が作られている。わずかに部分的な攪乱により削平されているものの、近世に泥流復旧作業が行われていなかったため、遺構は良好な状態で残されていた。天明泥流の一部は、圃場整備と推測される攪乱を広く受けていたが、遺構面まで達していたところはなかった。遺構はすべてAs-A軽石により埋没しており、水田面の足跡や畑の耕作による畝の痕跡も一部では確認できている。

そして、3区においても調査区のほぼ全面が遺構であるが、調査区の北東部分、中央西寄りの6号溝と7号溝の間とその北では、水田や畑といった遺構を確認していない。北東部分ではなだらかな起伏が広がり、その中央を1号溝が貫いている。多数の足跡と直径0.2～0.45mの樹木によると考えられる穴がまばらに開いている。しかし、足跡は様々な方向を向いており歩行列としてのまとまりはなく、樹木も一定の間隔には生えていない。定まった土地利用が見受けられない場所である。5・7号溝と6号溝の間では、周辺は水田が広がっているものの、北が微高地上に高く、起伏を持つ場所が広がっている。大小様々な円礫が多くみられ、5号溝北西部では礫が集められていると考えられる場所もある。これらの礫を含む土は水田開拓や溝掘削に伴う排土の可能性もあるが、この場所は下層の砂礫層が高い位置にあり、水田耕作が困難であったため、積極的な土地利用がされなかったと考えられる。

3区における遺構数は溝10条、道路1条、畑5区画、水田26区画である。調査時に7号溝と8号溝は別々の溝として取り扱っていたが、同一と考えられるため、8号溝は報告時に欠番とした。また、25号水田の北にある溝状の掘り込みを報告時に43号溝として命名した。

(1) 溝

1号溝(第77図 PL.20)

位置：145～155・-671～-680 規模：(11.52)m×1.12～1.6m 残存深度：0.22m 走行方位：N-43°-E

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。微高地の北東部を貫くように流れ、南端は2

号溝と合流している。溝の南北両端部の高低差は、起伏が多く確認できない。溝の断面形は皿状で、底面は緩やかな起伏がある。幅はやや広いが、深度は浅い。走行は曲線的であり、用排水路として掘削された溝とは異なる。下位の重複する位置に5面32号溝が存在していることから、その凹みがこの面にまで影響しているものと考えられる。したがって、この面においては意図的な掘削を持つ溝ではなく、自然に近い落ち込みであると考えられる。

2号溝(第77図 PL.20)

位置：140～157・-670～-693 規模：(26.6)m×0.76

～0.96m 残存深度：0.36m 走行方位：N-53°-W

遺物：近世の在地系土器(銅類1片)が出土した。所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1号畑の北側を通り、途中1号溝と合流して25号水田へ注ぎ込んでいる。溝の高低差を見ると、緩やかな起伏があり、明瞭に北端が高くなってはいない。しかし、水田面の標高は2号溝より0.02m以上低く、北側から南側へと送水していたものと考えられる。溝の断面形は逆台形で、底面は緩やかな起伏があるが概ね平坦である。幅はやや狭い割に、深度は深い。規模は小さいものの掘り込みはしっかりしており水田へと流れていることから、末流の用水路であったと考えられる。

3号溝(第77図 PL.20)

位置：131～157・-676～-695 規模：(30.76)m×0.48

～0.72m 残存深度：0.08m 走行方位：N-38°-W

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1号畑の南側を通り、25号水田へ接続している。2号溝と同様の流れであり、北端は1号畑を囲むように2号溝へと方位を向けている。調査区域外の北部で2号溝から分岐している可能性もある。溝の高低差を見ると、北端が0.06m高い。溝の断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや狭く、深度は浅い。規模は2号溝より小さく、掘り込みはあまり明瞭でない。しかし北側へとは送水できないため、排水路としての機能は想定できず、25号水田と接続しているため、2号溝と同様に用水路としての機能が考えられる。

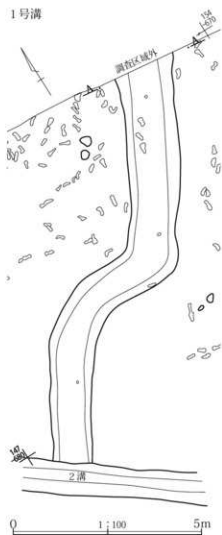
4号溝(第77図 PL.20)

位置：152～157・-693～-696 規模：(4.88)m×0.46

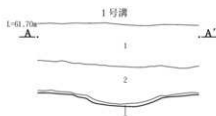
～0.58m 残存深度：0.27m 走行方位：N-32°-W

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没

1号溝



2・3・4・43号溝



3区2面 1号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流を攪拌した現代の層。
- 2 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 3 As-A軽石層

2号溝 B-B', L=61.20m



3区2面 2号溝 B-B'

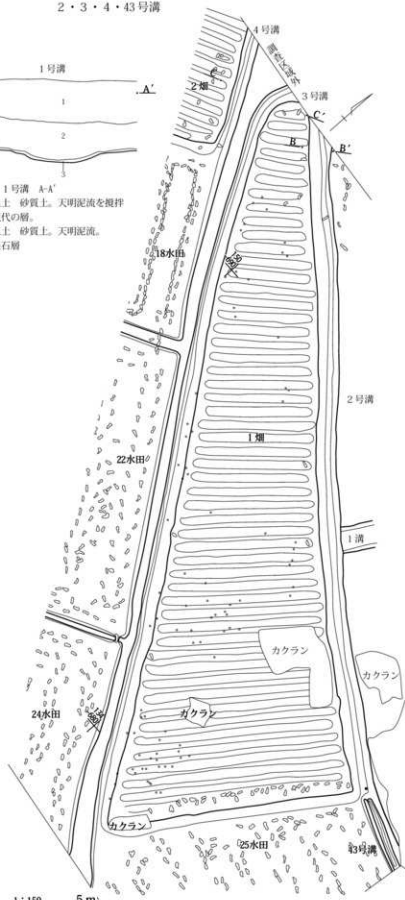
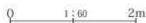
- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 As-A軽石層

4号溝 3号溝 C-C', L=61.20m



3区2面 3・4号溝 C-C'

- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 As-A軽石層



第77図 3区2面 1～4・43号溝

していた。3号溝の西側、2号畑の東側を通り、18号水田へ接続している。溝の南北両端部の高低差は、調査できた区間が短いため確認できない。断面形は立ち上がり急なため、隅丸方形に近い。底面は平坦である。幅はやや狭い割に、深度はやや深い。底面は水田面よりも0.1m程度低くなっている。規模は小さいものの水田と接続していることから、末流の用水路であったと考えられる。

5号溝(第80図 PL.20)

位置：154～161・-730～-746 規模：(15.16)m×0.22～0.72m 残存深度：0.08m 走行方位：N-68°-E

遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。11・12号水田の北側と水田北の微高地上の未利用地の間を流れている。そして10号水田の北西角で7号溝と接続せずに浅くなり、立ち上がる。溝の掘り込みは起伏が多いため、高低差は確認できなかった。断面形は、畦畔側は立ち上がり急であるが、微高地側は緩やかな逆台形状である。底面は緩やかではあるが起伏が多い。幅は狭いところが多く、深度は浅い。畦畔に平行しており、走行は直線的であるが、規模は小さく、掘り込みはさほど明瞭でない。途中で止まっていることから給水に関する溝ではなく、微高地からの雨水等の流入を防ぐなど、簡易的な排水機能を持った溝と考えられる。

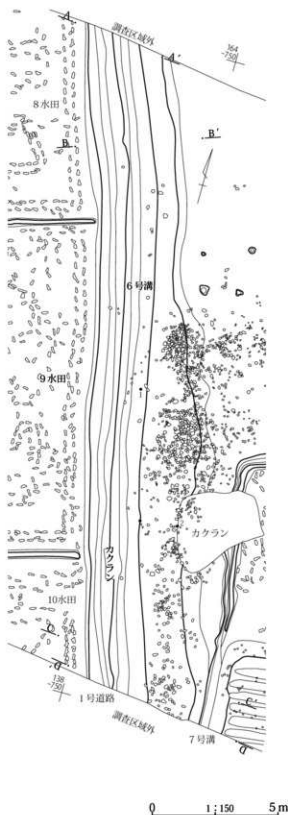
6号溝(第78・79図 PL.21)

位置：138～164・-746～-756 規模：(26.02)m×1～1.42m 残存深度：0.4m 走行方位：N-15°-W

遺物：瀬戸・美濃陶器菊皿(1)、瀬戸・美濃陶器すり鉢(2)の他、近世の施軸陶器3片が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。西隣りには1号道路が並走しており、さらに西側には水田が広がっている。東側は未利用地である微高地や河原のように礫が露出している場所が広がり、5・7号溝を境にして東側に水田や畑が広がっている。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.06m高い。溝の断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。幅は広く、深度はやや深い。規模は大きく、道路が並走していることも含めて考えると基幹的な排水路であったと考えられる。

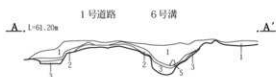
7号溝(第78～80図 PL.21)

位置：138～155・-743～-746 規模：(18)m×0.12～0.98m 残存深度：0.08～0.38m 走行方位：N-3°-W 遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によ



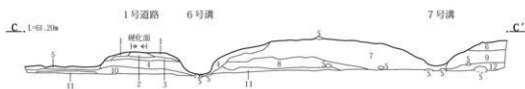
第78図 3区2面 6・7号溝、1号道路

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物



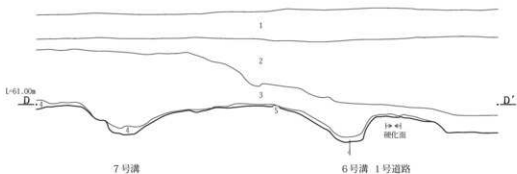
3区2面 6号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 黒褐色土 砂礫土。酸化鉄凝集を多量含む。天明泥流。
- 3 As-A軽石層



3区2面 1号道、6・7号溝 C-C'

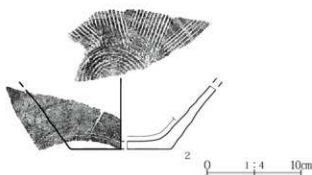
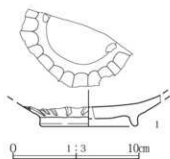
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。道の脇に寄せられた土。
- 2 灰白色土 シルト質土。しまり固い。道路硬化面。
- 3 にぶい黄褐色土 褐色灰As-B軽石混土ブロックを少量含む。しまり固い。
- 4 褐色土 シルト質土。礫を中量含む。
- 5 褐色土 シルト質土。2面畑耕作土。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。2面畑耕作土。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。礫を中量含む。
- 8 褐色土 シルト質土。As-B軽石、にぶい黄褐色土砂質土ブロック。礫を少量含む。
- 9 褐色土 シルト質土。畑造成時の盛土か。
- 10 灰黄褐色土 砂質土。As-B軽石を少量含む。
- 11 黒褐色土 砂礫土。As-B軽石を多量含む。
- 12 褐色土 砂礫土。礫を中量含む。



3区2面 1号道、6・7号溝 D-D'

- 1 砕石層
- 2 黒褐色土 砂質土。天明泥流を攪拌した現代の層。
- 3 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 4 As-A軽石層

0 1:60 2m



て埋没していた。11号水田、5号畑の西側を流れている。溝の西は礫を含む土がならかに盛り上がり、6号溝の土手のようにになっている。7号溝は、5号溝の西端近くから始まり、途中西方へ折れ曲がることもあるが、南側へと流れている。そして11号水田の南西角は水口となっており、7号溝と接続している。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.09m高い。断面形は、北側の幅が狭い部分では葉研状で、南側のやや幅が広がる部分では逆台形である。底面は礫が抜けた跡のような小さな凹みが各所にみられる。幅は11号水田の南側はやや広がるが、概ね狭く、深度も11号水田の南側はやや深いが概ね浅い。溝の始まりは他の溝との接続がなく、途中から始まっていることから、給水に関する溝ではなく水田の排水機能を持った溝と考えられる。

9号溝(上層)(第81図 PL.21)

位置:145~167・-773~-780 規模:(21.78)m×1.12~1.84m 残存深度:0.66~0.7m 走行方位:N-11°-W 遺物:近世の磁器1片・施釉陶器3片・焼締陶器1片・在地系土器(皿類1片)が出土した。 所見:As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。東隣には規模の小さな10号溝が並行しており、両脇には水田が広がっている。西側の水田とは0.15m程度の土手が築かれているが、2号水田では、排水のための水口が土手を切っけて設けられている。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.2m高い。溝の断面形は逆台形であり、下半部は立ち上がりが急で一部が缺けて袋状となっている。底面は平坦である。幅は広く、深度は深い。規模が大きいことを考えると基幹的な用排水路であったと考えられる。

10号溝(第81図 PL.21)

位置:139~167・-770~-778 規模:(28.44)m×0.36~0.44m 残存深度:0.17m 走行方位:N-15°-W 遺物:なし 所見:As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。西側の9号溝と並走しており、両脇には水田が広がっている。東側の水田とは0.1~0.12m程度の土手が築かれているが、水口は設けられていない。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.07m高い。溝の断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅が狭い割には、深度はやや深い。規模は小さいものの直線的な走行であることから末流に近い用排水路であったと考えられる。

43号溝(第77図)

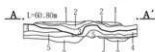
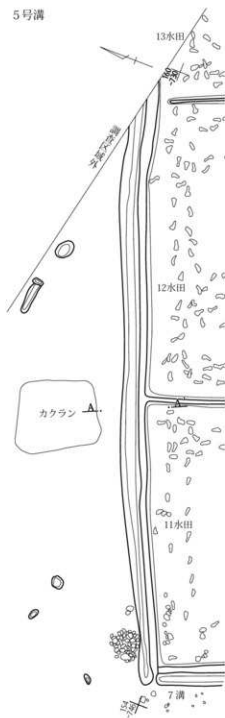
位置:138~141・-667~-671 規模:(2.96)m×0.2~0.28m 残存深度:0.18m 走行方位:N-71°-W 遺物:なし 所見:As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。2号溝と25号水田の接続部の南側から始まり、25号水田の北側の畦畔とその北の微高地の間を流れる。東西両端部の高低差は確認できない。水田面よりさらに一段低いところを流れるが、2号溝とは接続していないことから、給水の機能はなかったと考えられる。微高地と水田の間を通ることから、微高地からの流れ込む水の処理など排水機能を持った溝と考えられる。

(2)道路

1号道路(第78・79図 PL.21)

位置:138~164・-748~-757 規模:(26.28)m×0.84~1.28m 走行方位:N-16°-W 遺物:近世の施釉陶器1片・在地系土器(鍋類1片)、混入である土師器(甕類5片)が出土した。 所見:6号溝の西側を並走するようにしてほぼ南北に走る道路である。路面は硬化しており、0.2~0.36mの凹みを持つ路面が確認できる。道路の南側では、路肩付近の柔らかいところに限らず馬蹄痕が複数確認できる。道幅は広くないものの、しっかりと硬化面を持ち、基幹的用排水路である6号溝と並行して直線的に走行していることから、主要道路であったと考えられる。

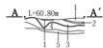
5号溝



3区2面 5号溝 A-A'

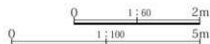
- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 黒褐色土 砂質土。酸化鉄凝集を多量含む。天明泥流。
- 3 As-A軽石層
- 4 褐灰色土 シルト質土。2面水田耕作土。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。As-B軽石を少量含む。
- 6 黒褐色土 砂質土。As-B軽石を多量含む。
- 7 明黄褐色土 砂質土。礫を多量含む。

7号溝



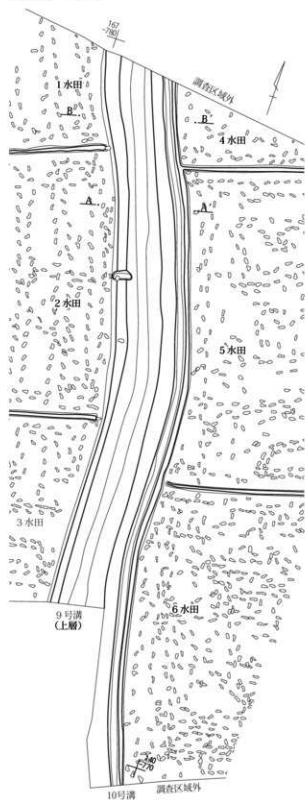
3区2面 7号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 黒褐色土 砂質土。酸化鉄凝集を多量含む。天明泥流。
- 3 As-A軽石層
- 4 褐灰色土 シルト質土。2面水田耕作土。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。黒褐色As-B軽石混土層ブロックを中量、礫を少量含む。

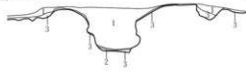


第80図 3区2面 5・7号溝

9(上層)・10号溝



9号溝(上層) 10号溝
A, 1-60.00m A'



3区2面 9(上層)・10号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 砂礫上。天明泥流。
- 2 黒褐色土 砂礫上。酸化鉄凝集を多量含む。天明泥流。
- 3 As-A軽石層

9号溝(上層) 10号溝
B, 1-61.00m B'



3区2面 9(上層)・10号溝 B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質上。2面水田耕作上。
- 1' 褐灰色土 シルト質上。酸化鉄によりやや黄味を帯びる。
- 2 褐灰色土 シルト質上。1層に似るがわずかに暗い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。灰黄褐色As-B軽石混土小ブロックを少量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。As-B軽石を微量含む。
- 5 灰黄褐色土 シルト質上。As-B軽石を少量含む。色調やや暗い。
- 4面確認面。
- 6 灰黄褐色土 シルト質上。As-B軽石を少量含む。
- 7 灰黄褐色土 砂質土。As-B軽石を中量含む。

0 1:60 2m

0 1:150 5m

第81図 3区2面 9(上層)・10号溝

(3)畑

畑の区画は、溝や水田に囲まれており、調査区域内で畑がまとまっているのは2～4号畑である。これらの畑の境は畦畔状の盛土によって区画が分かれている。それらによって区画された単位ごとに記載する。

1号畑(第82図 PL.21・22)

位置：131～157・-671～-694 サク数：52条 規模：31.84m×9.84m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.36m サク間幅：0.16m 畝方位：N-39°-E 遺物：近世の磁器1片・施釉陶器2片が出土した。 所見：2号溝の南西側、3号溝の北東側、25号水田の北西側に位置する。2条の溝と水田よりは一段上にあり、水田面より0.4～0.5m程度高い。2・3号溝に挟まれた区画を畑としているため、区画の形状が細長い三角形になっている。そのため、北西よりのサクは短く、南東寄りのサクは長くなっている。しかし、南東端のサクは24号水田との区画境に接するため、短くなっている。3号溝との境には直径0.05～0.15m程度の植栽と考えられる穴が開いている。畑の区画際には足跡が残っており、特に南東際が多い。しかし、北東から南西へ向かう足跡が多いもの歩行列としてはまとまっておらず、複数の時期や人によるものと考えられる。畝は南東側が盛り上がるように土寄せされているが、大小様々な大きさの耕作土ブロックが目立つ。サクの底面は平坦である。

2号畑(第83図 PL.22)

位置：148～158・-694～-707 サク数：21条 規模：10.36m×10.16m 畝高さ：0.08m 畝幅：0.33m サク間幅：0.15m 畝方位：N-63°-E 遺物：近世の施釉陶器1片が出土した。 所見：4号溝の南西側、12号水田の北東側、17号水田の北西側、3号畑の南東側に位置する。4号溝や水田よりは一段上にあり、水田面より0.3～0.4m程度高い。4号溝や水田畦畔の区画の延長上にあり、18号水田の北半分を畑に転換したような立地である。3号畑とは低い畦畔状の盛土で区画されている。畑には所々足跡が残っており、サクの西端では、南へ向かう歩行列が確認できる。畝は北西側が盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

3号畑(第84図 PL.22)

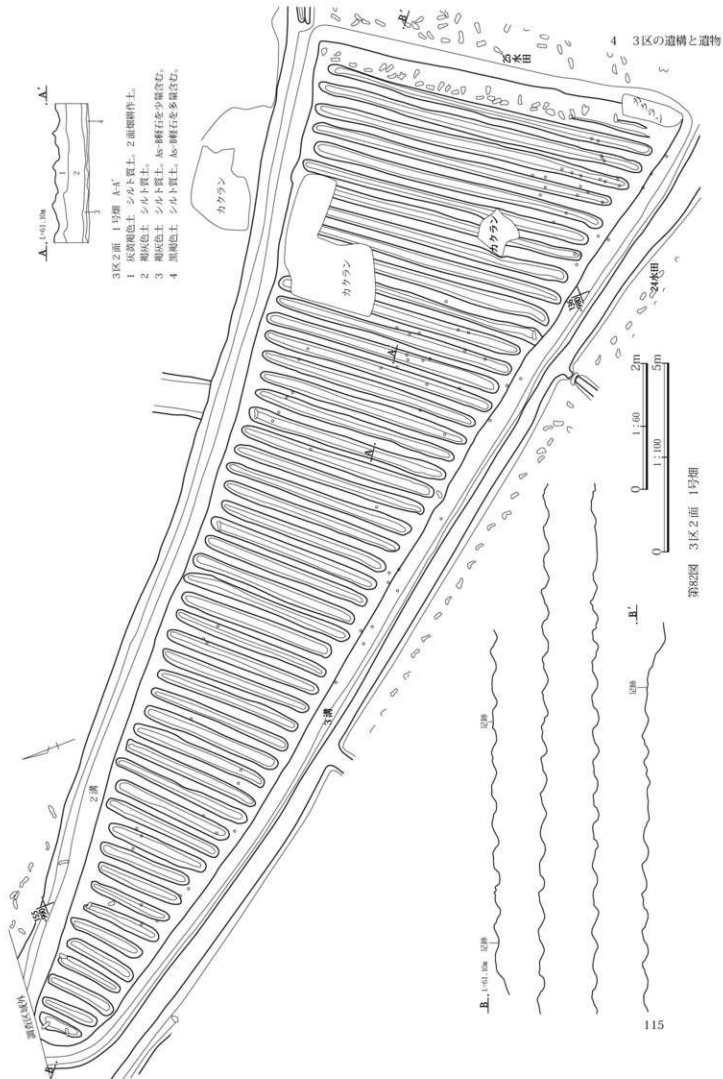
位置：155～169・-706～-712 サク数：3条 規模：(4.68)m×(2.6)m 畝高さ：0.18m 畝幅：0.76m サク間幅：0.28m 畝方位：N-62°-E 遺物：なし 所見：2号畑の南西側、17号水田の北側、4号畑の東側に位置する。水田よりは一段上にあり、水田面より0.5m程度高い。畑の区画は水田の畦畔やその軸に沿っており、2号畑との境は南西部にある東西方向の畦畔の延長上にある。しかし、4号畑との境は南東部にある南北方向の畦畔より西に飛び出している。4号畑とは低い畦畔状の盛土で区画されている。幅の広い畝であり、1区7号畑などと共通する特徴を持つ。畝は南東側が高くなっており、土寄せによるものと考えられ、耕作土ブロックが目立つ。そして、直径0.02～0.03mの株跡の穴が畝の南東寄りにある。穴の間隔は0.29mである。サクの底面は平坦である。

4号畑(第84図 PL.22)

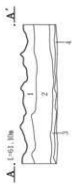
位置：150～160・-710～-723 サク数：11条 規模：(10.12)m×9.08m 畝高さ：0.14m 畝幅：0.84m サク間幅：0.2m 畝方位：N-64°-E 遺物：近世の施釉陶器1片が出土した。 所見：3号畑の西側、16号水田の北側、13号水田の東側に位置する。水田よりは一段上にあり、水田面より0.35～0.4m程度高い。畑の区画は水田の畦畔やその軸に沿っており、南端は南西にある東西方向の畦畔の延長上にある。しかし、西端のラインは水田区画より西に飛び出している。3号畑と同様に幅の広い畝であり、1区7号畑などと共通する特徴を持つ。畝は南東側が高くなっており、土寄せによるものと考えられ、耕作土ブロックが目立つ。そして、直径0.02～0.03mの株跡の穴が畝の南東寄りにある。穴の間隔はややばらつきがあり、0.2～0.4mである。サクの底面は平坦である。

5号畑(第84図 PL.22)

位置：137～143・-735～-744 サク数：9条 規模：7.84m×(5.02)m 畝高さ：0.08m 畝幅：0.32m サク間幅：0.16m 畝方位：N-83°-E 遺物：近世の磁器1片・施釉陶器2片が出土した。 所見：11号水田の南側、14号水田の西側、7号溝の東側に位置する。7号溝や水田よりは一段上にあり、水田面より0.5m程度高い。畑の区画は北東にある水田の畦畔に沿っているが、軸は東側にず

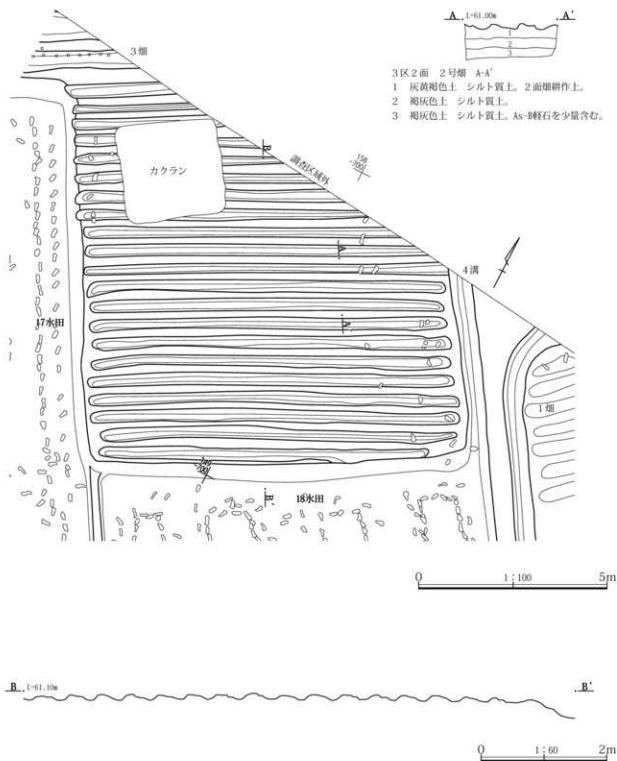


4 3区の遺構と遺物



- 3区2面 1号畑 A-A'
- 1 灰褐色土 シルト質土, 2面畑耕作土。
 - 2 赤灰色土 シルト質土。
 - 3 赤灰色土 シルト質土, AS-砂粒石を少量含む。
 - 4 黒褐色土 シルト質土, AS-砂粒石を多量含む。

第82図 3区2面 1号畑



第83図 3区2面 2号畑

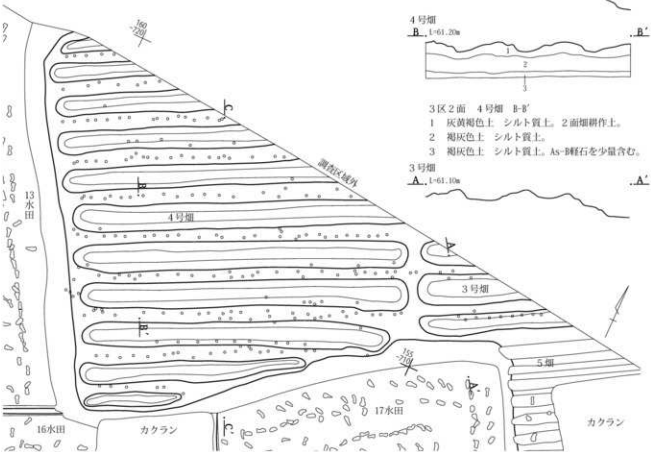
れている。7号溝や水田との境には直径0.05～0.15m程度の植栽と考えられる穴が多数開いている。畝は南側がやや高くなっており、土寄せによるものと考えられる。耕作土には直径0.055m程度の小円礫が混じっており、下層に

ある砂礫層の影響が考えられる。そして、直径0.02～0.03mの株跡の穴が畝の南東寄りにあるが、粗密が多く、穴の間隔は不明である。サクの底面は平坦である。

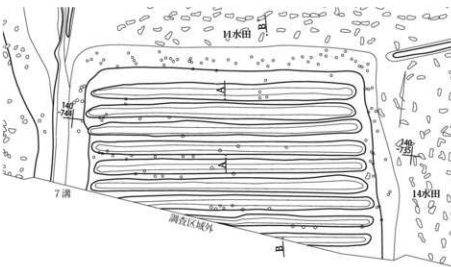
3・4号畑

4号畑

C, L-61.20m



5号畑



5号畑

B, L-61.20m

B'

0 1:60 2m

0 1:100 5m

第84図 3区2面 3～5号畑

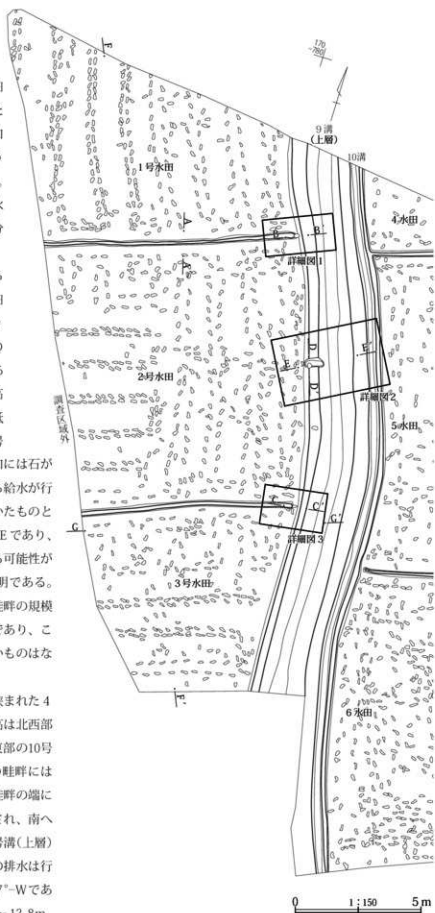
(4)水田

(第85～94図 PL.22～24)

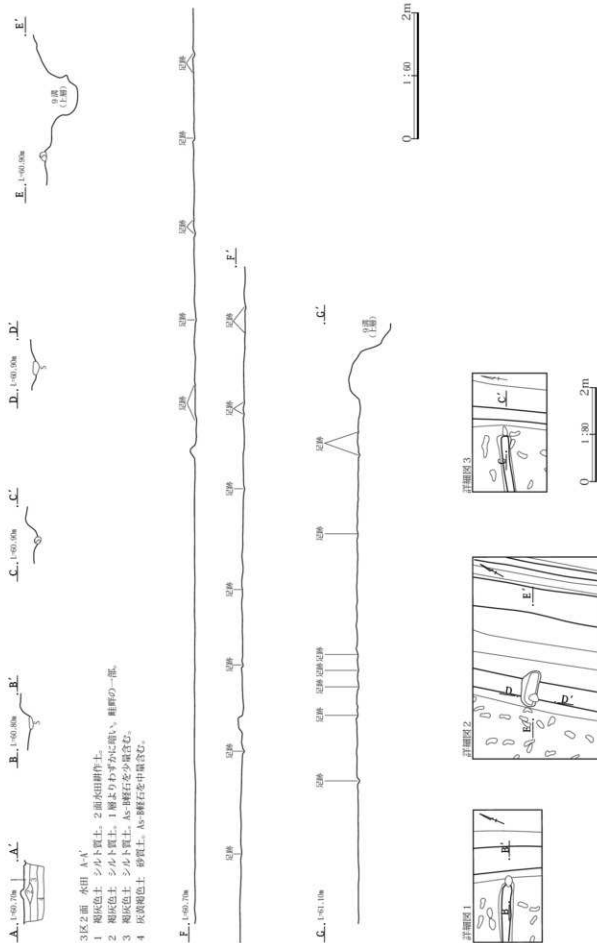
3区の大半でAs-A軽石に覆われた水田を調査した。As-A軽石に覆われていたため、残存状況は良好であり、畦畔や水口といった水田施設のほか、農作業に伴うと考えられる人の足跡も確認している。南北方向に流れる溝や大畦畔によって水田区画は大きく分かれており、その区分けごとに記載する。

9号溝(上層)の西にある1号水田から3号水田では、水田面の標高は2号水田の西側が一番高く、60.58mであり、9号溝(上層)に近い3号水田の北東部の60.5mが最も低い。南北での標高差はあまりなく、中央の2号水田が高い。標高差は東西方向にあり、西が高く、東が低くなっている。水口は東西畦畔が9号溝(上層)と接するところにあり、各水口には石が置かれていた。調査区域外の西方向から給水が行われて、9号溝(上層)へと排水されていたものと考えられる。東西畦畔の方向は $N-71^{\circ}-E$ であり、区画はほぼ正方形か東西方向が長くなる可能性があるものの、調査区域外になるため不明である。南北10.1m、東西10.2m以上である。畦畔の規模は幅0.2～0.3m、高さ0.05～0.05mであり、この区画内では大畦畔といえるような太いものはない。

9号溝(上層)と6号溝・1号道路に挟まれた4号水田から10号水田では、水田面の標高は北西部の4号水田の60.72mが一番高く、南東部の10号水田の60.55mが最も低い。南北方向の畦畔には水口は設けられておらず、東西方向の畦畔の端に確認できる。調査区域外の北から給水され、南へと流れた言ったものと考えられる。9号溝(上層)西の水田とは異なり、9号溝(上層)への排水は行われていない。南北畦畔の方向は $N-17^{\circ}-W$ であり、区画は南北方向が長い。南北12.6～12.8m、東西8.3～10.5mである。畦畔の規模は幅0.2～



第85図 3区2面 1～3号水田



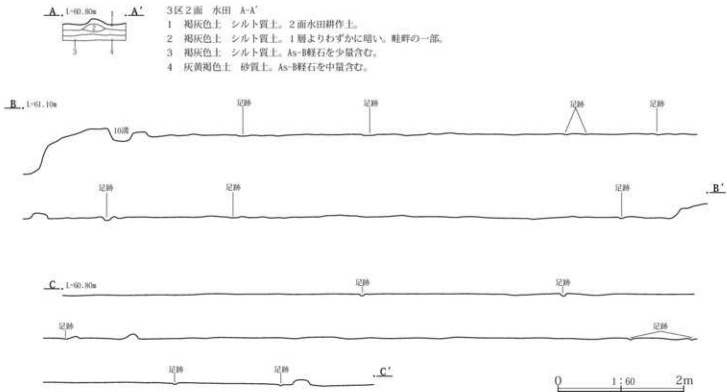
3区2面 水田 A-A'

- 1 褐色土 シルト質土。2面水田耕作土。
- 2 褐色土 シルト質土。1層よりわずかに強い。畦筋の一部。
- 3 褐色土 シルト質土。As-黒粒石を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 砂質土。As-黒粒石を中量含む。

第86図 3区2面 1～3号水田断面、詳細図



第87図 3区2面 4～10号水田



第88図 3区2面 4～10号水田断面

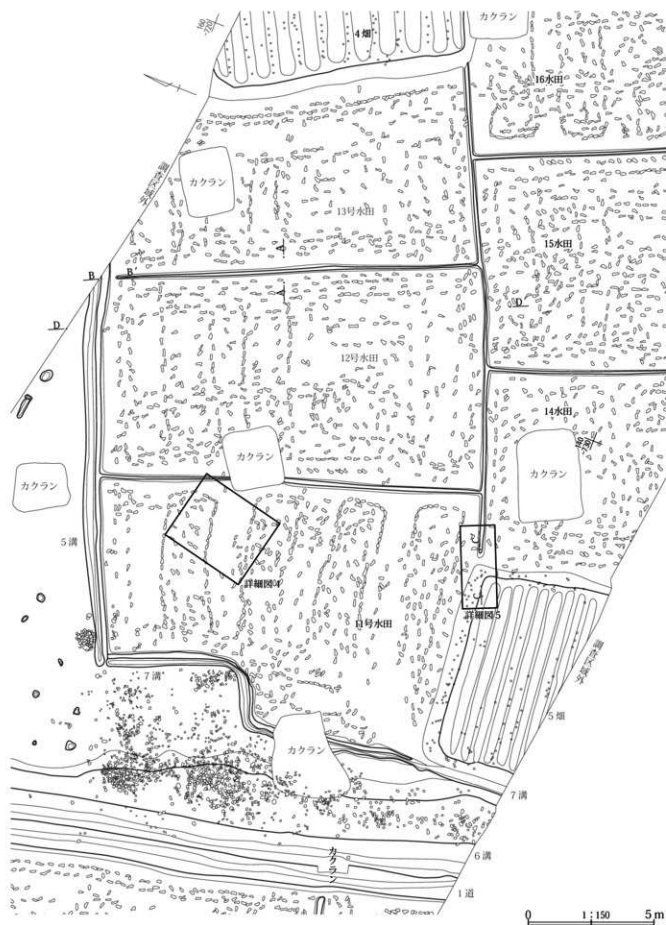
0.36m、高さ0.07～0.09mであり、この区画内では太いものはない。

7号溝と3号溝に挟まれた11号水田から24号水田は所々に畑があるものの、ほとんどが水田区画が続いている。しかし、16号水田から18号水田の南には大畦畔が存在することから、19号水田以降とは分けて考える必要がある。11号水田から18号水田では、水田面の標高は北にある13号水田南西部の60.56mが最も低い。水口はいくつか確認することができ、13号水田から北端の水口から14号水田への流れが確認できる。また、18号水田は4号溝から給水を受けて、17号水田、16号水田へと西に向かって流れていたことがわかる。11号水田については、12号水田の攪乱部に水口があり、そこから給水を受けていたのか、あるいは14号水田から受けていたのかは定かでないが、少なくとも7号溝へ排水していた可能性が高い。南北畦畔の方向はN-23°～27°-Wである。規模は南北6.9～16.4m、東西7.1～10.2mで、南北方向が長い。18号水田は北にある2号畑が突き出ているため、南北方向が極端に短くなっている。畦畔の規模は幅0.12～0.44m、高さ0.04～0.1mである。南東部の大畦畔は幅0.52

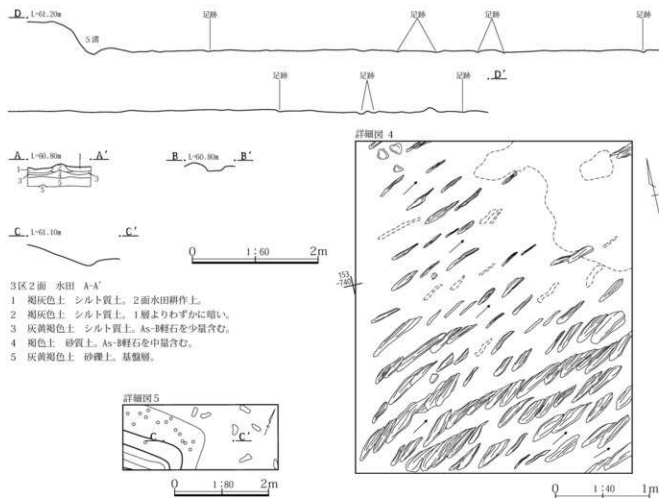
～0.72m、高さ0.8～1.7mである。大畦畔には足跡が残されており、大畦畔をまたいで南北に往来していたものであることから、この大畦畔によって、所有者あるいは耕作者が分けられていないことが推測される。

大畦畔の南側で3号溝より西側にある19号水田から24号水田では、水田面の標高は北東部の22号水田北の60.65mが一番高く、南東部の24号水田東の60.51mが最も低い。水口は22号水田と24号水田の間で2か所しか確認できない。標高の比較的高い22号水田には他に水口がないことから、南側の24号水田から給水を受けていたと考えられる。3号溝とは大畦畔と同様の規模の土手で区切られており、水口は確認できなかった。南北畦畔の方向はN-33°-Wであり、区画は南北方向が長い。南北11.2～11.3m、東西7.6～9.4mである。畦畔の規模は幅0.28～0.52m、高さ0.04mである。

2・3号溝、1号畑の東側に広がる25号水田から26号水田では、水田面の標高は25号水田西側の60.67mが一番高く、26号水田北側の60.57mが最も低い。水口は2号溝と3号溝が25号水田と繋がっている。2号溝から給水されたと考えられる。3号溝は極めて浅いことから排水路として用いられたか否か不明である。南北畦畔の方



第89図 3区2面 11～13号水田



第90図 3区2面 11～13号水田断面、詳細図

向はN-32°-Eであり、区画は東西南北どちらが長いかは不明である。確認できるところは南北11.3m、東西11.6mである。畦畔の規模は幅0.28～0.36m、高さ0.08mであり、この区画内では太いものはない。

いずれの水田区画にも人の足跡が残されており、これらは南北あるいは東西方向の畦畔に沿った走行で、水田面をくまなく歩行している。直線的な移動が多いが、中には弧を描くようにしている歩行列も見受けられる。足跡の中には、これらの歩行列とは関係なく斜めに歩行するものや畦畔沿いを往來しているものもある。

天明泥流層とAs-A軽石層の間に酸化鉄凝集による稲の痕跡が残されており、その一部を精査したところ、As-A軽石降下時には稲は立っていたものの泥流により倒された様子が確認できた。詳細図6の地点では稲の方向はN-80～86°-Eであり、詳細図4の地点では、N-55

～68°-Eであった。基本的には西側から流れてきた泥流によって倒れた可能性がある。

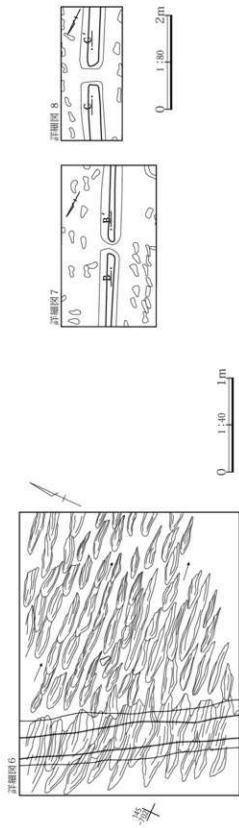
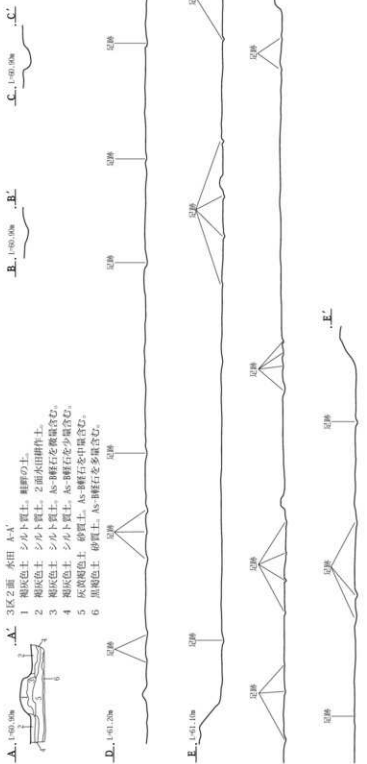
出土遺物には、近世の磁器2片・施釉陶器6片・在地系土器(銅類6片)、下位等からの混入である中世の焼締陶器1片、須恵器(杯類1片、甕類2片)が出土した。

(5) 遺構外出土の遺物

表土掘削や遺構確認中に、遺構に伴わない遺物として近世の施釉陶器1片が出土した。



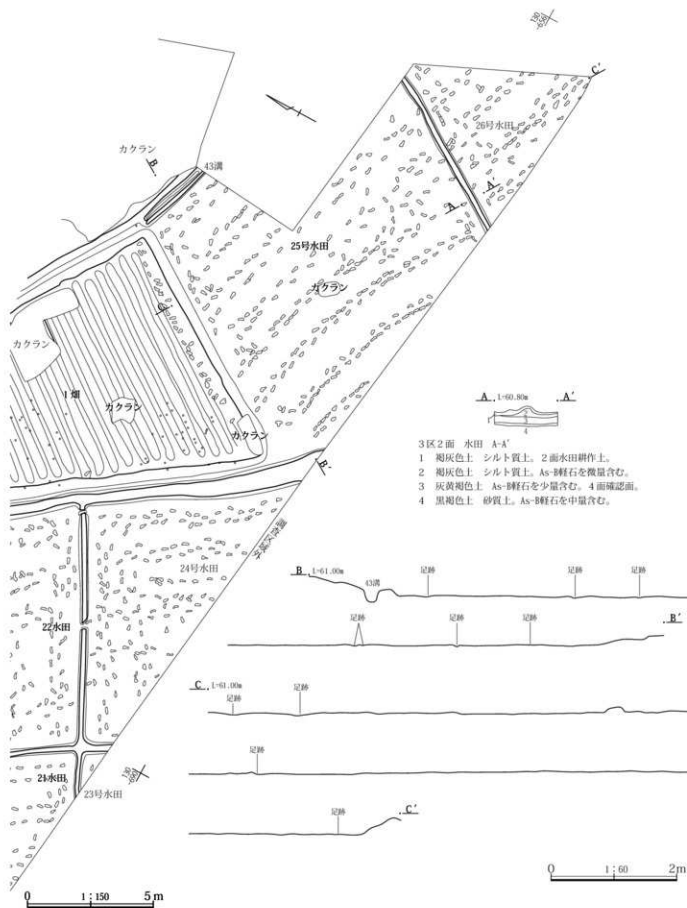
第91図 3区2面 14～17号水田



第92図 3区2面 14～17号水田断面、詳細図



第93図 3区2面 18～22号水田



第94図 3区2面 23～26号水田

5 4区の遺構と遺物

4区は大半が泥流埋没後の復旧作業により、2面の遺構面が掘削されており、復旧されなかった南西部分を除くとAs-A軽石直下にあった天明三年当時の遺構の残存状況は非常に悪い。復旧溝や土坑の間隙からは断片的に畦畔が確認でき、調査区の大半が水田であったと考えられる。ただし、1号溝と2号溝とに挟まれた南東部の一角は畑となっていたことが確認できることから、3区と同様に所々に畑があった可能性がある。北西角にある4号溝西側は攪乱が多いが、微高地上となっており、3区北東部の土地利用が不明である微高地と繋がるものと考えられる。また、その近くの12号水田北側も微高地上となっており、畑としての土地利用が想定されるものの、7号復旧溝群による掘削で明らかにできなかった。遺構数は溝5条、畑1区画、水田6区画である。調査時に5号復旧溝群下溝状遺構としていたものは報告時に79号溝とした。また、水田区画は区画が明らかなものみに番号を付しており、本来は1号溝の東側、3号溝の東西両側も水田が広がっていたものと考えられる。

(1) 溝

1号溝(下層)(第95図 PL.24)

位置：107～137・-542～-555 規模：(32.08)m×1.24～1.76m 残存深度：0.52～0.98m 走行方位：N-2°-E→N-42°-E→N-20°-W 遺物：在地系土器(鍋類2片)、板碑片の他、下位からの混入である土師器(杯類1片)、須恵器(甕類2片)、埴輪1片が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していたが、上面を中心に復旧作業が行われ、現代の圃場整備直前まで使用されていた。部分的に天明泥流及びAs-A軽石が底面に残存しており、天明三年当時も天明泥流復旧後と同じ流路であったと考えられる。北側から南南西方向に流れ、3号溝と合流すると進路が南南東方向に変わっている。比高差は0.1mである。溝の断面形は逆台形で、底面はやや凹凸がある。そして、As-A軽石降下帯にはすでに埋没していたが、底面幅縁にビット状の穴がいくつも開いている。これらの穴については、溝の立ち上がり部分の脇に開けられていることから、土留めの杭の可能性もある。溝の幅は広く、深度は深い。溝の規模が大きく、泥流埋没後も復旧されて使用されていることから、基幹的な用排水路であったと

考えられる。

2号溝(第95図)

位置：108～112・-542～-559 規模：(3.36)m×1.34～1.8m 残存深度：0.55m 走行方位：N-57°-E 遺物：近世の施釉陶器2片が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していたが、その後復旧された1号溝とは異なり、埋没したままとされている。1号溝と3号溝との合流点から始まり、南西方向へ向かって流れている。調査できた距離は短いものの、比高差は0.03mである。溝の断面形は逆台形で、底面は礫の抜けた跡のような凹みが各所に見られる。幅は広く、深度は深い。溝の規模が大きく、基幹的な用排水路であったと考えられる。1・3号溝と接続していることから、同様に基幹的な用排水路であったと考えられる。

3号溝(第96図 PL.24)

位置：111～143・-544～-581 規模：(39.1)m×0.9～1.7m 残存深度：0.62～0.68m 走行方位：N-40°-W 遺物：近世の磁器2片・施釉陶器5片、板碑片の他、下位からの混入である土師器(杯類1片)、須恵器(杯類1片、甕類1片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していたが、その後復旧された1号溝(下層)とは異なり、埋没したままとされている。北西から南東に向かって流れ、1号溝(下層)・2号溝と合流している。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.05m高い。溝の断面形は逆台形で、底面はやや凹凸がある。幅は広く、深度は深い。溝の規模が大きく、基幹的な用排水路であったと考えられる。1号溝(下層)・2号溝と接続していることから、同様に基幹的な用排水路であったと考えられる。

4号溝(第97図 PL.24)

位置：134～151・-640～-648 規模：(16.48)m×0.92～1.18m 残存深度：0.6m 走行方位：N-25°-E 遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。西側には微高地が広がり、東側には0.2m程度の高さの土手が築かれ、水田が広がっている。溝の南北両端部の高低差を見ると、南側が0.05m高くなっているが、地形から考えると北側から南側へ水が流れていた可能性が高い。溝の断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅は広く、深度は深い。溝の規模は大きいことから基幹的な用排水路であったと考えられる。

1号溝(下層)



4区2面 1号溝(下層) A-A'

- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 褐灰色土 褐色土上のブロック含む。
- 3 As-A軽石層 上半は、鉄分凝集して茶色。
- 4 As-A軽石層

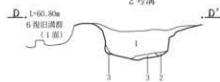


4区2面 1号溝(下層) B-B'

- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 As-A軽石層



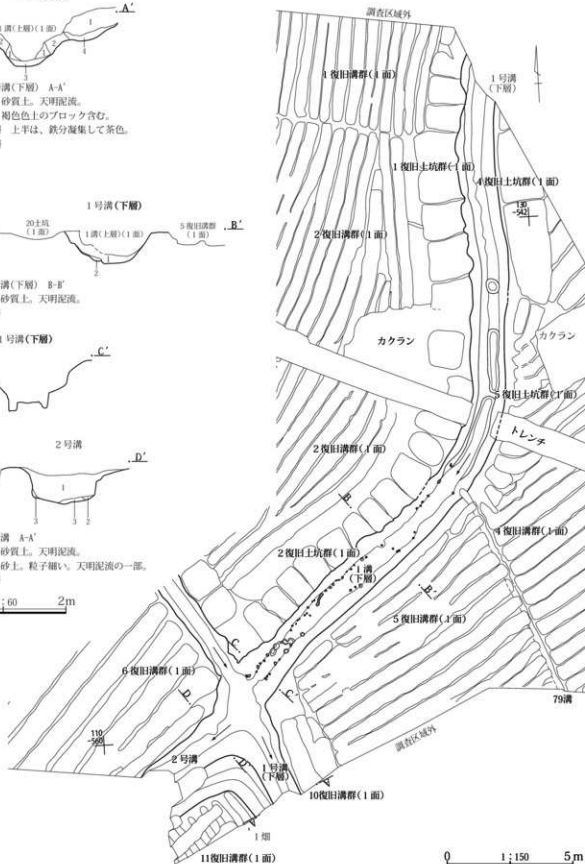
2号溝



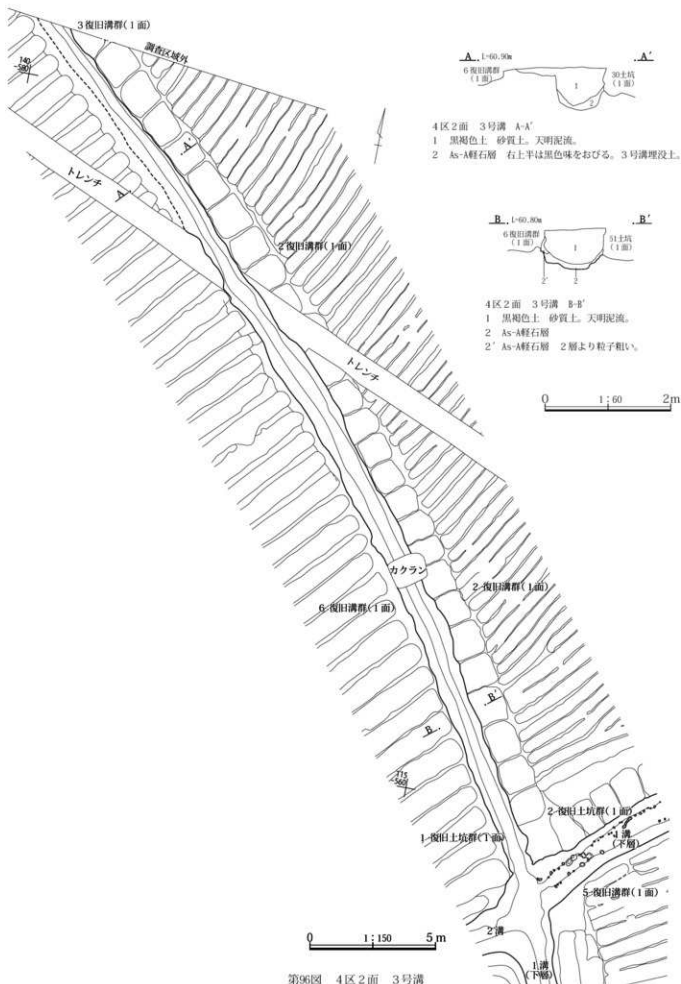
4区2面 2号溝 D-D'

- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 黒褐色土 砂土。稗子細い。天明泥流の一部。
- 3 As-A軽石層

0 1:60 2m

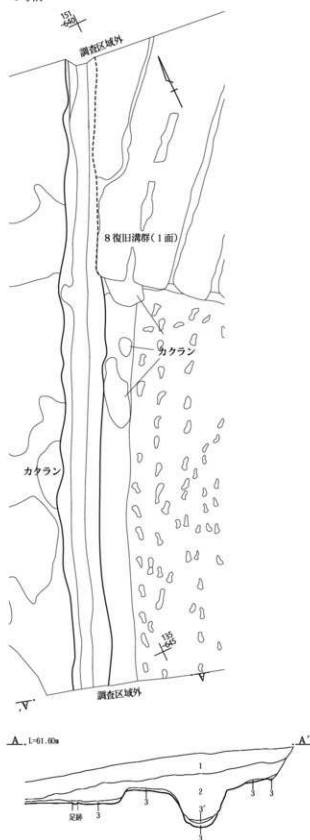


第95図 4区2面 1(下層)・2号溝



第96図 4区2面 3号溝

4号溝



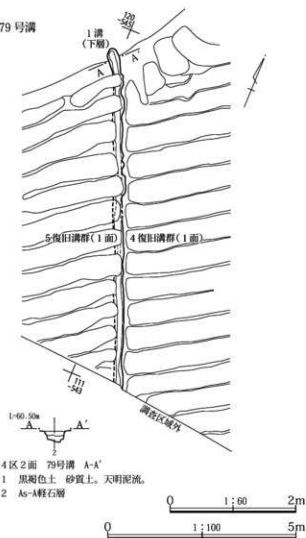
4区2面 4号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 天明泥流が攪乱を受けたもの。
- 2 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 3 As-A軽石層
- 3' As-A軽石層 黒褐色土を少量含む。

79号溝(第97図)

位置：111～120・541～546 規模：(8.54)m×0.24m 残存深度：0.18m 走行方位：N-22°-W 遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1面5号復旧溝群は、この溝の位置から始めており、天明泥流復旧作業の区画境となっていた溝である。この溝の北端は1号溝(下層)と接続している。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.08m高い。したがって、1号溝(下層)から南側へ送水していたと考えられる。走行は直線的である。溝の断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅は狭い割には深度がある。溝の規模は小さいものの、1号溝(下層)と接続していることから、水田等へ給水する末流に近い用水路であったと考えられる。周辺は復旧溝群による掘削で確認できないものの、溝周辺には水田が広がっていた可能性がある。

79号溝



4区2面 79号溝 A-A'

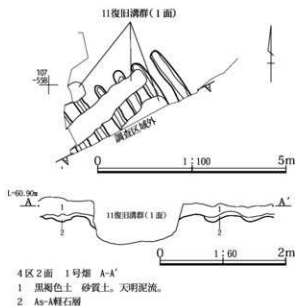
- 1 黒褐色土 砂質土。天明泥流。
- 2 As-A軽石層

第97図 4区2面 4・79号溝

(2)畑

1号畑(第98図 PL.24)

位置:105~108・-554~-558 サク数:6条 規模:(3.68)m×(1.8)m 畝高さ:0.12m 畝幅:0.46m
 サク間幅:0.14m 畝方位:N-34°-W 遺物:板碑片が出土した。 所見:1号溝(下層)と2号溝に挟まれた調査区域南東部に位置する。2号溝西側とはほぼ同じ高さであるが、1号溝(下層)東側よりは0.2m程度高い。1面11号復旧溝群により多く破壊されている。畝の土寄せの状況は定かでないが、サクの底面は浅いU字形である。



第98図 4区2面 1号畑

(3)水田(第99~102図 PL.24・187)

天明泥流復旧作業によって多くが破壊されたものの、残存している畦畔から4区の大半は水田が広がっていたものと考えられる。As-A軽石に覆われて良好な状態で調査できた水田区画は、4区南西部の1号水田から7号水田までである。それ以外の水田区画については、部分的に残存している畦畔から区画を推定したものであり、歩行列などの区画内の状況についてはほとんど明らかでできなかった。確認できている範囲では、大畦畔は確認していないが、大ききは4号溝から2・3号溝までの間と、3号溝と1号溝(下層)の間の区画に分けられる。そして、4号溝から2・3号溝の間の区画では、東西(北西~南東)畦畔によって4列に分けられると考えられる。

4区の水田の中で、残存状態の良い1号水田から7号水田では、他の調査区と同様に水田区画内を行き来する歩行列も残されている。一列南の6・7号水田については、残存状態は良好であるが、大半が調査区域外であり、詳細は不明である。水田面の標高は1号水田の北西部が一番高く、60.68mであり、5号水田の60.59mが最も低い。各水田区画内での標高差はあまりなく、1号水田から5号水田に向かって低くなっている。6・7号水田では不明であるが、1号水田から5号水田では、北の東西畔と接する部分に水口が設けられており、そのように水が流れていたものと考えられる。しかし、1号水田への給水路については、北西角に水口があるものと想定

されるが、攪乱や復旧溝群により、明らかにできなかった。4号溝は基幹的な排水路であり、そこから直接取水することはないと考えられるので、北側に位置する11号水田から給水を受けていたと考えられる。排水については明らかにできなかった。南北畦畔の方向はN-30°-Eであり、区画は南北方向が長い。南北15.5~15.8m、東西8.3~9.1mである。畦畔の規模は幅0.2~0.32m、高さ0.07~0.12mであり、この区画内では太いものはない。

1号水田から5号水田の北側の列にある8号水田から16号水田では、畦畔と水口の一部を確認したに過ぎない。しかし、残存している畦畔から区画の規模等については推定することができた。水田面の標高は8号水田から10号水田の列は不明である。11号水田から17号水田の列では、11号水田北西部の60.69mが一番高く、南東の15号水田の60.62mが最も低い。標高差のあり方は1号水田の列と同様であると考えられ、西側から東側へと水が流れたものと考えられる。水口は南北畦畔の両端に設けられている。南北畦畔の方向は8号水田から10号水田がN-42°-Eであり、11号水田から16号水田がN-40°-Eである。区画は微高地と接している11・12号水田を除くとすべて南北方向が長い。10.3~19.8m、東西8.1~11.2mである。畦畔の規模は幅0.32~0.4m、高さ0.06~0.1mである。なお、3号溝西側には、北部に土手が残存しており、水田が3号溝まで広がっていた可能性が高い。

3号溝から1号溝(下層)の間でも畦畔は確認したが、

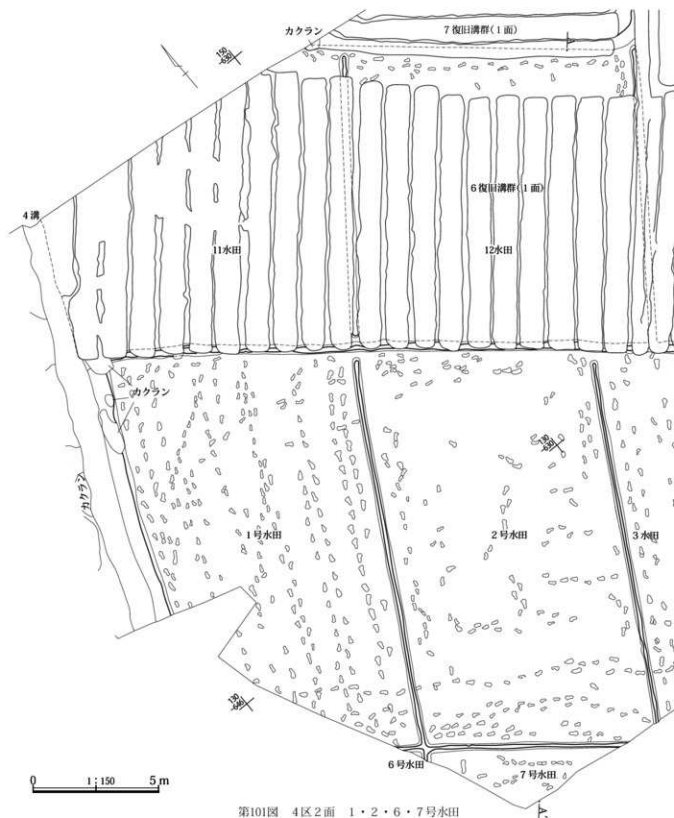


第99図 4区2面 8～10号水田

区画は不明である。南北畦畔の方向はN-37°-Eである。
畦畔の規模は幅0.35m、高さ0.1mである。

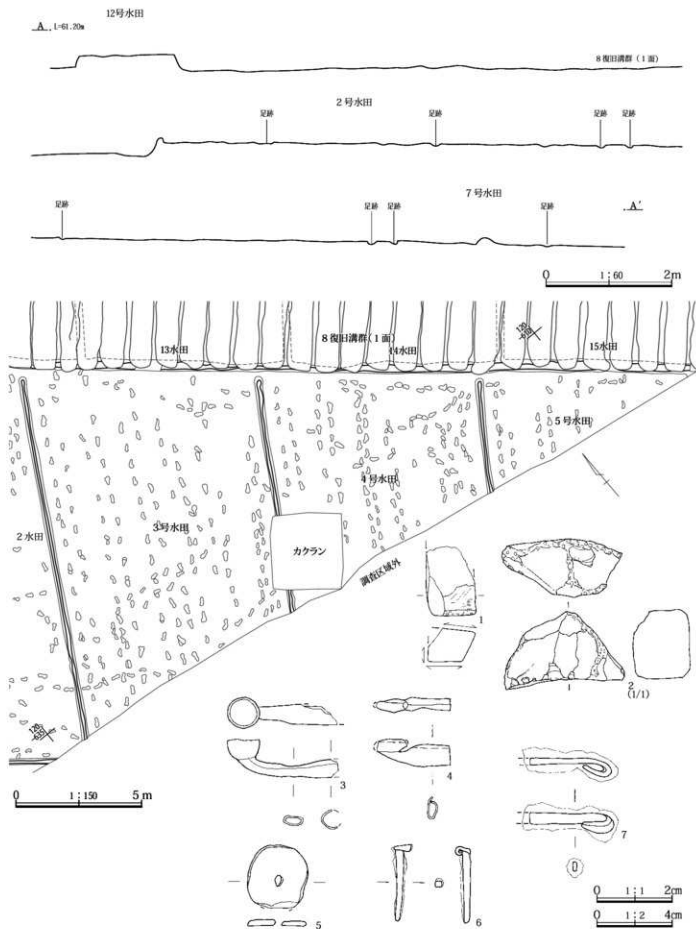
遺物は、砥石(1)、火打石と考えられる石製品(2)、
キセル(3・4)、不明金属製品(5)、釘(6)、不明鉄製

品(7)の他、近世の磁器8片・施釉陶器25片・焼締陶器
2片・在地系土器(皿類2片、鍋類21片)、時期不詳の土
器類2片、不明鉄製品、板碑片、火打石と考えられる石
製品が出土した。



第101図 4区2面 1・2・6・7号水田

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物



第102図 4区2面 2・7号水田断面、3～5号水田、出土遺物

6 5区の遺構と遺物

5区は大半が畑となっており、西端の低地部分と東端の4号溝東側が水田となっていた。そして、畑により区画された調査区中央部分に墓域が形成されていた。この1号墓地と重複する範囲は、泥流埋没後墓域として使用されていた。5区は近世に泥流復旧作業が行われていなかったため、良好な状態で遺構は残されていた。遺構はすべてAs-A軽石により埋没しており、水田面の足跡や畑の耕作による鎌の痕跡も一部では確認できている。遺構数は溝8条、道2条、畑10区画、水田6区画、墓地1か所であり、墓地内では14基の墓を調査した。これらの墓は、天明三年当時にはすでに埋葬済みであり、墓自体の年代は天明三年よりも古いと考えられるが、全てこの項で報告することとする。また、墓地を1号墓地と命名したこと、2号道路の命名は、報告時に行ったものである。

(1) 溝

1号溝(第103図)

位置:023-033-914-931 規模:18.3m×0.32-1.3m 残存深度:0.06-0.11m 走行方位:N-62°-E
遺物:下位からの混入である土師器(杯類4片、甕類2片)が出土した。 所見:As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。2号溝の南側に平行して掘削された溝である。1号墓地の南西角の3号溝の終わりから始まり、4号畑の北側を流れ、1号道路への段差で確認できなくなる。溝の東西両端部の高低差を見ると、東端が0.36m高い。溝の断面形は皿状で、底面は平坦である。幅は1号道路との接続部分が広がるが、やや狭く、深度は浅い。溝は浅く、道路へ注ぎ込むような走行から常時水が流れていたとは考えられない。溝の機能は、区画及び畑の排水性を高めるものと考えられ、硬化面は確認できないものの、西寄りでの足跡や馬蹄痕が確認できることから、通路としても使用されたと考えられる。

2号溝(第103図 PL.187)

位置:024-051-914-932 規模:(38.18)m×0.34-0.88m 残存深度:0.08-0.1m 走行方位:- 遺物:筭(1)が出土した 所見:As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。北側から南側へと流れ、2号畑と

7・8号畑との間を通り、1号墓地の西側を通るとと西方へと進路を変えて2号溝の北側を平行して流れ、最後は1号溝と同様に1号道路への段差でなくなる。溝の北端と南西端の高低差を見ると、北端が0.48m高い。溝の断面形は皿状で、底面は平坦である。幅は部分的に広がるが、概ねやや狭く、深度は浅い。溝は浅く、道路へ注ぎ込むような走行から常時水が流れていたとは考えられない。溝の機能は、区画及び畑の排水性を高めるものであり、硬化面は確認できないものの、西端で馬蹄痕が確認できることから、通路としても使用されたと考えられる。

3号溝(第104図)

位置:032-044-909-920 規模:[15.92]m×0.72-1.12m 残存深度:0.15m 走行方位:- 遺物:漆器塗膜片の他、下位からの混入である土師器(杯類6片、甕類1片)が出土した。 所見:As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。1号墓地をコの字状に囲むように掘削されていると推測され、北西部は2号溝と、南西部は1号溝と接続している。周辺の畑と1号墓地とを区画する溝である。溝の高低差を見ると、北東部分が他より0.10-0.20m低くなっている。溝の断面形は薄い逆台形であり、底面は平坦である。幅はやや広く、深度は浅い。水が流れるような高低差がなく、深度も浅いため常時水が流れるような溝とは考えられない。区画としての役割のほかに、硬化面は確認できていないが、通路として使われた可能性が考えられる。

4号溝(第105図 PL.26)

位置:051-063-880-892 規模:(12.68)m×2.14-2.54m 残存深度:1.1m 走行方位:N-40°-W
遺物:近世の磁器1片・施釉陶器2片、下位からの混入である土師器(杯類3片、甕類6片)、須恵器(杯類1片、甕類3片)が出土した。 所見:As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。西隣りには規模の小さな5号溝が並行しており、東隣りには2号道路が並行している。途中で東西方向に流れる6号溝が合流している。この溝の西側は畑が、東側には水田が広がる。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.11m高い。溝の断面形は、立ち上がり下部が抉れているため、袋状となっている。底面は平坦である。幅は広く、深度は深い。規模の大きさから、基幹的な排水路であったと考えられる。そして、

溝の位置と方位、規模から1区6号溝(上層)と同一である可能性が指摘できる。

5号溝(第105図 PL.26)

位置：050～061・-883～-892 規模：(12.7)m×0.62～0.76m 残存深度：0.2m 走行方位：N-36°-W

遺物：下位からの混入である土師器(杯類2片)が出土した。 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。東の4号溝と並走しており、西側には畑が広がっている。溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.03m高い。溝の断面形は皿状となっている部分もあるが、概ね逆台形である。底面は、所々9号畑の耕作土が崩れ落ちているため、凹凸がある。幅はやや狭く、深度はやや浅い。規模は小さく、掘り込みも浅くなっている部分もあるため、畑の排水性を高めるための溝と考えられる。

6号溝(第105図 PL.26)

位置：056～062・-875～-885 規模：(9.62)m×0.84～1.0m 残存深度：0.54～0.6m 走行方位：N-60°-E

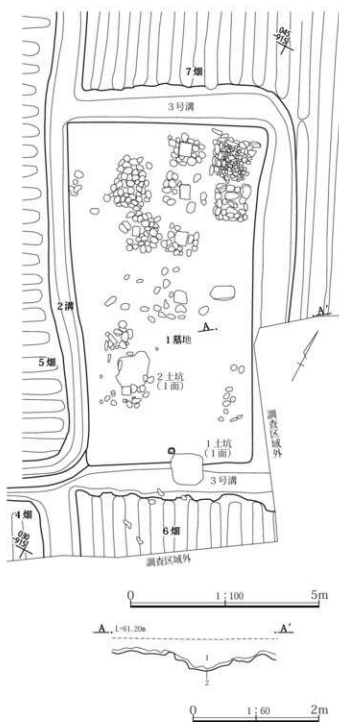
遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。両脇に幅の広い土手が築かれており、北側には5号水田が広がり、南側には7号溝が並行している。5号水田からは2か所水口が設けられており、6号溝へと流れるようになっている。そして、6号溝自体は2号道路を断ち割って4号溝に接続している。2号道路を断ち割っている部分に土橋は確認できないが、道路自体は南北に続いており、板等の横断できるものが設置されていた可能性がある。溝の東西両端部の高低差を見ると、東端が0.04m高く、4号溝へ流れ込むようになっている。溝の断面形は立ち上がり急で、下部が抉れているため、袋状となっている。底面は平坦である。幅はやや広く、深度は深い。大規模ではないものの、しっかりと掘り込みを持っていることから、給水及び水田の排水機能を持った溝と考えられる。

7号溝(第105図 PL.26)

位置：056～060・-874～-882 規模：(7.12)m×0.36～0.5m 残存深度：0.32～0.36m 走行方位：N-64°-E

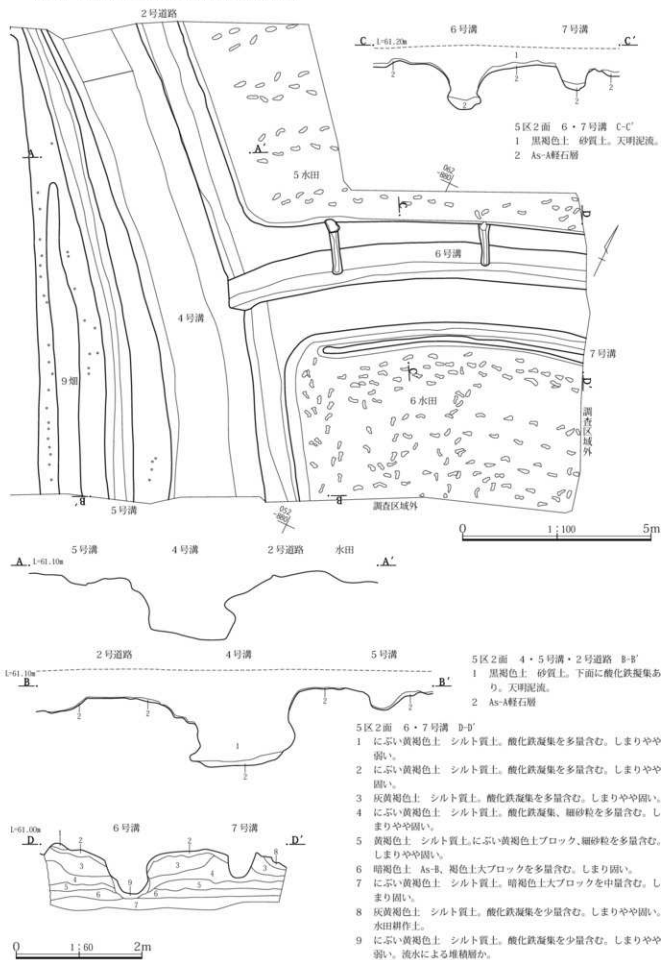
遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。北側を幅の広い土手を挟んで6号溝が並行している。南側は畦畔を挟んで6号水田が広がり、西端で6号水田に接続するように掘削される。溝の東西両端部の高低差を見ると、東端が0.02m高くなっており、

6号水田へ送水するようになっている。溝の断面形は立ち上がり急な逆台形となっており、底面は平坦である。幅は狭い割に、深度は深い。水田へと流れる小規模な溝であることから、末流の用水路であったと考えられる。

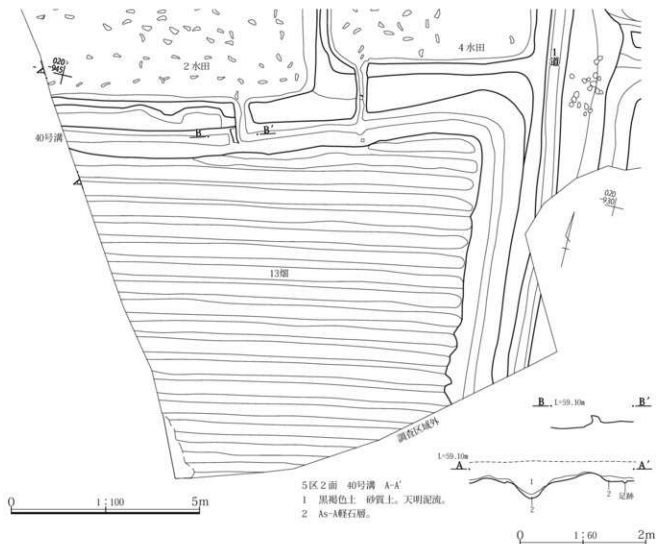


- 5区2面 3号溝 A-A'
 1 黒褐色土 砂質土、天明泥流。
 2 As-A軽石層

第104図 5区2面 3号溝



第105図 5区2面 4~7号溝、2号道路



第106図 5区2面 40号溝

40号溝(第106図 PL.28)

位置：013～023・-932～-944 規模：(18.6)m×0.6～1.28m 残存深度：0.26m 走行方位：- 遺物：なし 所見：As-A軽石及び天明泥流によって埋没していた。13号畑の北側と東側を囲むように掘削される。北側には2・4号水田が広がり、それぞれ水口が設けられている。溝の高低差は、北東角が標高58.95mで最も高く、西端が標高58.68mで最も低い。しかし、2号水田の水口のすぐ西側には流れをせき止めるように盛土されており、水田からの排水は西側ではなく、北東角を通して南側へと流れるようになっている。溝の断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅はやや広いが、深度はやや浅い。水田とは水口で接続しており、水田より低い位置にあることから、水田の排水機能を持った溝と考えられる。

(2)道路

1号道路(第103図 PL.26・187)

位置：019～045・-931～-940 規模：(30.22)m×0.48～1.4m 走行方位：N-14°-W 遺物：寛永通寶(2)が出土した。所見：ほぼ南北に走る道路である。東側は一段高くなっており、畑が広がっている。西側は一段低く水田や畑が広がっている。東側との落差は大きく、0.5～0.7m程度ある。調査区中央付近では、道幅が広がり二股に分かれ、轍のように道路中央が膨らんでいる。路面は硬化しており、幅0.26～0.88mの凹みを持つ路面が確認できる。硬化面の中であっても馬蹄痕が多数確認できるが、重なりや方向から複数の時期に付いた跡と考えられる。道幅は広く、硬化面もしっかりしていることから、主要通路であったと考えられる。

2号道路(第105図 PL.26)

位置:052~063・-879~-890 規模:(13.24)m×0.86m~1.06m 走行方位:N-42°-W 遺物:なし 所見:北西方向から南東方向に走る道路である。4号溝と並行しており、溝の土手上を走る道路である。途中、6号溝によって切断される。土橋など橋の痕跡は確認できないが、道路は6号溝の南北に走行しており、渡れるようになっていたものと考えられる。路面は硬化しており、幅0.24~0.56mの凹みを持つ路面が確認できる。しっかりと硬化面を持つことから主要通路であったと考えられる。

(3)畑

畑は溝によって区画が分かれているほか、畦畔状の盛土によっても区切られる。それらによって区画された単位ごとに記載する。

1号畑(第107図)

位置:054~056・-927~-930 サク数:4条 規模:(1.84)m×(0.72)m 畝高さ:0.08m 畝幅:0.38m サク間幅:0.14m 畝方位:N-11°-W 遺物:なし 所見:2号畑の北側に位置する。2号畑とは低い畦畔状の盛土で区画されている。畑のほとんどが調査区域外にあり、畝の形状などは不明である。

2号畑(第107図 PL.26・187)

位置:040~055・-922~-938 サク数:24条 規模:14.8m×10.48m 畝高さ:0.09m 畝幅:0.4m サク間幅:0.2m 畝方位:N-17°-W 遺物:キセル(1)の他、近世の磁器2片・施釉陶器3片が出土した。所見:1号畑の南側、2号溝の西側、3・5号畑の北側、1号道路の東側に位置する。3・5号畑とは畦畔状の盛土で区画されている。畑の周囲は直径0.05~0.15m程度の植栽と考えられる穴が開いている。1号道路よりは0.7m程度高い段にある。足跡が南辺にいくつか見られるが、歩行列としては不明瞭である。また、中央北寄りには畝やサクに関係なく馬蹄痕が残されており、どこから歩行しているかは不明であるが、南側から北側へ向かっていると考えられる。畝は東側が盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

3号畑(第108・109図 PL.26・27)

位置:025~043・-923~-936 サク数:29条 規模:

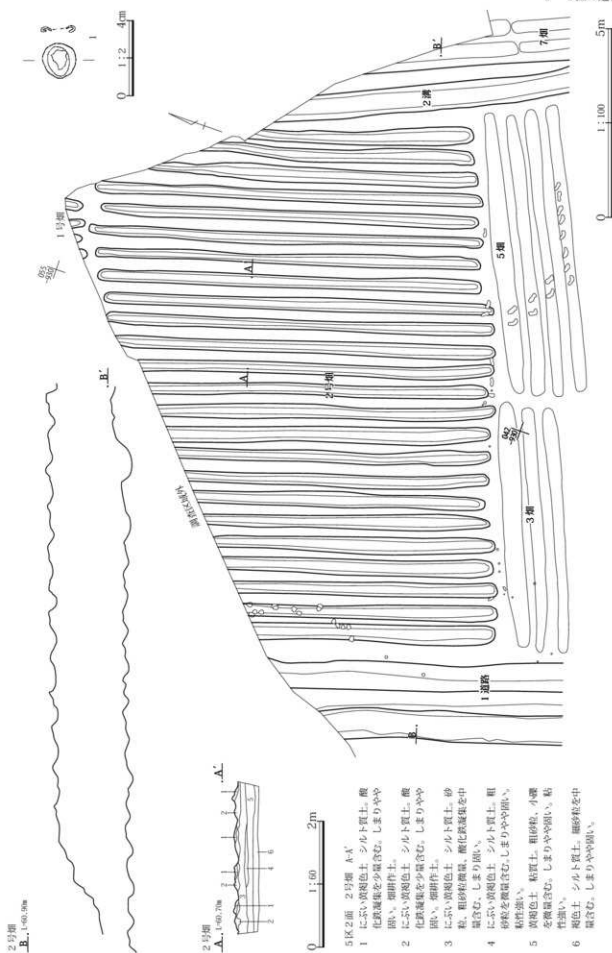
15.8m×8.32m 畝高さ:0.1m 畝幅:0.4m サク間幅:0.16m 畝方位:N-66°-E 遺物:近世の施釉陶器1片が出土した 所見:2号畑の南側、5号畑の西側、2号溝の北側、1号道路の東側に位置する。1号道路よりはかなり高いところに位置するが、2号溝との段差はあまりない。5号畑とは畦畔状の盛土で区画されており、直径0.05~0.2m程度の植栽と考えられる穴が開いている。また、1号道路との境にも同様に直径0.1~0.32m程度のやや大きめの穴が開いている。南西部の1・2号溝との境の斜面を中心に人の足跡及び馬蹄痕があるが、歩行列としては確認できない。畝は北側が少し盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

4号畑(第110図 PL.27)

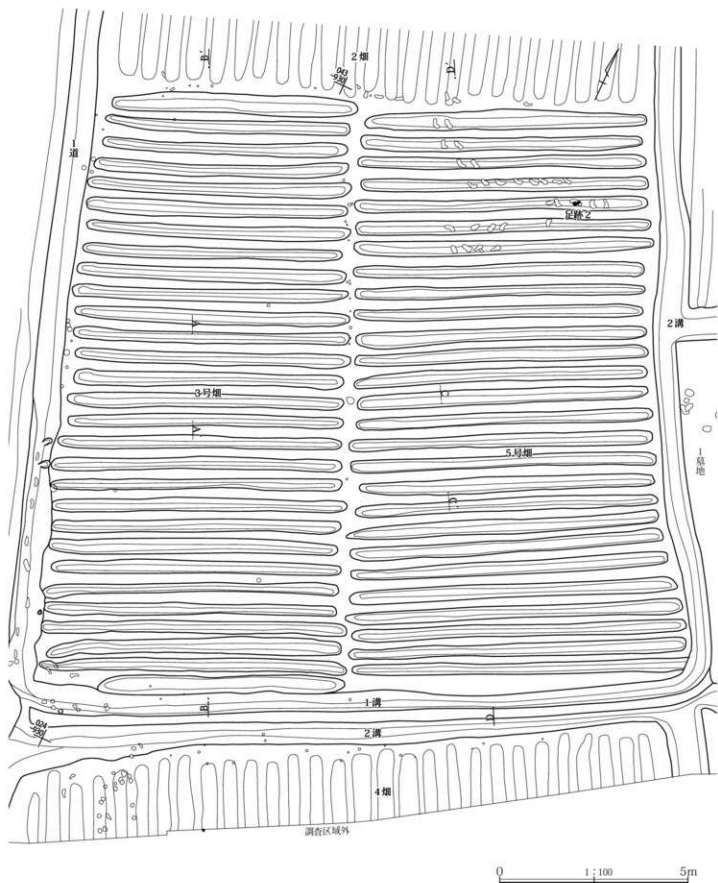
位置:021~032・-914~-931 サク数:29条 規模:17.9m×(2.24)m 畝高さ:0.09m 畝幅:0.46m サク間幅:0.14m 畝方位:N-29°-W 遺物:近世の磁器2片、下位からの混入である土師器(杯類5片)が出土した。所見:1号溝の南側、6号畑の西側、1号道路の東側に位置する。1号溝や1号道路よりは一段上にあるが、1号道路との落差は大きい。6号畑とはやや幅の広い道路状の平坦地で区画されている。1号溝との境には直径0.05m程度の植栽と考えられる穴が開いている。畑の西部を中心に人の足跡及び馬蹄痕が残っているが、歩行列としては確認できない。馬蹄痕は畝にもサクにもある。畝は上部が平坦であるが、西側が少し盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。

5号畑(第108・109図 PL.27)

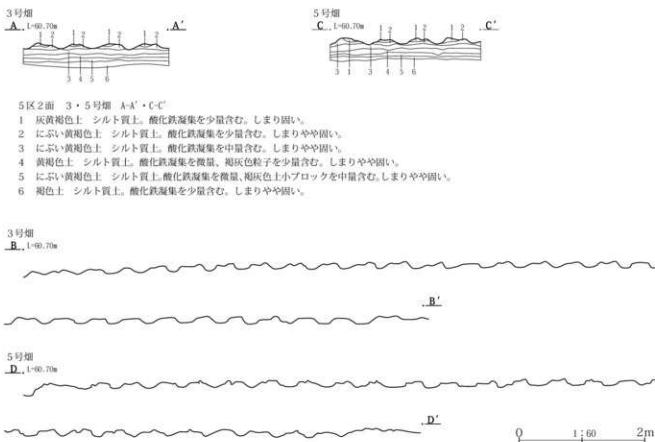
位置:028~046・-915~-930 サク数:27条 規模:15.48m×9.2m 畝高さ:0.1m 畝幅:0.4m サク間幅:0.2m 畝方位:N-63°-E 遺物:近世の磁器1片・施釉陶器1片、下位からの混入である土師器(杯類8片、甕類4片)、須恵器(杯類2片、甕類1片)が出土した。所見:2号畑の南側、2号溝の西側、4号畑の北側、3号畑の東側に位置する。東側と南側を囲むように流れる2号溝との段差はあまりない。北部には足跡が残っており、2号畑からサクの中を中心に通り、サクを横歩き気味に歩行している様子が確認できる。この畑の一部にしか見られないが、作業に伴う移動の可能性がある。畝は耕作土ブロックが多く上部に見られ、中央が盛り上がるように土寄せされている。サクの底面は平坦である。なお、残存状況が良



第107図 5区2面 1・2号堀、2号堀出土遺物



第108図 5区2面 3・5号畑



第109図 5区2面 3・5号畑断面

好きな足跡(足跡2)について計測したところ、足長19.6cm、幅8.1cmとやや小さめであった。

6号畑(第110図 PL.27)

位置:030~034+909~915 サク数:8条 規模:(5.2)m×(1.72)m 畝高さ:0.08m 畝幅:0.5m サク間幅:0.14m 畝方位:N-25°-W 遺物:下位からの混入である土師器(杯類1片)が出土した。 所見:3号溝の南側、4号畑の東側に位置する。3号溝との段差はあまりない。4号畑よりは0.2m程度高い段にある。わずかに足跡が残っており、足先は南東へ向かっているが、歩行列としては確認できない。畝の幅はやや広いものの上面は平坦で、西側の立ち上がりがやや急になるように土寄せされる。サクの底面は平坦である。

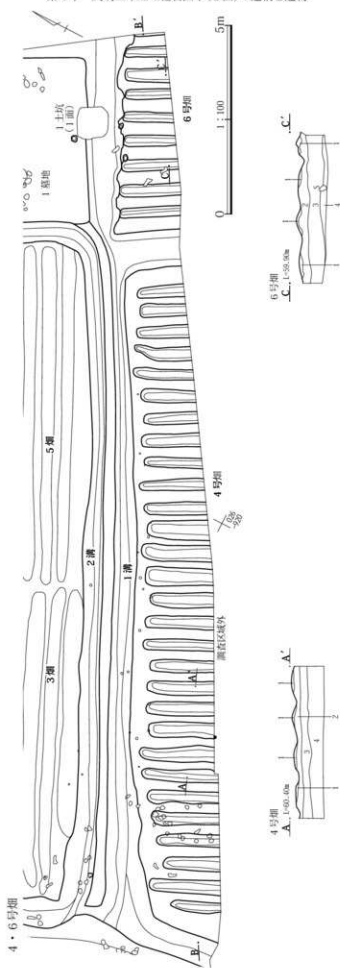
7号畑(第112図 PL.27)

位置:038~053+900~921 サク数:29条 規模:17.66m×(10.48)m 畝高さ:0.08m 畝幅:0.44m サク間幅:0.16m 畝方位:N-25°-W 遺物:近世の施軸陶器4片、下位からの混入である土師器(杯類59片、甕類6片)、須恵器(杯類5片、甕類3片)が出土した。

所見:8号畑の南側、9号畑の西側、2号溝の東側、3号溝の北側・東側に位置する。8・9号畑とは畦畔状の盛土で区画されており、直径0.05~0.3m程度の植栽と考えられる穴が開いている。2・3号溝との段差はあまりなく、サクと3号溝とが並行しているところでは、溝の立ち上がりがサクと重なっている。畑の区画は長方形の形状から、南西部分が1号墓地によって削り取られているようになっている。畝は中央東寄りが高くなるように土寄せされる。サクの底面は平坦である。

8号畑(第112図 PL.27)

位置:045~061+891~924 サク数:55条 規模:33.72m×(4.16)m 畝高さ:0.08m 畝幅:0.44m サク間幅:0.12m 畝方位:N-14°-W 遺物:漆器塗膜片の他、下位からの混入である土師器(杯類3片)、須恵器(杯類2片)が出土した。 所見:7・9号畑の北側、5号溝の西側、2号溝の東側に位置する。7・9号畑とは畦畔状の盛土で区画されており、直径0.05~0.3m程度の植栽と考えられる穴が開いている。9号畑の東側は8号畑と接している。畑の南端部分のみを調査したに過



5区2面 4号堀 A-A'

- 1 深い黄褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を中層含む、しまり強い。
- 2 深い黄褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を多量含む、しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を多量、しまりやや強い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を中量、細砂粒を少量含む、しまりやや弱い。

5区2面 6号堀 C-C'

- 1 深い黄褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を少量含む、しまりやや弱い。
- 2 深い黄褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を中層含む、しまりやや強い。
- 3 深い黄褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を少量、細砂粒を中層含む、しまりやや弱い。
- 4 明褐色土 シルト質土、酸化鉄凝集を少量、細砂粒を中層含む、しまりやや強い。

4・6号堀
B-B'



第110図 5区2面 4・6号堀



5区2面 13号畑 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量に含む。しまりやや弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや強い。



第111図 5区2面 13号畑

ぎず、大半が調査区域外にある。東西幅やサクの条数を考えると、これまでの畑よりかなり大きいため、複数の区画が含まれている可能性がある。しかし、調査範囲内では、分離することができなかった。畝は両端が少し盛り上がるように土寄せされる。サクの底面は浅いU字である。

9号畑(第112図 PL.27)

位置：044～061・-884～-905 サク数：15条 規模：16.96m×(12.16)m 畝高さ：0.12m 畝幅：0.88m サク間幅：0.28m 畝方位：N-27°-W 遺物：近世の磁器3片・施軸陶器9片・焼締陶器1片・在地系土器(銅類1片)、下位からの混入である中世の焼締陶器1片、土師器(杯類4片、甕類7片)、須恵器(杯類9片)が出土した。 所見：8号畑の南、5号溝の西、7号畑の東に位置する。5号畑よりは一段上にあり、直径0.05～0.1m程度の植栽と考えられるが、開いている。東端のサクは5号溝とぶつかるため、途中で止まっている。中央北端に足跡がいくつか見られるが、歩行列としては確認できない。幅の広い畝であり、1区7号畑などと共通する特徴を持つ。畝は平坦でわずかに東側が高く、東側の立ち上がりが急になるように土寄せされる。そして、直径0.02～0.03mの株跡の穴が畝の中央から東寄りにある。穴の間隔は0.24～0.32mである。サクの底面は平坦である。

13号畑(第111図 PL.28)

位置：010～021・-932～-945 サク数：18条 規模：(11.04)m×(8.8)m 畝高さ：0.1m 畝幅：0.39m サク間幅：0.13m 畝方位：N-79°-E 遺物：近世の施軸陶器1片、杭片が出土した。 所見：40号溝によって北と東が区切られるところに位置する。40号溝北の2号水田とほぼ同じ高さであり、畑耕作土下層がグライ化していることから、かつては水田であった可能性がある。北端のサクは40号溝と接するため途中で止まっている。畝は北側が高くなるように土寄せされる。サクの底面は平坦である。

(4)水田(第113～115図 PL.28・187)

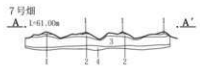
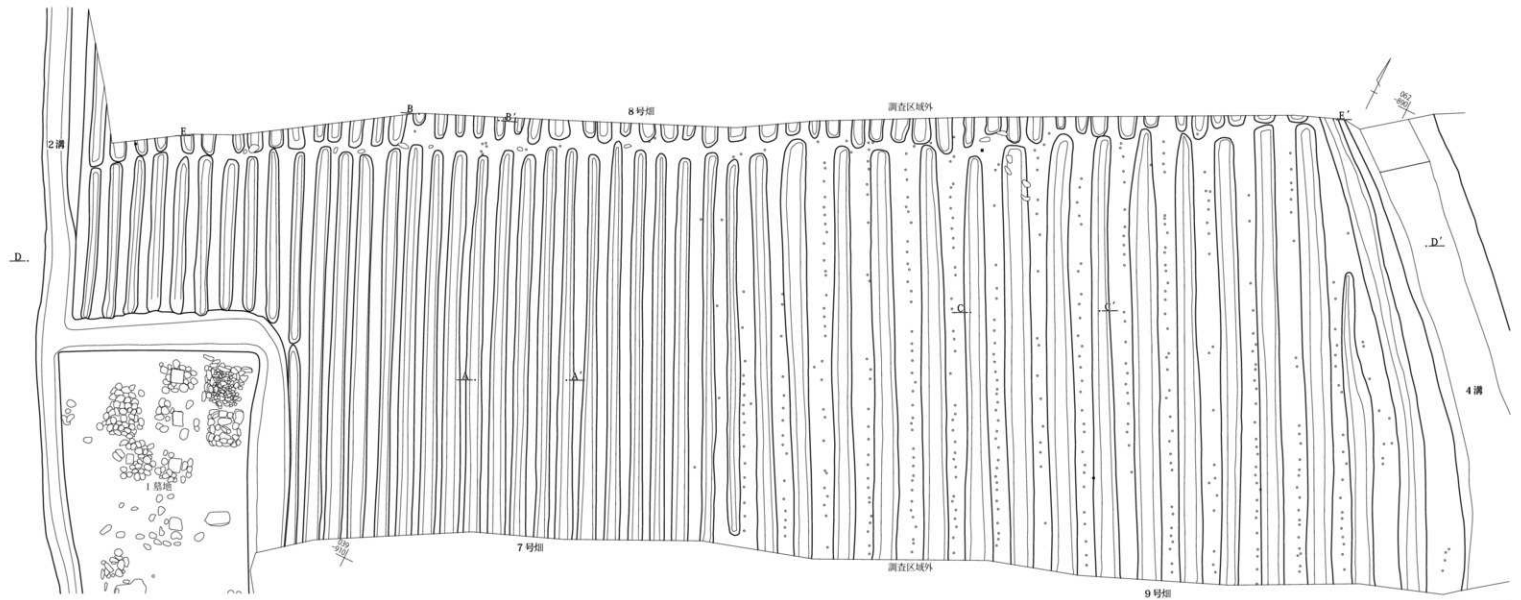
5区の1号道路西側と2号道路東側の調査区両端でAs-A軽石に覆われた水田を調査した。As-A軽石に覆われていたため、残存状況は良好であり、畦畔や水口といった水田施設の他、農作業に伴う人の足跡や水田に飛来し

た鳥の足跡も確認している。

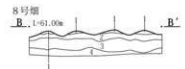
調査区西側に位置する1号水田から4号水田では、1・2号水田と3・4号水田とで大きく分けられ、後者の方が水田面の標高が0.5m程度高い。1号水田と2号水田では、北部に位置する1号水田の標高がもっとも高く、59.00mであり、2号水田南部の58.94mが最も低い。給水源は調査区域外の北側にあると考えられ、1号水田から2号水田へと送水し、2号水田南部の水口から40号溝へ排水されたと考えられる。一方、3号水田と4号水田では、3号水田の標高が最も高く59.61mであり、4号水田の59.43mが最も低い。水田区画による標高差はかなり大きい、区画内ではかなり小さい。給水源は調査区域外の北側にあると考えられ、3号水田から4号水田へと水を流し、4号水田南部の水口から40号溝へ排水したと考えられる。南北畦畔の方向はN-15°-Wであり、4号水田は1号道路脇に細長い区画で南北19.6m、東西4.7mである。畦畔の規模は幅0.28～1.04m、高さ0.08～0.1mであり、落差が激しいため、幅が広がっている。なお、1号水田北西角は、深くえぐり取られており、河川が近い、天明泥流によって削られたものと考えられる。

5・6号水田は、6・7号溝によって分けられており、給排水の経路は異なると考えられる。しかし、両区画とも調査できた面積が狭く、詳細を明らかにできなかった。5号水田では、6号溝に2か所水口が設けられており、溝へ排水していたことがわかる。一方、6号水田は、北辺に沿って7号溝が流れており、北西角で水田へ流れ込むようになっている。このことから、7号溝から給水を受けていたことがわかる。畦畔は7号溝との境にある土手としての役割も持つ東西方向の1本だけであり、幅0.36m、高さ0.14mである。この方向はN-66°-Eである。

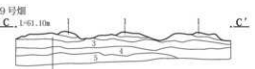
いずれの水田区画にも人の足跡が残されている。これらは、南北あるいは東西方向の畦畔に沿った走行であり、1号水田では小さな連続する正方形を描くような走行も見られる。足跡については、比較的良好なものを選び出し、計測している。2号水田(足跡1)では、足長22.4cm、4号水田(足跡3)では、足長23.0cmである。水田面の水量や、耕作土の状態によって足跡の残存状態は異なると考えられるが、現代人よりはやや小柄の可能性が指摘できる。



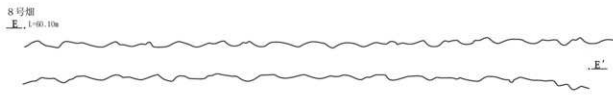
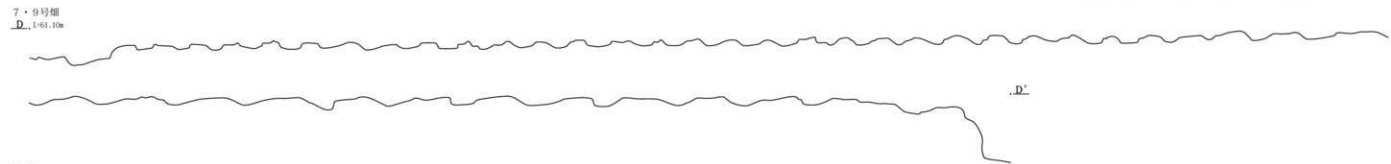
- 5区2面 7号畑 A-A'
- 1 にふい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を微量含む。しまりやや弱い。
 - 2 にふい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量。細砂粒を微量含む。しまりやや弱い。
 - 3 にふい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量。細砂粒を少量。粗砂粒を微量含む。しまりやや弱い。
 - 4 にふい・黄褐色土 シルト質土。細砂粒を中量含む。しまりやや弱い。



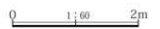
- 5区2面 8号畑 B-B'
- 1 にふい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや弱い。
 - 3 にふい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや弱い。
 - 4 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量。細砂粒を微量含む。しまりやや弱い。

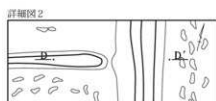
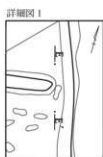
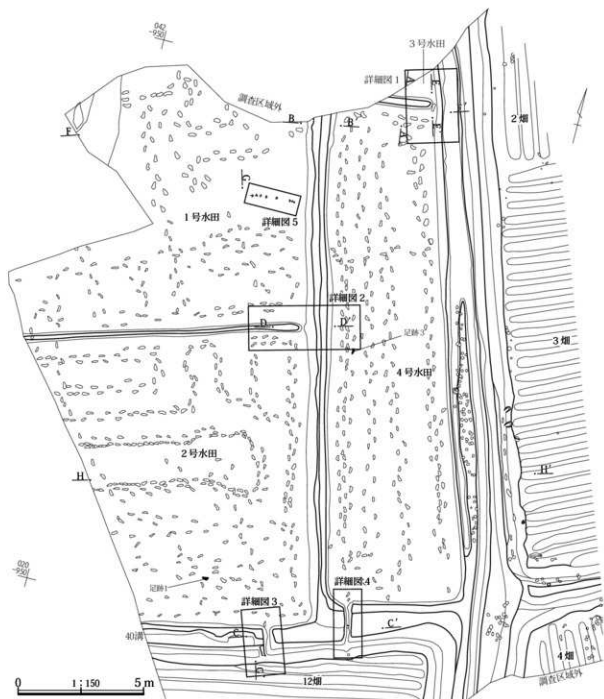


- 5区2面 9号畑 C-C'
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量。細砂粒を微量含む。しまり強い。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量。細砂粒を少量含む。しまり強い。
 - 3 にふい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量。細砂粒を少量含む。しまりやや弱い。
 - 4 にふい・黄褐色土 シルト質土。細砂粒を少量含む。粗砂粒を少量含む。しまりやや弱い。
 - 5 褐色土 シルト質土。細砂粒。粗砂粒を少量含む。しまりやや弱い。



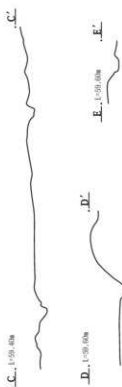
第112図 5区2面 7～9号畑



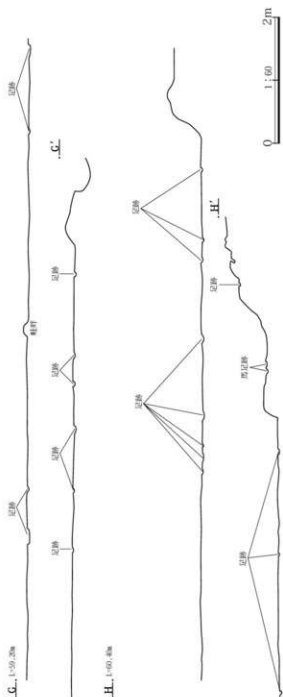
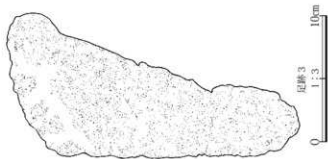


0 1:80 2m

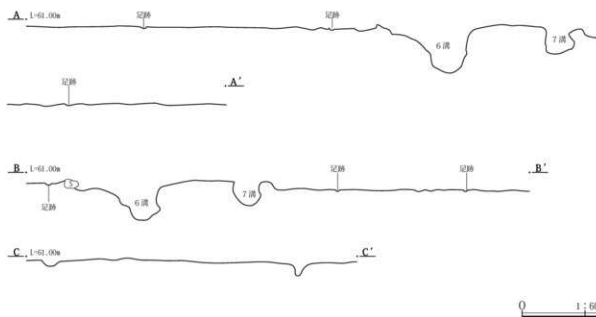
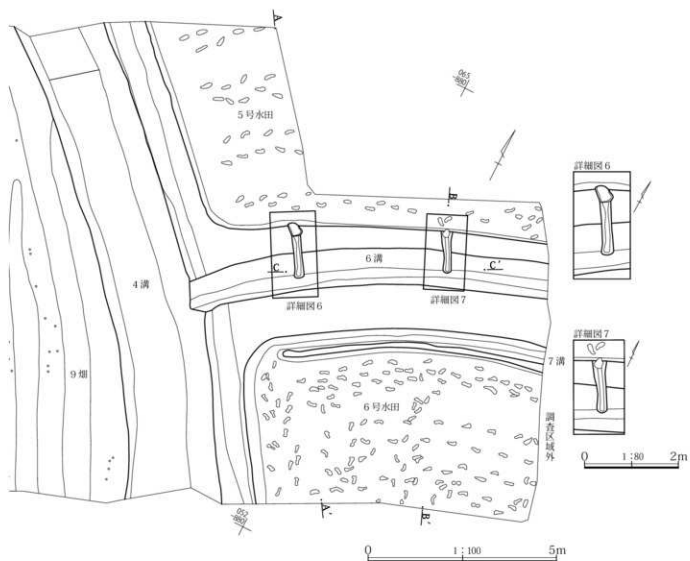
第113図 5区2面 1～4号水田



- 5区2面 水田 A-A'・B-B'
- 1 におい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄混集を少量含む。しまりやや強い、粗砂。
 - 2 オリーブ褐色土 粘質土。酸化鉄混集を中量含む。しまりやや強い。
 - 3 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄混集を微量含む。しまりやや強い。
 - 4 灰黄褐色土 シルト質土。細砂粒を少量に含む。しまりやや強い。
 - 5 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄混集を微量含む。しまりやや強い。
 - 6 におい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄混集を少量含む。しまりやや強い。
 - 7 灰オリーブ色土 シルト質土。しまりやや強い。
 - 8 におい・黄褐色土 シルト質土。酸化鉄混集を中量、マンガン粒を少量含む。しまり強い。



第114図 5区2面 1~4号水田断面、水田足跡

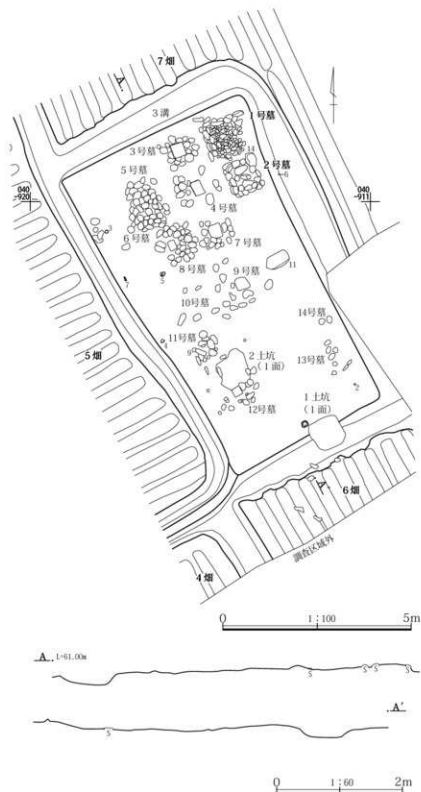


第115図 5区2面 5・6号水田

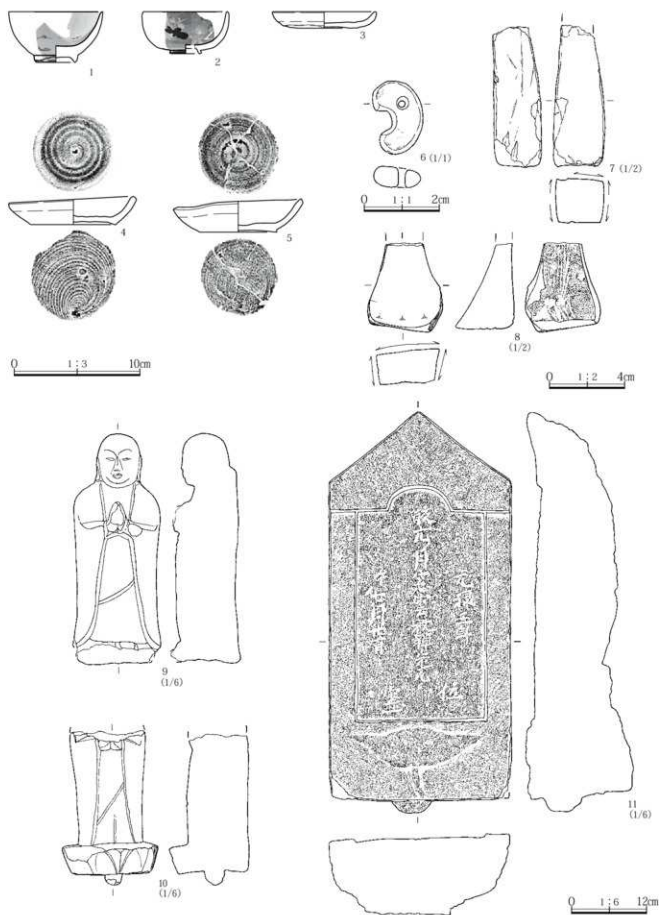
(5)墓

1号墓地(第116～118図 PL.28・187)

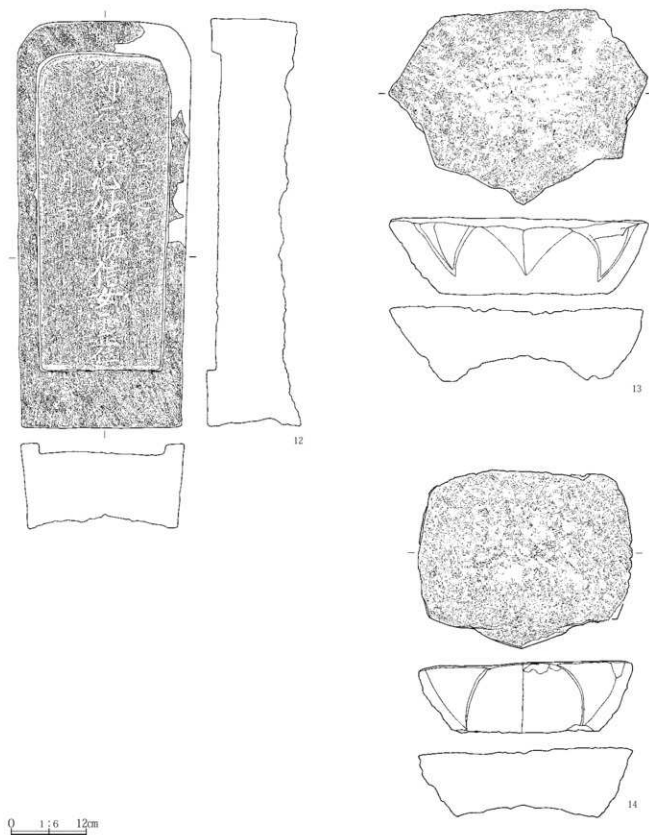
位置：032～043・-910～-920 規模：9.0m×5.28m 長軸方位：N-25°-W 遺物：天明泥流によって流されて、本来の位置を保っておらず、各墓に帰属できない遺物や墓と墓の間で出土した遺物をここに掲載した。肥前磁器染付小碗(1)、京・信楽系陶器上絵小碗(2)、瀬戸・美濃陶器灯火皿(3)、在地系土器皿(4・5)、勾玉(6)、砥石(7・8)、石仏(9・10)、墓標(11・12)、石造物台座(13・14)、火打石(15・16)の他、近世の磁器2片・施釉陶器8片・在地系土器(皿類132片、鍋類3片)、火打石、下位からの混入である須恵器(襦類1片)が出土した。所見：As-A軽石層及び天明泥流によって埋没していた。2・3号溝によって囲まれており、南北に長い長方形を呈する区画である。南側はやや細くなっている。この墓地の区画は泥流埋没後も意識されている可能性があり、土壌墓である1面の1・2号土坑などが天明泥流埋没後に掘削されており、墓地の区画内を意識して埋葬されたものと推量される。天明三年の段階では、集石や台座を伴う墓が14基確認できた。14基の墓には時期差があり、As-A直下で集石が明瞭な墓や半ば埋もれているものもある。天明泥流によって流されてしまい、1号墓地内の墓に伴うのか否かが確認できないが、年号が記された墓標があり、元禄三(1690)年(11)、宝暦七(1757)年(12)とある。墓地内のすべての墓から人骨が出土しており、人骨については鑑定委託を実施している。



第116図 5区2面 1号墓地



第117図 5区2面 1号墓地出土遺物(1)



第118図 5区2面 1号墓地出土遺物(2)

1号墓(第119・120図 PL.29・188)

位置: 041・-914 **形状:** 隅丸正方形 **規模:** 1.18m×1.17m **残存深度:** 1.29m **長軸方位:** N-62°-E **遺物:** 地表面の集石西側から肥前磁器染付碗(1)、棺の底面から寛永通寶等の銭貨(2)、棺の外側で、墓坑内から凹石(3)が出土した。棺内の表面から銭貨は6枚錯着した状態で出土している。近世の磁器1片、不明石製品、棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類29片、甕類52片)、須恵器(甕類1片)が出土した。 **所見:** 1号墓地の北東角にある。集石のAs-A軽石直下の状態は、正方形の形状に多数の積まれた川原石が高く露出していた。集石の四隅と中央はやや細長い川原石を立てていた。集石下部は、川原石で正方形に枠組みされていた。墓坑上半部は正方形に掘削されており、下部は円形となっていた。墓坑内には、底径0.44m～0.48mの円形の棺が確認でき、その中から被葬者や銭貨が出土した。集石の状態から、天明三年に比較的近い年代に埋葬された可能性がある。出土した人骨の保存状態はやや良好であったが、部位が不足することから、別の場所から人骨を取り出して、改葬した可能性が指摘されている。被葬者は男性で10歳代後半から20歳代と推定されている。

2号墓(第121図 PL.29・188)

位置: 040・-914 **形状:** 隅丸正方形 **規模:** 1.12m×1.08m **残存深度:** 1.32m **長軸方位:** N-23°-W **遺物:** 墓坑内から砥石(1)が出土したが、混入と考えられる。また、棺の部材も見られた。他に下位からの混入である土師器(杯類12片、甕類45片)、須恵器(杯類3片、甕類1片)が出土した。 **所見:** 1号墓地の北東部にあり、1号墓の南に位置する。集石のAs-A軽石直下の状態は、正方形の形状に多数の積まれた川原石が高く露出していた。集石の中央にはやや細長い川原石を立てていた。北東角で台座(第118図14)が出土したが、その下部にはAs-A軽石や泥流が確認できることから、そこに設置されていたものではなく、泥流によって移動したものと考えられる。集石下部は、川原石で正方形に枠組みされていた。墓坑は正方形に掘削されており、墓坑内には、底径0.47～0.48mの円形の棺が入れられており、その中から被葬者が出土した。集石の状態から、1号墓と同様に天明三年に比較的近い年代に埋葬された可能性がある。出土した人骨はわずかな頭蓋骨片と四肢骨片のみであり、別

の場所から人骨を取り出して、改葬した可能性が指摘されている。被葬者は成人の男性と推定されている。

3号墓(第122～125図 PL.30・189)

位置: 041・-916 **形状:** 隅丸正方形 **規模:** 1.17m×1.1m **残存深度:** 1.37m **長軸方位:** N-85°-E **遺物:** 集石上面中央から石造物台座(4)が、墓坑内上面で棺外から肥前磁器染付小碗(1)、在地系土器皿(2・3)が、棺内の底面から寛永通寶等の銭貨(5～10)が重なって出土した。銭貨は11枚錯着した状態で出土している。この他、近世の磁器1片・在地系土器(皿類5片)、釘と考えられる鉄製品や棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類12片、甕類32片)、須恵器(杯類2片)が出土した。

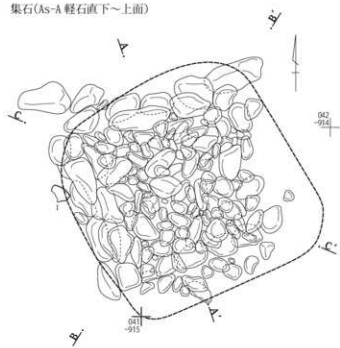
所見: 1号墓地北端中央にある。集石はAs-A軽石で埋没する前から、北半は土に埋もれていたが、正方形の石造物台座(4)と南半の集石は露出していた。集石を覆っている土を取り除くと正方形の形状に多数の川原石が積まれている状況が確認できた。墓坑は正方形に掘削されていた。墓坑内には底径0.46～0.49mの円形の棺が確認でき、その中から被葬者や銭貨が出土した。集石が多く土に埋もれていた状態から、この墓地では古い年代の可能性はある。出土した人骨はほぼ全身骨格に及ぶことから、改葬されたものでないと考えられている。被葬者は老齢の男性と推定されている。この墓の時期は、出土した銭貨から天明三年を上限とする18世紀代と推測される。

4号墓(第122～125図 PL.30・31・189)

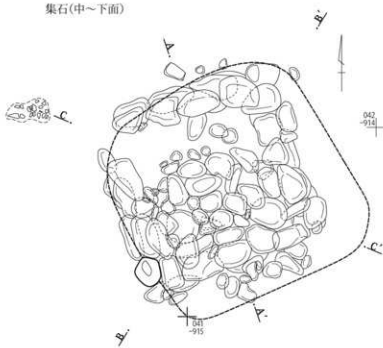
位置: 040・-915 **形状:** 隅丸正方形 **規模:** 1.2m×1.19m **残存深度:** 1.24m **長軸方位:** E-26°-N **遺物:** 集石上面中央から石造物台座(11)が、棺内の底面から寛永通寶等の銭貨(12～17)が重なって出土した。銭貨は10枚錯着した状態で出土している。この他、近世の施釉陶器1片・在地系土器(皿類25片)、棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類12片、甕類33片)、須恵器(杯類3片、甕類1片)が出土した。 **所見:** 1号墓地北部中央にある。3号墓の南側に位置する。集石はAs-A軽石で埋没する前から、多くが土に埋もれ、集石中央の正方形の台座は露出していた。集石を覆っている土を取り除くと正方形の形状に多数の川原石が積まれていた状況が確認できた。その下層は川原石で正方形に枠組みしていたが、さらに下層は墓坑内の上面に川原石を敷き詰めて

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物

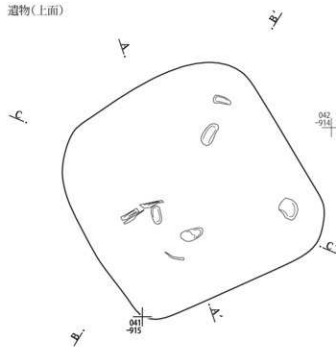
集石(As-A 軽石直下~上面)



集石(中~下面)



遺物(上面)



遺物(下面)

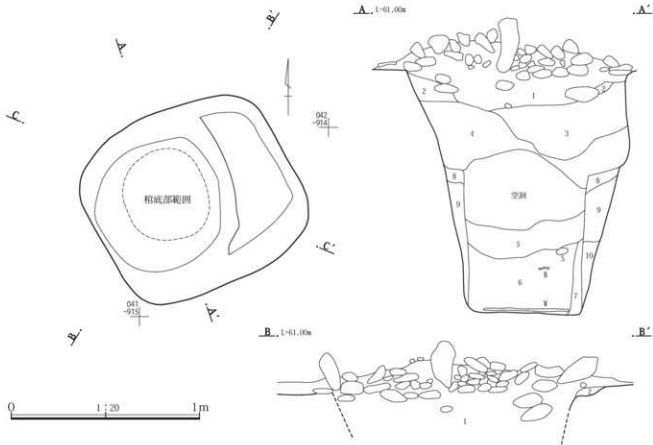


C. 1-61.00m



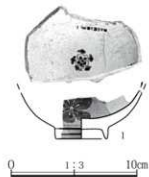
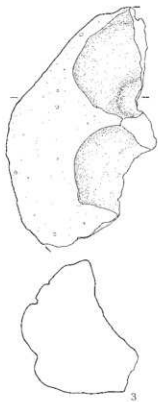
0 1:20 1m

第119図 5区2面 1号墓(1)



5区2面 1号墓 A-A'・B-B'

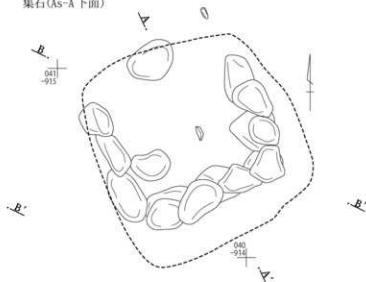
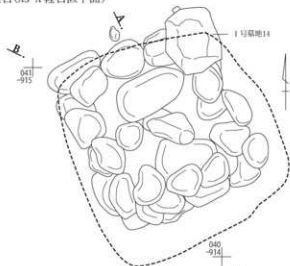
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を多量、黒褐色土中～大ブロックを中量含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を中量含む。しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒、黒褐色土小～中ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒、黒褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 5 にぶい黄褐色土 細砂粒を少量含む。しまり弱い。天井崩落土。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。黒褐色土、褐色土ブロックを中量含む。しまりやや強い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。しまりやや弱い。柏の跡か
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。黒褐色土、褐色土中ブロックを中量含む。しまりやや強い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土大ブロックを中量含む。しまりやや強い。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや強い。



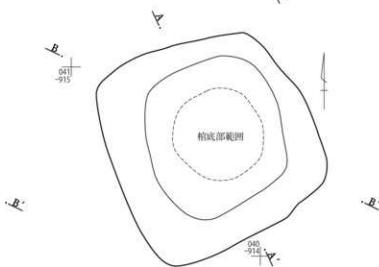
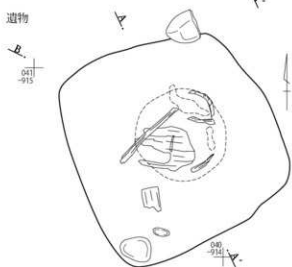
第120図 5区2面 1号墓(2)、出土遺物

集石(As-A 軽石直下面)

集石(As-A 下面)

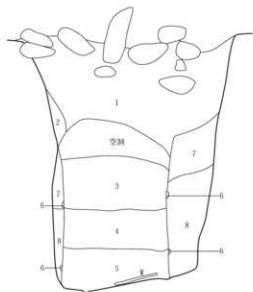


遺物



A, L=61.00m

A'



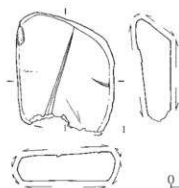
B, L=61.00m

B'

5区2面 2号墓 A-A'

- 1 にふい・黄褐色土 シルト質上。黒褐色土小～大ブロック、酸化鉄凝集、マンガン粒を中量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を中量含む。しまり強い。崩落した天井がブロック状に堆積。
- 4 暗褐色土 シルト質上。黒褐色土中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質上。黒褐色土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 6 暗褐色土 シルト質上。棺のタガの跡。
- 7 暗褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集中量、黒褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 8 暗褐色土 シルト質上。黒褐色土中～大ブロックを多量含む。しまりやや強い。

0 1:20 1m



0 1:2 4cm

いた。そして一部の川原石は平坦な面を立てて敷き詰めていた。墓坑は正方形に掘削されていた。墓坑内には底径0.47～0.49mの円形の棺が確認でき、その中から被葬者や銭貨が出土した。集石が一部土に埋もれていた状態から、この墓地では古い年代の可能性がある。出土した人骨はほぼ全身骨格に及ぶことから、改葬されたものでないと考えられている。被葬者は30歳代の男性と推定されている。

5号墓(第126～128図 PL.31・189・190)

位置：040・-917 形状：隅丸長方形 規模：1.11m×0.99m 残存深度：1.35m 長軸方位：N-67°-E 遺物：墓坑内上面の棺外から在地系土器皿(1・2)が重なった状態で、棺内の底面から開元通寶(3)、寛永通寶(4～13)が重なって出土した。銭貨は11枚錯着した状態で出土している。その他、近世の埴陶器すり鉢1片・在地系土器(皿類6片)、棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類101片、甕類340片)、須臾器(杯類41片、甕類23片)が出土した。重複遺構：6号墓より後に埋められる。所見：1号墓地北端西寄りにある。集石はAs-A軽石で埋没する前から大半は土に埋もれており、南側の一部が露出していた。集石の中央には穴があることから、当初は川原石を立位にして墓標としていたが、天明泥流によって抜けたものと考えられる。集石を覆っている土を取り除くと正方形の形状に多数の川原石が積み重ねられていた状況が確認できた。その下層は墓坑内の上面に川原石を敷き詰めていた。墓坑上部は南北がやや長い長方形に掘削され、下部は南側を中心に正方形に掘削される。墓坑内には、底径0.43～0.46mの円形の棺が確認でき、その中から被葬者や銭貨が出土した。集石の大半が土に埋もれていた状態から、この墓地ではやや古い年代の可能性がある。出土した人骨はほぼ全身骨格に及ぶことから、改葬されたものでないと考えられている。被葬者は20歳代の女性と推定されている。この墓の時期は、出土した銭貨から天明三年を上限とする18世紀代と推測される。

6号墓(第126・129図 PL.31・32・190)

位置：039・-916 形状：隅丸方形 規模：0.93m×0.9m 残存深度：1.21m 長軸方位：N-24°-W 遺物：墓坑内上面の棺外から在地系土器皿(14～16)が、棺内の底面から寛永通寶等の銭貨(17～22)が重なって出土

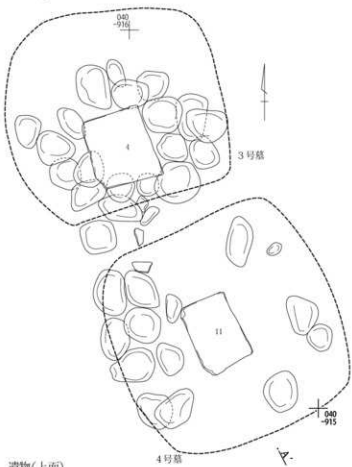
した。銭貨は6枚錯着した状態で出土している。その他、棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類10片、甕類17片)、須臾器(杯類6片、甕類1片)が出土した。

重複遺構：5号墓より先に埋められる。所見：1号墓地の北部西寄りにあり、5号墓の南に位置する。集石のAs-A軽石直下の状態は正方形の形状に多数の積み重ねられた川原石が多く露出していた。集石の中央には穴があることから、当初は川原石を立位にして墓標としていたが、天明泥流によって抜けたものと考えられる。集石下部は、川原石で正方形に枠組みされていた。集石の北端がわずかに北隣の5号墓と重複しているが、6号墓の掘削範囲に5号墓の集石が上にある。しかし、その一方で6号墓の集石が5号墓の集石の上位にある部分が見られることから、5号墓構築期に6号墓の集石を積み直した可能性が指摘できる。墓坑は東辺がやや短く、西辺が長い台形に近い方形に掘削されていた。墓坑内には、底径0.49～0.51mの円形の棺が入れられており、その中から被葬者や銭貨が出土した。集石の状態から、1・2号墓ほど新しくはないが、天明三年にやや近い年代の可能性がある。出土した人骨はほぼ全身骨格に及ぶことから、改葬されたものでないと考えられている。被葬者は20歳代の女性と推定されている。この墓の時期は、出土した銭貨から天明三年を上限とする18世紀代と推測される。

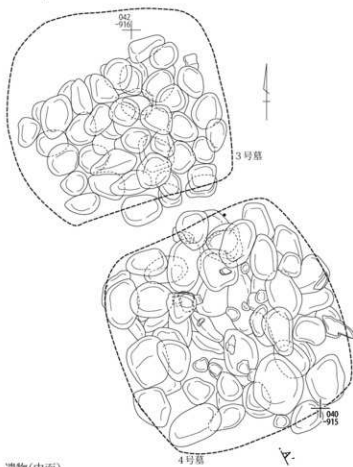
7号墓(第130～132図 PL.32・190)

位置：039・-914 形状：隅丸方形 規模：1.26m×1.19m 残存深度：1.22m 長軸方位：N-62°-E 遺物：集石上面中央から石造物台座(2)が、集石周囲の地表面から在地系土器皿(1)とキセル(3)が、棺内の底面から寛永通寶(4～13)が重なって出土した。銭貨は10枚錯着した状態で出土している。その他、不明鉄製品や棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類41片、甕類42片)、須臾器(杯類6片)が出土した。所見：1号墓地の中央やや北寄りにあり、4号墓の南側に位置する。集石はAs-A軽石で埋没する前から一部が土に埋もれていたが、集石中央の正方形の台座は露出していた。集石を覆っている土を取り除くと正方形の形状に多数の川原石が積み重ねられていた状況が確認できた。その下層は川原石で正方形に枠組みしていたが、さらに下層は墓坑内の棺の形状に合わせて円形に川原石を敷き詰めていた。墓坑は南辺がやや短く、北辺が長い台形に近い方形に掘削されてい

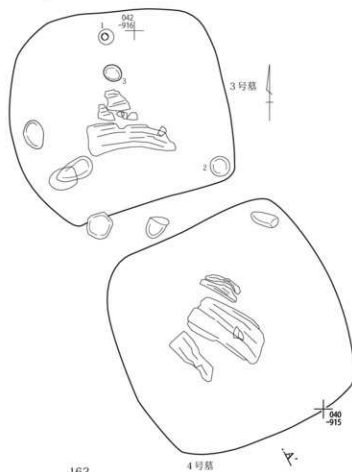
集石(As-A 軽石直下面)



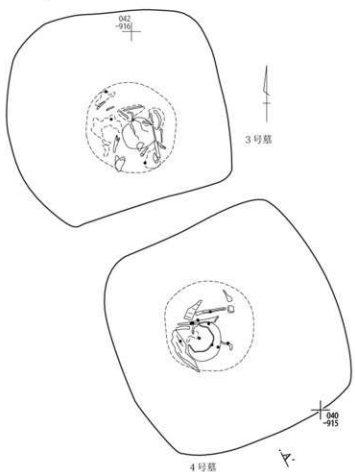
集石(下面)



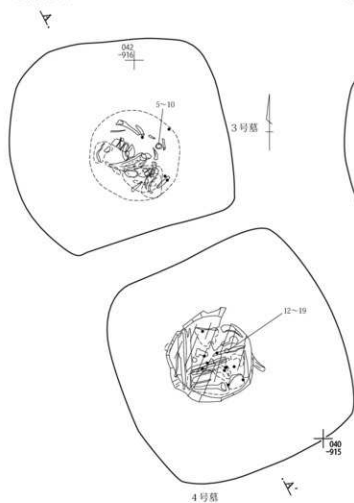
遺物(上面)



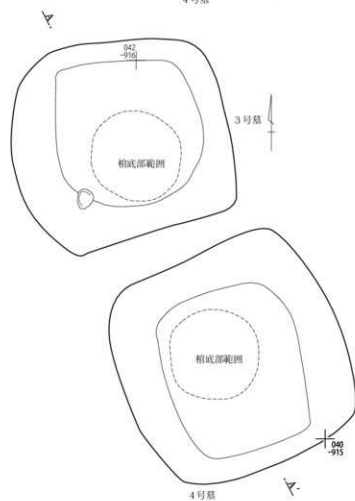
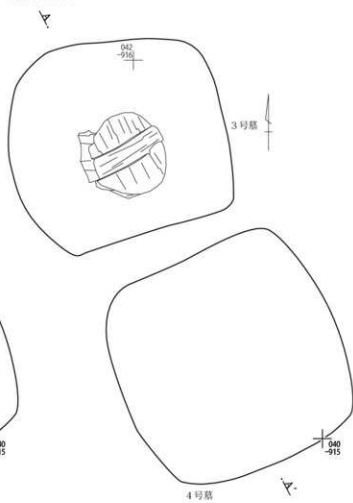
遺物(中面)



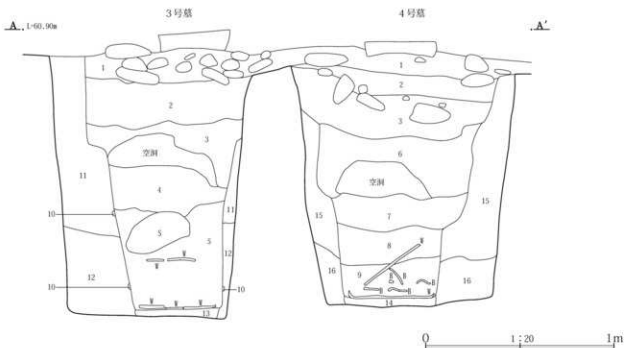
遺物(下面)



遺物(最下面)



0 1:20 1m

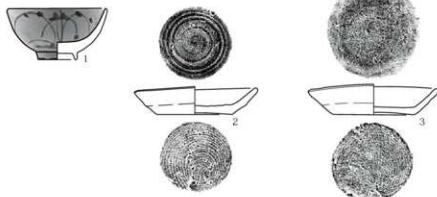


5区2面 3・4号墓 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや固い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量、マンガン粒を少量含む。しまりやや固い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや固い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまり弱い。崩落した天井がブロック状に堆積。
- 5 灰黄褐色土 天井崩落土。しまり弱い。
- 6 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、褐色土、黒褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。
- 7 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまり弱い。天井崩落土。
- 8 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を微量含む。しまりやや弱い。
- 9 黒褐色土 シルト質土。しまりやや弱い。

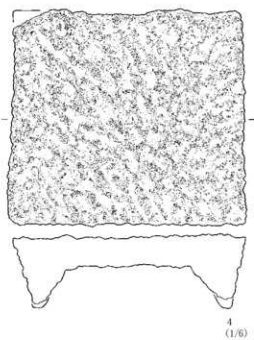
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。棺のタガの跡。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を多量含む。しまりやや固い。
- 12 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや固い。
- 13 暗褐色土 シルト質土。黒褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 14 暗褐色土 シルト質土。黒褐色土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を多量含む。しまりやや固い。
- 16 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、黒褐色土大ブロックを少量含む。しまりやや固い。

3号溝

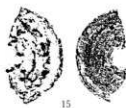
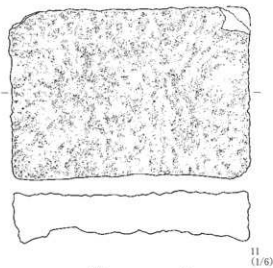


第124図 5区2面 3・4号墓断面、3号墓出土遺物

3号墓

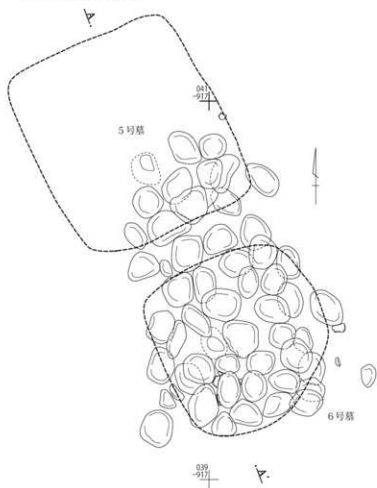


4号墓

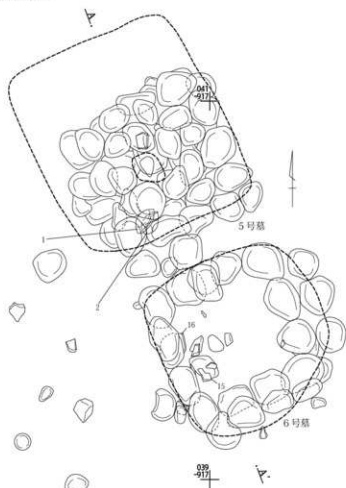


第125図 5区2面 3・4号墓出土遺物

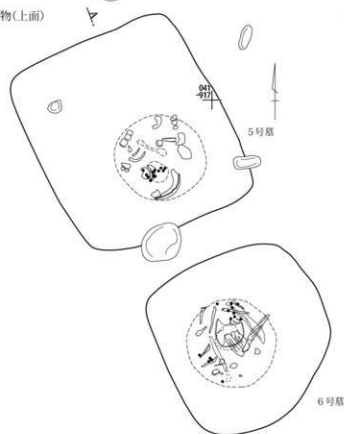
集石(As-A 軽石直下面)



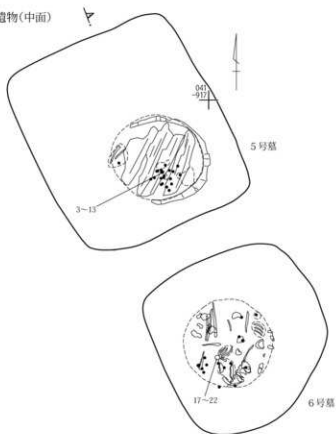
集石(下面)



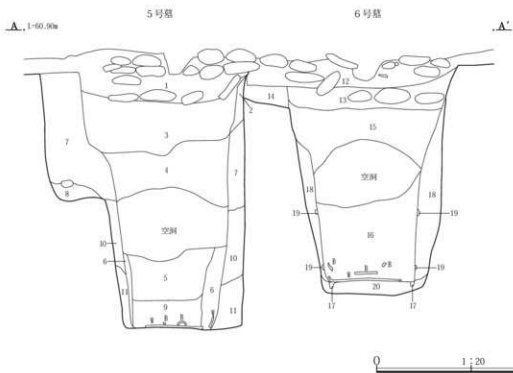
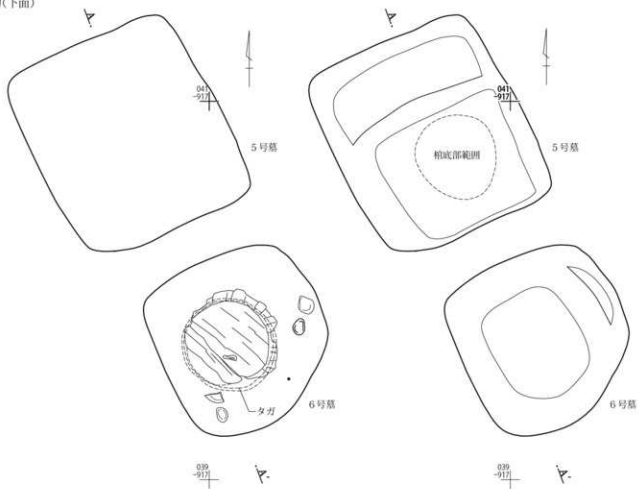
遺物(上面)



遺物(中面)



遺物(下面)



第127图 5区2面 5・6号墓(2)

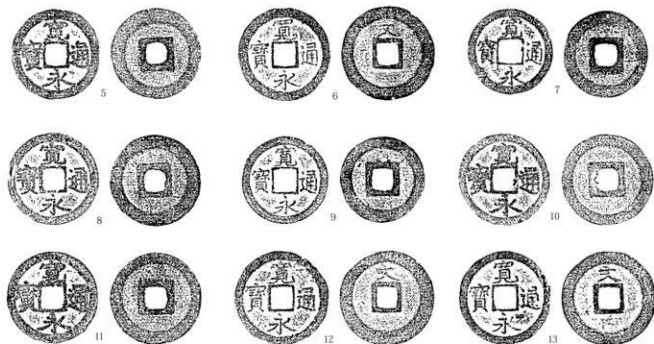
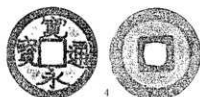
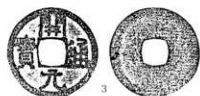
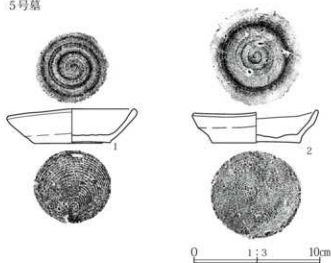
第4章 天明三年As-ε輝石直下(2面)の遺構と遺物

5区2面 5・6号墓 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集、マンガン粒を多量含む。しまり強い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集、マンガン粒を少量含む。しまり強い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。褐色土小～中ブロックを多量、酸化鉄凝集、マンガン粒を少量含む。しまり強い。
- 4 暗褐色土 シルト質上。褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。
- 5 暗褐色土 シルト質上。黒褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質上。しまり弱い。柏痕跡。
- 7 暗褐色土 シルト質上。黒褐色土、褐色土、灰黄褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
- 8 暗褐色土 シルト質上。黒褐色土中ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
- 9 暗褐色土 シルト質上。しまり弱い。

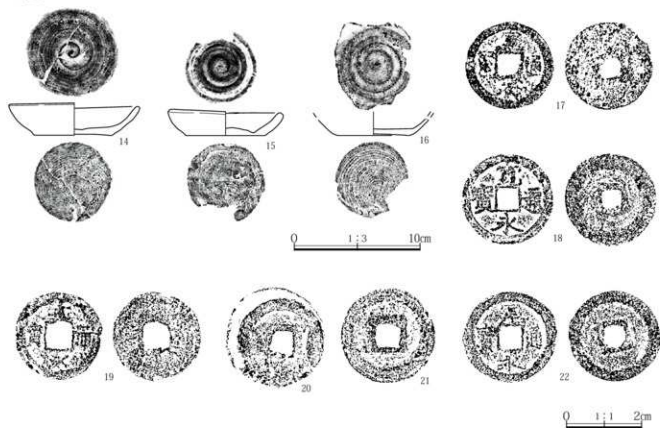
- 10 灰黄褐色土 シルト質上。褐色土中ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
- 11 灰黄褐色土 シルト質上。褐色土・黒褐色土中～大ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 12 褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや弱い。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや弱い。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を微量含む。しまりやや弱い。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質上。黒褐色土中～大ブロックを少量、酸化鉄凝集を中量含む。
- 16 暗褐色土 暗褐色土ブロック中量含む。しまり弱い。天井崩落上。
- 17 灰黄褐色土 柏殻下部痕跡。しまり弱い。
- 18 暗褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや弱い。
- 19 暗褐色土 シルト質上。柏のタガの跡。
- 20 暗褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。

5号墓



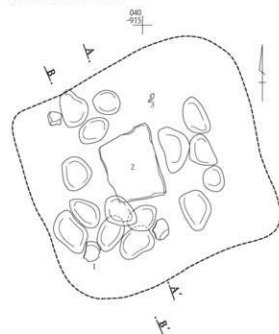
第128図 5区2面 5号墓出土遺物

6号墓

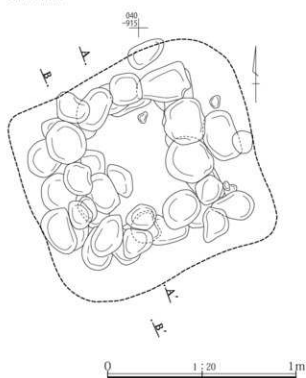


第129図 5区2面 6号墓出土遺物

集石(As-A 軽石直下面)

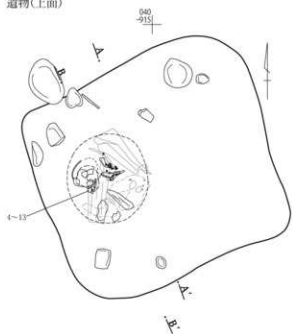


集石(下面)

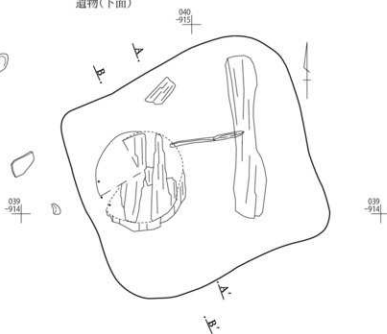


第130図 5区2面 7号墓(1)

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物
遺物(上面)

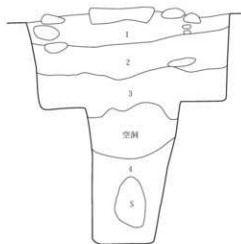


遺物(下面)



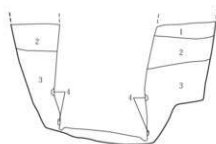
A, 1=60.00m

A'



B, 1=60.30m

B'



棺底部範囲

5区2面 7号墓 A-A'

1 に深い黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を多量含む。しまり強い。
2 灰黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を中量、マンガング少量含む。しまり強い。

3 暗褐色土 シルト質上。黒褐色土中ブロック、褐色土中ブロック酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや強い。

4 に深い黄褐色土 シルト質上。細砂粒を少量含む。しまり弱い。

5区2面 7号墓 B-B'

1 灰黄褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや強い。
2 に深い黄褐色土 シルト質上。褐色土中ブロックを中量、酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや強い。

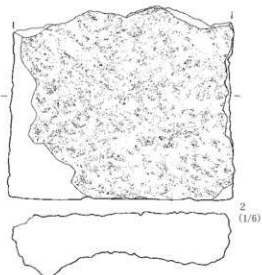
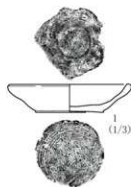
3 暗褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや強い。

4 暗褐色土 シルト質上。棺のタガの跡。

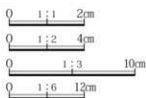
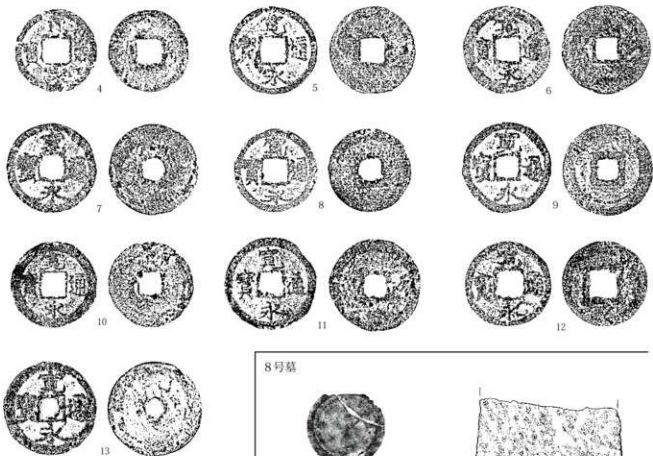
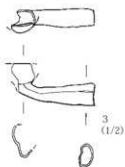
0 1:20 1m

第131図 5区2面 7号墓(2)

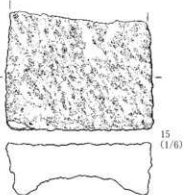
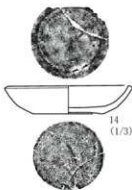
7号墓



6 5区の遺構と遺物



8号墓



第132図 5区2面 7・8号墓出土遺物

た。墓坑内には、底径0.43～0.47mの円形の棺が入られており、その中から被葬者や銭貨が出土した。そして棺の範囲内にはいくつかの川原石が入っていたことから、棺の上に置かれていた石が転落したものと考えられる。集石が一部土に埋もれていた状態から、この墓地ではやや古い年代の可能性もある。出土した人骨の保存状態はやや良好であったが、部位が不足することから、別の場所から人骨を取り出して、改葬した可能性が指摘されている。被葬者は30歳代の男性と推定されている。この墓の時期は、出土した銭貨から天明三年を上限とする18世紀代と推測される。

8号墓(第132・133図 PL.32・33・190)

位置:039・916 形状:隅丸正方形 規模:1.0m×9.1m 残存深度:1.21m 長軸方位:N-22°-E 遺物:集石上面中央から石遺物台座(15)が、その下から塗製品が、集石下面からは在地系土器皿(14)が出土した他、火打石(16)、近世の磁器仏飯器1片・在地系土器(皿類4片)、棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類26片、甕類18片)、須恵器(杯類7片、甕類1片)が出土した。所見:1号墓地の中央北西寄りであり、6号墓の南側に位置する。集石のAs-A軽石直下の状態は、正方形の形状に多数の積まれた川原石が多く露出し、中央に正方形の台座が置かれている状況が確認できた。集石下部は、川原石を正方形に配列しているが、東側は形が崩れていた。墓坑は正方形に掘削されていた。墓坑内には、底径0.37～0.44mの円形の棺が入られており、その中から被葬者が出土した。そして棺の範囲内にはいくつかの川原石が入っていたことから、棺の上に置かれていた石が転落したものと考えられる。集石の状態から、1・2号墓ほど新しくはないが、天明三年にやや近い年代の可能性もある。出土した人骨は全身が揃っていないが、未成年で骨が溶解した可能性が指摘されており、改葬されていないものと考えられる。被葬者は約10歳の女性と推定されている。

9号墓(第134～137図 PL.33・191)

位置:038・914 形状:隅丸長方形 規模:1.19m×1.02m 残存深度:1.31m 長軸方位:N-6°-E 遺物:集石上面中央から石遺物台座(2)が、集石中面から在地系土器皿(1)が、集石下面から不明鉄製品(3)が、棺内の底面から寛永通寶(4～9)が重なって出土した。銭貨

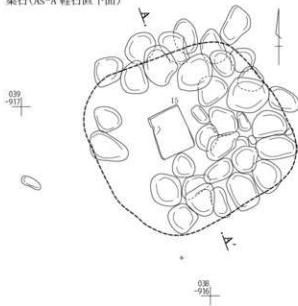
は6枚積着した状態で出土している。その他、火打石(10)、近世の在地系土器(皿類4片)、火打石と考えられる石製品や棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類105片、甕類116片)、須恵器(杯類14片、甕類1片)が出土した。重複遺構:10号墓より後に埋められる。

所見:1号墓地中央にある。7号墓の南側に位置する。集石はAs-A軽石で埋没する前に、多くが土に埋もれていたが、集石中央の正方形の台座は露出していた。集石を覆っている土を取り除くと、川原石を二重の正方形に枠組みしていた状況が確認できた。そしてこの枠組みは上下二段に積まれていた。墓坑は正方形に掘削されていた。墓坑内には、底径0.42～0.45mの円形の棺が確認でき、その中から被葬者や銭貨が出土した。なお1号墓地11の墓石は9号墓のすぐ東に倒れていたが、9号墓の台座のほぞ穴は墓石のほぞ部に対応していない。集石が一部土に埋もれていた状態から、この墓地ではやや古い年代の可能性もある。出土した人骨の保存状態はやや不良であったが、部位が不足することから、別の場所から人骨を取り出して、改葬した可能性が指摘されている。被葬者は40歳代の女性と推定されている。この墓の時期は、出土した銭貨から天明三年を上限とする17世紀後半以降と推測される。

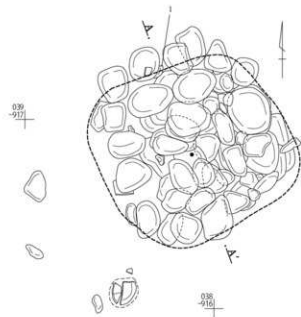
10号墓(第134・137図 PL.33)

位置:037・915 形状:隅丸長方形 規模:1.35m×1.11m 残存深度:0.89m 長軸方位:N-18°-W 遺物:近世の在地系土器(皿類4片)、下位からの混入である土師器(杯類72片、甕類56片)、須恵器(杯類4片、甕類1片)が出土した。重複遺構:9号墓より先に埋められる。所見:1号墓地中央西寄りにある。8号墓の南側に位置する。集石はAs-A軽石で埋没する前に大半が土に埋もれていた。集石の中央には方形の凹みがあることから、当初は台座があったが、泥流によって抜けたものと考えられる。集石を覆っている土を取り除くと、9号墓と同様に川原石を二重の正方形に枠組みしていた状況が確認できた。そしてこの枠組みは上下二段に積まれていた。しかし、外側の枠組みはやや崩れていた。墓坑は南北がやや長い長方形に掘削される。この墓坑内では棺の痕跡を確認することはできなかった。集石の大半が一部土に埋もれていた状態から、この墓地ではやや古い年代の可能性もある。出土した人骨は、焼かれたものと焼か

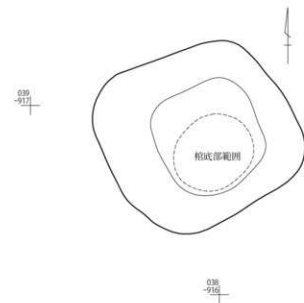
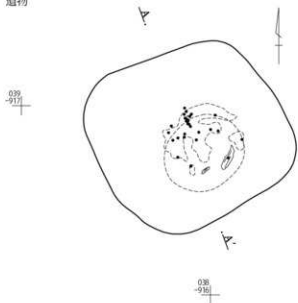
集石(As-A 軽石直下面)



集石(下面)

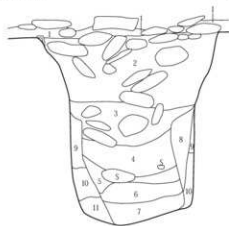


遺物



A, 1=0.90m

A'



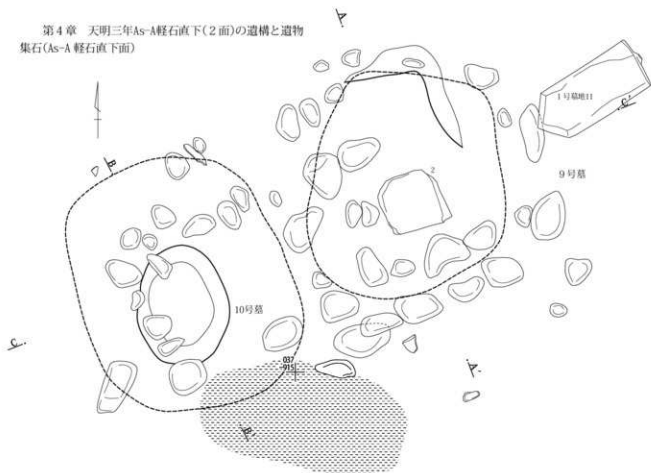
5区2面 8号墓 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや固い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや固い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。細砂粒を微量含む。しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 7 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。
- 8 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロック、マンガン粒中量含む。しまりやや固い。
- 9 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
- 11 褐色土 灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

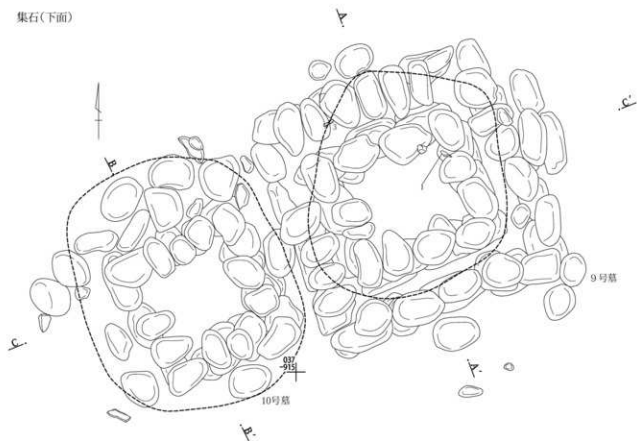
0 1:20 1m

第133図 5区2面 8号墓

第4章 天明三年As-A軽石直下(2面)の遺構と遺物
集石(As-A 軽石直下面)



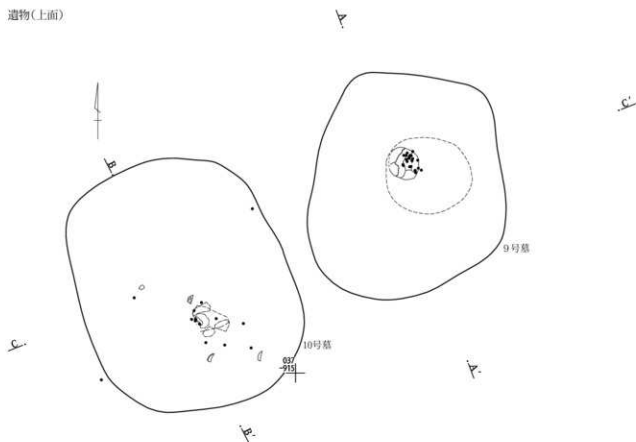
集石(下面)



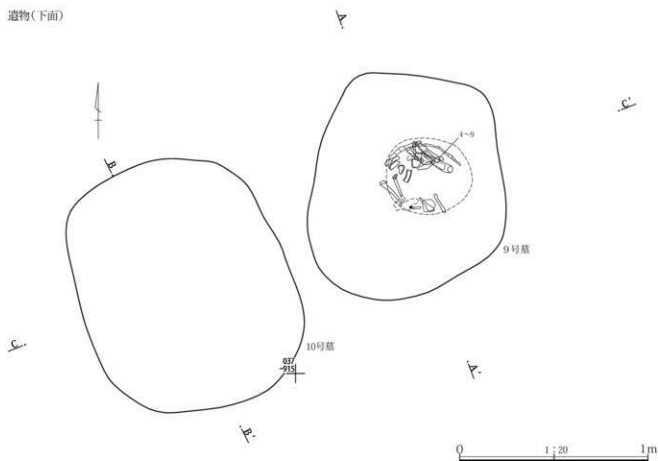
0 1:20 1m

第134图 5区2面 9・10号墓(1)

遺物(上面)

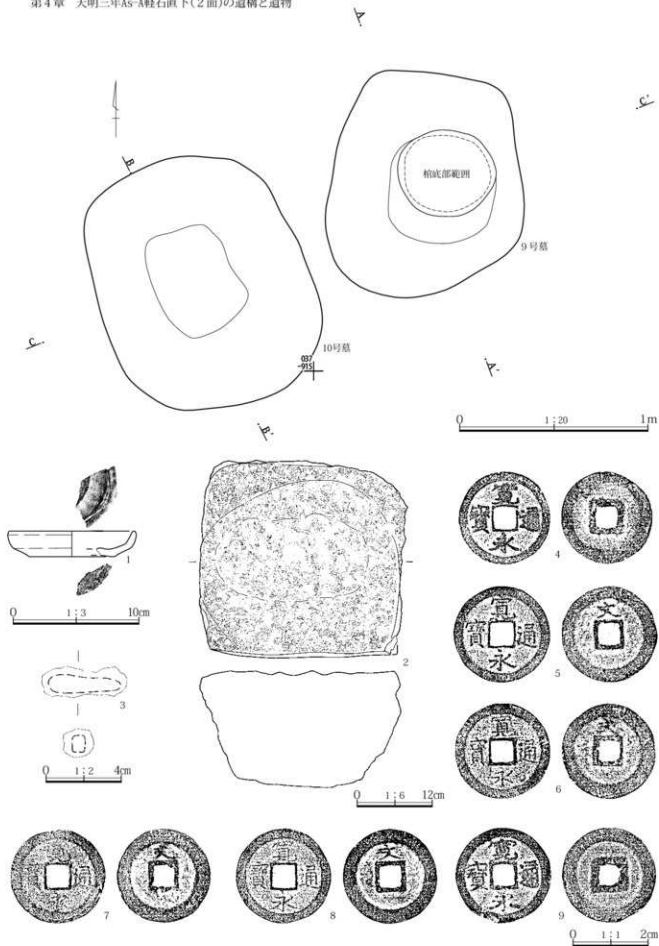


遺物(下面)



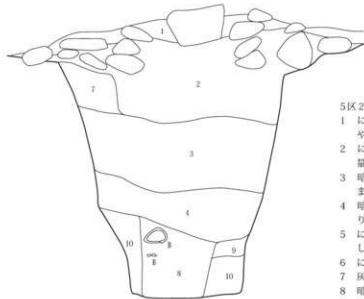
第135図 5区2面 9・10号墓(2)

0 1:20 1m



第136図 5区2面 9・10号墓(3)、9号墓出土遺物

A, 1=61.10m

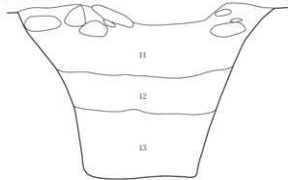


A'

5区2面 9・10号墓 A-A'・B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや強い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量。炭化粒子を少量含む。しまりやや強い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。黒褐色土中～大ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土大ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。細砂粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 8 暗褐色土 シルト質土。細砂粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土、黒褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや強い。
- 10 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや強い。
- 12 暗褐色土 シルト質土。灰褐色土中ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 13 灰黄褐色土 細砂粒を微量含む。しまりやや強い。

B, 1=60.90m

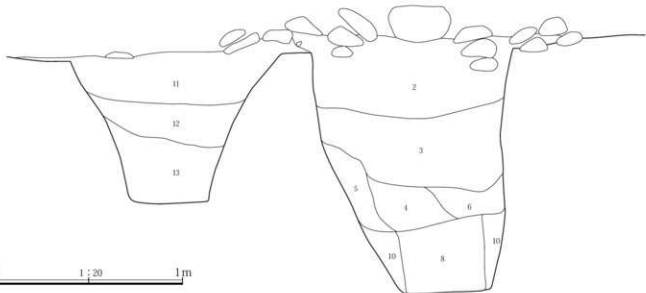


B'

10号墓

9号墓

C, 1=61.10m



C'

0 1:20 1m

第137図 5区2面 9・10号墓断面

れていないものが混在することから、埋葬後に人骨を取り出して火葬した可能性が指摘される。被葬者は成人の男性と推定されている。この墓の時期は、9号墓との重複から、天明三年を上限とする17世紀後半以降と推測される。

11号墓(第138・139図 PL.34・191・192)

位置:036・-915 形状:隅丸正方形 規模:0.75m×0.7m 残存深度:1.06m 長軸方位:N-63°-E 遺物:集石上面中央から石造物台座(5)が、その下から銭貨(20)が、集石下面から在地系土器皿(3・4)、不明銅製品(6)が、墓坑下部の棺外から在地系土器皿(2)が、棺内の底面から軟質施軸陶器ミニチュア(1)、寛永通寶(7~18)、寶永通寶(19)が出土した。銭貨は13枚錆着した状態で出土している。この他、近世の施軸陶器徳利1片・在地系土器(皿類2片)、釘や棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類30片、甕類26片)、須恵器(杯類1片、甕類1片)が出土した。所見:1号墓地の南西部にあり、10号墓の南側に位置する。集石はAs-A軽石で埋没する前から一部が土に埋もれていた。集石の中央には正方形の台座が置かれていたが、半ば土に埋もれかかっていた。集石下部は、川原石で正方形に枠組みされていた。墓坑は正方形に掘削されていた。墓坑内には、底径0.28~0.36mの円形の棺が入れられており、その中から被葬者や副葬品が出土した。集石の上面に石仏(1墓地9)が倒れており、11号墓に伴う可能性が高い。集石が一部土に埋もれていた状態から、この墓地ではやや古い年代の可能性があり。出土した人骨は全身が揃っていないが、未成年で骨が溶解した可能性が指摘されており、改葬されていないものと考えられる。被葬者は約4歳の男性と推定されている。この墓の時期は、出土した銭貨から天明三年を上限とする18世紀代と推測される。

12号墓(第140~142図 PL.34・35・192)

位置:035・-914 形状:隅丸正方形 規模:1.1m×0.99m 残存深度:1.26m 長軸方位:N-60°-E 遺物:集石上面中央から石造物台座(3)が、墓坑上部から在地系土器皿(1)、墓坑内から砥石(2)が、棺内の底面から寛永通寶(4~20)が出土した。寛永通寶は4~14の11枚と15~19の5枚がそれぞれ錆着した状態で出土した。この他、近世の磁器1片・在地系土器(皿類6片)、漆器片、棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類51片、

甕類47片)、須恵器(杯類4片)が出土した。重複遺構:1面2号土坑と重複し、集石の北半が壊されていた。所見:1号墓地の南西部にあり、11号墓の南側に位置する。集石のAs-A軽石直下の状態は、多数の積まれた川原石が露出していた。恐らく正方形に積まれていたと考えられるが、2号土坑により北半は失われていた。集石の中央には正方形の台座が置かれていた。集石下部も南半しか残存していないが、川原石で正方形に枠組みされていたと考えられる。墓坑は正方形に掘削されていた。墓坑内には、底径0.40~0.41mの円形の棺が入れられており、その中から被葬者や銭貨が出土した。集石が一部土に埋もれていた状態から、この墓地ではやや古い年代の可能性があり。出土した人骨は全身が揃っていないが、未成年で骨が溶解した可能性が指摘されており、改葬されていないものと考えられる。被葬者は約8歳の男性と推定されている。この墓の時期は、出土した銭貨から天明三年を上限とする18世紀代と推測される。

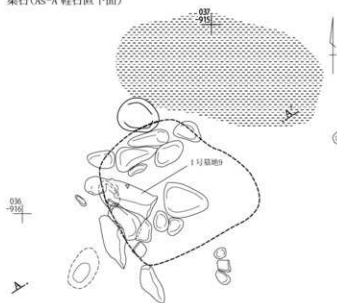
13号墓(第143図 PL.35・192)

位置:036・-912 形状:円形 規模:直径0.35m 残存深度:0.68m 長軸方位:- 遺物:集石下面から釘(1)が出土した他、近世の磁器1片・在地系土器(皿類28片)、棺の部材、下位からの混入である土師器(杯類24片、甕類16片、不明7片)、須恵器(杯類5片、甕類1片)が出土した。所見:1号墓地の南東部にある。集石はAs-A軽石で埋没する前に、多数が土に埋もれていた。集石を覆っている土を取り除くと正方形に近い形に川原石が積まれていた状況が確認できたが、一段のみで石の数は少なく、形状はやや崩れていた。墓坑はほぼ棺の形状に合わせて掘削されていた。墓坑内には、底径0.22mの円形の棺が入れられており、その中から被葬者が出土した。集石の大半が土に埋もれていた状態から、この墓地では古い年代の可能性があり。出土した人骨は全身が揃っていないが、乳児で骨が溶解した可能性が指摘されており、改葬されていないものと考えられる。被葬者は性別不明の乳児と推定されている。

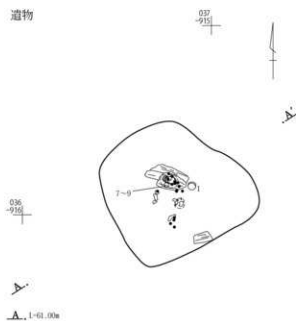
14号墓(第143・144図 PL.35)

位置:036・-912 形状:円形 規模:直径0.33m 残存深度:0.8m 長軸方位:- 遺物:近世の在地系土器(皿類7片)、下位からの混入である土師器(杯類14片、甕類8片、不明2片)、須恵器(杯類3片)が出土した。所見:1号墓地の南東部にある。集石はAs-A軽石で埋没する前

集石(As-A 軽石直下面)

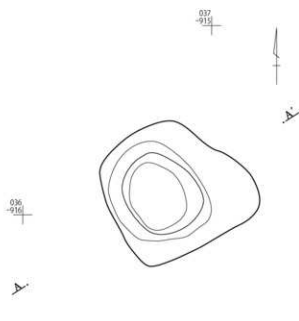
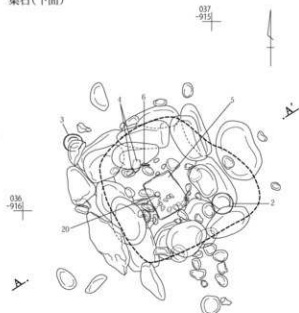


遺物



A, 1:61.000

集石(下面)

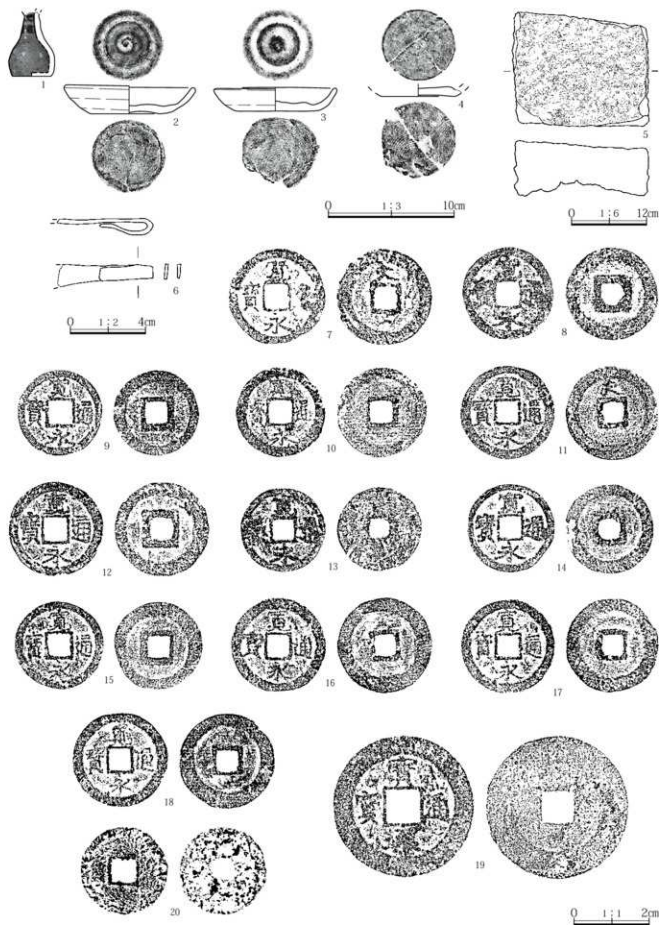


5区2面 11号墓 A-A'

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量、マンガング粒を少量含む。しまり強い。
- 2 にふい黄褐色土 シルト質土。褐色土ブロック、酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや強い。
- 3 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土中～大ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 4 にふい黄褐色土 シルト質土。マンガング粒少量含む。しまりやや弱い。
- 5 灰黄褐色土 しまり弱い。楕の痕跡か。
- 6 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 7 にふい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや強い。
- 8 暗褐色土 シルト質土。しまりやや弱い。

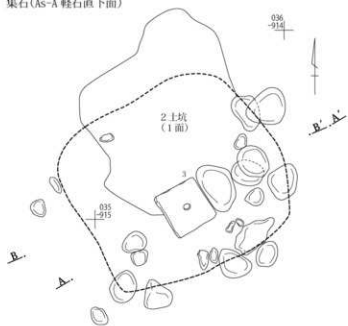
0 1:20 1m

第138図 5区2面 11号墓



第139図 5区2面 11号墓出土遺物

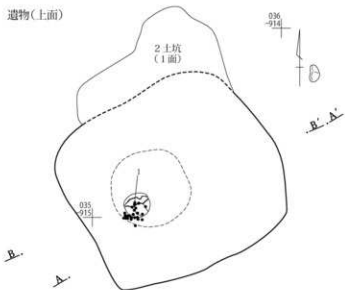
集石(As-A 軽石直下面)



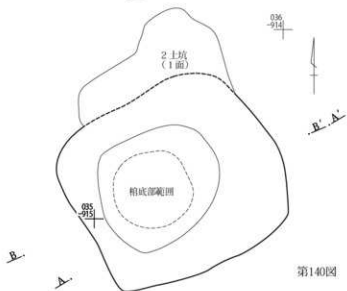
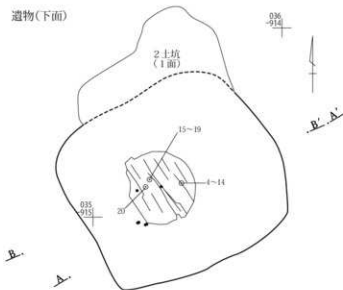
6 5区の遺構と遺物



遺物(上面)



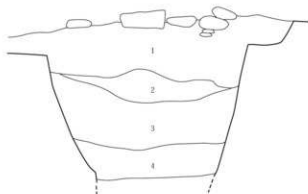
遺物(下面)



第140図 5区2面 12号墓

0 1:20 1m

A, 1:61.00m

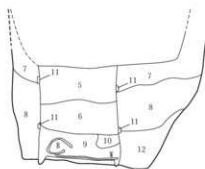


A'

5区2面 12号墓 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 酸化鉄凝集を多量含む。しまり強い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。黒褐色土、褐色土中ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。黒褐色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや強い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。細砂粒を少量含む。しまりやや強い。
- 5 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土小〜中ブロックを多量含む。しまり弱い。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土中ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 9 暗褐色土 シルト質土。褐色土中ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土中ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 11 灰黄褐色土 シルト質土。棺のタガの跡。
- 12 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを中量含む。しまり強い。

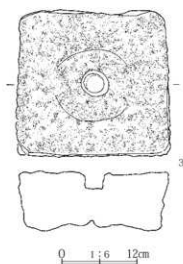
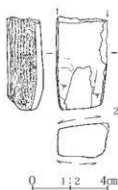
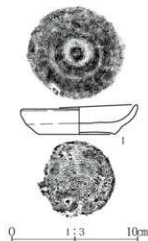
B, 1:60.30m



B'

0 1:20 1m

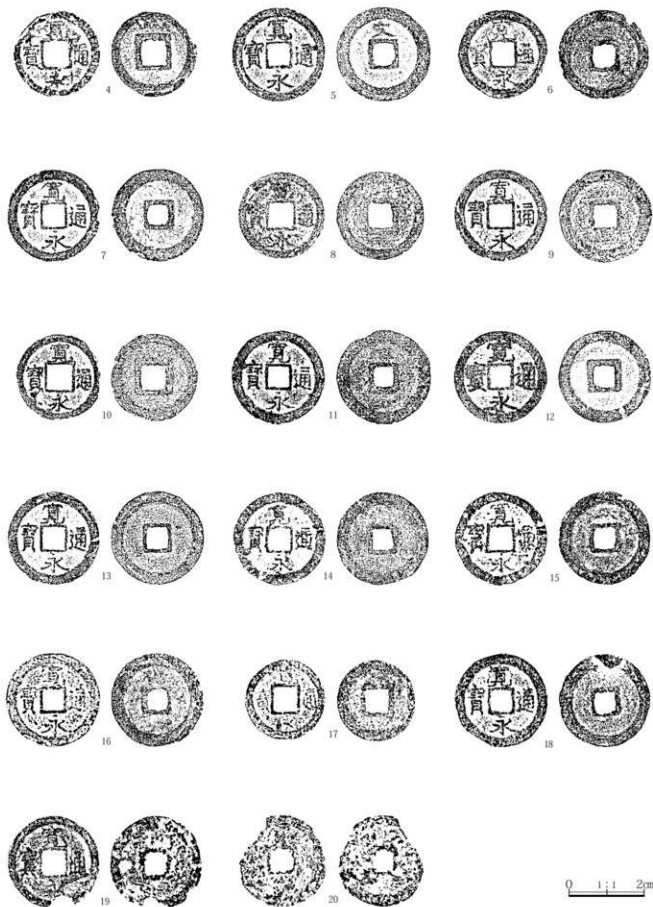
12号墓



第141図 5区2面 12号墓断面、出土遺物(1)

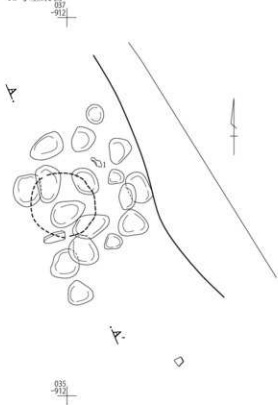
に、やや埋もれかかっていた。集石はほとんどなく、3つの石が直線的に並んでいただけであった。墓坑はほぼ棺の形状に合わせて掘削されていた。墓坑内には、底径0.21～0.23mの円形の棺が入られており、その中から被葬者が出土した。集石が土に埋もれかかっていた状

態から、この墓地ではやや古い年代の可能性もある。出土した人骨は全身が揃っていないが、乳児で骨が溶解した可能性が指摘されており、改葬されていないものと考えられる。被葬者は生後約9か月の女性と推定されている。

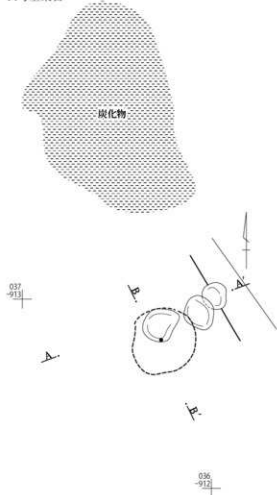


第142図 5区2面 12号墓出土遺物(2)

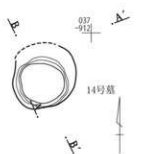
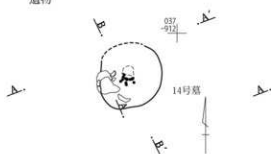
13号墓集石



14号墓集石

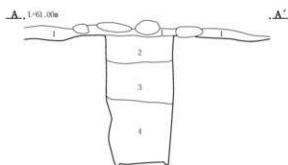


遺物



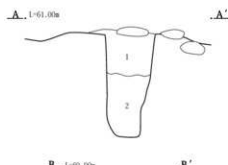
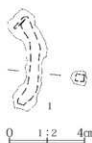
0 1:20 1m

第143図 5区2面 13・14号墓

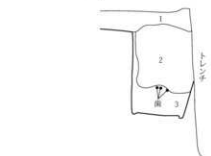


5区2面 13号墓 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまり強い。
 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量、細砂粒を少量含む。しまり強い。
 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。細砂粒、酸化鉄凝集を少量含む。しまり強い。
 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。



5区2面 14号墓 A-A'・B-B'



5区2面 14号墓 A-A'・B-B'

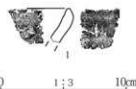
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量、炭化粒子を微量含む。しまり強い。
 2 暗褐色土 細砂粒を微量含む。しまり弱い。
 3 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を微量含む。しまり弱い。



第144図 5区2面 13・14号墓断面、13号墓出土遺物

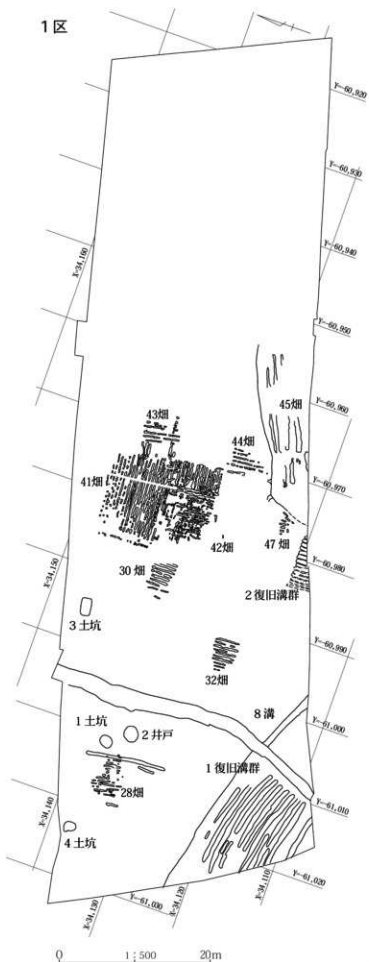
(6) 遺構外出土の遺物(第145図)

遺構に伴わない遺物として、在地系土器片口鉢(1)の他、近世の磁器9片・施釉陶器15片・在地系土器(銅類2片)、下位からの混入である土師器(杯類158片、甕類141片)、須恵器(杯類30片、甕類21片)、灰釉陶器1片が出土した。



第145図 5区2面 遺構外出土遺物

1区



0 1:500 20m

3区

